

**竈** 北壁中央部に付設されており、天井部は削平され両袖部のみが遺存している。袖部は、粘土と砂粒を少量混ぜて構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、最大幅は推定で84cmである。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けてわずかに赤変している。煙道は火床面から緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

- |        |                              |          |             |
|--------|------------------------------|----------|-------------|
| 1 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量         | 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |          |             |

**ピット** 3か所（P1～P3）。P1・P3は長径36～50cm，短径30～40cmの楕円形，P2は径39cmの円形で、深さは27～29cmである。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。

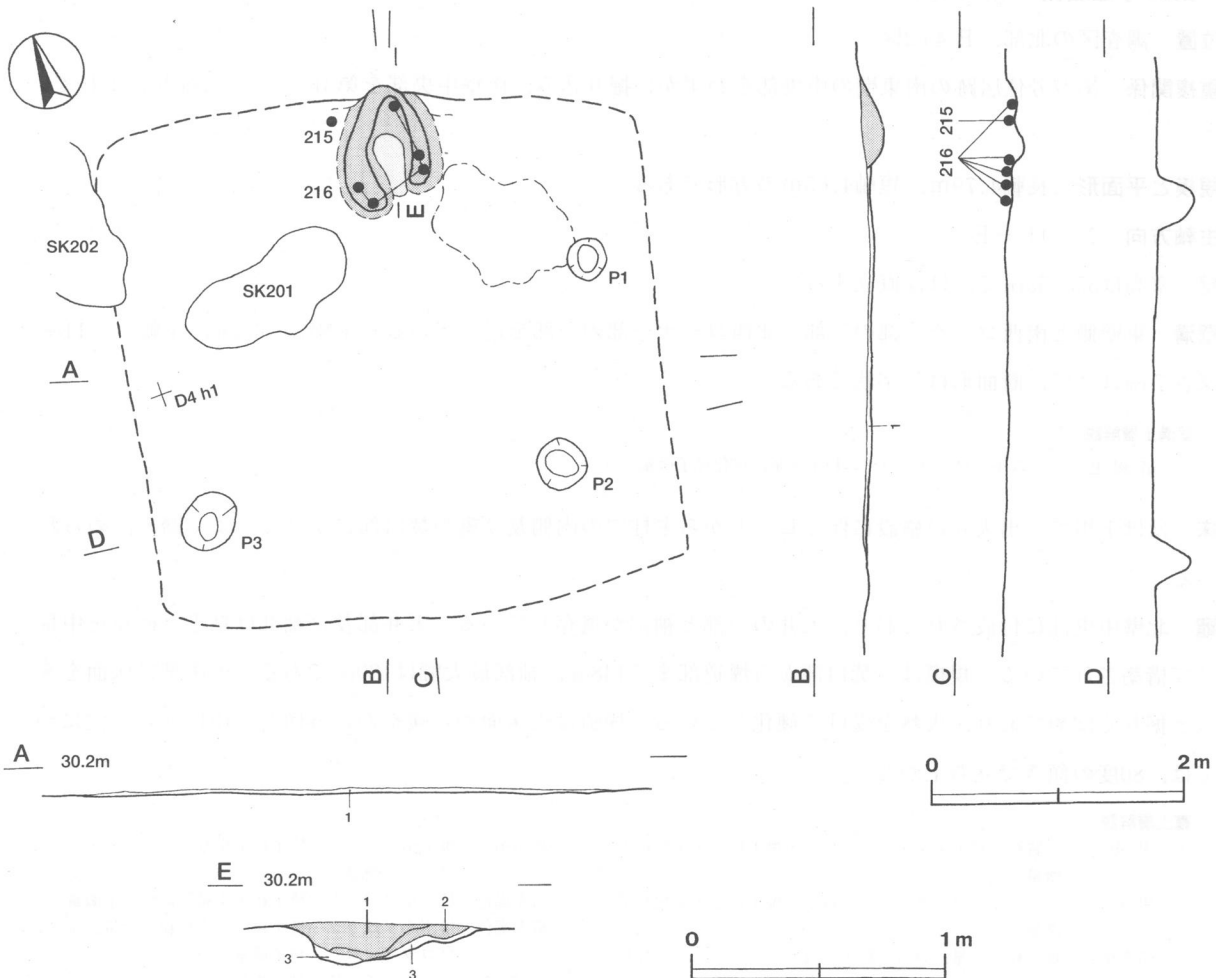
**覆土** 中央部に薄く残る単一層である。

**土層解説**

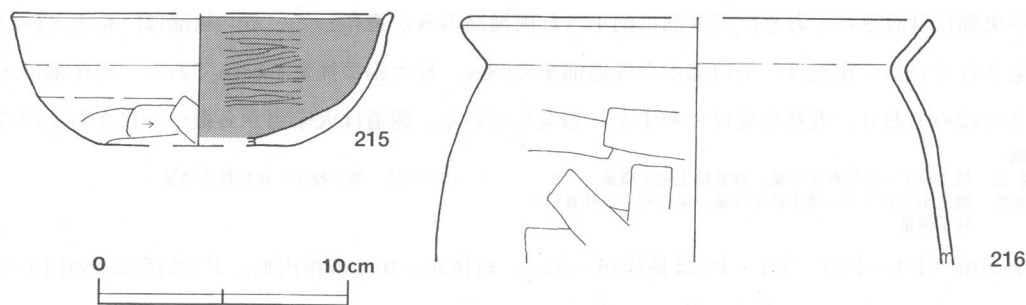
- 1 黒褐色 白色粒子・赤色粒子少量，ローム粒子微量

**遺物** 土師器片17点，礫5点が出土している。これらの遺物は竈及び竈の周辺から出土している。第171図の215・216はいずれも土師器である。215の坏は，竈の西側の床面から出土している。216の甕は，竈の袖部内と煙道部の底面から出土した破片が接合したものである。

**所見** 床面まで削平されており，壁の立ち上がりは確認できなかった。竈は袖部を含めた下層部分が遺存するのみであり，そこから出土した216の甕は，出土状況から竈を構築する際の補強材として使用されていたものと考えられる。出土遺物が少なく，時期は断定できないが，215の坏，216の甕から判断して9世紀末葉から10世紀初頭と思われる。



第170図 第4号住居跡実測図



第171図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 215	坏 土師器	A [15.1] B 5.4 C [ 7.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位、手持ちヘラ削り。内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・白色粒子・小礫 灰褐色 普通	15%
216	甕 土師器	A [18.5] B ( 9.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状にくびれ、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	砂粒・石英・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	20% P L28

第29号住居跡 (第172図)

位置 調査区の北部、B 4 e2区。

重複関係 第27号住居跡の南東壁の中央部をわずかに掘り込み、南壁中央部を第315号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.79m、短軸4.65mの方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は35~55cmで、ほぼ直立する。

壁溝 東壁側と南西コーナー部の一部と北西コーナー部の一部を巡っている。上幅12~23cm、下幅5~11cm、深さ7cmほどで、断面形はU字状である。

壁溝土層解説

8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

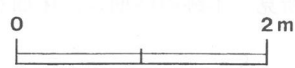
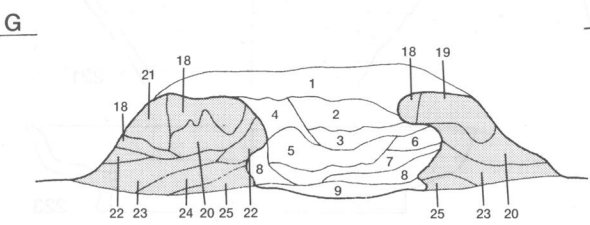
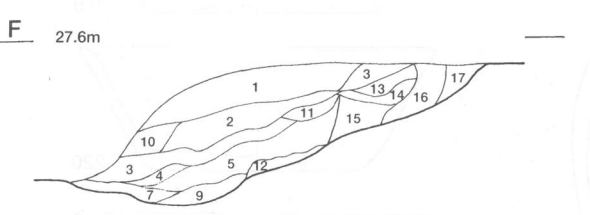
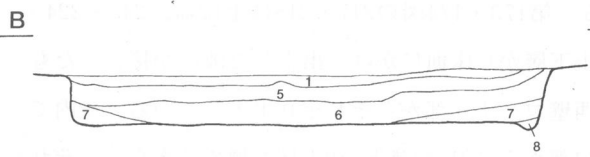
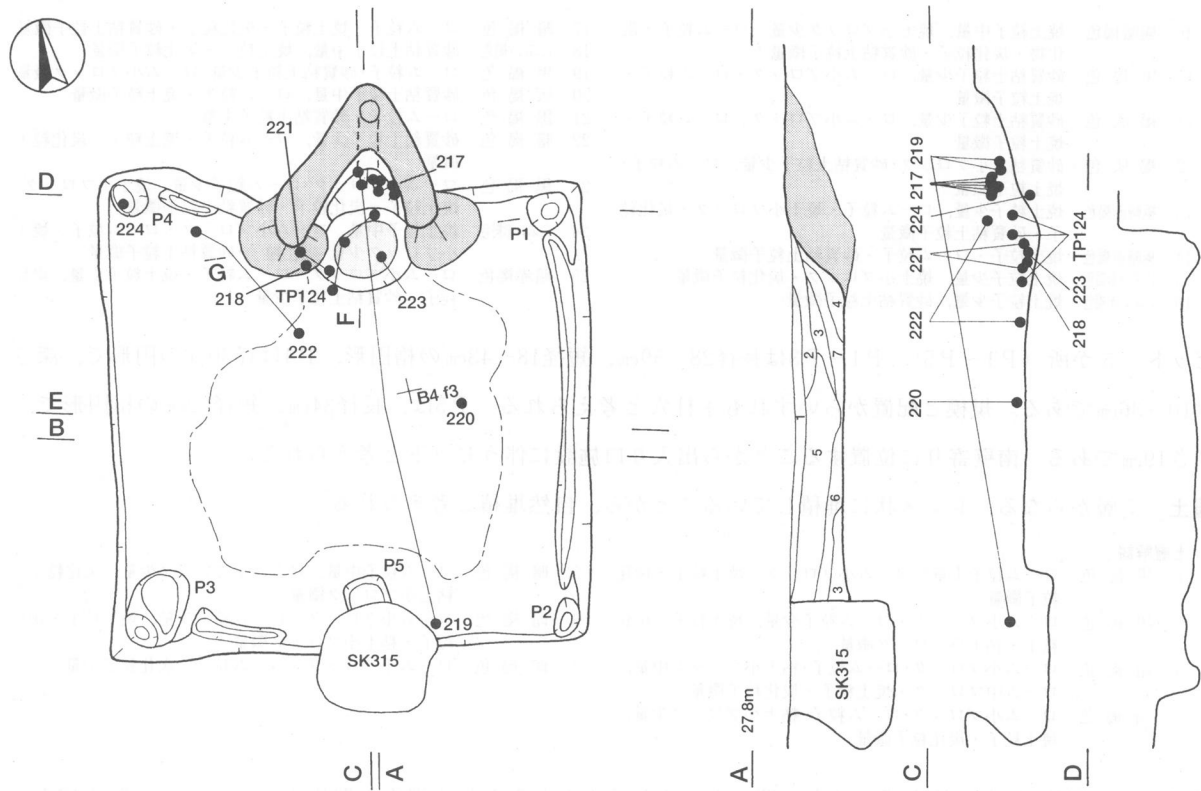
床 ほぼ平坦で、出入り口施設に伴うピットから支柱穴の内側及び竈の焚口部にかけて、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、天井の一部と袖部が遺存している。天井部及び袖部は粘土と砂粒を中量混ぜて構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで148cm、袖部最大幅は189cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて硬化している。煙道は火床面から緩やかに外傾し、中位から上位にかけては、80度の傾きで立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	砂質粘土粒子少量・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量





第172图 第29号住居跡実測図

- |           |  |           |   |
|-----------|--|-----------|---|
| 9 極暗褐色    | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量                        |
| 10 黒褐色    | 砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量            | 18 にぶい褐色  | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量                           |
| 11 褐灰色    | 砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量            | 19 黒褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック微量                      |
| 12 褐灰色    | 砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量           | 20 灰褐色    | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量                          |
| 13 極暗赤褐色  | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量        | 21 黒褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子少量                                  |
| 14 極暗赤褐色  | 焼土粒子・ローム粒子・砂質粘土粒子微量                        | 22 暗褐色    | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量                     |
| 15 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量                     | 23 黒褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量    |
| 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量                           | 24 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
|           |  | 25 暗赤褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量            |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3は長径28~59cm, 短径18~43cmの楕円形, P4は径30cmの円形で, 深さは10~36cmである。規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。P5は, 長径34cm, 短径22cmの楕円形で, 深さ19cmである。南壁寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

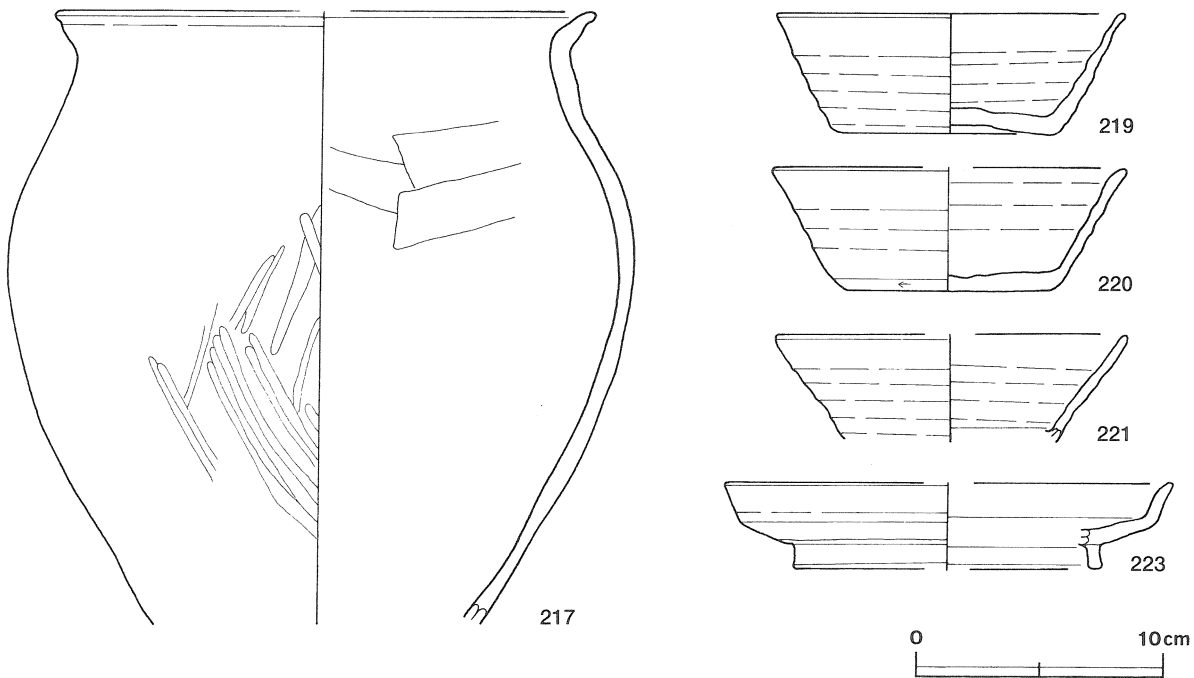
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

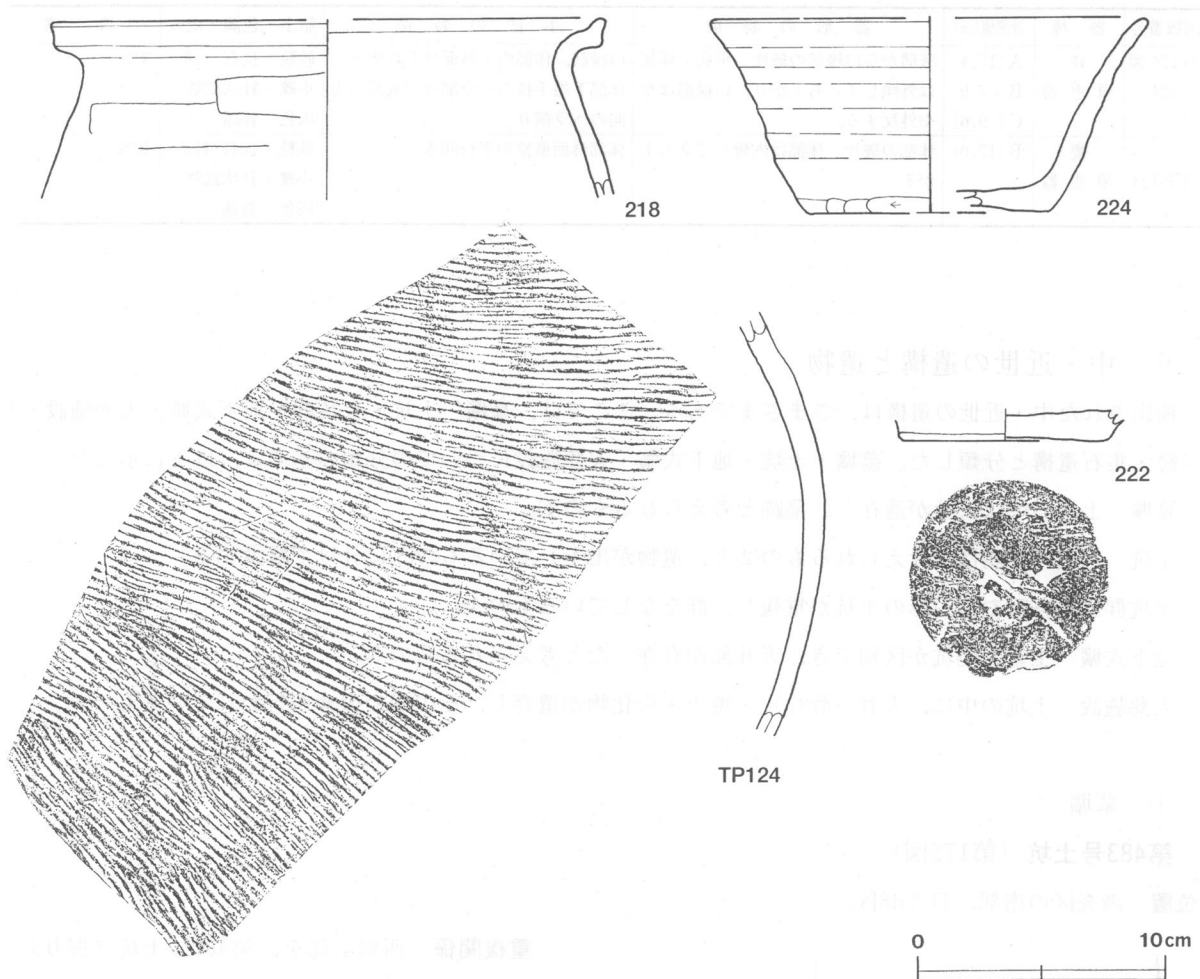
- |       |  |       |                                       |
|-------|--|-------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量                  | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量   |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量          | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量                 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量          |       |                                       |

遺物 土師器片225点, 須恵器片19点, 礫9点, 流れ込んだとみられる縄文土器片1点と, 弥生土器片12点が出土している。遺物の多くは竈の周辺から出土している。第173・174図の217・218は土師器, 219~224・T P 124は須恵器である。222の坏は, 竈の西側付近の覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。床面では, 220の坏が中央部から, 224の鉢が北西壁コーナー部からそれぞれ出土している。竈内では, 223の盤が燃焼部から, 221の坏と218・T P 124の甕が焚口部から, 217の甕と219の坏が煙道部からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 床面及び竈内の出土土器から判断して9世紀前葉と考えられる。



第173図 第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第174図 第29号住居跡出土遺物実測図(2)

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 217	甕 土師器	A [21.3] B (24.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は緩やかにくびれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母・白色粒子・小礫 明赤褐色 普通	40% P L 28
第174図 218	甕 土師器	A [22.0] B ( 7.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。端部はわずかに摘み上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	砂粒・石英・白色粒子・小礫 明赤褐色 普通	15%
第173図 219	坏 須恵器	A 13.8 B 4.7 C 8.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残す、雑なナデ。	砂粒・長石・石英・小礫 灰色 普通	95% P L 28
220	坏 須恵器	A [14.2] B 5.0 C [ 8.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す、雑なナデ。	砂粒・長石・石英・小礫 灰白色 普通	30%
221	坏 須恵器	A [14.4] B ( 4.3)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・白色粒子・小礫 黄灰色 普通	25% P L 28
第174図 222	坏 須恵器	B ( 1.3) C 8.1	底部の破片。平底。	底部回転ヘラ切り痕を残す、手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・石英・小礫・針状鉱物 灰色 普通	30% 底部外面筧記号
第173図 223	盤 須恵器	A [17.8] B 3.5 C [12.2]	底部欠損。高台部はややハの字状に開く。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	砂粒・長石・石英・小礫・針状鉱物 灰色 普通	15% P L 28

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図 224	鉢 須恵器	A [17.4] B 7.9 C [ 9.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・小礫・針状鉱物 灰色 普通	30%
T P 124	甕 須恵器	B (17.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き。	砂粒・長石・石英・小礫・針状鉱物 灰色 普通	10%

## 6 中・近世の遺構と遺物

検出された中・近世の遺構は、さまざまである。ここでは、墓壇・土坑・土坑群・地下式墳・火葬施設・井戸跡・集石遺構と分類した。墓壇・土坑・地下式墳・火葬施設についての分類の基準は、以下に示した。

**墓壇** 土坑の中に人骨が遺存し、墓跡と考えられるもの(1)。

**土坑** 墓壇の可能性が考えられるもの(2)と、遺物が出土しているもの(3)に分けて解説する。

**土坑群** 長方形や楕円形の土坑が重複し、群をなしているもの(4)。

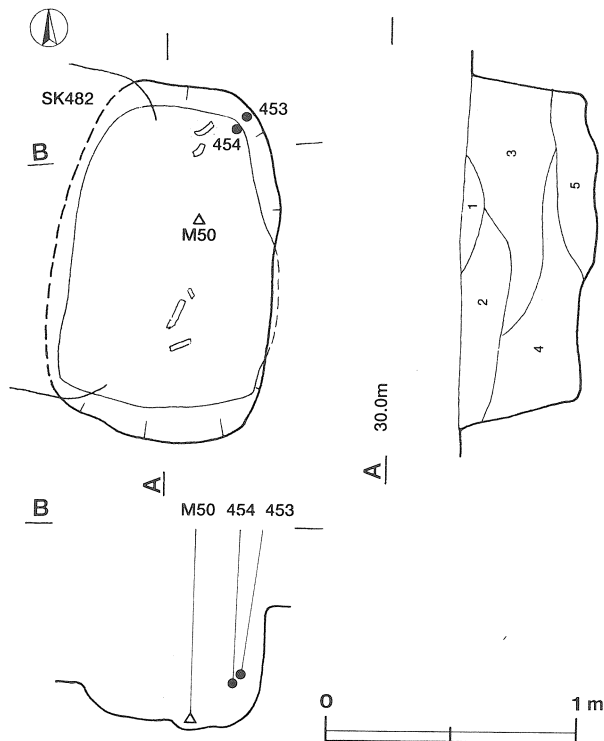
**地下式墳** 主室と竪坑が区別でき、天井部が存在したと考えられるもの(5)。

**火葬施設** 土坑の中に、人骨(骨片)・焼土・炭化物が遺存し、その場で火葬が行われているもの(6)。

### (1) 墓壇

#### 第483号土坑 (第175図)

**位置** 調査区の南部，D 3 d8区。



第175図 第483号土坑実測図

**重複関係** 西側上部を、第482号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.43m，短軸0.9mの隅丸長方形で、深さ53cmである。底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がる。

**長軸方向** N-5°-E

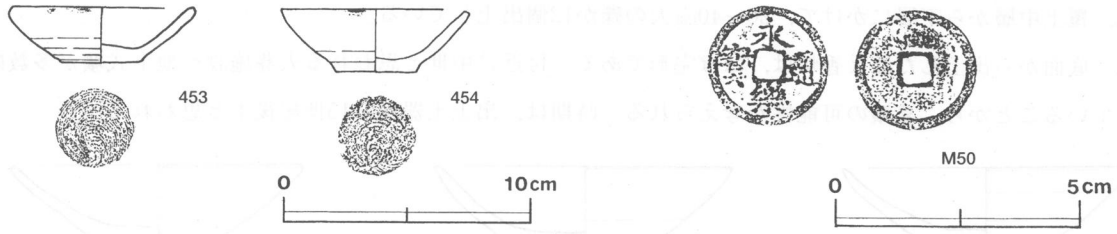
**覆土** 5層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

**遺物** 北壁際の底面から人骨の顎部，中央部の底面から人骨の大腿部が出土している。人骨は頭部を北側に向けていたものと考えられる。第176図の453・454は土師質土器の小皿で、北壁際の底面から出土している。M50は古銭で、中央部の底面から出土している。

**所見** 人骨の出土から、墓壇と考えられる。時期は、遺構の形態や出土土器から、15世紀後半と思われる。



第176図 第483号土坑出土遺物実測図

第483号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図 453	小皿 土師質土器	A 7.3	完形。やや突出した平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・針状 鉍物 橙色 普通	100% P L 29 口縁部内・外面 油煙付着
		B 2.3				
		C 3.3				
454	小皿 土師質土器	A 7.7	完形。やや突出した平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・針状 鉍物 にぶい橙色 普通	100% P L 29 口縁部内・外面 油煙付着
		B 2.3				
		C 3.3				

図版番号	銭種	計測値				初鑄年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時代	西暦	
第176図M50	永楽通寶	2.5	0.1	0.6	2.4	明	1408年	P L 30

(2) 墓壙の可能性が考えられる土坑

第47号土坑 (第177図)

位置 調査区の南西部, D 3 i4区。

規模と形状 長軸2.2m, 短軸1.72mの長方形で, 深さ48cmである。底面は平坦で, 壁は直立する。

長軸方向 N-0°

覆土 10層からなる。ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

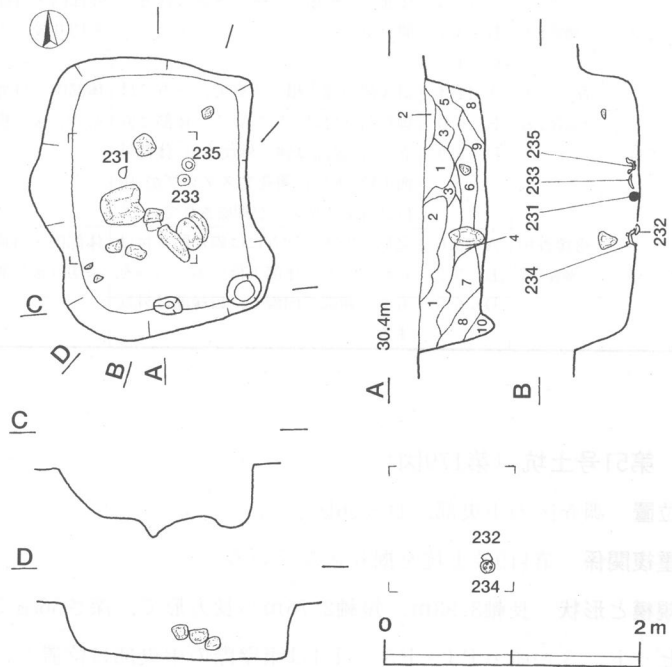
- 1 黒色 ローム粒子多量,ローム小ブロック中量
- 2 黒色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック微量
- 6 黒色 ローム粒子中量,ローム小ブロック微量
- 7 黒色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 黒色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師質土器片 8点, 礫12点が出土し

ている。第178図の231~235は土師質土器

である。231の皿は, 中央部の底面から斜

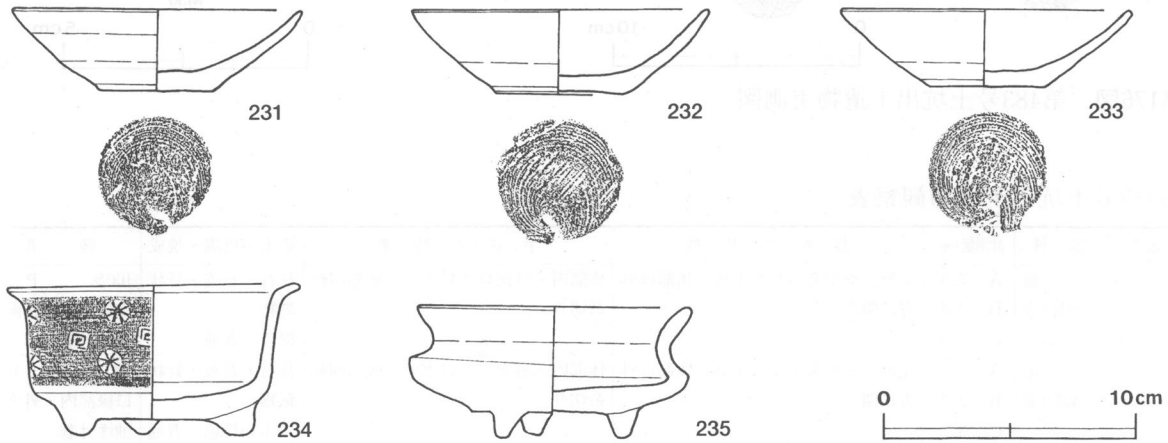
位の状態で出土している。232の皿と234の香炉は, 中央部やや南寄りの底面から重なって出土している。中央部やや東寄りの底面から, 233の皿が逆位の状態で, 235の袴腰香炉が正位の状態でそれぞれ出土している。そ



第177図 第47号土坑実測図

その他、覆土中層から下層にかけて、20~40cm大の礫が12個出土している。

**所見** 底面から出土した皿と香炉は、ほぼ完形である。付近に中世と思われる火葬施設や地下式壙が多数確認されていることから、墓塚の可能性が考えられる。時期は、出土土器から15世紀後半と思われる。



第178図 第47号土坑出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 231	皿 土師質土器	A 11.4	口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	95% P L 28
		B 3.3				
		C 4.5				
232	皿 土師質土器	A 11.6	口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、ナデ。底部内面ナデ。	石英・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	90% P L 28
		B 3.4				
		C 4.9				
233	皿 土師質土器	A 11.5	体部一部欠損。平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、ナデ。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	70%
		B 3.1				
		C 4.5				
234	香炉 土師質土器	A 11.4	口縁部一部欠損。平底で、三方には脚が貼り付けられている。体部は直立し、口縁部は強く外反する。体部外面上位・下位に菊花文スタンプが、中に雷文スタンプが押捺されている。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、脚部貼り付け。	石英・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	95% P L 29
		B 6.0				
		D 5.9				
235	袴腰香炉 土師質土器	A 10.6	完形。平底で三方には脚が貼り付けられている。体部下位にふくらみをもつ。頸部で内彎し、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、脚部貼り付け。	長石・石英・雲母・白色粒子 橙色 普通	100% P L 29
		B 5.2				
		D 6.0				

第51号土坑 (第179図)

**位置** 調査区の中央部、D 3 c6区。

**重複関係** 第119号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.93m、短軸2.76mの長方形で、深さ56cmである。底面は平坦で、壁は直立する。

**ピット** 5か所 (P1~P5)。P1は東壁際の中央部に位置し、径16cmの円形、深さ5cmである。P2~P5は西壁際に位置し、径20~35cmの円形、深さ54~92cmである。いずれも性格は不明である。

**長軸方向** N-87°-W

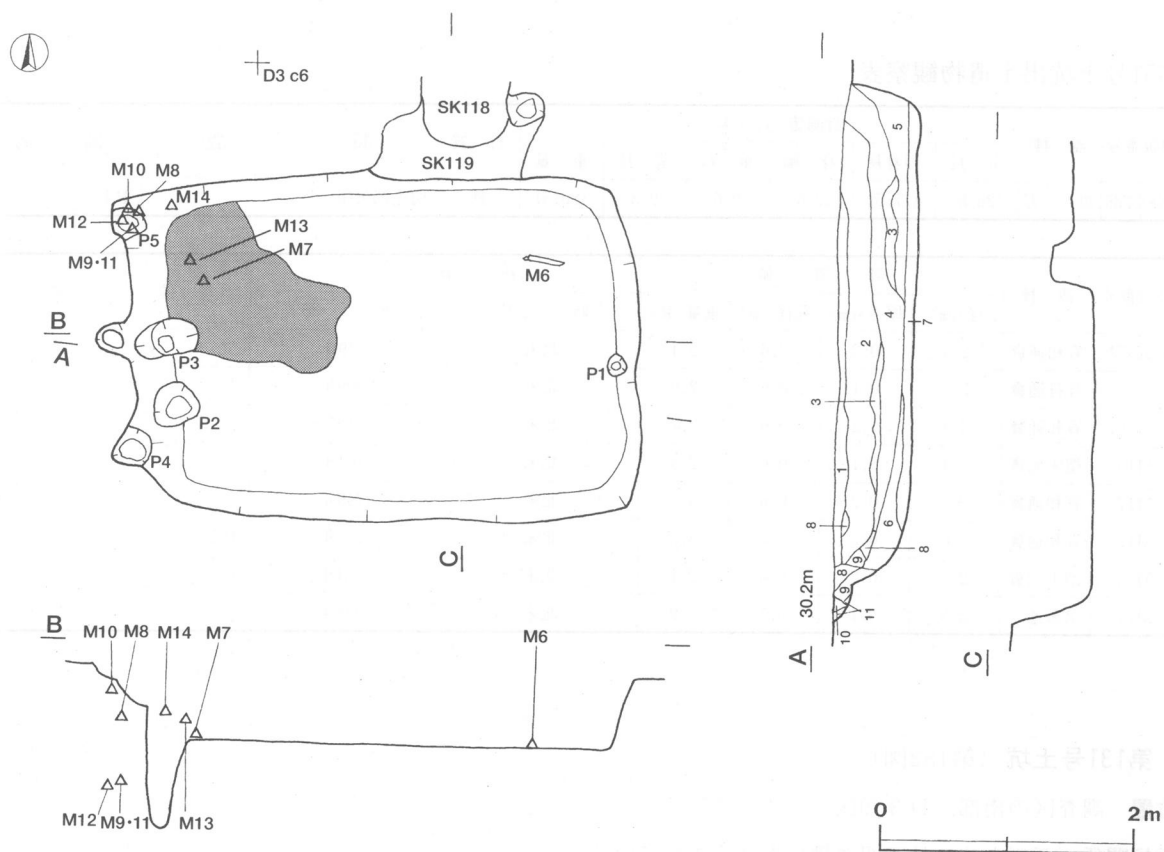
**覆土** 11層からなる。3・6層に粘土粒子を含むことや、不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

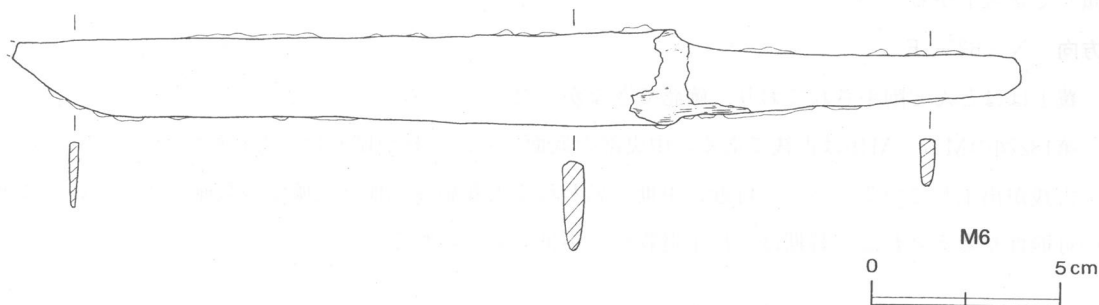
- |          |                                     |          |   |
|----------|-------------------------------------|----------|---|
| 1 黒褐色    | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量                 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・赤色粒子微量 |
| 2 黒褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子少量                    | 7 黒褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子微量                          |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 8 褐色     | ローム小ブロック・ローム粒子中量                          |
| 4 黒褐色    | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量                 | 9 暗褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子少量                     |
| 5 黒褐色    | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量           | 10 褐色    | ローム小ブロック中量, ローム粒子微量                       |
|          |                                     | 11 黒褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 赤色粒子微量                  |

遺物 陶器片 5点, 短刀 1点, 古銭 8点, 礫 18点, 混入したとみられる土師器片と須恵器片が少量出土している。第180・181図のM6は短刀で, 北東コーナー寄りの底面から, 切先が東側を向いた状態で出土している。M7・M13・M14の古銭は, 北西コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。P5の覆土上層からM8・M10の古銭が, 覆土下層からM9・M11・M12の古銭がそれぞれ出土している。

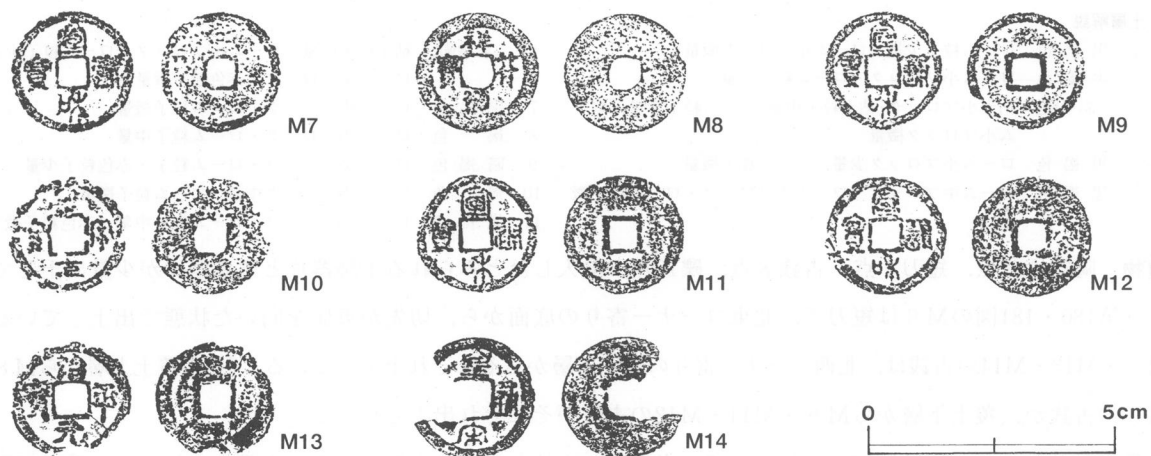
所見 長軸3.93m, 短軸2.76mの長方形で, 当遺跡の土坑としては大型である。底面から短刀が, 覆土下層とP5内から古銭が出土していることから, 墓壇の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から中世と思われる。



第179図 第51号土坑実測図



第180図 第51号土坑出土遺物実測図(1)



第181図 第51号土坑出土遺物実測図(2)

第51号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm・g)						材質	特徴	備考
		全長	刀身長	身幅	重ね	茎長	重量			
第180図M6	短刀	(26.8)	(17.5)	2.6	0.6	9.3	(80.5)	鉄	切先部欠損。	P L 30

図版番号	銭種	計測値				初鑄年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時代	西暦	
第181図M7	宣和通寶	2.5	0.2	0.6	2.4	北宋	1119年	
M 8	祥符通寶	2.5	0.1	0.6	2.0	北宋	1009年	
M 9	宣和通寶	2.4	0.2	0.6	2.7	北宋	1119年	
M10	聖宋元寶	2.4	0.1	0.6	2.3	北宋	1101年	
M11	宣和通寶	2.5	0.2	0.6	3.3	北宋	1119年	
M12	宣和通寶	2.5	0.2	0.5	3.3	北宋	1119年	P L 30
M13	治平元寶	2.5	0.2	0.6	2.1	北宋	1064年	P L 30
M14	皇宋通〇	2.5	0.1	0.7	1.9	北宋	1038年	

### 第131号土坑 (第182図)

**位置** 調査区の南部, D 3 f9区。

**重複関係** 西側を第2号不明遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.61m, 短軸1.39mの隅丸長方形で, 深さは遺存する南壁で10cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

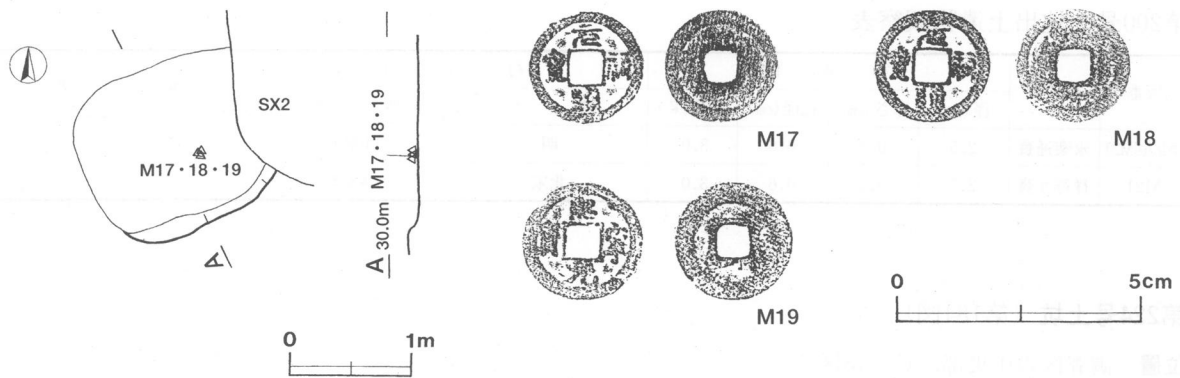
**長軸方向** N-63°-E

**覆土** 覆土はほとんど削平されており, 確認できなかった。

**遺物** 第182図のM17~M19は古銭である。中央部の底面から, 3枚が貼り付いた状態で出土している。

**所見** 古銭が出土していることと, 付近に中世と思われる火葬施設や地下式墳が多数確認されていることから墓塚の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。





第182図 第131号土坑・出土遺物実測図

第131号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初鑄年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時代	西暦	
第182図M17	元祐通寶	2.4	0.1	0.7	3.3	北宋	1086年	
M18	元祐通寶	2.4	0.1	0.7	3.0	北宋	1086年	
M19	熙寧元寶	2.5	0.1	0.7	2.9	北宋	1068年	

第200号土坑 (第183図)

位置 調査区の南部, D 4 g4区。

規模と形状 長径1.74m, 短径1.42mの不整楕円形で, 深さ45cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-25°-E

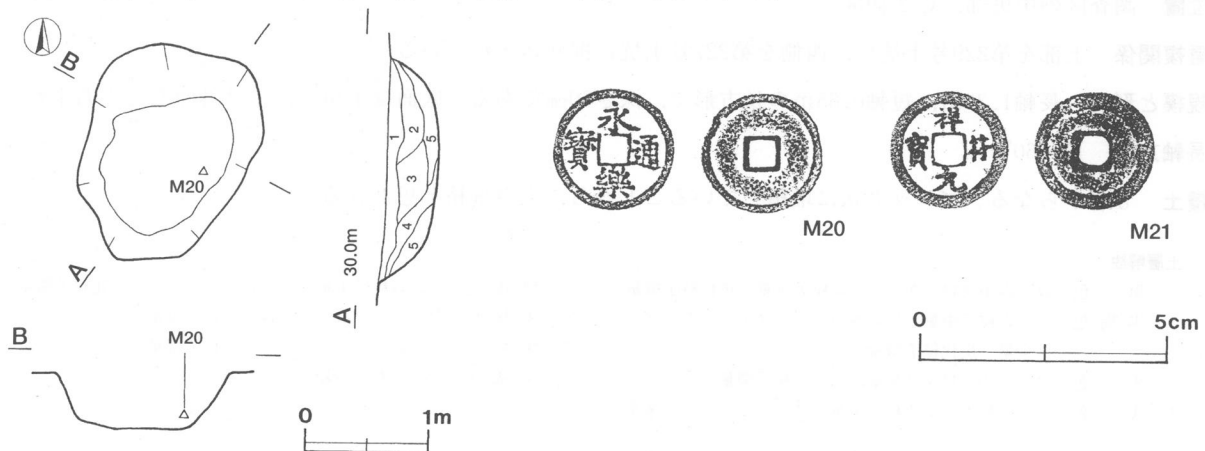
覆土 5層からなる。ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量     | 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量             | 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |                                |

遺物 第183図のM20・M21は古銭である。M20は東壁寄りの覆土下層から, M21は覆土から出土している。

所見 古銭が出土していることと, 付近に中世と思われる火葬施設や地下式壙が多数確認されていることから墓壙の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。



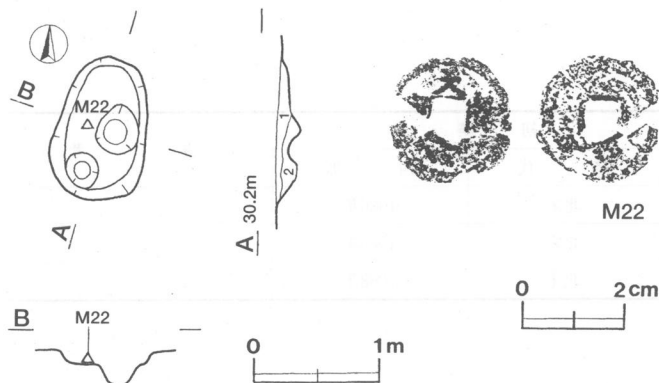
第183図 第200号土坑・出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第183図M20	永楽通寶	2.5	0.2	0.6	3.0	明	1408年	
M21	祥符元寶	2.5	0.1	0.6	3.0	北宋	1009年	

第224号土坑 (第184図)

位置 調査区の中央部, C 2 i8区。



**規模と形状** 長径1.13m, 短径0.7mの楕円形で, 深さ25cmである。底面は凹凸で, 壁は緩やかに立ち上がる。

**長径方向** N-18°-E

**覆土** 2層からなる。ロームブロックを含むことから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 第184図のM22は古銭である。中央部の底面から出土している。

第184図 第224号土坑・出土遺物実測図

**所見** 古銭が出土していることと, 付近に中世と思われる火葬施設や地下式墳が多数確認されていることから墓塚の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。

第224号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第184図M22	天禧〇〇	2.6	0.1	(0.6)	(1.6)	北宋	1017年	

第228号土坑 (第185図)

位置 調査区の中央部, C 2 j9区。

**重複関係** 上部を第229号土坑に, 西側を第227号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.33m, 短軸0.65mの長方形で, 深さ60cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

**長軸方向** N-60°-E

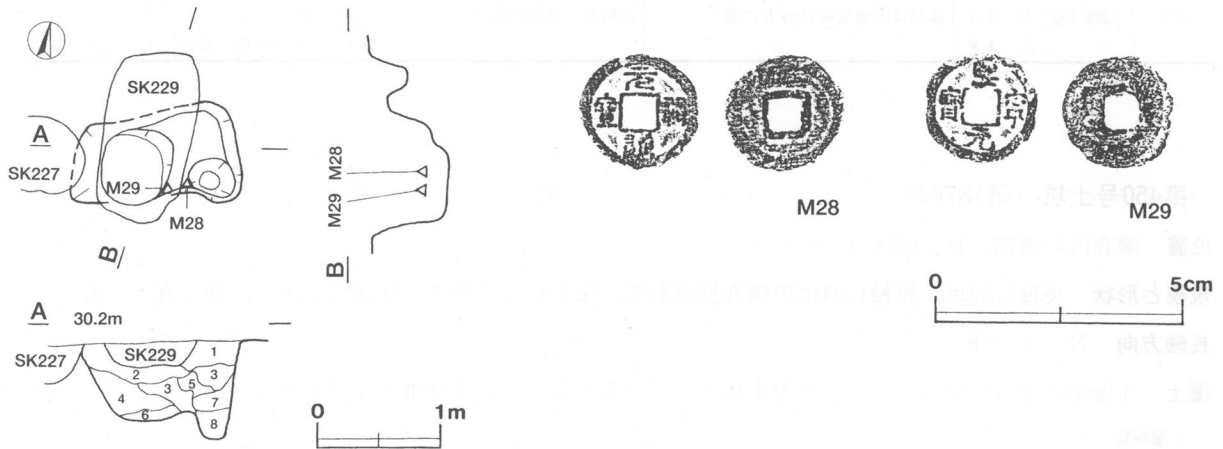
**覆土** 8層からなる。ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量

**遺物** 第185図のM28・M29は古銭である。南壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 古銭が出土していることと、付近に中世と思われる火葬施設や地下式墳が多数確認されていることから墓墳の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第185図 第228号土坑・出土遺物実測図

第228号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 曆	
第185図M28	元祐通寶	2.5	0.1	0.7	2.3	北宋	1086年	
M29	熙寧元寶	2.3	0.2	0.7	1.9	北宋	1068年	P L 30

### 第437号土坑 (第186図)

位置 調査区の中央部，D 4 b2区。

重複関係 西側を第436号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.61m，短軸0.91mの長方形で，深さ17cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がる。

長軸方向 N-81°-E

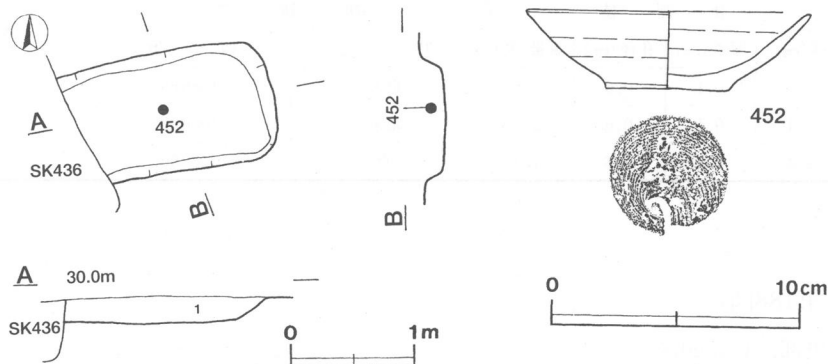
覆土 単一層である。ロームブロックを含むことから，人為堆積と思われる。

#### 土層解説

1 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物 第186図の452は土師質土器の皿である。中央部の覆土中層から出土している。

所見 付近に中世と思われる火葬施設や地下式墳が多数確認されている。本跡は，人骨が出土した第438号土坑と類似していることから墓墳の可能性が考えられる。時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第186図 第437号土坑・出土遺物実測図

第437号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 452	皿 土師質土器	A 11.5	口縁部一部欠損。やや突出した平底。 体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・雲母・針状 鉱物 にぶい橙色 普通	95%
		B 3.3				
		C 4.8				

第450号土坑 (第187図)

位置 調査区の南部, D 3 b9区。

規模と形状 長軸1.52m, 短軸1.04mの隅丸長方形で, 深さ45cmである。底面は平坦で, 壁は直立する。

長軸方向 N-5°-E

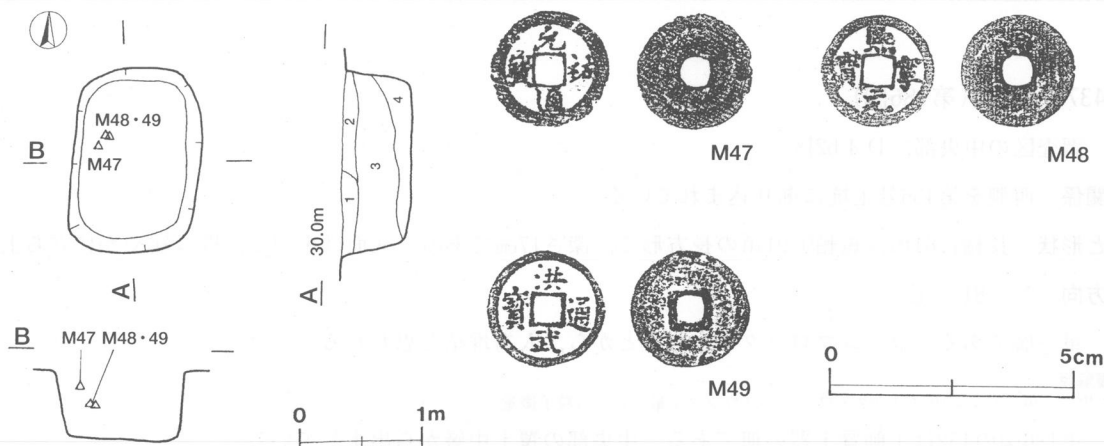
覆土 4層からなる。ロームブロックを主体としていることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- |      |                  |      |                     |
|------|------------------|------|---------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子中量          | 3 黒色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 4 黒色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

遺物 第187図のM47~M49は古銭である。M47は西壁寄りの覆土上層から, M48・M49は西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 古銭が出土していることと, 付近に中世と思われる火葬施設や地下式墳が多数確認されていることから墓塚の可能性が考えられる。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。



第187図 第450号土坑・出土遺物実測図

第450号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第187図M47	元祐通寶	2.5	0.1	0.6	2.5	北宋	1086年	
M48	熙寧元寶	2.4	0.1	0.6	2.9	北宋	1086年	
M49	洪武通寶	2.4	0.2	0.6	4.0	明	1368年	

第554号土坑 (第188図)

位置 調査区の中央部, C 3 g0区。

規模と形状 長軸3.01m, 短軸0.82mの長方形で, 深さ9cmである。底面は凹凸で, 緩やかに立ち上がる。

長軸方向 N-8°-E

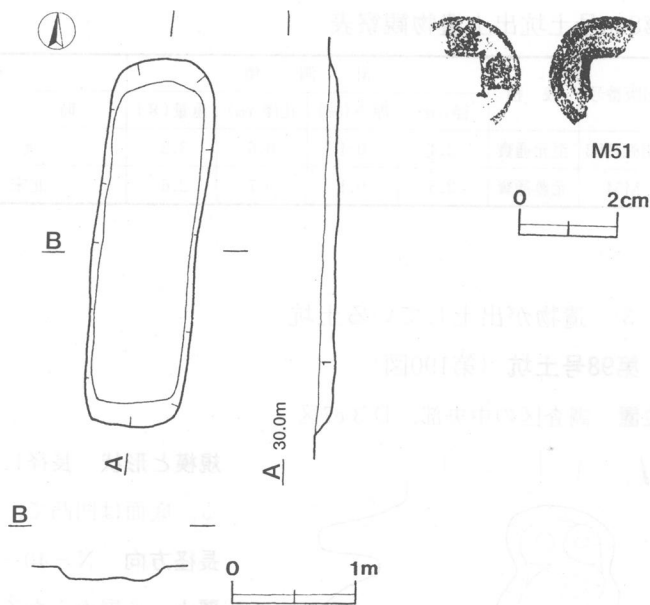
覆土 単一層である。ロームブロックを含むことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 第188図のM51は古銭で、覆土から出土している。

所見 古銭が出土していることと、付近に中世と思われる火葬施設や地下式壙が多数確認されていることから墓壙の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第188図 第554号土坑・出土遺物実測図

第554号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第188図M51	〇〇—	2.4	0.1	( 0.6)	( 1.3)	判読不明	不明	

第836号土坑 (第189図)

位置 調査区の西部, D 1 a9区。

重複関係 第837号土坑に東側を掘り込まれている。

規模と形状 南北方向0.82m, 確認された東西方向は0.4mの隅丸長方形で、深さ19cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

長軸方向 南北方向で、N-0°である。

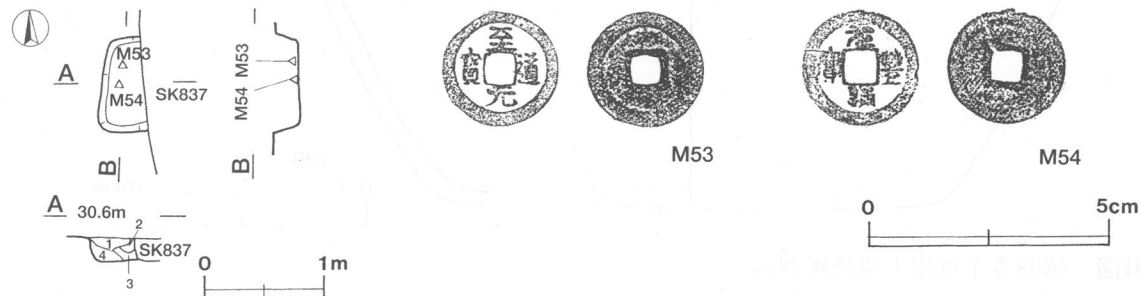
覆土 4層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 第189図のM53・M54は古銭である。どちらも西壁寄りの底面から出土している。

所見 古銭が出土していることと、付近に中世と思われる火葬施設や地下式壙が多数確認されていることから墓壙の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第189図 第836号土坑・出土遺物実測図

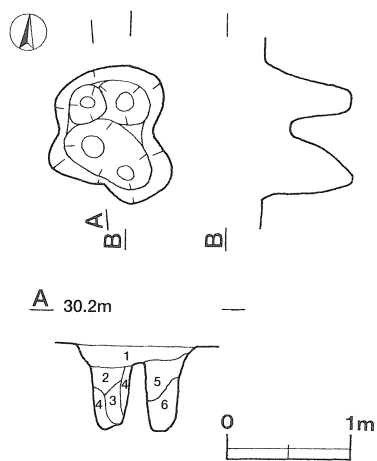
第836号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第189図M53	至元通寶	2.4	0.1	0.6	3.2	元	1285年	P L 30
M54	元豊通寶	2.5	0.1	0.7	2.6	北宋	1078年	

(3) 遺物が出土している土坑

第98号土坑 (第190図)

位置 調査区の中央部, D 3 e7区。



第190図 第98号土坑実測図

**規模と形状** 長径1.21m, 短径1.09mの不整楕円形で, 深さ73cmである。底面は凹凸で, ピット状に掘り込まれている。

**長径方向** N-40°-W

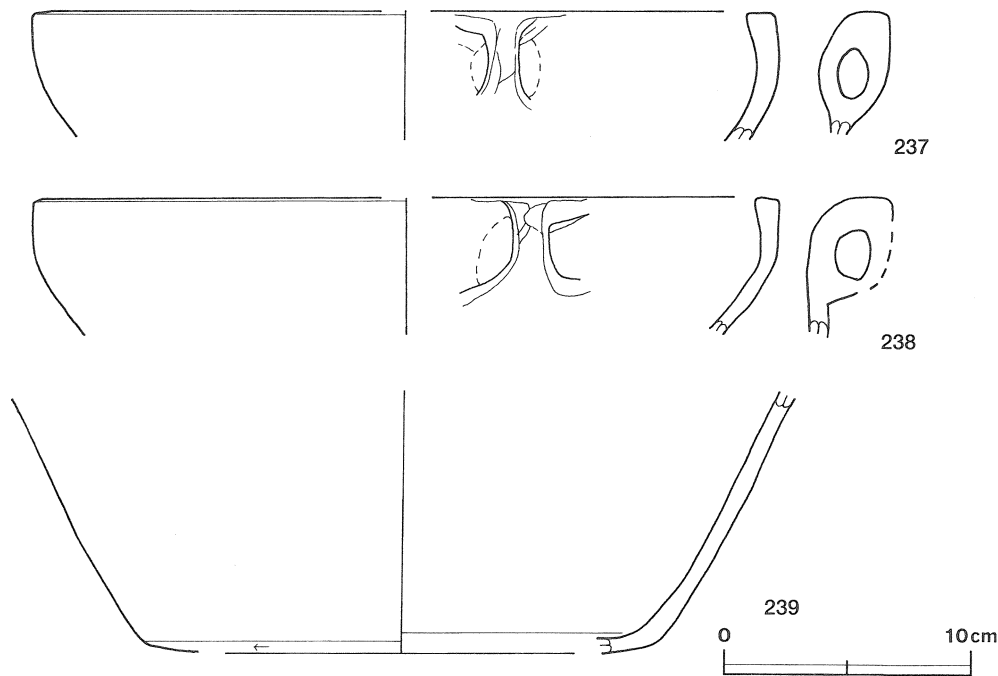
**覆土** 6層からなる。不自然な堆積状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

**遺物** 第191図の237~239は土師質土器の内耳鍋である。いずれも覆土上層(1層)から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から判断して15世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第191図 第98号土坑出土遺物実測図

## 第98号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 237	内耳鍋 土師質土器	A(30.0) B(5.2)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	5%
238	内耳鍋 土師質土器	A(30.0) B(5.5)	口縁部の破片。内耳1か所残存。器肉は薄い。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	5% 外面煤付着
239	内耳鍋 土師質土器	B(10.6) C(19.0)	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端ヘラ削り。	石英・雲母・白色 粒子 にぶい黄橙色 普通	10% 外面煤付着

### 第100号土坑（第192図）

**位置** 調査区の中央部，D 3 e7区。

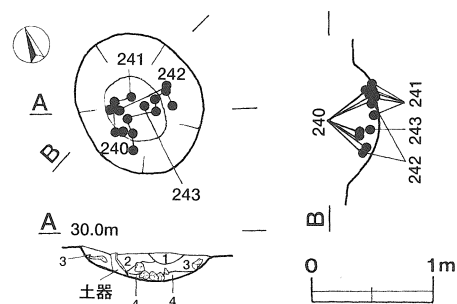
**規模と形状** 長径1.16m，短径1.02mの楕円形で，深さ24cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がる。

**長径方向** N-27°-W

**覆土** 4層からなる。礫混じりの層で，一括投棄された人為堆積と思われる。

#### 土層解説

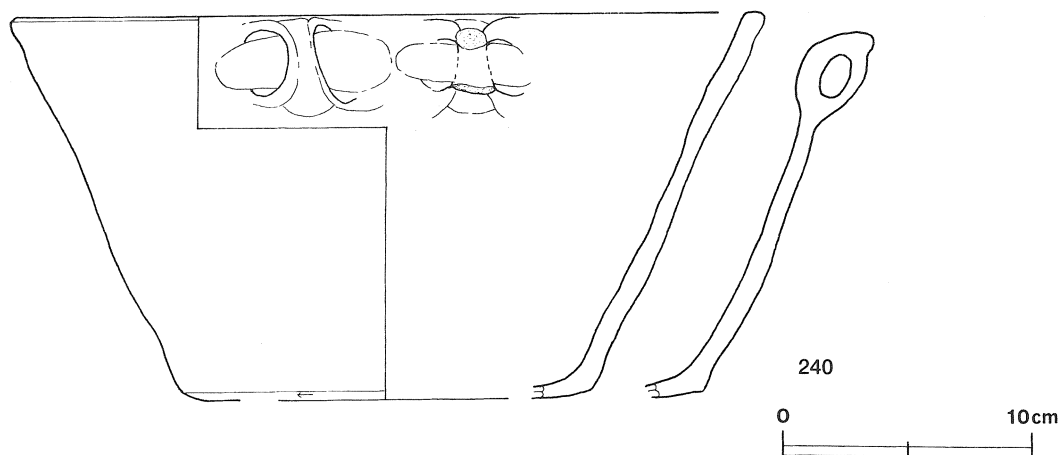
- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子中量
- 3 黒色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



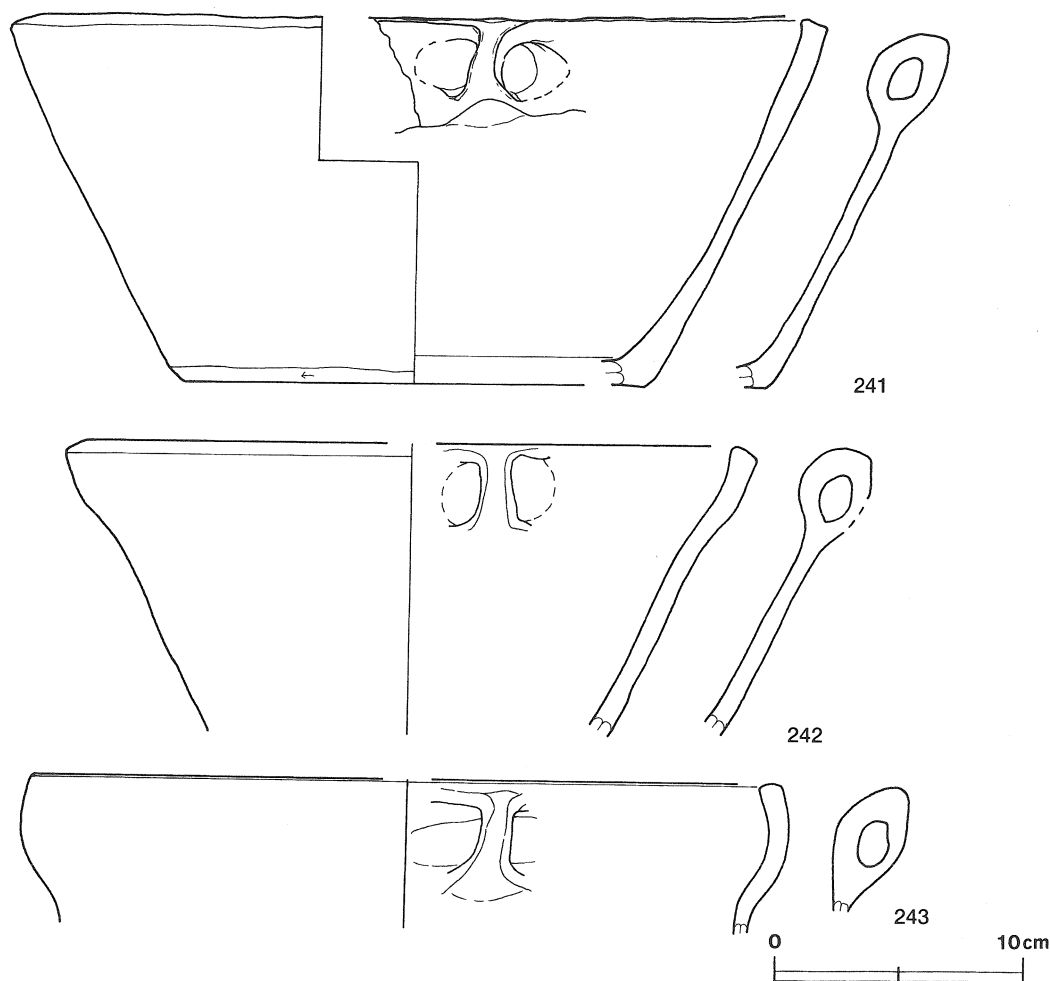
第192図 第100号土坑実測図

**遺物** 土師質土器片20点，礫38点，炭化物が出土している。第193・194図の240～243は土師質土器の内耳鍋で，破片の状態，礫と重なり合うように出土している。240は上層から，241～243は底面からそれぞれ出土している。

**所見** 一括投棄されたような状況で，内耳鍋片と礫が出土している。時期は，出土土器から判断して15世紀後半と考えられる。



第193図 第100号土坑出土遺物実測図(1)



第194図 第100号土坑出土遺物実測図(2)

第100号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 240	内耳鍋 土師質土器	A 29.4 B 15.5 C (14.0)	底部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。体部下端ヘラ削り。	長石・石英にぶい橙色普通	60% P L 28 外面煤付着
第194図 241	内耳鍋 土師質土器	A (30.7) B 14.9 C (18.6)	底部から口縁部の破片。内耳1か所残存。器肉はやや薄い。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。体部下端ヘラ削り。	長石・石英にぶい橙色普通	20% 内面煤付着
242	内耳鍋 土師質土器	A (26.0) B (11.7)	体部から口縁部の破片。内耳1か所残存。器肉はやや薄い。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色粒子 橙色 普通	15% 外面煤付着
243	内耳鍋 土師質土器	A (29.8) B ( 6.1)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	体部内・外面ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	5%

第207号土坑 (第195図)

位置 調査区の中央部, D 3 d7区。

重複関係 第105号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.12m, 短径0.97mの楕円形で, 深さ19cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-45°-E



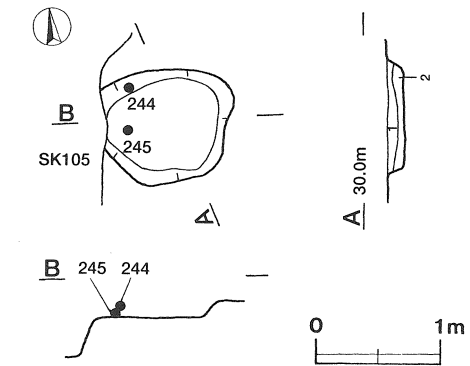
**覆土** 2層からなる。ロームブロックを主体としていることから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

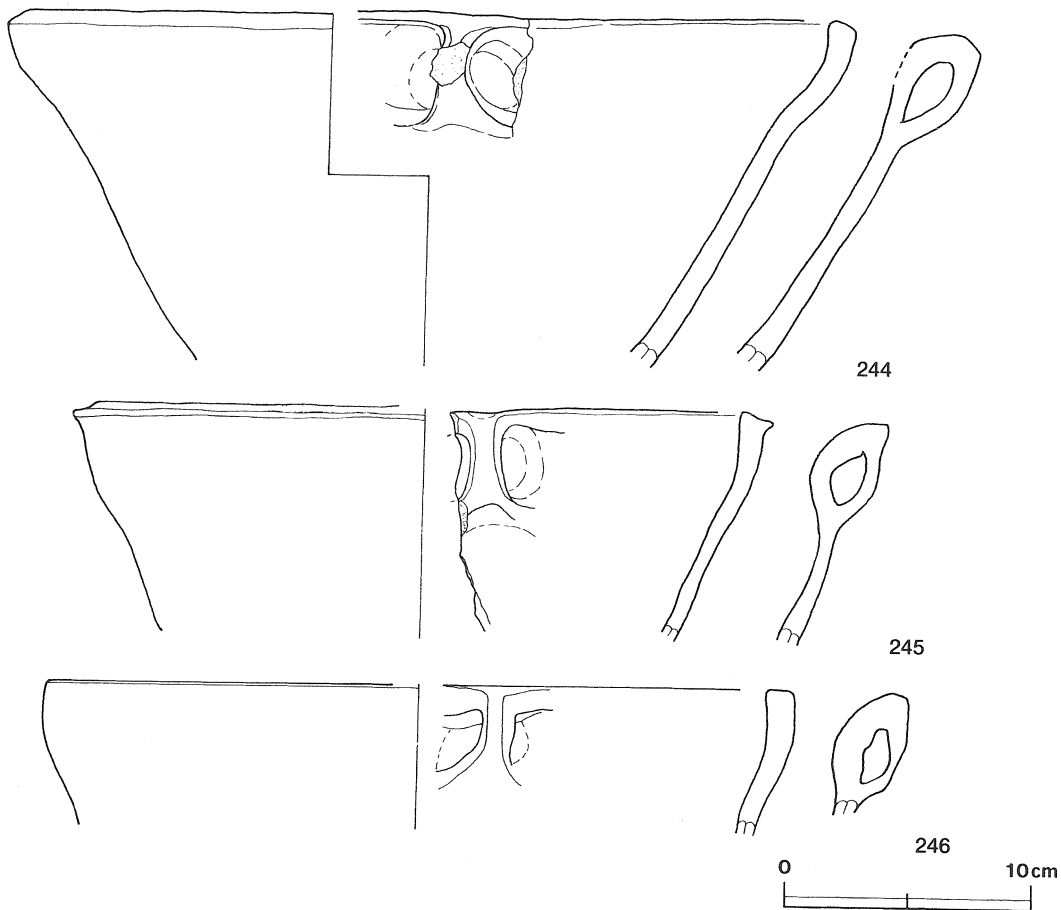
- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量

**遺物** 第196図の244～246は土師質土器の内耳鍋である。244は北側の壁際の覆土下層から、245は中央部の底面から、246は覆土からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から判断して15世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第195図 第207号土坑実測図



第196図 第207号土坑出土遺物実測図

第207号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 244	内耳鍋 土師質土器	A [32.4] B (14.2)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	15% 外面煤付着
245	内耳鍋 土師質土器	A [25.8] B ( 9.4)	体部から口縁部の破片。内耳1か所残存。器肉は薄い。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	5%
246	内耳鍋 土師質土器	A [30.0] B ( 5.9)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・白色粒子 にぶい褐色 普通	5%

第792号土坑（第197図）

位置 調査区の西部，D 2 b3区。

重複関係 第791号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.8m，短軸1.1mの長方形で，深さ45cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

長軸方向 N-0°

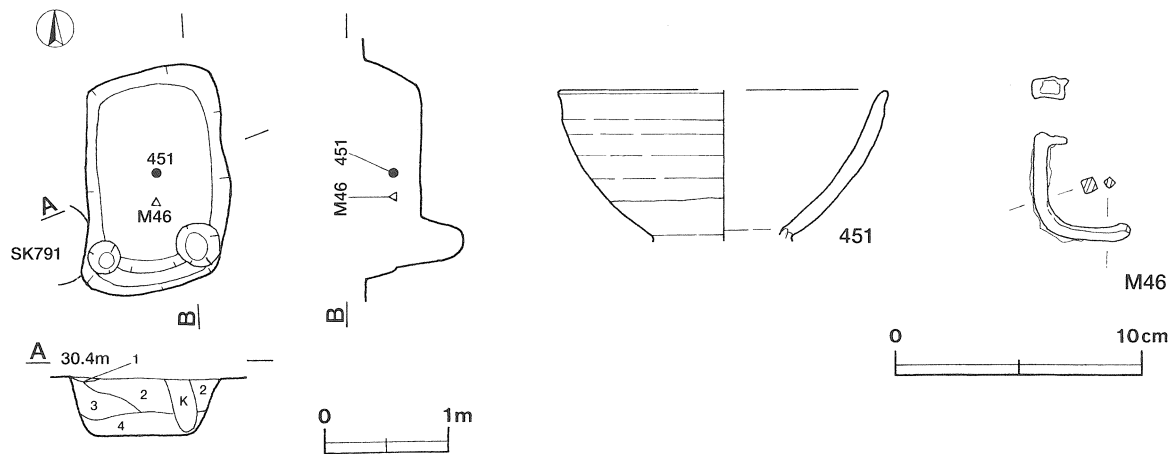
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

- |                        |                                |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム中ブロック微量       | 3 暗褐色 ローム小ブロック少量               |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 第197図の451は陶器の天目茶碗，M46は釘である。どちらも中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から判断して16世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第197図 第792号土坑・出土遺物実測図

第792号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土色調	釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	C	D						
第197図 451	天目茶碗	陶器	[13.2]	(6.2)	-	-	25%	灰褐色 黒色	鉄釉	口縁部は短く外反する。	瀬戸・美濃系 16C後半	P L 29

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第197図M46	釘	(4.5)	0.6	0.5	(10.3)	鉄	角釘。L字状に屈曲している。	

(4) 土坑・土坑群

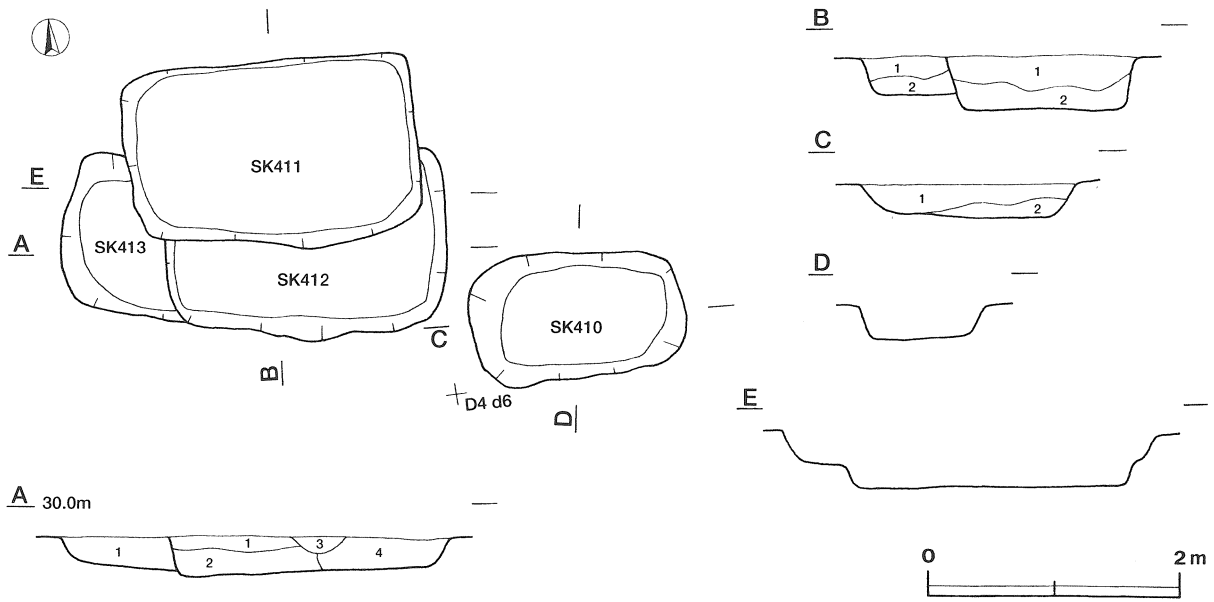
調査区の南部に地下式墳が数多く確認されている。その周囲には，土坑が密集し複雑に重複している。土坑の形状は，方形・円形・楕円形とさまざまである。覆土の状況や類例から，墓墳の可能性も考えられる。ここでは，土坑及び土坑群の中で墓墳の可能性のある土坑について実測図及び一覧表で掲載する。

第410号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

第411号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子微量



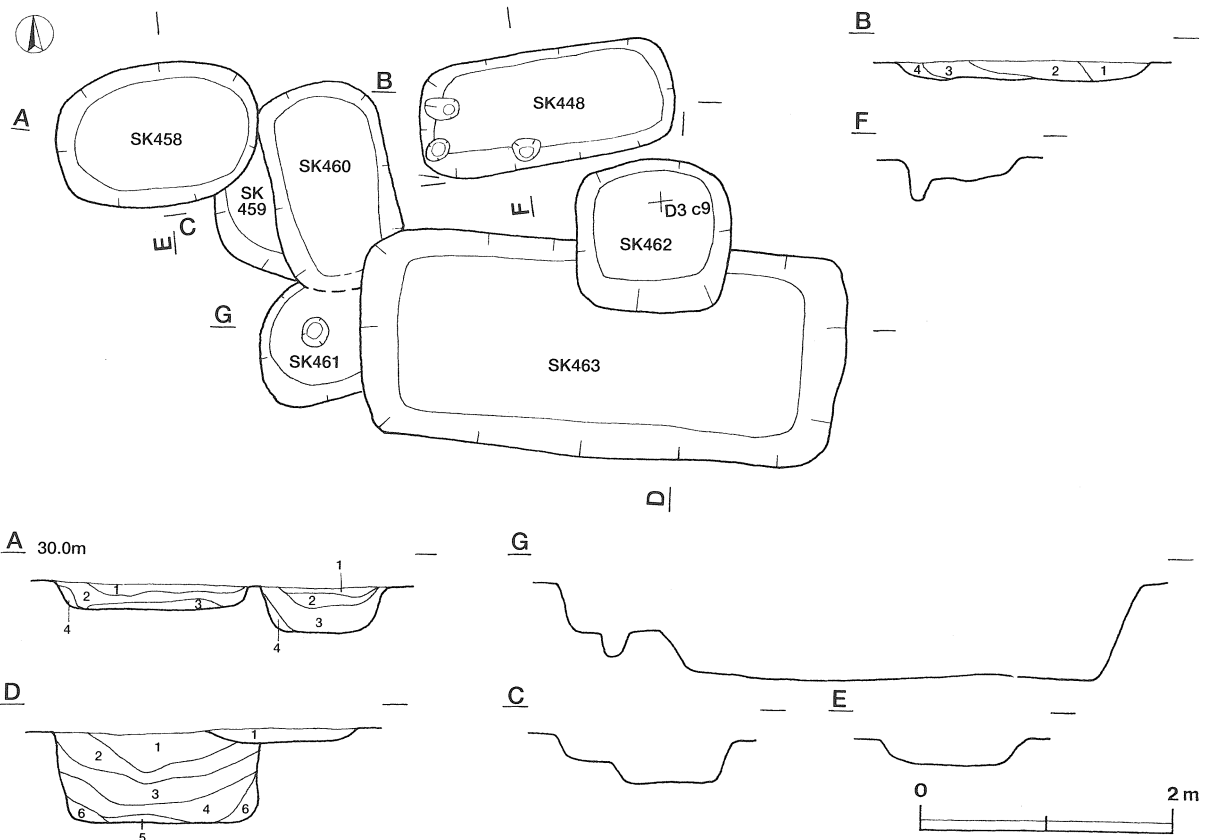
第198図 土坑群A実測図

第412号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第413号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量



第199図 土坑群B実測図

第448号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子中量
- 4 黒色 ローム粒子少量

第458号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

第460号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第462号土坑土層解説

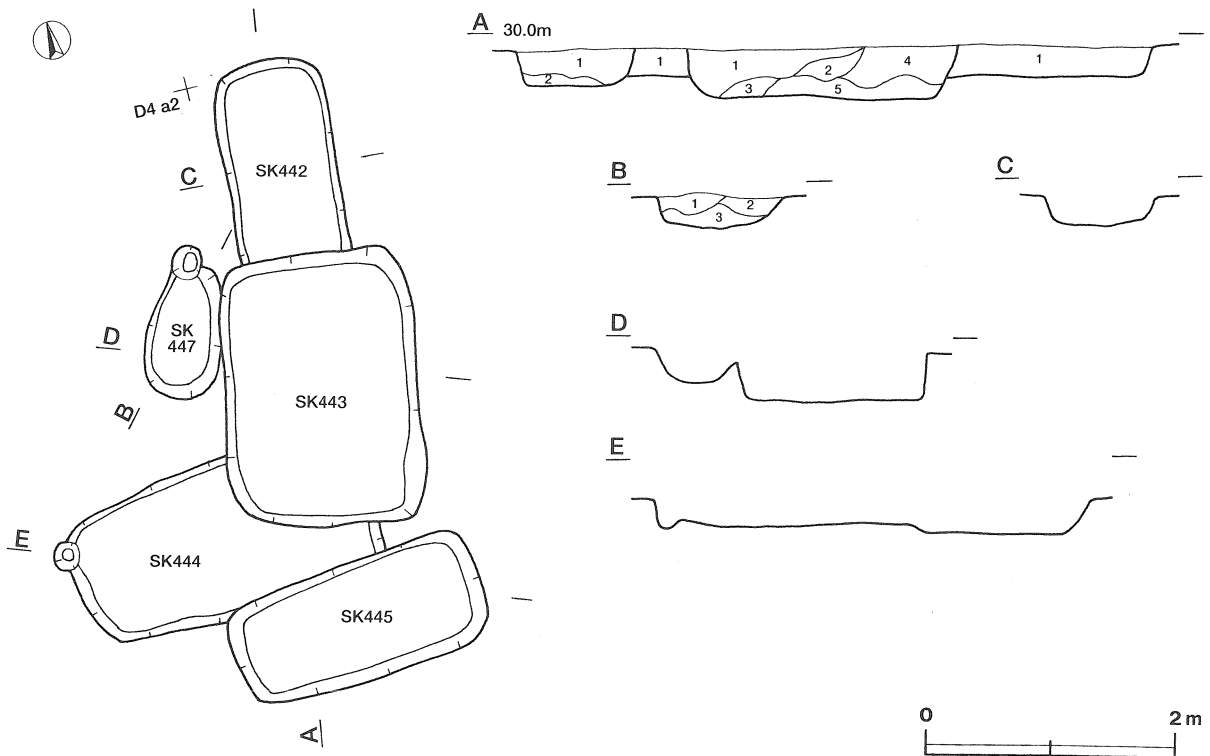
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第463号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

第442号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量



第200図 土坑群C実測図

第443号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第444号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第445号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第447号土坑土層解説

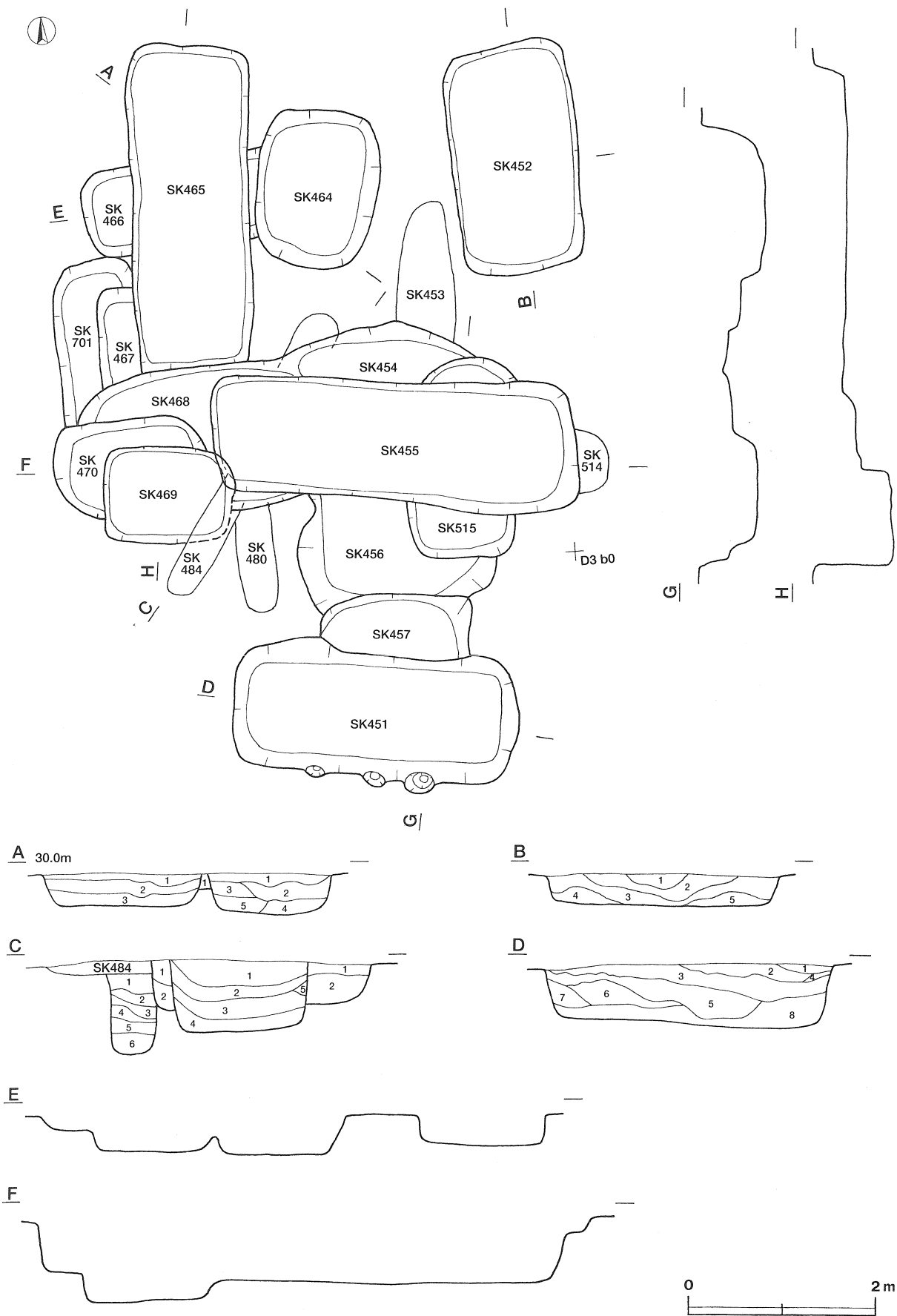
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

第451号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量

第452号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量



第201图 土坑群D实测图

第454号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

第455号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

第464号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第465号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第466号土坑土層解説

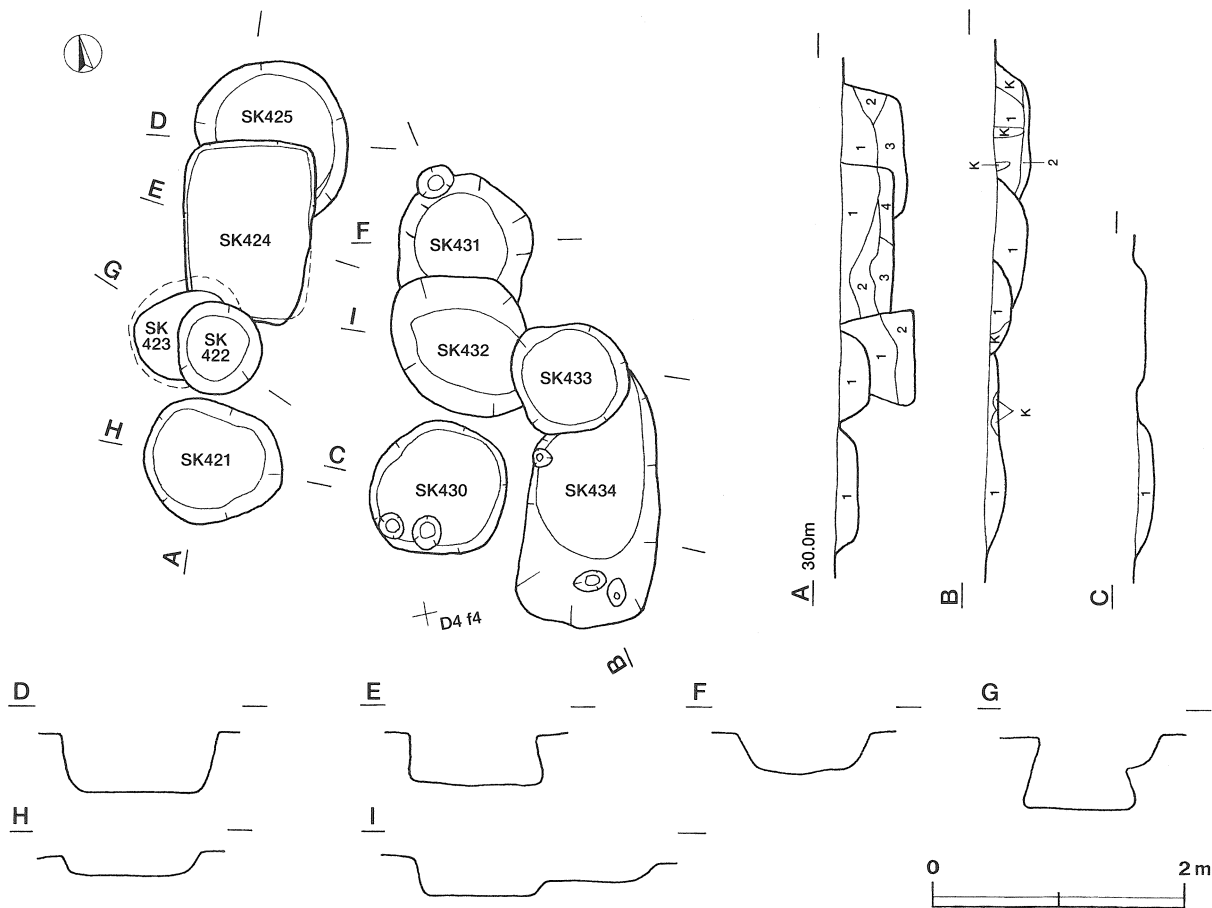
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

第468号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第469号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



第202図 土坑群E実測図

第421号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

第422号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック微量

第423号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第424号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第425号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第431号土坑土層解説

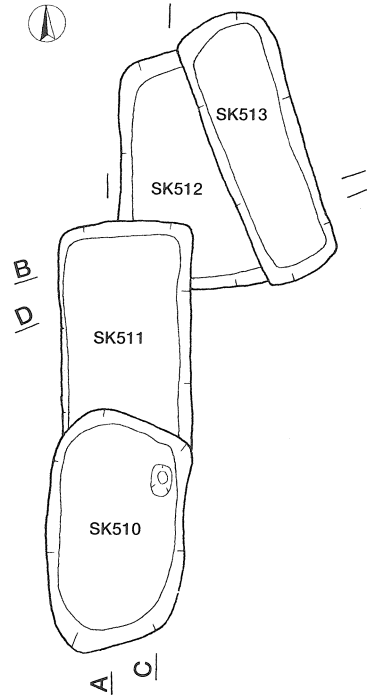
- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

第432号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

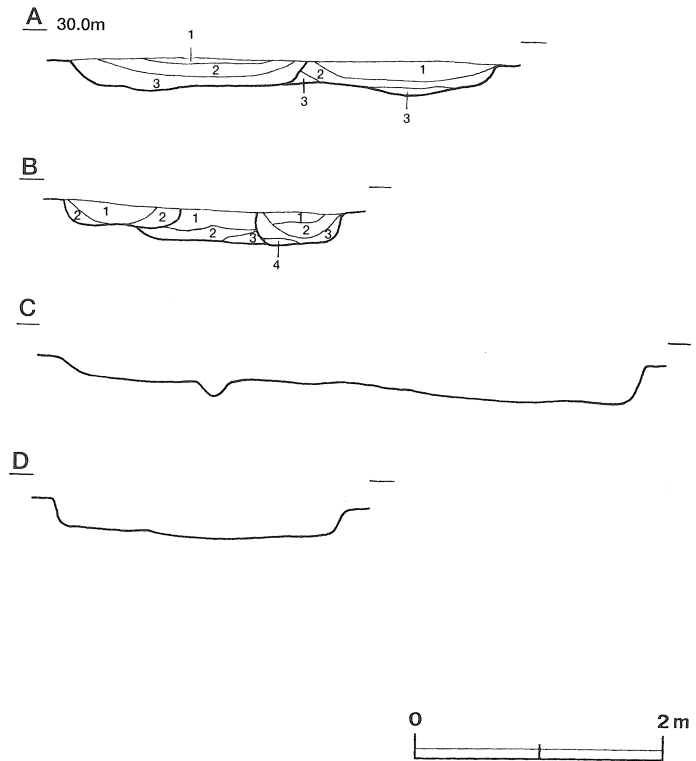
第433号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



第434号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



第203図 土坑群F実測図

第510号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量

第511号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量
- 2 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子微量

第84号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

第512号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第513号土坑土層解説

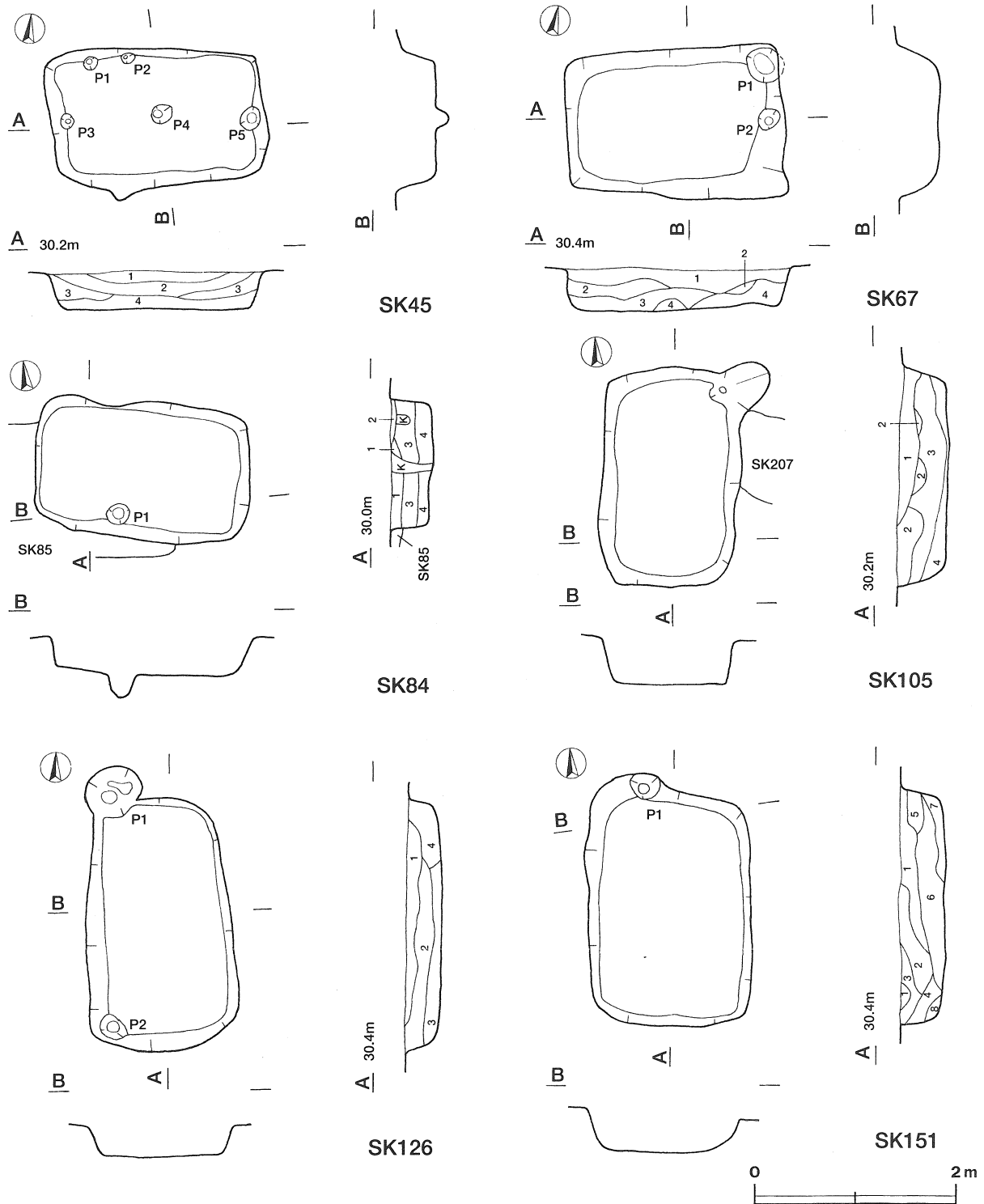
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

第126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

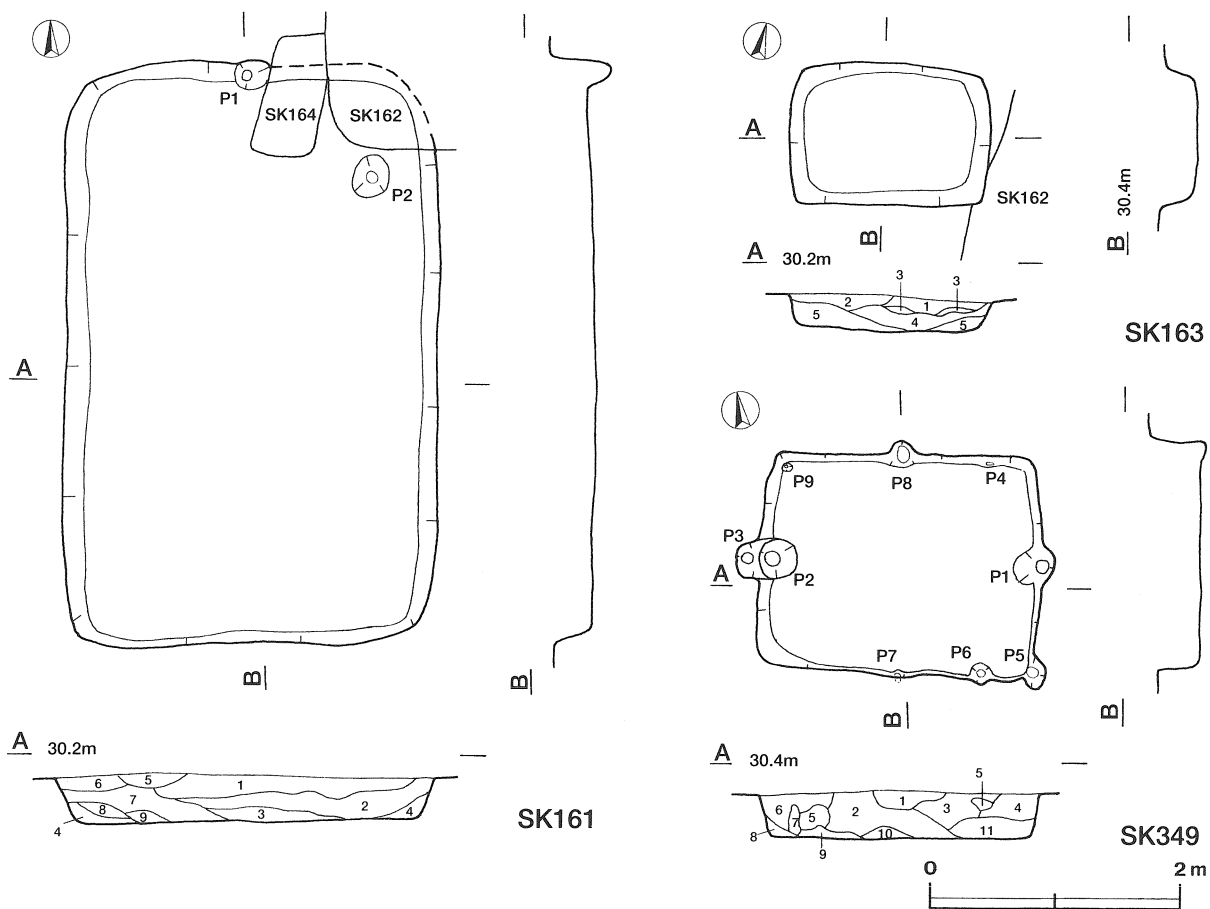


第204図 中世の土坑実測図(1)

第151号土坑土層解説

- |       |                              |       |                                 |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量        | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量             |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量     | 6 黒褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量     | 7 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量     |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量                |





第205図 中世の土坑実測図(2)

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 8 黒色 ローム粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

第163号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

第349号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 黒色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 11 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量

(5) 地下式墳

第1号地下式墳 (SK49) (第206図)

位置 調査区の南西部, D3 i3区。

主軸方向 N-144°-W

**竪坑** 上面は径1.8mほどの円形、底面は長径1.11m、短径1.02mの楕円形である。確認面からの深さは1.96mで、主室の底面より36cm高い。底面は、主室に向かって傾斜している。

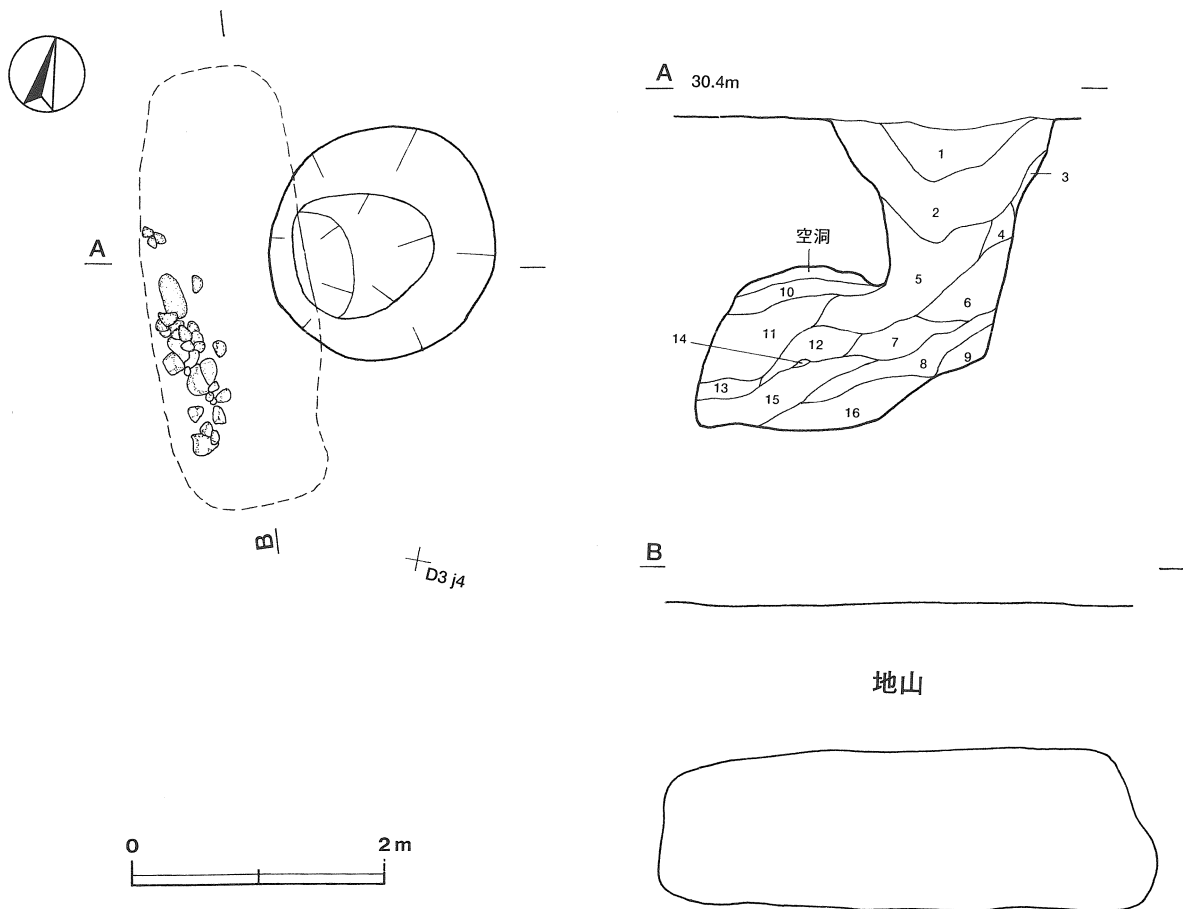
**主室** 主室の天井部は、ほぼ完全に残っていた。底面は長軸3.51m、短軸1.26mの長方形で、長軸方向は主軸方向と直交している。主室の横断面形は、かまぼこ状を呈し、主室の底面から天井までの高さは、最高で1.26mである。

**壁** 竪坑は、外傾して立ち上がる。主室はほぼ直立し、天井部は丸みをもつ。

**覆土** 16層からなる。竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積状況である。10・12層は、ロームブロックを主体としていることから、天井部の一部が崩落した土層と考えられる。

**土層解説**

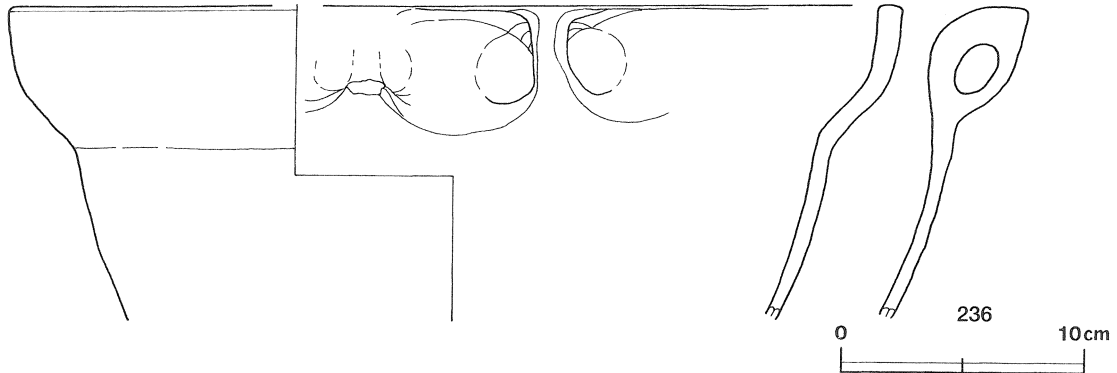
- |       |                              |        |                                       |
|-------|------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・赤色粒子微量                 | 10 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量 |
| 2 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量        | 11 黒色  | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量          |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量             | 12 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子多量                      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 13 黒色  | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量          |
| 5 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量             | 14 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子微量          |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量     | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量               |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量          | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼軽石粒子微量            |
| 8 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量    |        |                                       |
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |        |                                       |



第206図 第1号地下式壙実測図

**遺物** 土師質土器片2点，混入したとみられる土師器片7点，礫35点が出土している。第207図の236は土師質土器の内耳鍋で，覆土から出土している。また，主室の南西壁側の底面から，20～40cm大の自然礫が29個出土している。

**所見** 時期は，遺構の形態や出土土器から判断して，15世紀後半と思われる。



第207図 第1号地下式墳出土遺物実測図

第1号地下式墳出土遺物観察表 (S K 49)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 236	内耳鍋 土師質土器	A (36.2) B (12.9)	体部から口縁部の破片。内耳1か所残存。器内は薄く，口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色 粒子 橙色 普通	15% 外面煤付着

### 第2号地下式墳 (S K 259) (第208図)

**位置** 調査区の西部，C 2 j 4区。

**主軸方向** N-0°

**竪坑** 上面は長径2.22m，短径1.3mの楕円形，中端は長径1.56m，短径1.12mの楕円形で漏斗状に狭くなっている。南側の壁は，中位に二つの段をもち，主室に直接下がるスロープ状になっている。確認面からの深さは1.98mである。

**主室** 主室の天井部は，ほぼ完全に残っていた。底面は長軸2.35m，短軸1.61mの隅丸長方形で，長軸方向は主軸方向と直交している。主室の横断面形は，かまぼこ状を呈し，主室の底面から天井までの高さは，最高で1.02mである。

**壁** 竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ直立し天井部は丸みをもつ。

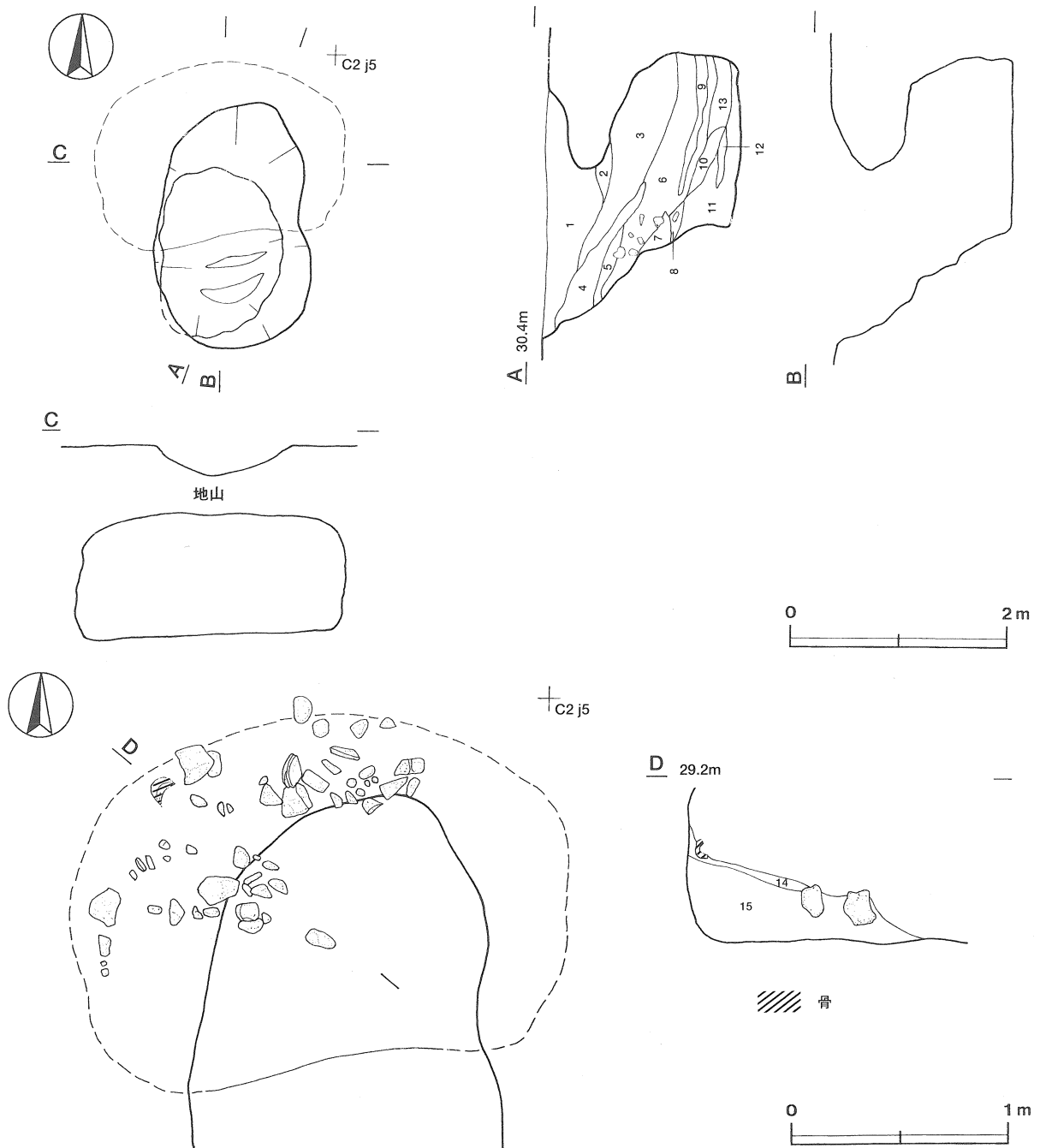
**覆土** 15層からなる。竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積状況である。9層は，ロームブロック・ローム粒子を主体とした土層で，天井部が崩落した土層と考えられる。14・15層は，主室下層から検出された頭骨の下の覆土である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
2 黒色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
3 黒色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量	11 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼軽石粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
5 黒色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量		

**遺物** 土師質土器2点，陶器片1点，流れ込みとみられる土師器片2点が出土している。いずれも細片で図示できなかった。主室の北西壁側の下層（14層）から，人の頭骨の一部と歯が出土した。底面から20cmほどの高さから，20～50cm大の礫が多量に出土している。

**所見** 主室の下層から，頭骨の一部と歯が出土している。このことから，当初の使用目的は不明であるが，最終的には墓壙として使用された可能性も考えられる。時期は，遺構の形態や出土土器から15世紀後半と思われる。



第208図 第2号地下式壙実測図

**第3号地下式壙 (S K 263) (第209図)**

**位置** 調査区の中央部，C 3 h2区。

**重複関係** 第8号住居跡の東壁を掘り込んでいます。

主軸方向 N-5°-W

**壁坑** 天井部は崩落しており、上面は長軸1.22m、短軸0.89mの長方形と推定される。底面は長軸1.15m、短軸0.79mの長方形である。確認面からの深さは1.75mで、主室の底面とほぼ同じ高さである。

**主室** 底面は長軸3.29m、短軸1.71mの隅丸長方形であり、長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で、確認面からの深さは1.8mである。

**壁** 壁坑、主室ともにほぼ直立する。主室の北壁と東壁から、掘り込こんだ際にできる三日月状の工具痕が確認された。

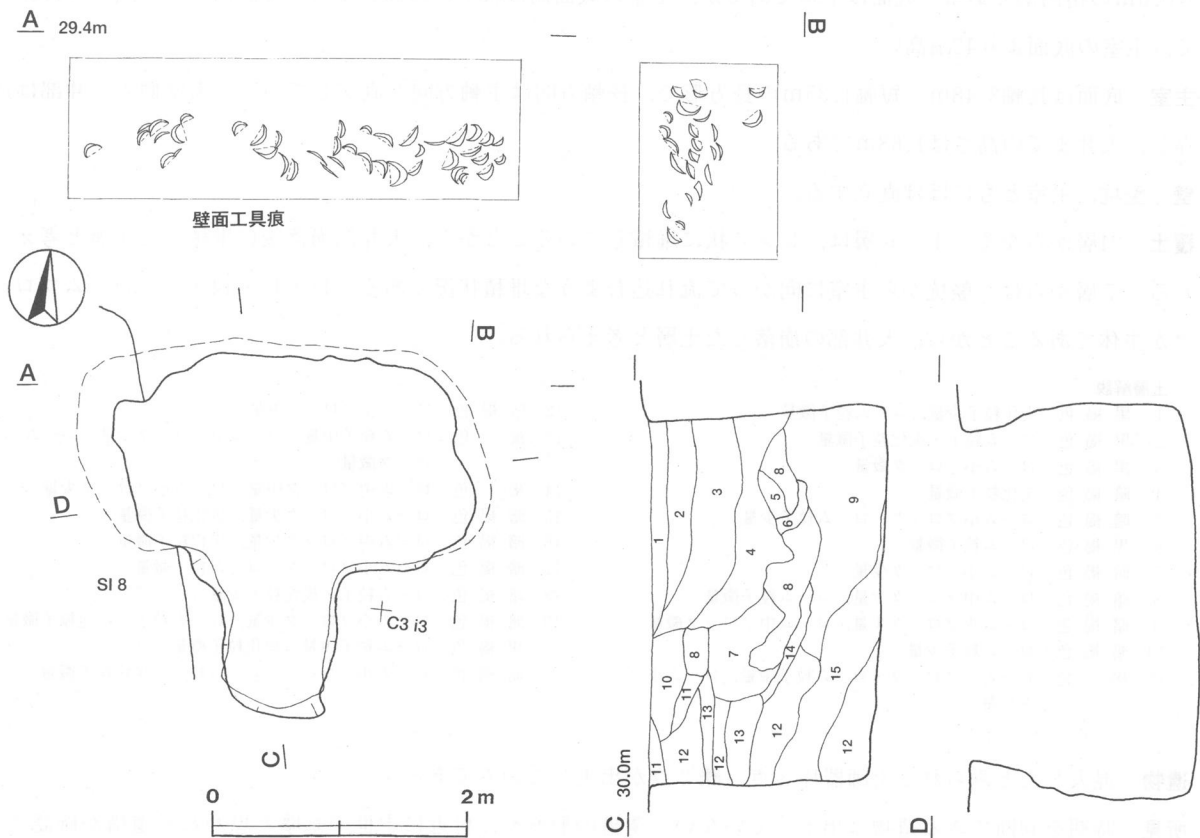
**覆土** 15層からなる。1～7層はレンズ状に堆積していることから、天井部崩落後の自然堆積と考えられる。8層は今市軽石粒子・七本桜軽石粒子の土層、9層はロームブロックを主体としていることから、天井部が崩落した土層と考えられる。11～15層は重なり合うような堆積状況から、埋め戻された土層と考えられる。

土層解説

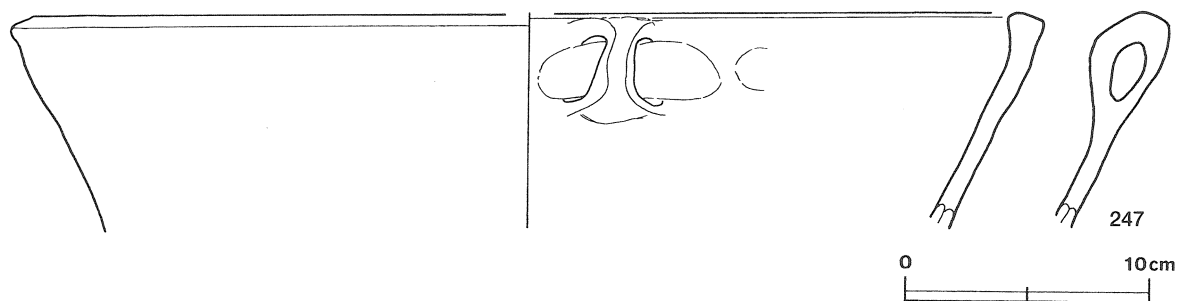
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 明褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量, 赤色粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼軽石粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	12 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・今市軽石粒子・七本桜軽石粒子微量	13 黒色	ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量, 今市軽石粒子・七本桜軽石粒子微量	14 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
7 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 今市軽石粒子・七本桜軽石粒子微量	15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量
8 赤褐色	今市軽石粒子・七本桜軽石粒子多量		

**遺物** 土師質土器片1点, 陶器片3点, 流れ込みとみられる土師器片が少量出土している。第210図の247は土師質土器の内耳鍋で、覆土から出土している。

**所見** 時期は、遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第209図 第3号地下式竈実測図



第210図 第3号地下式墳出土遺物実測図

第3号地下式墳出土遺物観察表 (SK263)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 247	内耳鍋 土師質土器	A(40.2) B(9.0)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・白色 粒子 明赤褐色 普通	5% PL29 外面煤付着

#### 第4号地下式墳 (SK427) (第211図)

**位置** 調査区の南東部，D4c4区。

**重複関係** 第42号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

**主軸方向** N-72°-E

**竪坑** 天井部は崩落しており，上面は長径0.89m，短径0.81mの楕円形と推定される。底面は長径0.76m，短径0.6mの楕円形である。底面は平坦であるが，主室の底面側は緩やかに傾斜する。確認面からの深さは1.83mで，主室の底面より42cm高い。

**主室** 底面は長軸3.48m，短軸1.35mの長方形で，長軸方向は主軸方向と直交している。南壁側の天井部は遺存し，天井までの高さは1.68mである。

**壁** 竪坑，主室ともにはほぼ直立する。

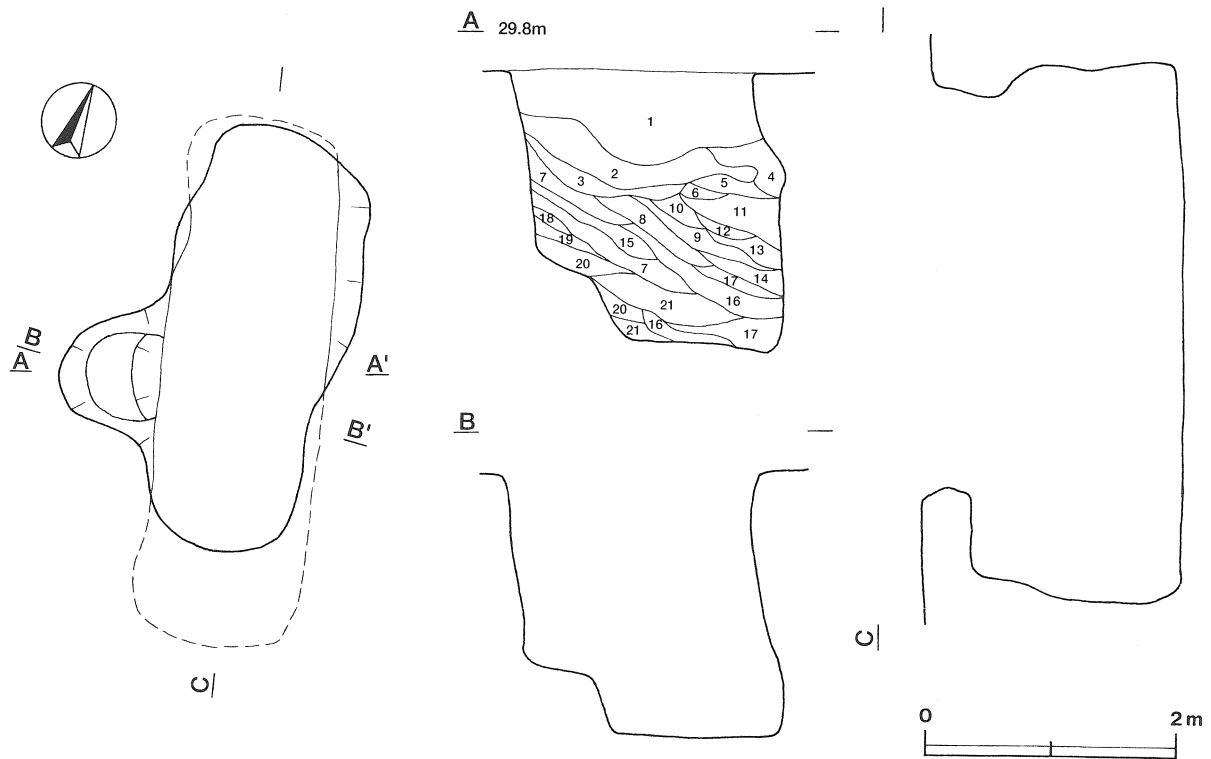
**覆土** 21層からなる。1～6層は，レンズ状に堆積していることから，天井部崩落後に堆積した土層と考えられる。7層からは，竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積状況である。11・13・14層は，ロームブロックが主体であることから，天井部の崩落した土層と考えられる。

##### 土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量	12 暗褐色 ローム小ブロック中量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	13 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
3 黒褐色 ローム小ブロック微量	14 褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
4 暗褐色 炭化粒子微量	15 暗褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量	16 暗褐色 ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
6 黒褐色 ローム粒子微量	17 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
7 暗褐色 ローム小ブロック少量	18 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子微量	19 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量	20 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
10 暗褐色 ローム粒子少量	21 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	

**遺物** 混入したとみられる土師器片3点，礫2点が出土したのみである。

**所見** 時期を判断できる遺物は出土していない。遺構の形態や，付近に中世の墓墳と思われる遺構が確認されていることから，中世と考えられる。



第211図 第4号地下式塙実測図

第5号地下式塙 (SK428) (第212図)

位置 調査区の東部, C4c8区。

主軸方向 N-150°-W

竪坑 天井部は崩落しており, 上面の形状は不明である。底面は長軸1.12m, 短軸0.82mの長方形である。確認面からの深さは1.86mで, 底面は主室に向かって傾斜している。

主室 底面は長軸3.95m, 短軸1.34mの長方形である。竪坑は主室のやや西寄りに位置し, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面から底面までの深さは2.14mである。

壁 竪坑, 主室ともにほぼ直立する。

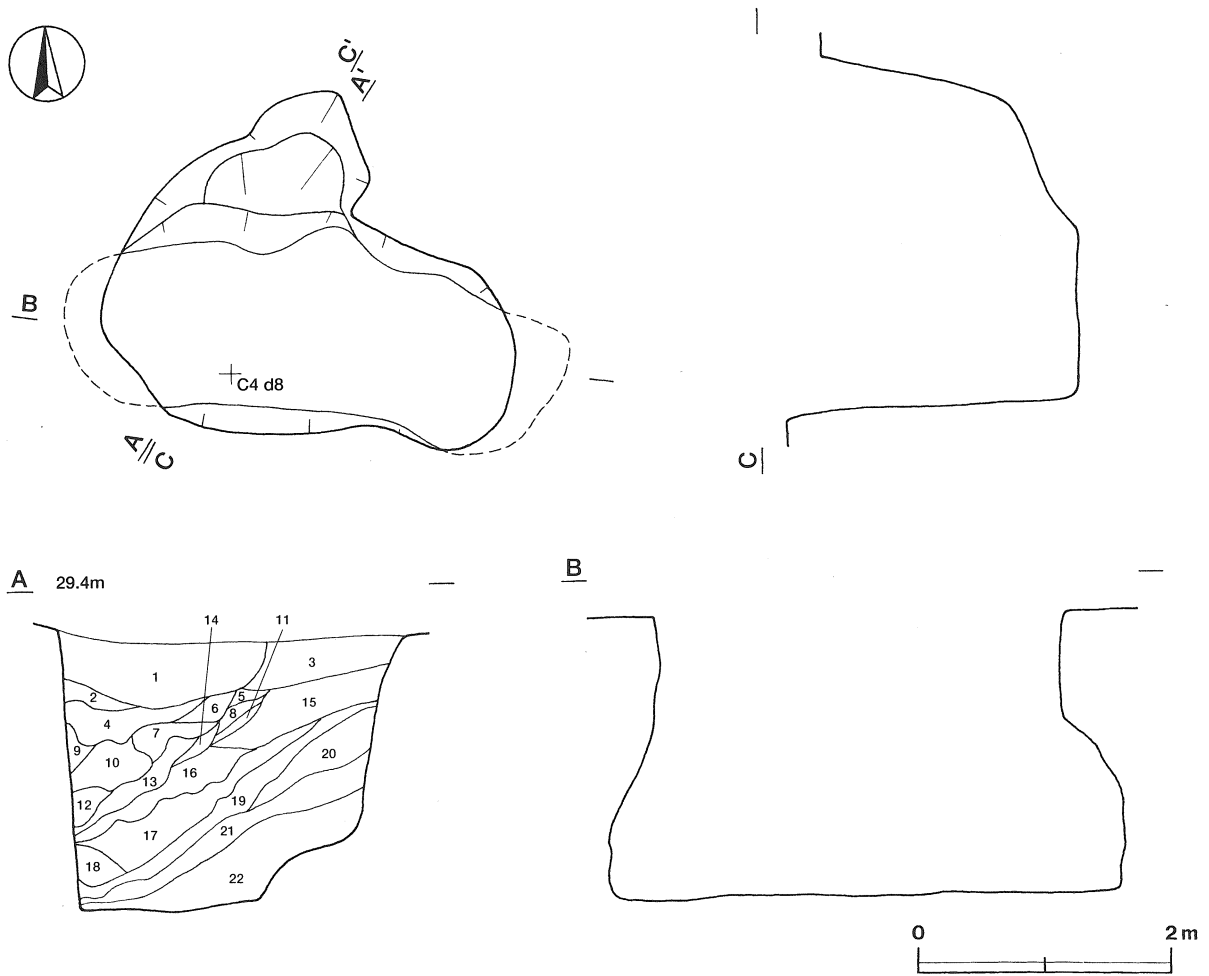
覆土 22層からなる。19~22層は, 竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積状況である。13・17・18層は, ロームブロックを主体としていることから, 天井部が崩落した土層と考えられる。

土層解説

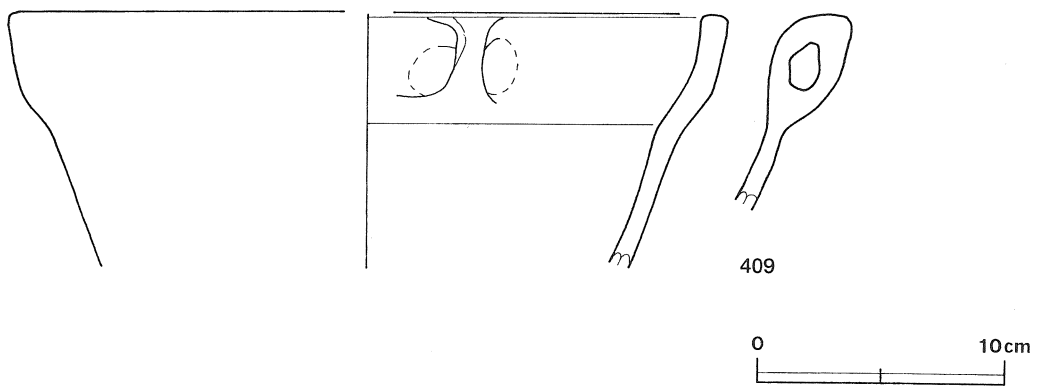
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量	13 褐色	ローム中ブロック多量, ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
3 暗褐色	炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	炭化粒子微量	15 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
5 暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック少量	17 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量
7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18 褐色	ローム大ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	19 褐色	ローム粒子中量
9 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	20 褐色	ローム粒子少量
10 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	21 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
11 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量	22 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 土師質土器片 1 点，混入したとみられる土師器片 8 点が出土している。第213図の409は土師質土器の内耳鍋で，覆土から出土している。

**所見** 時期は，遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第212図 第5号地下式竈実測図



第213図 第5号地下式竈出土遺物実測図

第5号地下式竈出土遺物観察表 (SK428)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 409	内耳鍋 土師質土器	A [28.0] B (10.5)	体部から口縁部の破片。内耳1か所残存。器肉はやや薄い。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・白色 粒子 にぶい褐色 普通	5%



第6号地下式墳 (SK429) (第215図)

位置 調査区の南東部, D4b1区。

主軸方向 N-87°-E

竪坑 天井部は崩落しており, 上面は長軸0.83m, 短軸0.72mの長方形と推定される。底面は一辺0.7mほどの方形である。確認面からの深さは1.65mで, 底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 底面は長軸3.55m, 短軸1.63mの隅丸長方形で, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.12mである。

壁 竪坑は, 外傾して立ち上がる。主室は, ほぼ直立する。

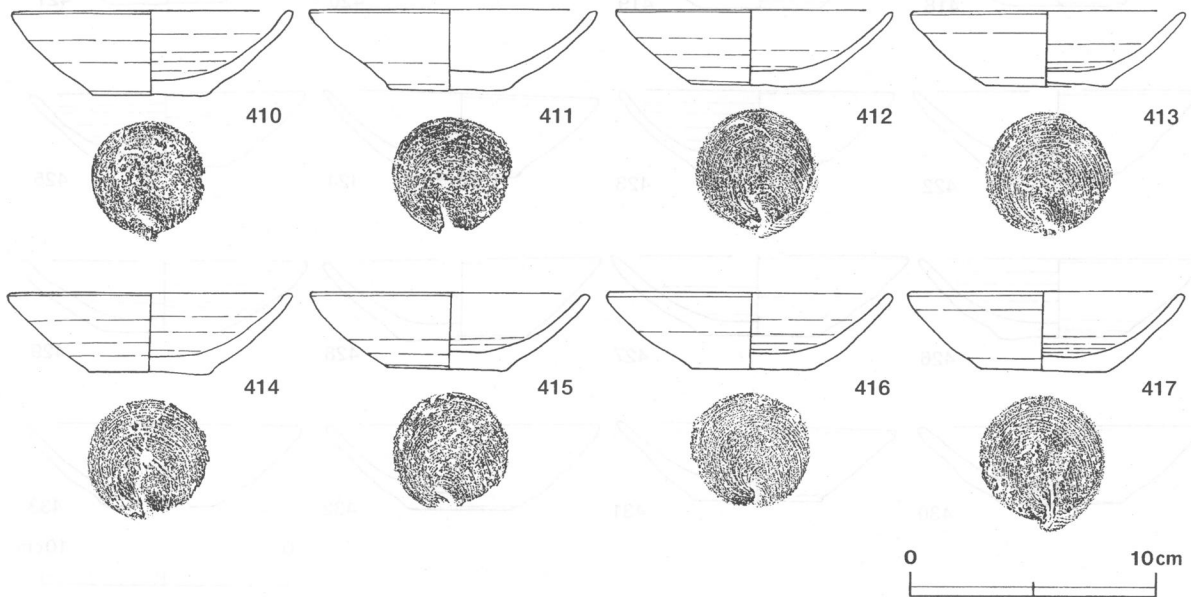
覆土 27層からなる。1~12層・25層は, ローム粒子を微量含みレンズ状に堆積していることから, 天井部崩落後の自然堆積と思われる。

土層解説

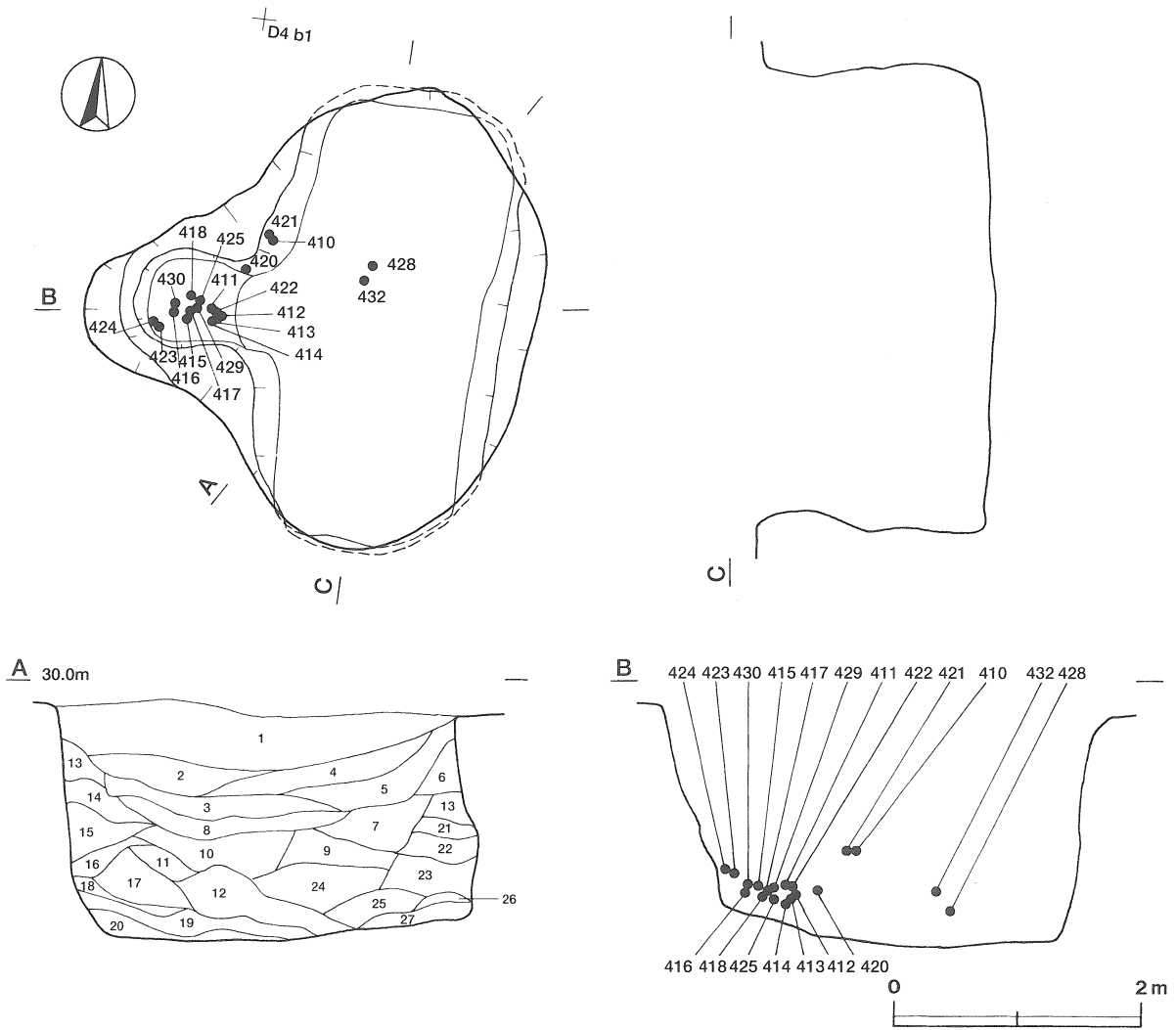
1 暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	16 暗褐色	炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	炭化粒子少量, 小礫微量	17 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	18 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
4 暗褐色	炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	19 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量
5 黒褐色	炭化粒子少量	20 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	21 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・小礫微量	22 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量	23 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
9 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量
10 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	25 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	26 黄色	鹿沼軽石粒子多量
12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	27 暗褐色	炭化粒子微量
13 褐色	ローム粒子多量		
14 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量		
15 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量		

遺物 第214・216・217図の410~444は土師質土器である。竪坑の底面近くから, 411~414・422の皿が5枚重なった正位の状態で, 415・417・420・429の皿が正位の状態で, 416・418・423~425・430の皿が逆位の状態でそれぞれ出土している。主室の中央部の下層から, 428・432の皿が破片の状態で出土している。主室の西壁の下層から, 410・421の皿が斜位の状態で出土している。覆土からは, 419・421・426・431・433~443の皿, 444の内耳鍋がそれぞれ出土している。

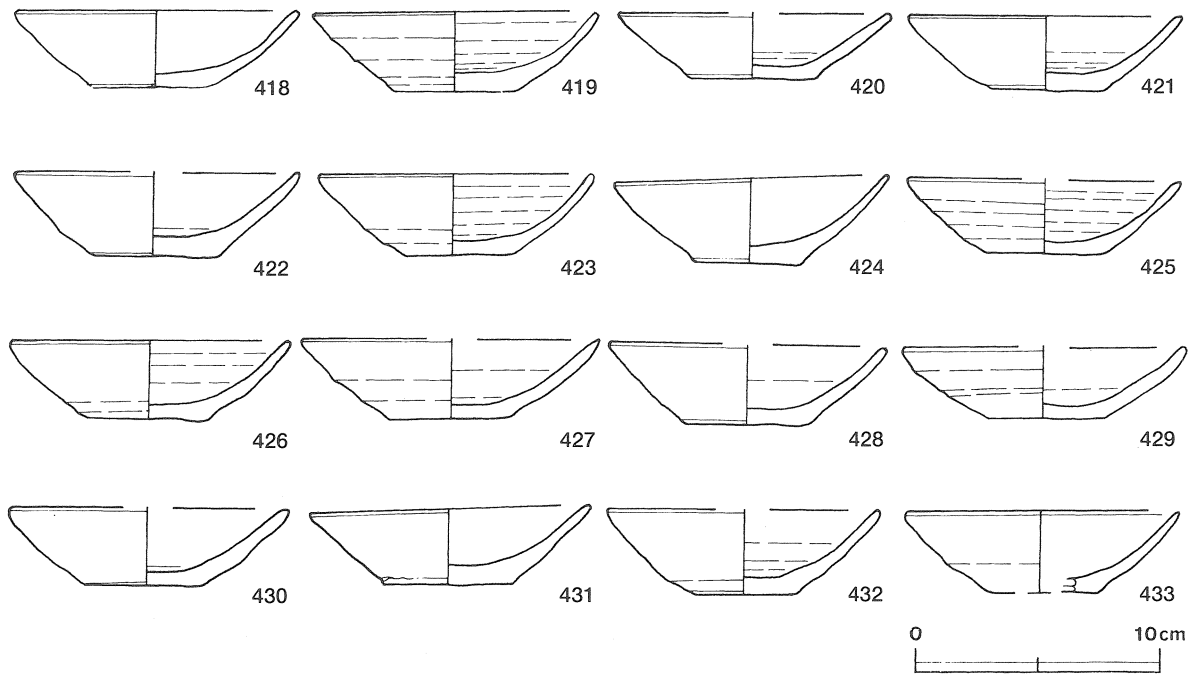
所見 土師質土器の皿が合計34枚出土している。当遺跡の地下式墳から多量の遺物が出土しているのは, 本跡のみである。時期は, 遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



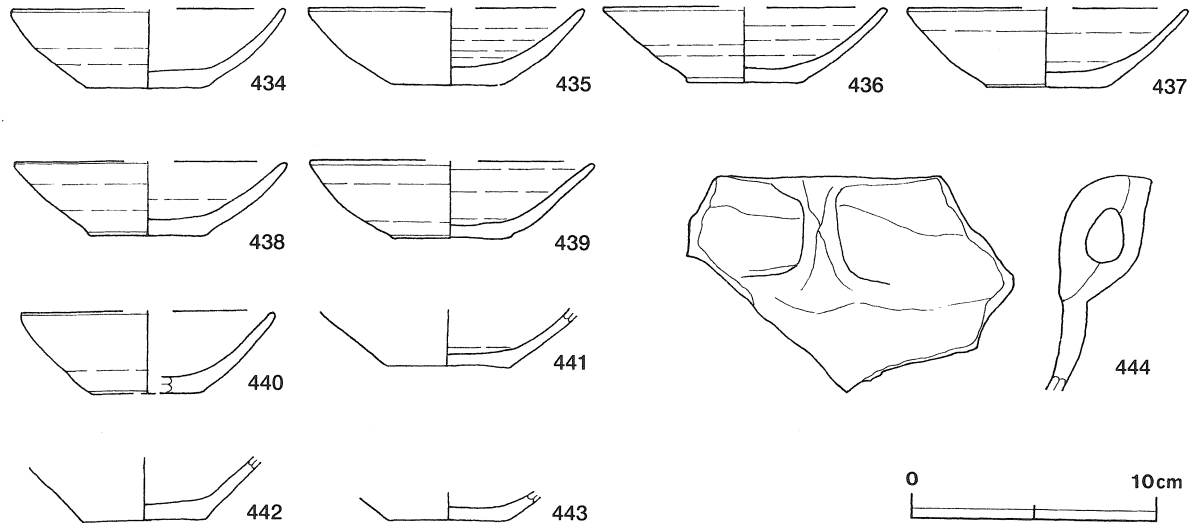
第214図 第6号地下式墳出土遺物実測図(1)



第215图 第6号地下式坑实测图



第216图 第6号地下式坑出土遗物实测图(2)



第217図 第6号地下式壙出土遺物実測図(3)

第6号地下式壙出土遺物観察表 (S K 429)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 410	皿 土師質土器	A 11.2	完形。やや突出した平底。体部は内 彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 浅黄橙色 普通	100% P L 29
		B 3.5				
		C 4.8				
411	皿 土師質土器	A 11.8	口縁部一部欠損。やや突出した平底。 体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 にぶい黄橙色 普通	90% P L 29
		B 3.3				
		C 4.8				
412	皿 土師質土器	A 11.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 針状鉱物 橙色 普通	90% P L 29
		B 3.0				
		C 4.6				
413	皿 土師質土器	A 11.3	口縁部一部欠損。やや突出した平底。 体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	90%
		B 3.1				
		C 5.0				
414	皿 土師質土器	A 11.6	口縁部一部欠損。やや突出した平底。 体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 針状鉱物 浅黄橙色 普通	90% P L 29
		B 3.5				
		C 4.8				
415	皿 土師質土器	A 11.2	口縁部一部欠損。やや突出した平底。 体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	90% P L 29
		B 3.2				
		C 4.8				
416	皿 土師質土器	A 11.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 浅黄橙色 普通	90%
		B 3.2				
		C 4.7				
417	皿 土師質土器	A 11.1	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	75%
		B 3.2				
		C 5.0				
第216図 418	皿 土師質土器	A 11.1	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	70%
		B 3.3				
		C 4.8				
419	皿 土師質土器	A 11.4	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄橙色 普通	70%
		B 3.3				
		C 4.7				
420	皿 土師質土器	A 11.0	底部から口縁部の破片。平底。体部 は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・雲母・針状 鉱物 橙色 普通	60%
		B 2.7				
		C 5.0				
421	皿 土師質土器	A 11.0	底部から口縁部の破片。やや突出し た平底。体部は内彎気味に外方に開 く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	60%
		B 3.5				
		C 4.2				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 216 図 422	Ⅲ 土師質土器	A [11.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	石英・雲母・針状 鉱物 にぶい橙色 普通	60%
		B 3.6				
		C 5.1				
423	Ⅲ 土師質土器	A 10.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	60%
		B 3.3				
		C 4.2				
424	Ⅲ 土師質土器	A 10.8	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	60%
		B 3.6				
		C 4.4				
425	Ⅲ 土師質土器	A [10.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・雲母・針状 鉱物 橙色 普通	55%
		B 3.1				
		C 4.5				
426	Ⅲ 土師質土器	A 11.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 浅黄橙色 普通	55%
		B 3.3				
		C 4.8				
427	Ⅲ 土師質土器	A [11.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	55%
		B 3.3				
		C 4.6				
428	Ⅲ 土師質土器	A [11.3]	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・針状 鉱物 橙色 普通	50%
		B 3.4				
		C 4.9				
429	Ⅲ 土師質土器	A [11.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・針状 鉱物 橙色 普通	45%
		B 2.9				
		C 4.7				
430	Ⅲ 土師質土器	A [11.0]	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・雲母・針状 鉱物 橙色 普通	30%
		B 3.2				
		C 4.6				
431	Ⅲ 土師質土器	A 11.2	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 にぶい黄橙色 普通	55%
		B 3.2				
		C 5.1				
432	Ⅲ 土師質土器	A [11.0]	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	45%
		B 3.5				
		C 4.2				
433	Ⅲ 土師質土器	A 11.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	45%
		B 3.4				
		C [ 4.4]				
第 217 図 434	Ⅲ 土師質土器	A [11.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・雲母・針状 鉱物 橙色 普通	45%
		B 3.4				
		C 4.6				
435	Ⅲ 土師質土器	A [11.1]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	45%
		B 3.2				
		C 4.2				
436	Ⅲ 土師質土器	A [11.6]	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 浅黄橙色 普通	35%
		B 3.2				
		C 4.7				
437	Ⅲ 土師質土器	A [11.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 浅黄橙色 普通	30%
		B 3.3				
		C 4.8				
438	Ⅲ 土師質土器	A [11.1]	底部から口縁部の破片。やや突出した平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	30%
		B 3.1				
		C 4.8				
439	Ⅲ 土師質土器	A [11.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 浅黄橙色 普通	30%
		B 3.2				
		C 4.6				
440	Ⅲ 土師質土器	A [10.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 白色粒子 浅黄橙色 普通	30%
		B 3.4				
		C [ 4.4]				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 441	皿 土師質土器	B(2.4) C 4.9	底部から体部の破片。平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・針状 鉍物 橙色 普通	30%
442	皿 土師質土器	B(2.6) C 4.9	底部から体部の破片。平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	石英・雲母・白色 粒子 橙色 普通	30%
443	皿 土師質土器	B(1.2) C 4.5	底部から体部の破片。平底。体部は外方に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 浅黄橙色 普通	20%
444	内耳鍋 土師質土器	B(8.8)	口縁部の破片。内耳1か所残存。耳貼り付け。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	5%

### 第7号地下式墳（SK481）（第218図）

**位置** 調査区の南東部，D4b3区。

**主軸方向** N-20°-W

**竪坑** 天井部は崩落しており，上面は長径1.43m，短径1.09mの楕円形と推定される。底面は径0.8mほどの円形である。底面は平坦で，確認面からの深さは1.65mである。主室の底面より49cm高い。

**主室** 底面は長軸4.76m，短軸1.24mの長方形で，長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で，確認面から底面までの深さは2.14mである。底面全体から，焼土とともに炭化したわら状のものと炭化材が検出されている。

**壁** 竪坑，主室ともにほぼ直立する。

**覆土** 26層からなる。11層は，ロームブロックを主体としていることから，天井部が崩落した土層と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子・白色粘土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	17 褐色	ローム大ブロック多量，ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18 褐色	ローム小ブロック多量
5 暗褐色	ローム粒子微量	19 黄褐色	鹿沼軽石粒子多量
6 褐色	ローム粒子少量	20 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量	21 暗褐色	炭化物・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	22 褐色	ローム中ブロック少量
9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	23 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
10 暗褐色	炭化粒子微量	24 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子微量
11 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量	25 暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量
12 暗褐色	ローム中ブロック微量	26 暗褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
13 暗褐色	ローム小ブロック微量		
14 褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム粒子少量		

**遺物** 第219図のM37は刀子で，覆土から出土している。

**所見** 主室の底面全体から，焼土とともに炭化したわら状のものと炭化材が検出された地下式墳は，本跡のみである。時期を判断できる遺物は出土していない。遺構の形態や，付近に中世の墓墳と思われる遺構が確認されていることから，中世と考えられる。

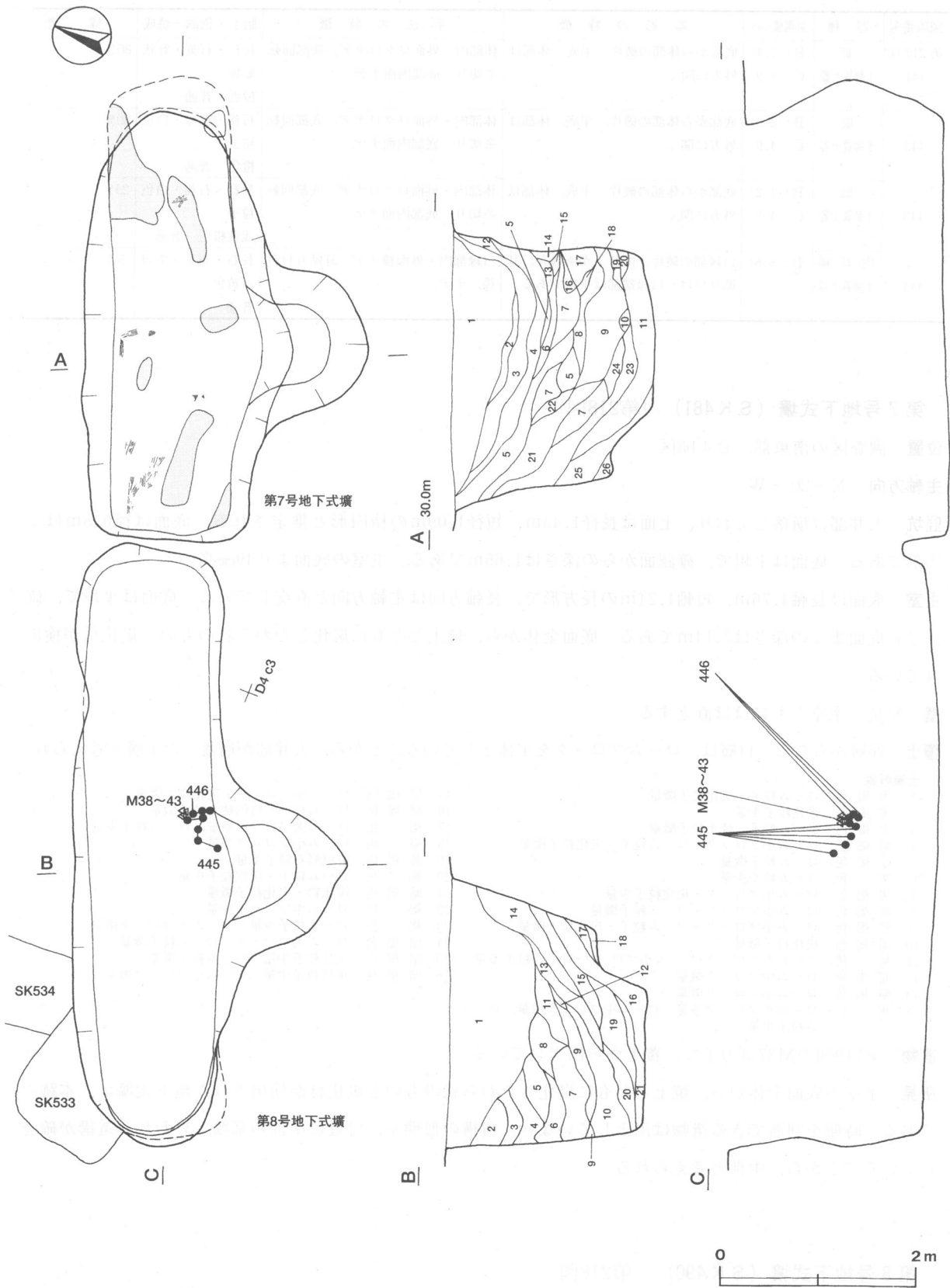
### 第8号地下式墳（SK490）（第218図）

**位置** 調査区の南東部，D4b2区。

**重複関係** 第533・534号土坑と重複している。

**主軸方向** N-22°-W

**竪坑** 天井部は崩落しており，上面は長径1.51m，短径1.25mの楕円形と推定される。底面は長径0.85m，短



第218図 第7・8号地下式墳実測図

径0.65mの楕円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは1.56mである。主室の底面より49cm高い。

**主室** 底面は長軸5.96m，短軸1.24mの長方形で，長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で，確認面からの深さは2.05mである。

**壁** 竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ直立する。

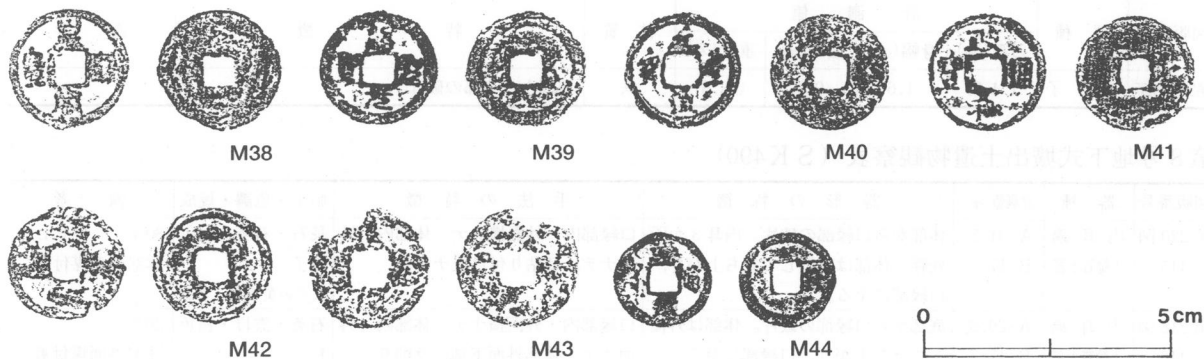
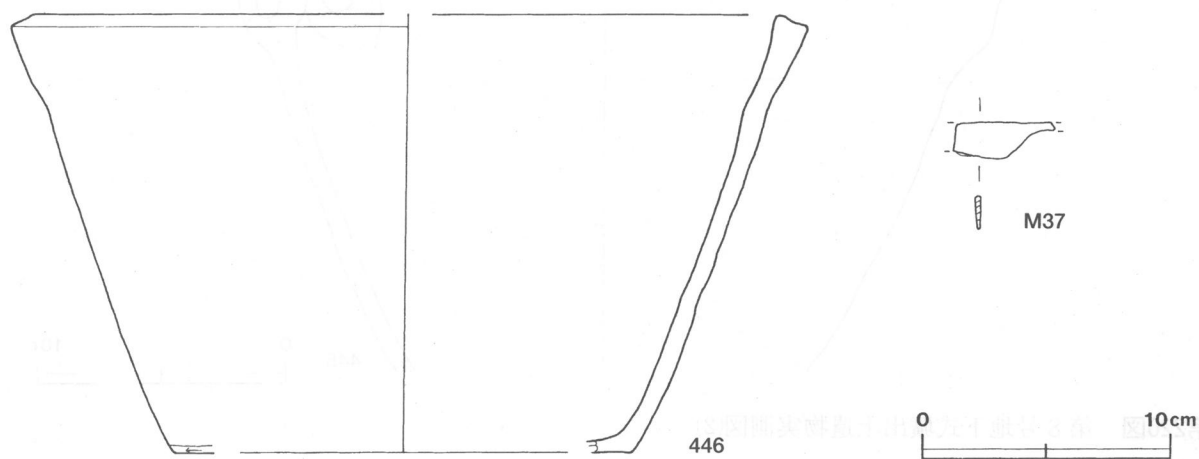
**覆土** 21層からなる。2～7・20・21層は，ロームブロック主体の天井部及び壁の崩落した土層と考えられる。

**土層解説**

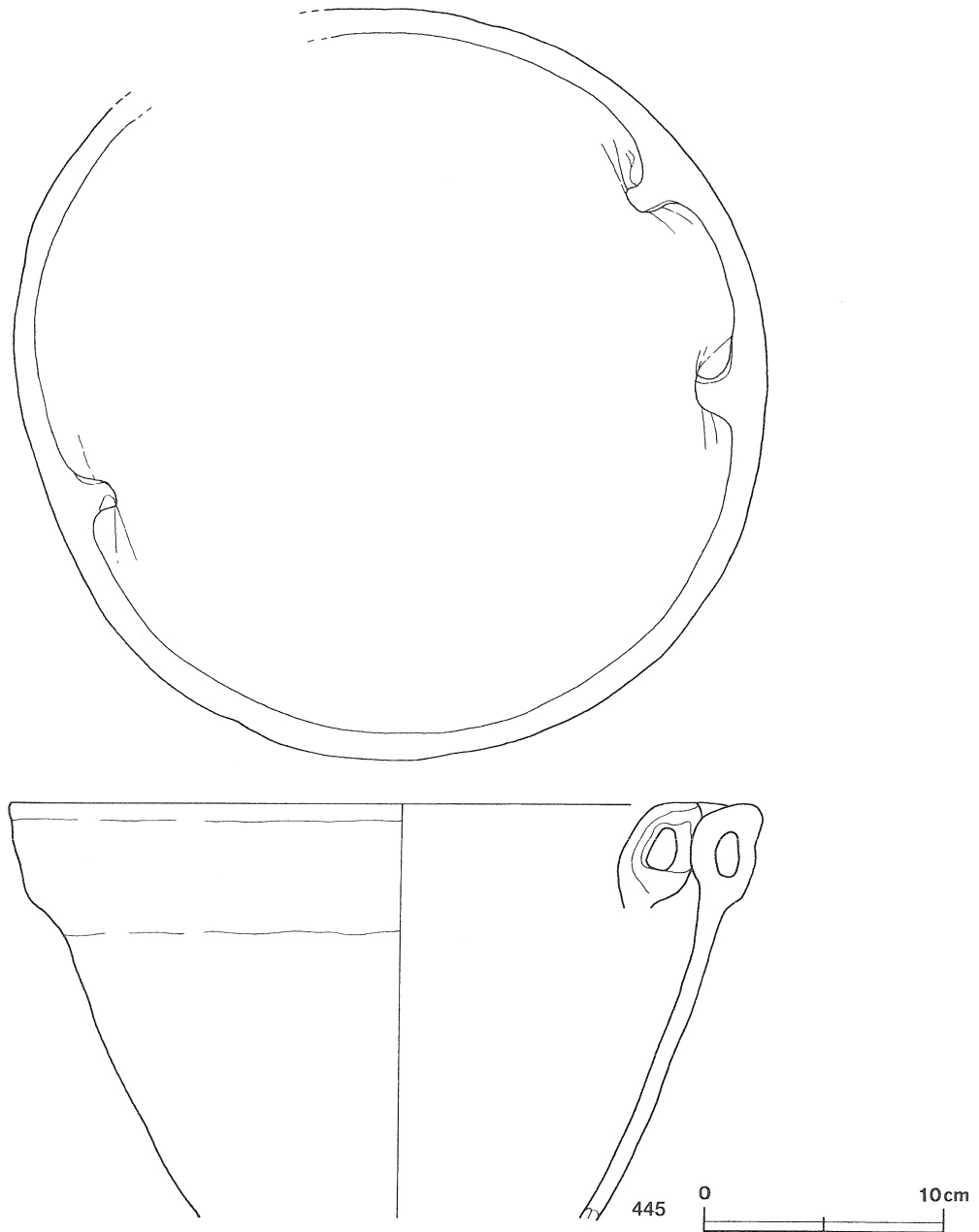
1 黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・小礫微量	12 暗褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量
2 褐色	ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量	13 黒褐色	ローム小ブロック微量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム中ブロック微量
4 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量	15 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
5 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量	16 黒褐色	ローム粒子微量
6 褐色	ローム粒子少量	17 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
7 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量	18 暗褐色	ローム大ブロック少量，ローム粒子微量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量	19 暗褐色	ローム小ブロック微量
9 暗褐色	炭化粒子微量	20 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
10 褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子少量	21 褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
11 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

**遺物** 第219・220図の445・446は土師質土器の内耳鍋，M38～M44は古銭である。主室の中央部の覆土中層から，445・446の内耳鍋は破片の状態で，M38～M43の古銭は貼り付いた状態で出土している。M44の古銭は，覆土から出土している。

**所見** 第7号地下式竈の西側に隣接し，2基の主室の長軸が，ほぼ直線に並んだ状態で検出された。どちらも主室は細長く，竪坑の底面は主室の底面から49cmほど高くなっている。時期は，遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第219図 第7・8号地下式竈出土遺物実測図(1)



第220図 第8号地下式壙出土遺物実測図(2)

第7号地下式壙出土遺物観察表 (S K 481)

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		刀身(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
第218図M37	刀子	(4.5)	1.6	0.2	(2.8)	鉄	刃部から茎部の破片。	

第8号地下式壙出土遺物観察表 (S K 490)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 445	内耳鍋 土師質土器	A 31.5 B (17.3)	体部から口縁部の破片。内耳3か所 残存。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・白色 粒子 にぶい黄橙色 普通	80% P L 29 体部外面煤付着
第218図 446	内耳鍋 土師質土器	A (29.8) B 17.7 C [18.3]	底部から口縁部の破片。体部は外傾 して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ、体部外面下端ヘラ削り。	石英・雲母・白色 粒子 にぶい褐色 普通	20% 体部外面煤付着



図版番号	銭種	計測値				初  鑄  年		備  考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時  代	西  暦	
鞆218図M38	皇宋通寶	2.5	0.2	0.6	4.3	北宋	1038年	P L 30
M39	熙寧元寶	2.4	0.2	0.6	4.0	北宋	1068年	
M40	元豐通寶	2.4	0.1	0.7	3.0	北宋	1178年	
M41	宣和通寶	2.5	0.2	0.6	3.6	北宋	1119年	
M42	〇〇〇〇	2.4	0.1	0.6	3.2	判読不明	不明	
M43	〇〇〇〇	2.5	0.1	0.7	3.2	判読不明	不明	
M44	洪武通寶	2.0	0.2	0.5	3.3	明	1368年	

### 第9号地下式塙 (S K 498) (第221図)

**位置** 調査区の南東部, C 4 i5区。

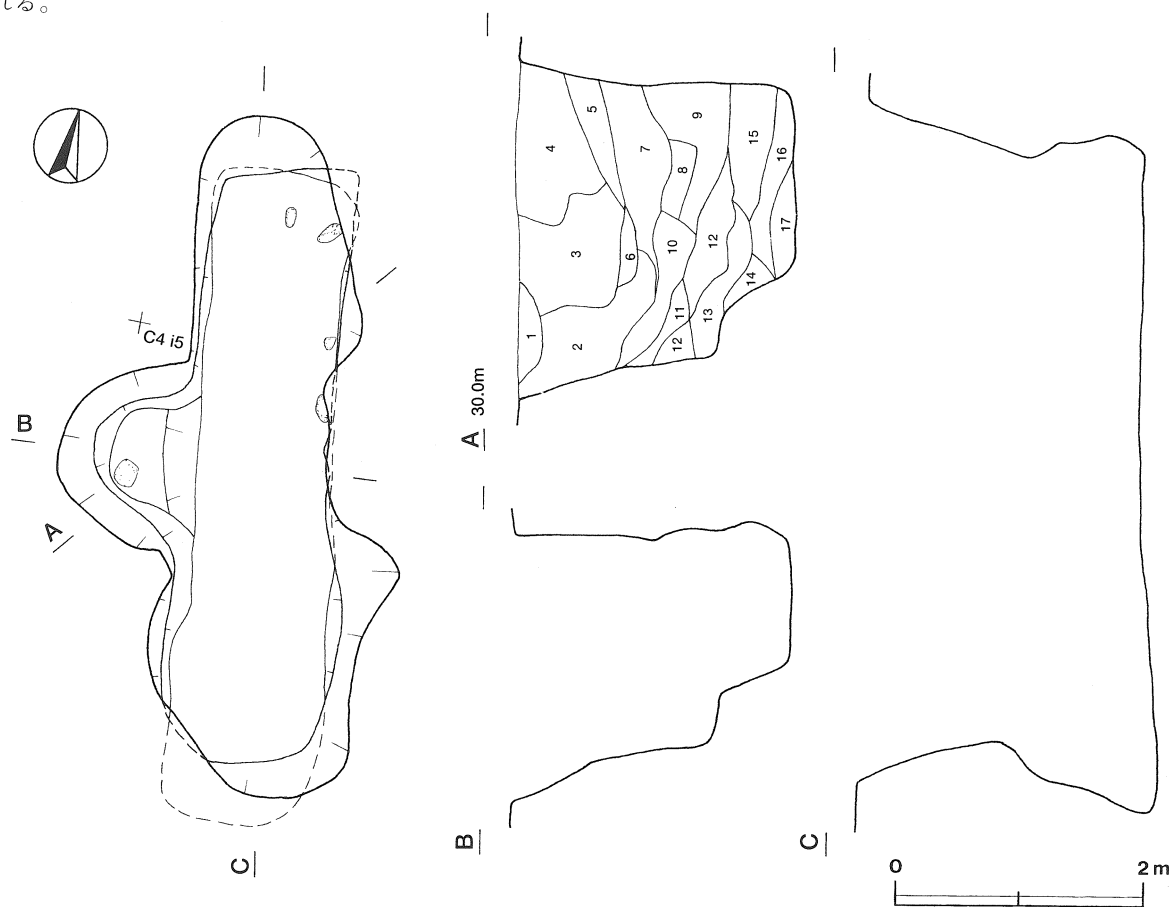
**主軸方向** N-62°-E

**竪坑** 天井部は崩落しており, 上面は長軸1.39m, 短軸1.12mの長方形と推定される。底面は長軸0.72m, 短軸0.64mの長方形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは1.65mである。主室の底面から60cm高い。

**主室** 底面は長軸5.32m, 短軸1.15mの長方形で, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.25mである。

**壁** 竪坑は, 外傾して立ち上がる。主室は, ほぼ直立する。

**覆土** 17層からなる。16・17層はロームブロックを主体としていることから, 天井部の崩落した土層と考えられる。



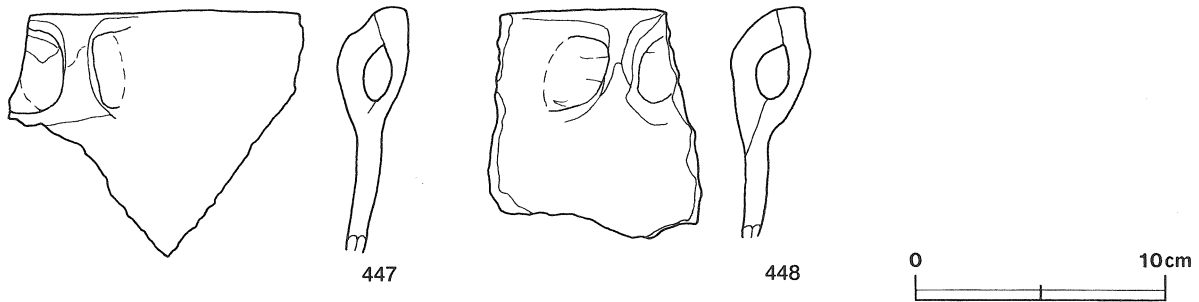
第221図 第9号地下式塙実測図

土層解説

- |       |                     |        |                              |
|-------|---------------------|--------|------------------------------|
| 1 褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子少量    | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量                   |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量    | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量          |
| 3 褐色  | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量        |
| 4 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 13 黒褐色 | ローム粒子少量                      |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量             |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック微量          | 15 褐色  | ローム中ブロック少量                   |
| 7 褐色  | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 16 褐色  | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 8 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量    | 17 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量    |
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |        |                              |

遺物 第222図の447・448は土師質土器の内耳鍋で、覆土から出土している。主室の底面の北東壁際から、長径30cm大の礫が5個、竪坑の底面から同様の礫が1個出土している。

所見 主軸の方向は異なるが、第7・8号地下式墳と同じ形状である。時期は、遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第222図 第9号地下式墳出土遺物実測図

第9号地下式墳出土遺物観察表 (S K 498)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第222図 447	内耳鍋 土師質土器	B(9.9)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は、平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色 粒子 橙色 普通	5%
448	内耳鍋 土師質土器	B(9.2)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は、平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後ナデ。	石英・雲母・白色 粒子 浅黄色 普通	5%

第10号地下式墳 (S K 516) (第223図)

位置 調査区の南東部, D 3 b0区。

主軸方向 N-10°-W

竪坑 上面は径1.8mほどの円形, 底面は長径0.78m, 短径0.58mの楕円形である。確認面からの深さは1.92mで、主室の底面より35cm高い。底面は、主室に向かって傾斜している。

主室 主室の天井部は、ほぼ完全に残っていた。底面は長軸3.13m, 短軸1.07mの長方形で、長軸方向は主軸方向と直交している。主室の横断面形は長方形で、主室の底面から天井までの高さは1.05mである。

壁 竪坑は、外傾して立ち上がる。主室は、ほぼ直立する。

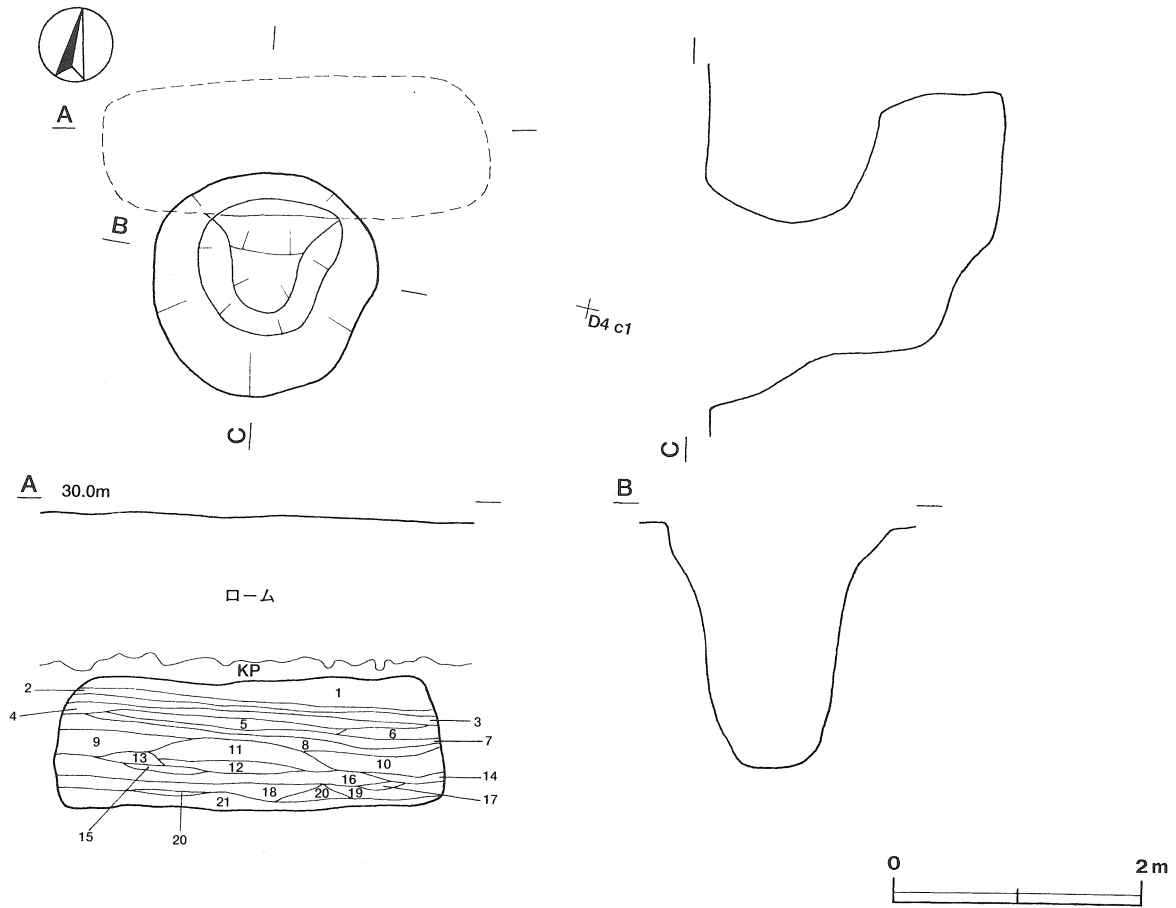
覆土 21層からなる。焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子が少量から微量含まれる土層が、重なり合うように堆積している。

土層解説

- |       |                       |       |                                   |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |       |                                   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          |       |                                   |

- |        |  |        |                                   |
|--------|--|--------|-----------------------------------|
| 5 黒褐色  | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量      | 14 黒褐色 | ローム粒子・炭化材・炭化粒子微量                  |
| 6 暗褐色  | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量          | 15 暗褐色 | ローム粒子少量                           |
| 7 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量         | 16 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量    |
| 8 黒褐色  | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量                    | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 9 褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼軽石粒子微量             | 18 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子微量                                | 19 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量              |
| 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量      |
| 12 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量               | 21 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量         |
| 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                       |        |                                   |

所見 出土遺物はなく, 時期は断定できない。遺構の形態や, 付近に中世の墓壙と思われる遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第223図 第10号地下式壙実測図

### 第11号地下式壙 (S K 557) (第224図)

位置 調査区の南東部, C 4 i1区。

主軸方向 N-110°-E

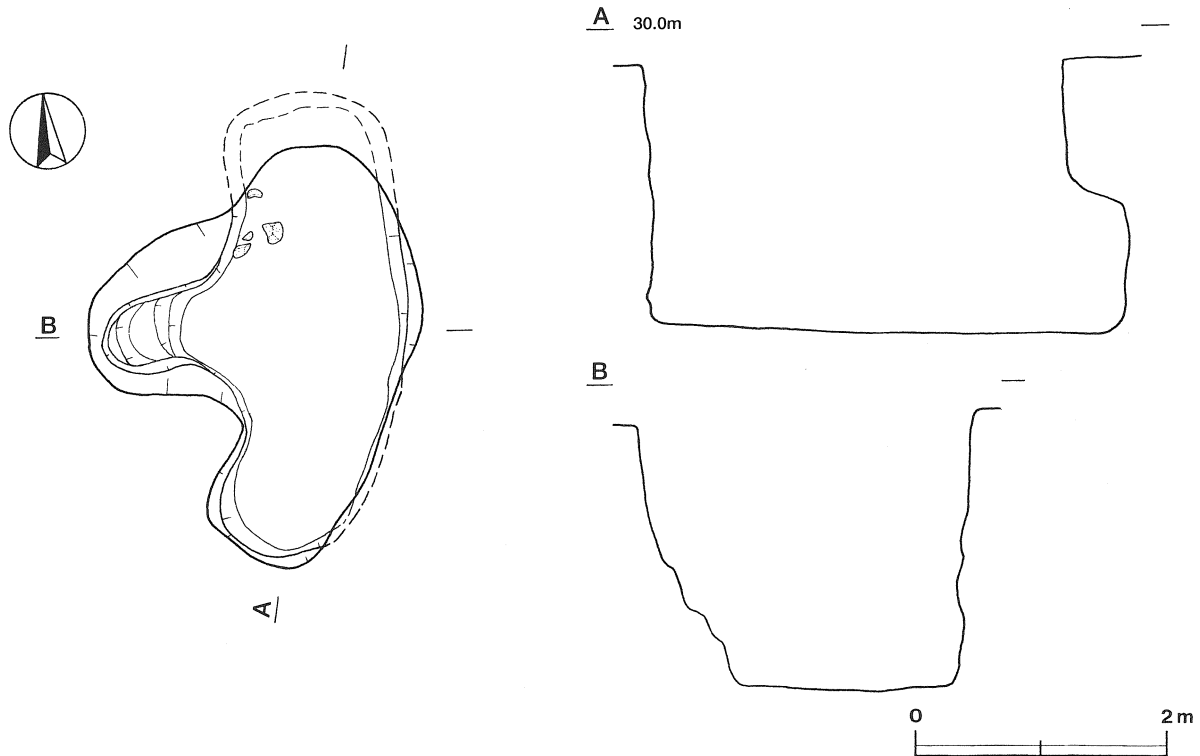
竪坑 天井部は崩落しており, 上面の形状は明確でない。西側の壁は, 中位に三つの段をもっている。底面は長軸0.58m, 短軸0.25mの長方形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.03mである。

主室 底面は長軸3.45m, 短軸1.05mの長方形で, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.08mである。

壁 竪坑は, やや外傾して立ち上がる。主室は, ほぼ直立する。

**遺物** 混入したとみられる縄文土器片 1 点，土師器片 2 点が出土している。主室の北西壁際の底面から，長径 20cm ほどの碟が 4 個出土している。

**所見** 時期を判断できる遺物は出土していない。遺構の形態や，付近に中世の墓墳と思われる遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第224図 第11号地下式墳実測図

**第12号地下式墳 (S K 614) (第225図)**

**位置** 調査区の南東部，C 3 i0区。

**重複関係** 崩落した天井部の上面を，第560～563号土坑に掘りこまれている。

**主軸方向** N-162°-E

**竪坑** 天井部は崩落しており，上面の形状は不明である。底面は長軸0.75m，短軸0.55mの長方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは1.15mである。主室の底面から80cm高い。

**主室** 底面は長軸4.4m，短軸1.82mの長方形で，長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で，確認面からの深さは1.95mである。

**壁** 竪坑，主室ともにほぼ直立する。

**覆土** 20層からなる。1～8層は，ローム土に鹿沼軽石粒子を含む層であることから，埋め戻された土層と思われる。20層は天井部の崩落した土層と考えられる。

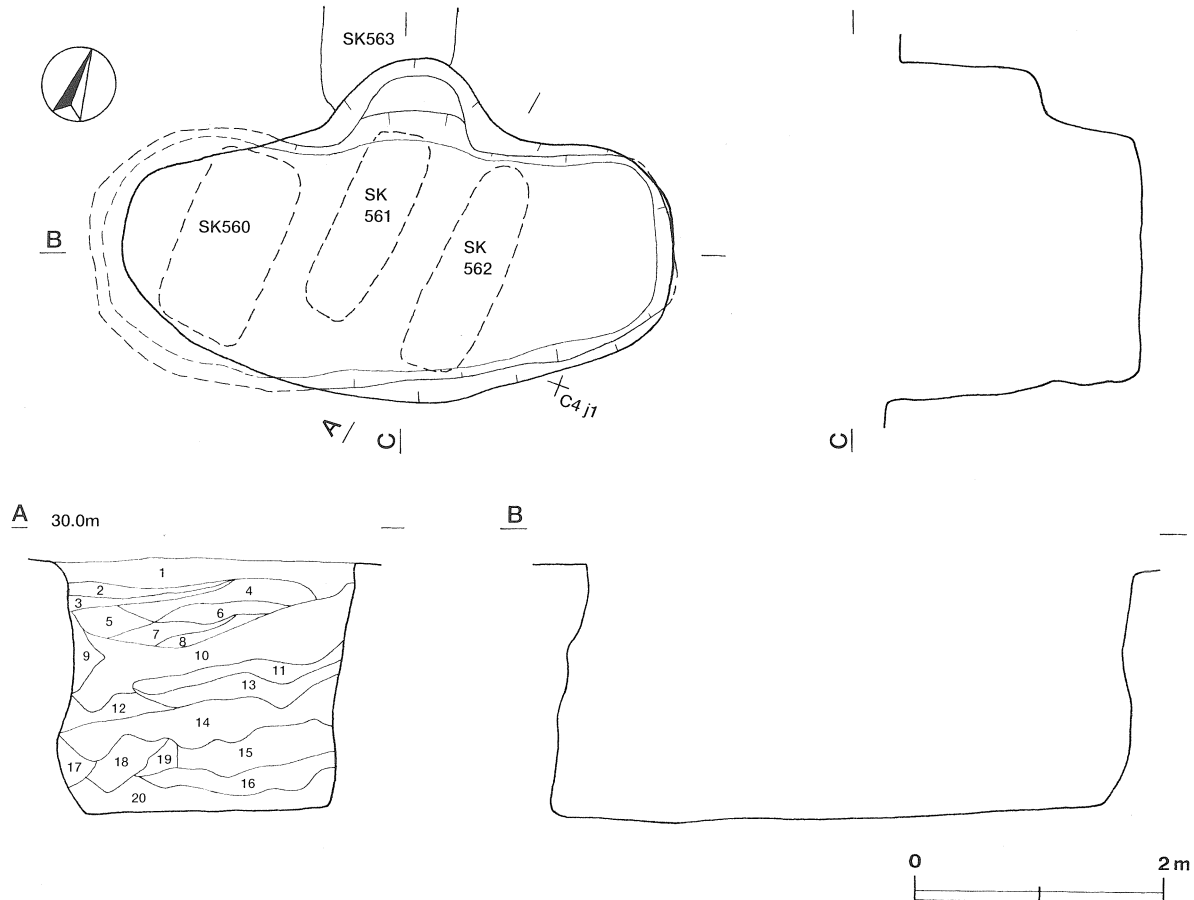
**土層解説**

1	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・鹿沼軽石粒子微量	5	褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少量，鹿沼軽石粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・鹿沼軽石粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，鹿沼軽石粒子微量
3	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・鹿沼軽石粒子微量	7	褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼軽石粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・鹿沼軽石粒子微量	8	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・鹿沼軽石粒子微量

- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 10 暗褐色 炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子中量
- 13 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 14 黒褐色 炭化粒子多量
- 15 暗褐色 炭化粒子中量

- 16 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 17 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 18 褐色 ローム粒子中量
- 19 暗褐色 炭化粒子微量
- 20 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

**所見** 出土遺物はなく, 時期は断定できない。遺構の形態や, 付近に中世の墓塚と思われる遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第225図 第12号地下式墳実測図

**第13号地下式墳 (SK718) (第226図)**

**位置** 調査区の南西部, D3j2区。

**重複関係** 第2号溝を掘りこんでいる。

**主軸方向** N-20°-W

**竪坑** 天井部は崩落しており, 上面は径1.4mほどの円形と推定される。底面は径0.95mほどの円形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.29mである。主室の底面から31cm高い。

**主室** 底面は長軸3.65m, 短軸1.48mの長方形で, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面からの深さは2.6mである。

**壁** 竪坑, 主室ともにやや外傾して立ち上がる。

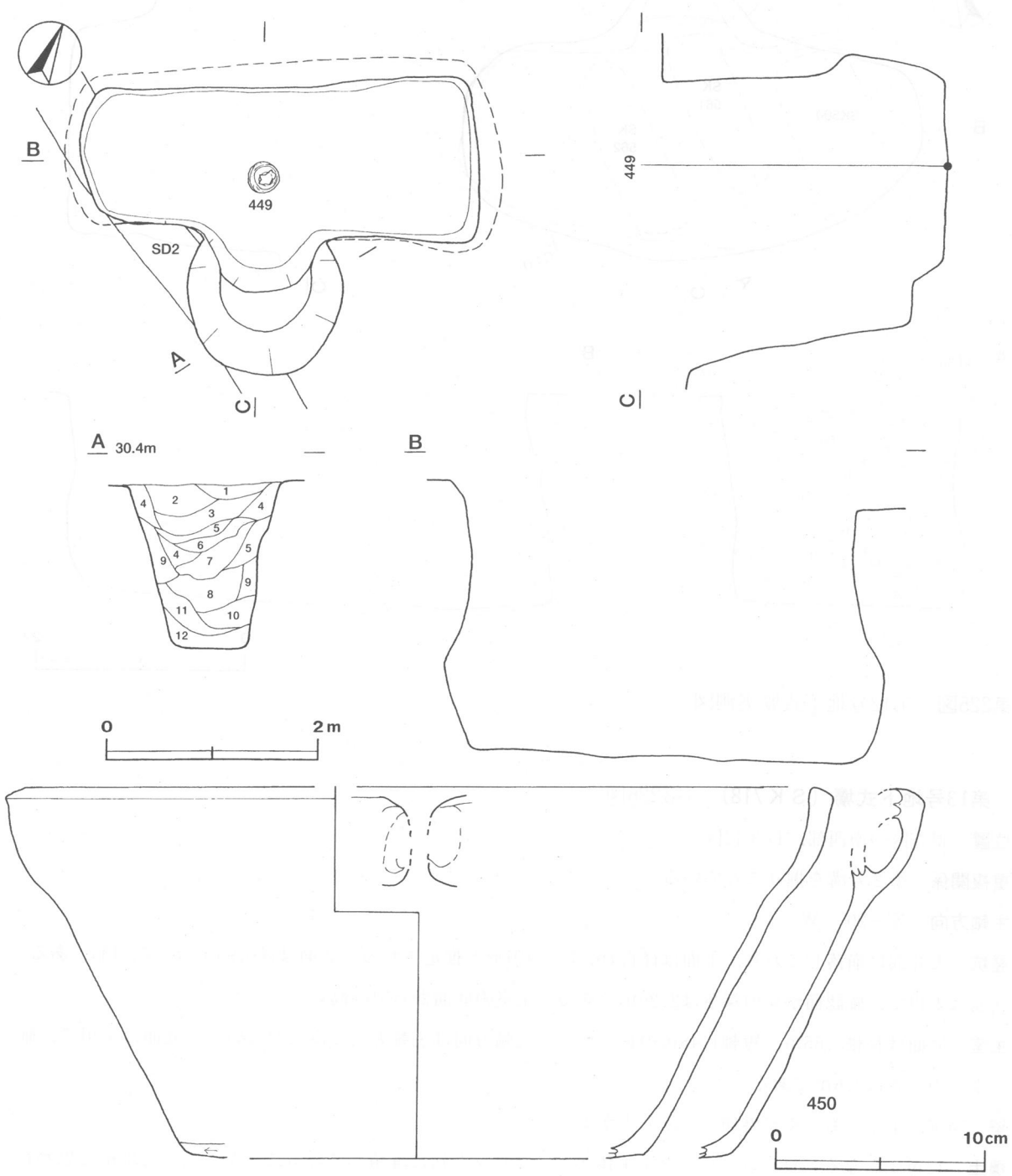
**覆土** 12層からなる。ロームブロックを主体とし, ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

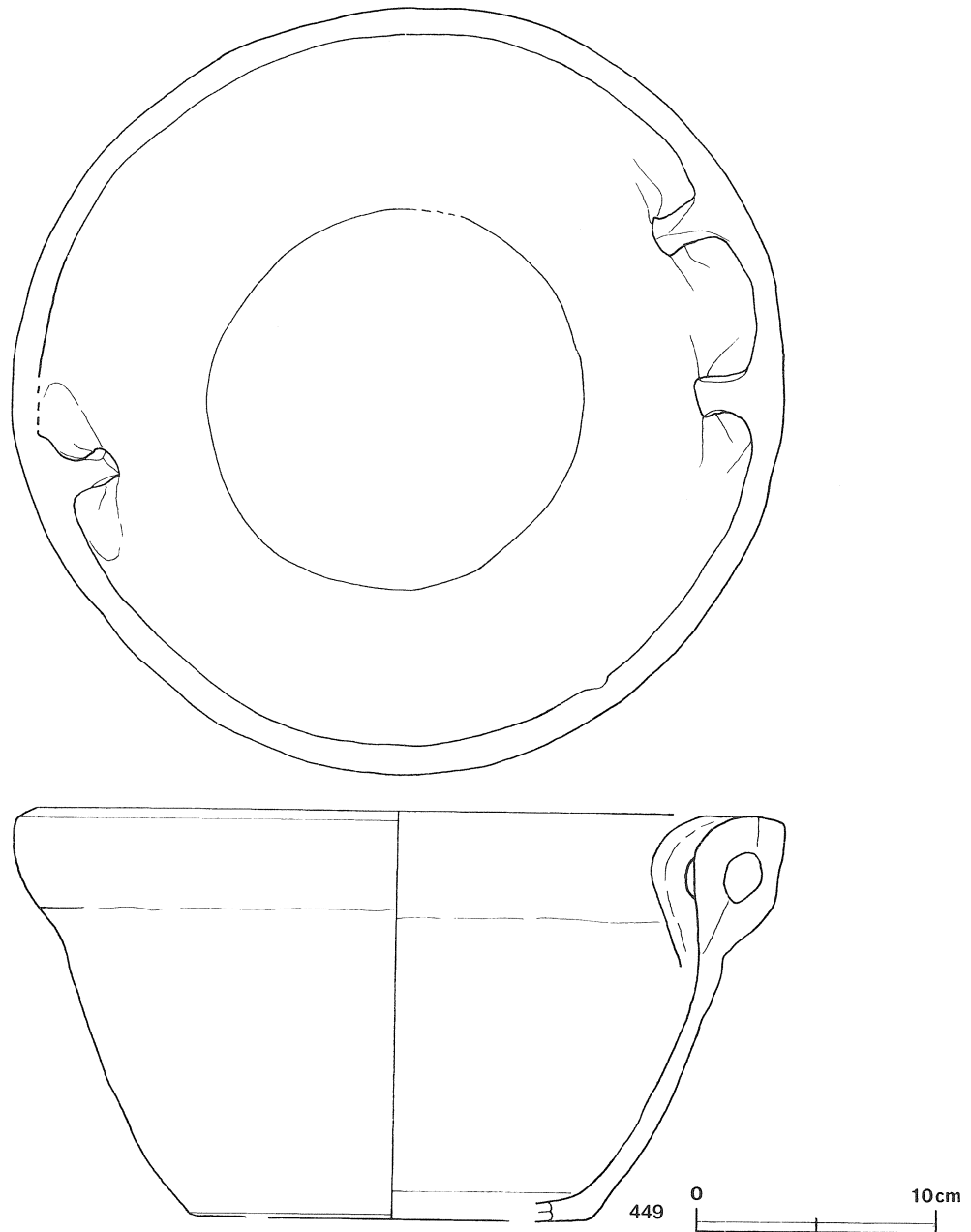
- |       |                              |        |                              |
|-------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量          | 7 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量             |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量          | 8 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量             |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 9 黒褐色  | ローム粒子微量                      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量          | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量           |
| 5 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼軽石粒子少量   | 11 暗褐色 | ローム粒子中量                      |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量                      | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |

遺物 第226・227図の449・450は土師質土器である。449の内耳鍋は、主室中央部の底面から逆位の状態で出土している。内耳鍋の外面には煤が付着し、底部は欠損している。450の内耳鍋は、覆土から出土している。

所見 主室の底面から、内耳鍋が逆位の状態で出土している。内耳鍋の下及び周囲を丁寧に掘り下げたが、人骨は確認できなかった。時期は、遺構の形態や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第226図 第13号地下式墳・出土遺物実測図(1)



第227図 第13号地下式壙出土遺物実測図(2)

第13号地下式壙出土遺物観察表 (S K 718)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 449	内耳鍋 土師質土器	A 30.0 B 17.0 C 15.9	底部一部欠損。平底。内耳3か所残存。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・雲母・白色粒子 橙色 普通	90% P L 29 内面煤付着
第226図 450	内耳鍋 土師質土器	A [37.4] B 17.9 C [18.4]	底部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、体部外面下端ヘラ削り。	石英・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	20% 外面煤付着

第14号地下式墳 (SK748) (第228図)

位置 調査区の南西部, D3j1区。

重複関係 第747号土坑を掘り込み, 崩落した天井部の北西側上面を, 第749号土坑に掘り込まれている。

主軸方向 N-16°-W

竪坑 天井部は崩落しており, 上面の形状は不明である。底面は長軸0.55m, 短軸0.45mの長方形である。確認面からの深さは1.83mで, 底面は主室に向かってわずかに傾斜している。

主室 底面は長軸3.52m, 短軸1.69mの長方形で, 長軸方向は主軸方向と直交している。底面は平坦で, 確認面からの深さは1.91mである。

壁 竪坑, 主室ともにほぼ直立する。

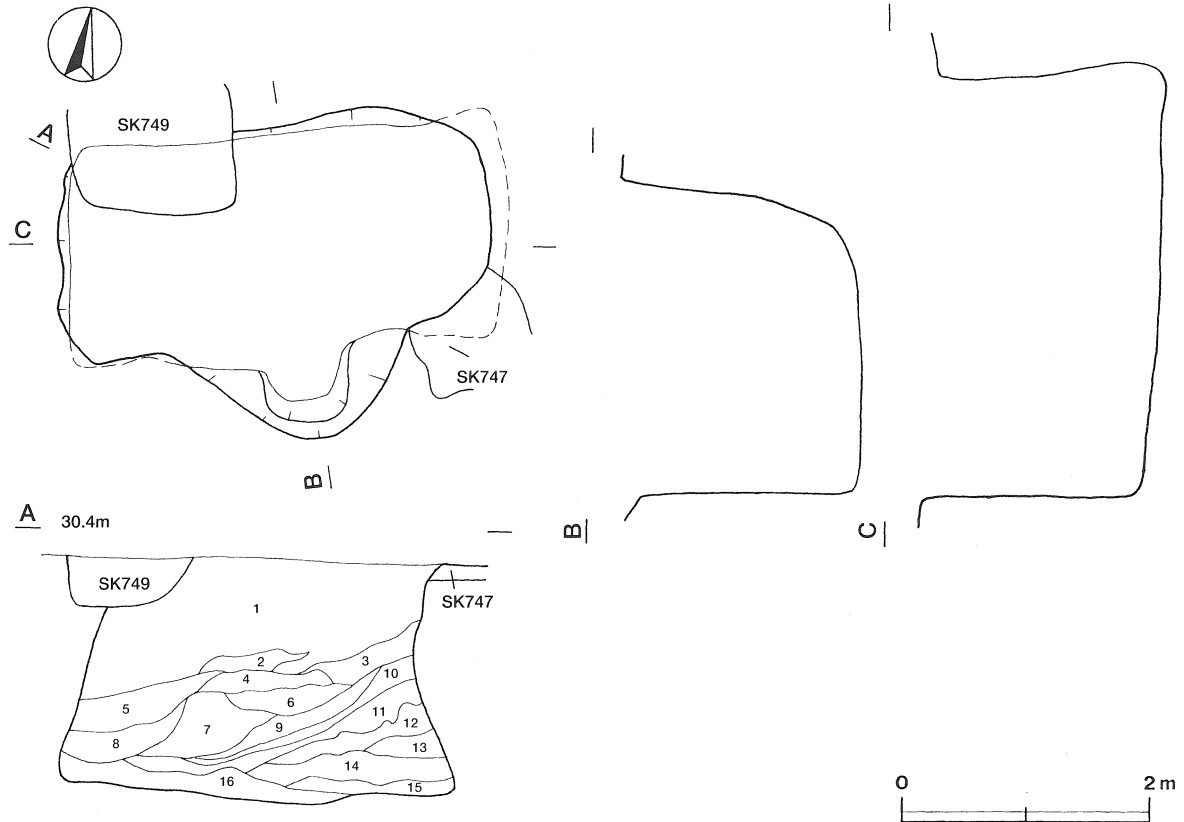
覆土 16層からなる。1・2層はロームブロックと鹿沼軽石粒子を含む層で, 埋め戻された土層と思われる。16層は, ロームブロックを主体としていることから, 天井部が崩落した土層と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・鹿沼軽石粒子少量	8 暗褐色	ローム中ブロック少量
2 褐色	ローム中ブロック・鹿沼軽石粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	9 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	11 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
5 暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム小ブロック少量
6 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	13 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	14 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
		15 暗褐色	ローム小ブロック中量
		16 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

遺物 混入したとみられる須恵器片1点が出土したのみである。

所見 時期を判断できる遺物は出土していない。遺構の形態や, 付近に中世の墓塚と思われる遺構が確認されていることから中世と考えられる。



第228図 第14号地下式墳実測図



(6) 火葬施設

第1号火葬施設 (S K 109) (第229図)

位置 調査区の南部, D 4 f2区。

重複関係 第2号火葬施設を掘り込み, P1に掘り込まれている。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は, 主軸と直交する長軸117cm, 短軸40cmの隅丸長方形で, 深さ13~18cmである。断面は逆台形で, 壁面は外傾して立ち上がる。開口部は主軸と平行する長軸93cm, 短軸59cmの隅丸長方形で, 深さ5cmである。断面は逆台形で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ中央に位置する通気溝は, 主軸と平行し, 長さは84cmと推定され, 上幅35cm, 下幅26cm, 深さ31cmである。断面はU字状を呈する。P1は, 径35cmの円形で, 深さ33cmである。覆土の状況から本跡とは伴わない。

主軸方向 N-61°-E

底面 開口部から燃焼部にかけて, 緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は凹凸で, 火熱を受けて赤変している。

覆土 10層からなる。焼土粒子, 炭化粒子, 骨片等を含む層である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	6 極暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 骨粉微量
2 黒色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	7 黒色	炭化物中量, 炭化粒子・骨粉少量, ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	8 黒褐色	炭化物・炭化粒子少量, ローム粒子・骨粉微量
4 極暗褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量	9 黒褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子微量
5 黒色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・骨粉微量	10 黒色	ローム粒子微量

遺物 覆土上層から中層にかけて, 骨粉及び炭化物の層がみられる。燃焼部の底面から, 骨片及び炭化材が出土している。

所見 燃焼部と通気溝から, 骨片, 炭化材及び焼土が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。

第2号火葬施設 (S K 106) (第229図)

位置 調査区の南部, D 4 f3区。

重複関係 第1号火葬施設と, P2にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は, 主軸と直交する長軸109cm, 短軸48cmの隅丸長方形で, 深さ13cmである。断面は逆台形で, 壁面は外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ中央に位置する通気溝は, 主軸と平行し, 長さは118cmと推定され, 上幅41cm, 下幅22cm, 深さ28cmである。断面はU字状を呈する。P2は, 長径40cm, 短径33cmの楕円形で, 深さ45cmである。覆土の状況から本跡とは伴わない。

主軸方向 N-63°-W

底面 通気溝から燃焼部にかけて, 緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は凹凸で, 壁際近くは火熱を受けて赤変している。

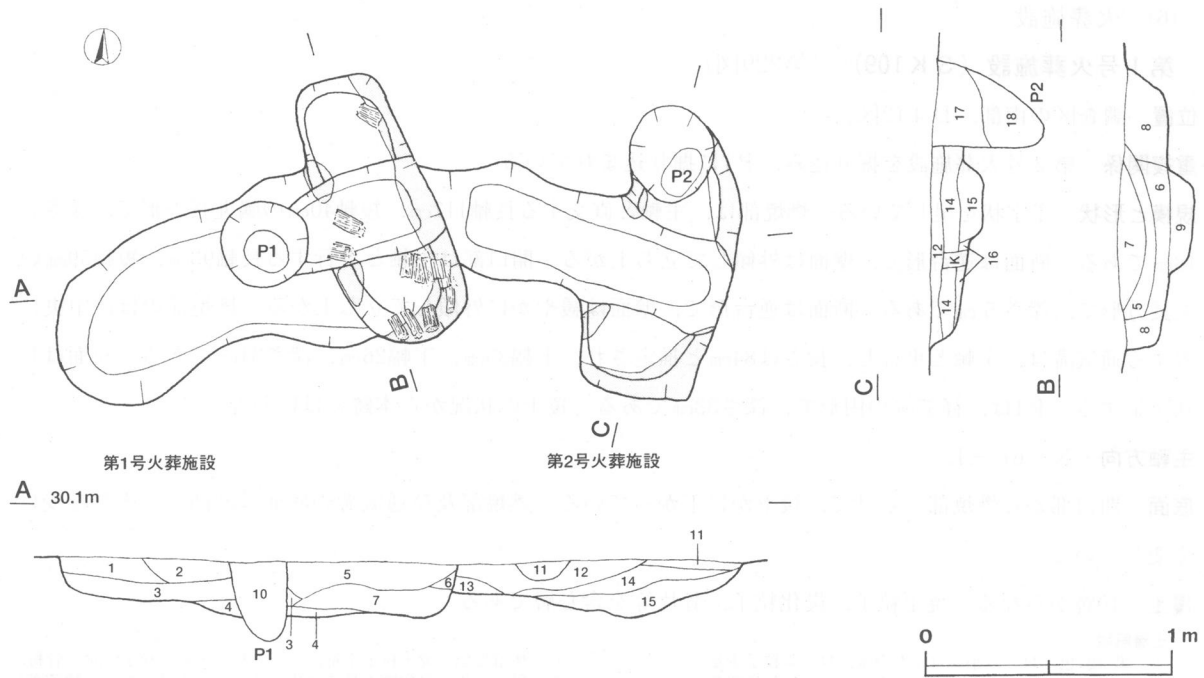
覆土 8層からなる。焼土粒子, 炭化粒子, 骨粉及び骨片等を含む層である。

土層解説

11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	15 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 骨粉微量
12 黒色	炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子・骨粉微量	16 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
13 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	17 黒色	ローム粒子微量
14 黒色	炭化物・炭化粒子少量, ローム粒子・骨片微量	18 黒色	ローム粒子少量

遺物 覆土上層から下層にかけて, 骨粉, 骨片及び炭化物が, 燃焼部の底面から, 炭化材が出土している。

所見 燃焼部と通気溝から, 骨片, 炭化材及び焼土が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。



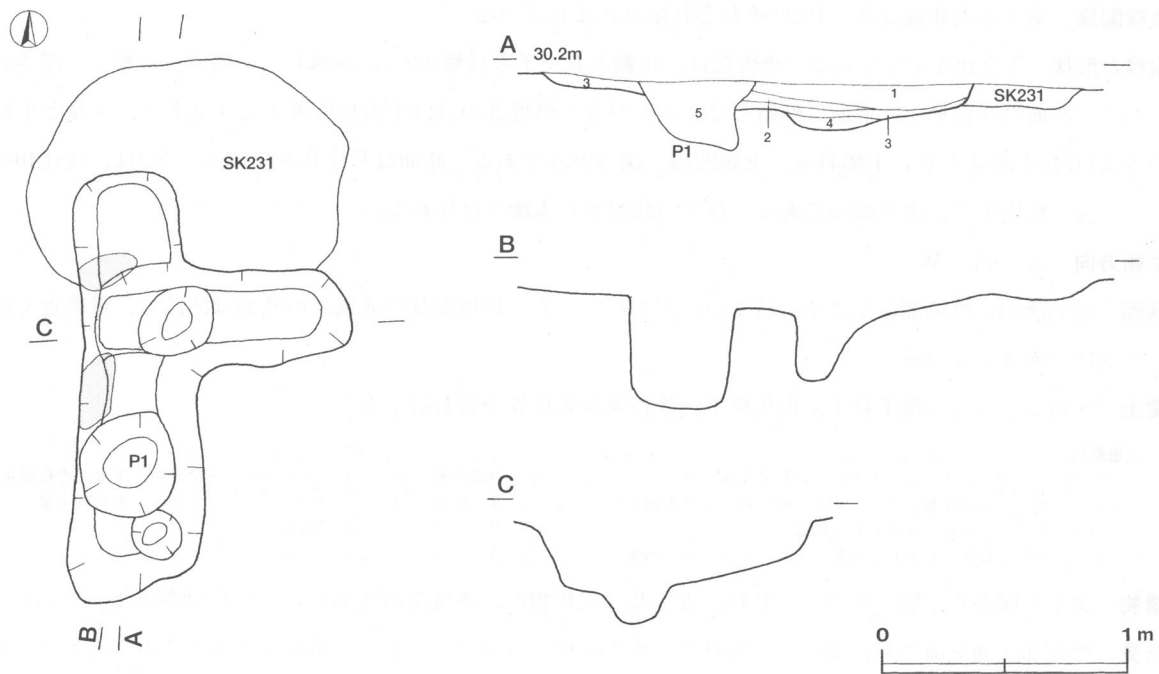
第229図 第1・2号火葬施設実測図

第3号火葬施設 (SK157) (第230図)

位置 調査区の西部, D1j6区。

重複関係 第231号土坑を掘り込み, P1に掘り込まれている。

規模と形状 T字状を呈している。燃烧部は, 主軸と直交する長軸173cm, 短軸50cmの隅丸長方形で, 深さ5cmである。断面は逆台形で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃烧部のやや北側に位置する通気溝は, 主軸と平行し, 長さ110cm, 上幅40cm, 下幅28cm, 深さ11~23cmである。断面はU字状を呈する。P1は, 径38cmの



第230図 第3号火葬施設実測図

円形で、深さ29cmである。覆土の状況から本跡とは伴わない。

主軸方向 N-90°-E

底面 通気溝から燃焼部にかけて、緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は凹凸で、通気溝近くの壁際は火熱を受けて赤変している。

覆土 5層からなる。焼土粒子、炭化粒子及び骨片等を含む層である。

土層解説

- |      |                              |       |                      |
|------|------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨片微量         | 4 黒色  | 炭化物・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・骨片微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量         |
| 3 黒色 | 炭化物中量、炭化粒子・焼土粒子・骨片少量、ローム粒子微量 |       |                      |

遺物 覆土上層から底面にかけて、骨粉、骨片及び炭化物の層がみられる。

所見 骨片、炭化材及び焼土が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。

第4号火葬施設 (SK173) (第231図)

位置 調査区の西部、C1b7区。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は、主軸と直交する長軸174cm、短軸58cmの隅丸長方形で、深さ33cmである。断面は逆台形で、壁面は外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ126cm、上幅31cm、下幅13cm、深さ21~45cmである。断面はU字状を呈している。

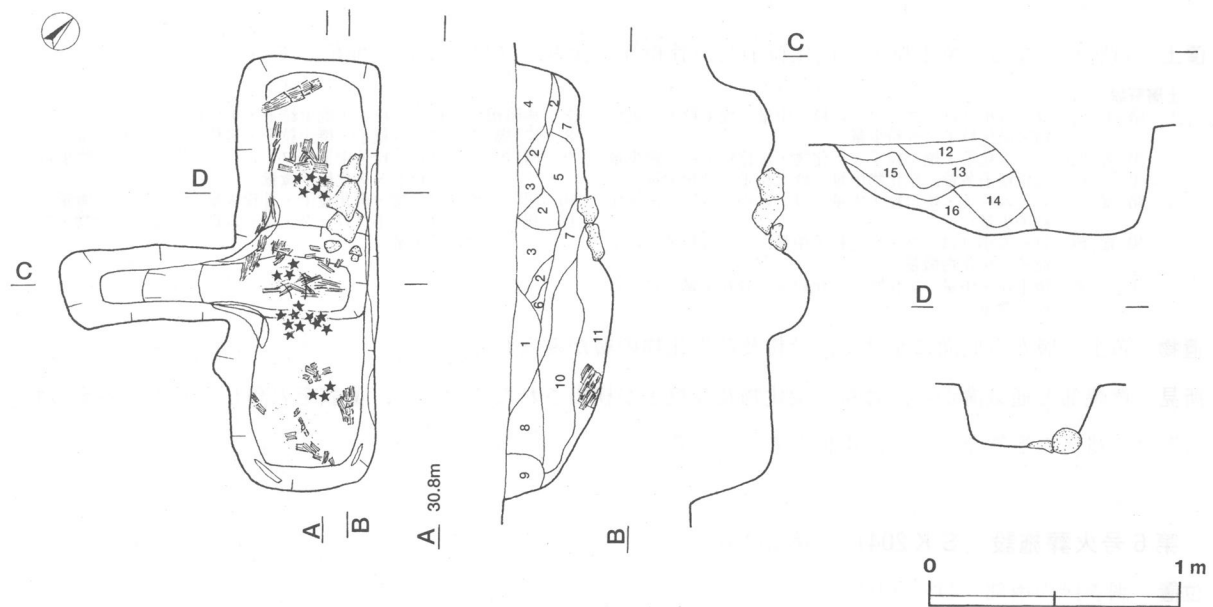
主軸方向 N-35°-W

底面 通気溝から燃焼部にかけて、緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は凹凸で、火熱を受けて赤変している。

覆土 16層からなる。焼土粒子、炭化粒子及び骨粉等を含み、ブロック状に堆積している。

土層解説

- |        |                    |      |                             |
|--------|--------------------|------|-----------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量   | 6 黒色 | ローム粒子中量                     |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量 | 8 黒色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |      |                             |
| 5 黒色   | 炭化粒子多量、炭化物中量、炭化材少量 |      |                             |



第231図 第4号火葬施設実測図

- |        |                              |        |                                   |
|--------|------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 9 暗褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量         | 13 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量       |
| 10 黒色  | 炭化物・炭化粒子中量, 炭化材・骨粉少量         | 14 黒色  | 炭化物・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化材微量 |
| 11 黒色  | 炭化材・炭化物・炭化粒子中量, 骨粉少量, 焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                  |
| 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量          |

**遺物** 覆土上層から底面にかけて, 骨粉, 骨片及び炭化物の層がみられる。焼土部の底面から, 多量の炭化材, 火熱によって割れたと思われる礫が出土している。礫は, 底面に据え置かれた状態で確認されている。

**所見** 今回検出された火葬施設の中で, 最も規模が大きい。検出された炭化材は, 縦長の繊維に節が確認できたことから竹とみられる。焼土部と通気溝から, 骨粉, 骨片, 炭化材, 焼土及び礫が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。

### 第5号火葬施設 (SK 203) (第232図)

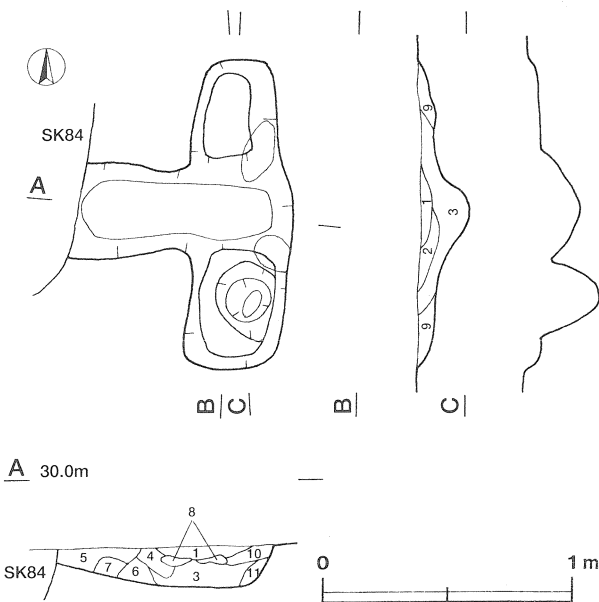
**位置** 調査区の南部, D 4 c2区。

**重複関係** 第84号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** T字状を呈している。焼土部は, 主軸と直交する長軸125cm, 短軸49cmの隅丸長方形で, 深さ4cmである。断面は逆台形で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。焼土部のほぼ中央に位置する通気溝は, 主軸と平行し, 長さは推定で87cm, 上幅40cm, 下幅22cm, 深さ4~14cmである。断面はU字状を呈している。

**主軸方向** N-88°-W

**底面** 通気溝から焼土部にかけて, 緩やかに下がっている。焼土部及び通気溝の底面は凹凸で, 通気溝近くの壁際は火熱を受けて赤変している。



第232図 第5号火葬施設実測図

**覆土** 11層からなる。焼土粒子, 炭化粒子及び骨粉等を含み, ブロック状に堆積している。

#### 土層解説

- |       |                                      |        |                                      |
|-------|--------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・骨粉少量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量                    |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・骨粉少量             | 8 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量                 |
| 3 黒色  | 炭化粒子多量, 炭化物中量, 焼土粒子・骨粉少量             | 9 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量        | 10 黒色  | 炭化物・炭化粒子・骨粉少量, ローム粒子微量               |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量    | 11 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量         |
| 6 黒色  | 焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子・骨粉少量, ローム粒子微量       |        |                                      |

**遺物** 覆土上層から底面にかけて, 骨粉及び炭化物の層がみられる。

**所見** 焼土部と通気溝から, 骨粉, 炭化物及び焼土が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。

### 第6号火葬施設 (SK 204) (第233図)

**位置** 調査区の南部, D 4 b6区。

**規模と形状** T字状を呈している。焼土部は, 主軸と直交する長軸134cm, 短軸43cmの隅丸長方形で, 深さ10cm

である。断面は逆台形で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ76cm、上幅34cm、下幅21cm、深さ11~18cmである。断面はU字状を呈す。

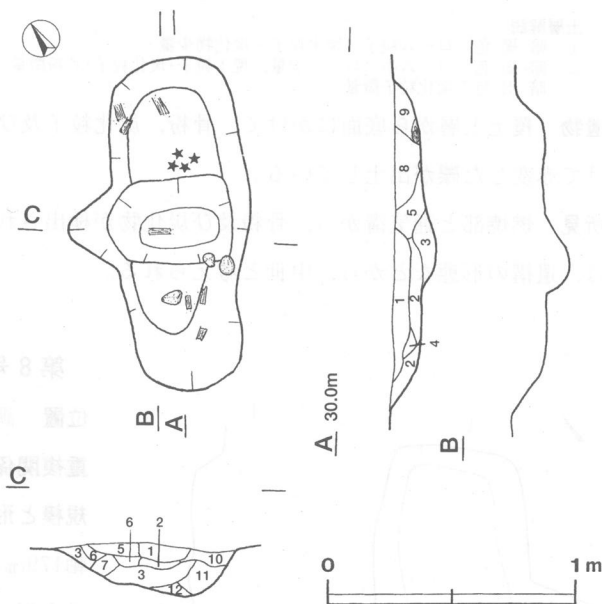
**主軸方向** N-64°-W

**底面** 通気溝から燃烧部にかけて、緩やかに下がっている。燃烧部及び通気溝の底面は凹凸である。

**覆土** 12層からなる。焼土粒子、炭化粒子及び骨粉等を含み、ブロック状に堆積している。

**土層解説**

- |    |        |                               |
|----|--------|-------------------------------|
| 1  | 黒色     | 炭化物・炭化粒子少量                    |
| 2  | 黒色     | 炭化粒子中量、炭化物少量・ローム小ブロック・骨片・骨粉微量 |
| 3  | 黒色     | 炭化物・炭化粒子中量、焼土粒子少量、骨粉微量        |
| 4  | 極暗褐色   | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量       |
| 5  | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子・骨片少量         |
| 6  | 黒色     | 焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量                |
| 7  | 暗赤褐色   | 焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物少量、ローム粒子・骨粉微量  |
| 8  | 黒褐色    | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子・骨片・骨粉少量     |
| 9  | 暗褐色    | 焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量、ローム粒子少量       |
| 10 | 極暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量         |



第233図 第6号火葬施設実測図

- |    |     |                            |
|----|-----|----------------------------|
| 11 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量         |

**遺物** 覆土上層から底面にかけて、骨片・骨粉及び炭化物の層がみられる。燃烧部と通気溝の底面から、骨片及び炭化材が出土している。

**所見** 燃烧部と通気溝から、骨片及び炭化物が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。

**第7号火葬施設 (SK636) (第234図)**

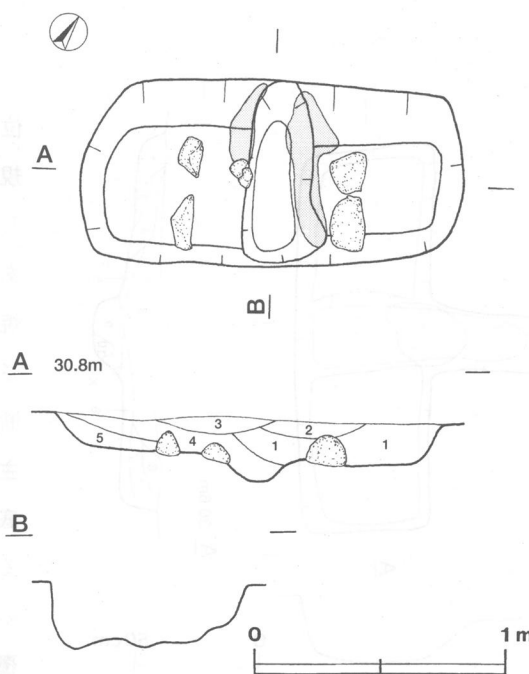
**位置** 調査区の南西部、E3 e3区。

**規模と形状** T字状を呈している。燃烧部は主軸と直交し、長軸154cm、短軸72cmの隅丸長方形で、深さ12~15cmである。断面は逆台形で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ78cm、上幅25cm、下幅14cm、深さ19~28cmである。断面はU字状を呈している。

**主軸方向** N-23°-W

**底面** 通気溝から燃烧部にかけて、緩やかに下がっている。燃烧部及び通気溝の底面はほぼ平坦で、通気溝近くの壁際は火熱を受けて赤変している。

**覆土** 5層からなる。炭化物、炭化粒子及び骨粉等を含み、ブロック状に堆積している。



第234図 第7号火葬施設実測図

土層解説

- |       |                            |       |              |
|-------|----------------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量           | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, 骨粉微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量      |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子微量                     |       |              |

**遺物** 覆土上層から底面にかけて、骨粉、炭化粒子及び炭化物の層がみられる。燃烧部の底面から、火熱を受けて赤変した礫が出土している。

**所見** 燃烧部と通気溝から、骨粉及び炭化物が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。

第8号火葬施設 (SK714) (第235図)

**位置** 調査区の南西部, E3d4区。

**重複関係** 第49号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** T字状を呈している。燃烧部は主軸と直交し、長軸179cm, 短軸63cmの隅丸長方形で、深さ10cmである。断面は逆台形で、壁面は外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ94cm, 上幅24cm, 下幅8cm, 深さ18cmである。断面はU字状を呈している。

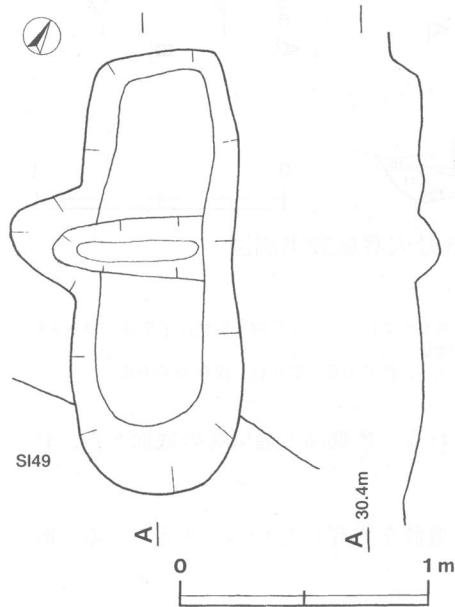
**主軸方向** N-64°-W

**底面** 燃烧部及び通気溝の底面は、やや凹凸がある。

**覆土** 燃烧部の南側が底面まで削平されていたため、覆土は確認できなかった。

**遺物** 燃烧部及び通気溝の底面から、骨粉及び炭化粒子が検出された。

**所見** 燃烧部と通気溝から、骨粉及び炭化粒子が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。



第235図 第8号火葬施設実測図

第9号火葬施設 (SK720) (第236図)

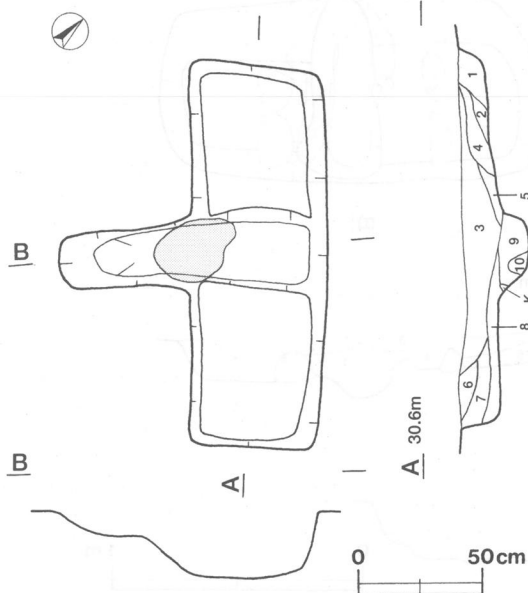
**位置** 調査区の南西部, D2j6区。

**規模と形状** T字状を呈している。燃烧部は主軸と直交し、長軸156cm, 短軸54cmの長方形で、深さ10~15cmである。断面は逆台形で、壁面は外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ109cm, 上幅35cm, 下幅25cm, 深さ8~25cmである。断面はU字状を呈している。

**主軸方向** N-40°-E

**底面** 通気溝から燃烧部にかけて、緩やかに下がっている。燃烧部及び通気溝の底面はほぼ平坦であり、通気溝の中央部は火熱を受けて赤変している。

**覆土** 10層からなる。炭化物, 炭化粒子, 骨粉及び骨片等を含む層である。



第236図 第9号火葬施設実測図

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子・骨片微量
- 4 にぶい橙色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・骨粉少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量

- 6 にぶい赤褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・骨粉微量
- 7 にぶい橙色 焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量
- 8 暗赤褐色 炭化物・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 9 にぶい黄灰色 炭化粒子中量, 炭化物・骨片・骨粉少量
- 10 褐色 ローム大ブロック多量

遺物 覆土上層から底面にかけて, 骨粉, 骨片, 炭化物及び炭化材の層がみられる。

所見 燃焼部と通気溝から, 骨粉, 骨片, 炭化物及び炭化材が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。

第10号火葬施設 (SK750) (第237図)

位置 調査区の南西部, E 3 a2区。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は主軸と直交し, 長軸148cm, 短軸70cmの隅丸長方形で, 深さ15cmである。断面は逆台形形で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃焼部のほぼ中央に位置する通気溝は, 主軸と平行し, 長さ140cm, 上幅27cm, 下幅15cm, 深さ25cmである。断面はU字状を呈している。

主軸方向 N-89°-W

底面 通気溝から燃焼部にかけて, 緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面はやや凹凸で, 通気溝の中央部は火熱を受けて赤変している。

覆土 3層からなる。炭化材及び骨片等を含む層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化材・骨片微量
- 3 暗褐色 炭化材中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 骨片微量

遺物 覆土上層から底面にかけて, 骨片及び炭化材の層がみられる。

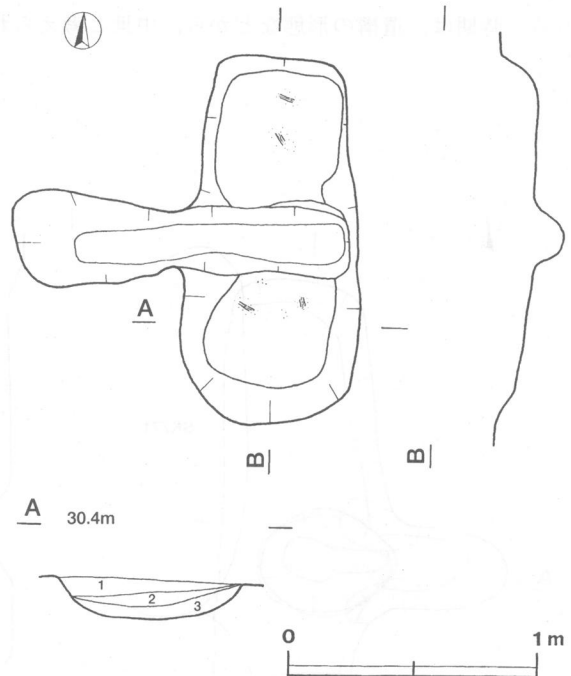
所見 燃焼部と通気溝から, 骨片及び炭化材が検出されたことから, 遺骸を火葬したものと考えられる。時期は, 遺構の形態などから, 中世と考えられる。

第11号火葬施設 (SK767) (第238図)

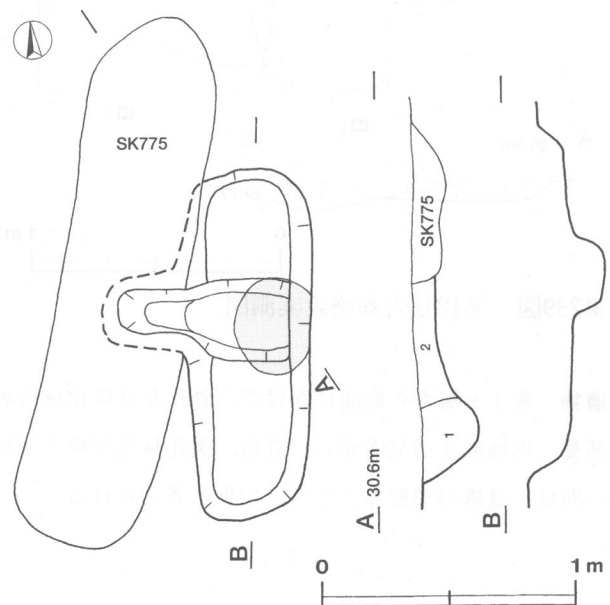
位置 調査区の南西部, D 2 j5区。

重複関係 第775号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は主軸と直交し, 長軸138cm, 短軸46cmの隅丸長方形で,



第237図 第10号火葬施設実測図



第238図 第11号火葬施設実測図

深さ10～15cmである。断面は逆台形で、壁面は外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さ75cm、上幅33cm、下幅20cm、深さ6～22cmである。断面はU字状を呈している。

**主軸方向** N-86°-W

**底面** 燃烧部及び通気溝の底面は、ほぼ平坦である。

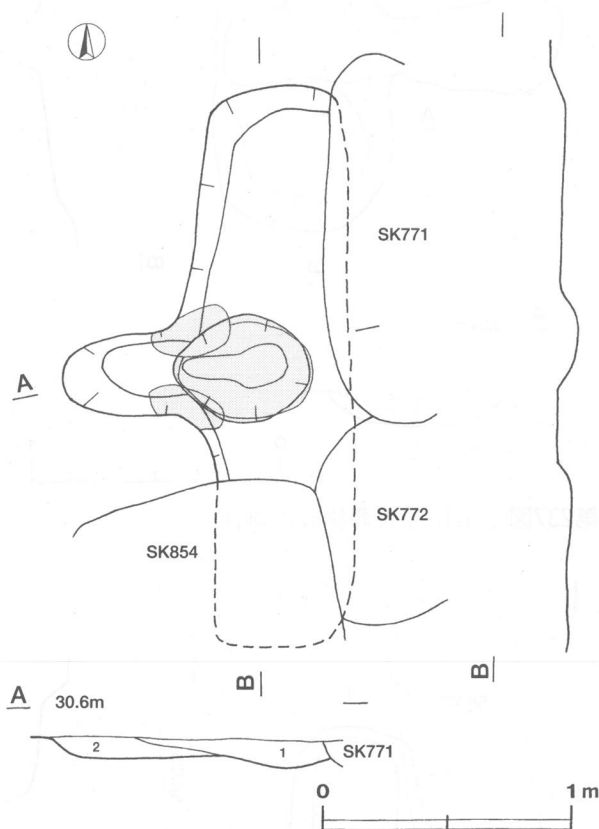
**覆土** 2層からなる。炭化物、炭化粒子、骨片等を含む層である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子・  
骨片微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化材少量、焼土粒子・炭化物・骨片微量

**遺物** 覆土上層から底面にかけて、炭化物、炭化粒子及び骨片の層がみられる。

**所見** 燃烧部と通気溝から、炭化物、炭化粒子及び骨片が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。



**第12号火葬施設 (SK855) (第239図)**

**位置** 調査区の西部、D1a0区。

**重複関係** 第771・772・854号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** T字状を呈している。燃烧部は主軸と直交し、長軸は235cm、短軸61cmの隅丸長方形と推定され、深さは4cmである。断面は逆台形で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。燃烧部のほぼ中央に位置する通気溝は、主軸と平行し、長さは98cmと推定され、上幅41cm、下幅15cm、深さ6～13cmである。断面はU字状を呈している。

**主軸方向** N-88°-E

**底面** 通気溝から燃烧部にかけて、緩やかに下がっている。燃烧部及び通気溝の底面は、ほぼ平坦である。通気溝の壁際は火熱を受けて赤変している。

**覆土** 2層からなる。焼土粒子、炭化粒子及び骨粉等を含む層である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材・骨片微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

**第239図** 第12号火葬施設実測図

**遺物** 覆土上層から底面にかけて、骨片及び炭化材の層がみられる。

**所見** 燃烧部と通気溝から、骨粉、炭化材及び焼土が検出されたことから、遺骸を火葬したものと考えられる。時期は、遺構の形態などから、中世と考えられる。



(7) 井戸跡

第1号井戸跡 (第240図)

位置 調査区の中央部, D 3 c1区。

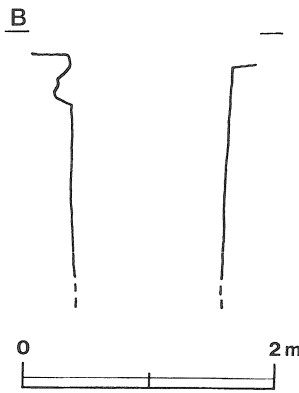
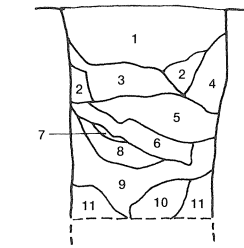
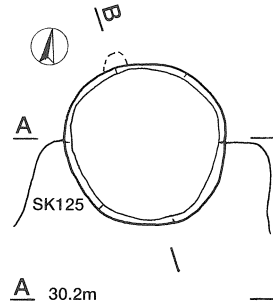
重複関係 第125号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.3mほどの円形である。断面形は円筒形を呈している。北部の側面には、足掛け穴と思われる壺錠状の掘り込みがある。確認面から1.8mまで掘り下げたが、壁が崩落する危険性があるため、底面まで確認できなかった。

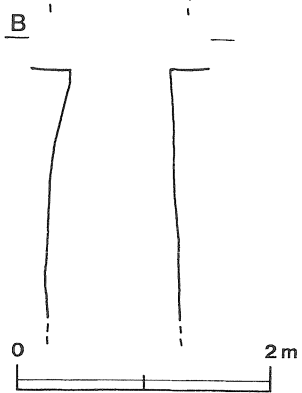
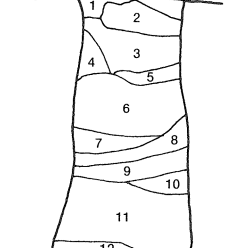
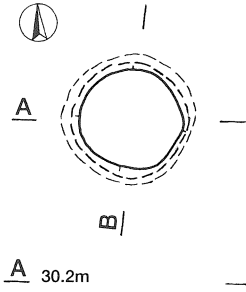
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 小礫少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック中量・ローム粒子・小礫少量
- 4 黒褐色 小礫少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・小礫少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒色 ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・小礫少量, ローム中ブロック微量
- 11 黒色 ローム小ブロック微量



第240図 第1号井戸跡  
実測図



第241図 第2号井戸跡  
実測図

遺物 陶器片1点, 土師器片1点, 礫3点が出土している。いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期を判断できる遺物は出土していない。付近に中世の遺構が多数確認されていることから、墓域と関連する井戸跡と思われる。

第2号井戸跡 (第241図)

位置 調査区の南部, D 3 i7区。

規模と形状 上面は径0.8mほどの円形, 下位は径1.05mほどの円形である。断面形は台形状を呈する。確認面から2mほど掘り下げたが、壁が崩落する危険性があるため、底面まで確認できなかった。

覆土 12層からなる。ロームブロックを主体とし、小礫を多量から中量含む人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 小礫多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼軽石粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・小礫中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼軽石粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・小礫中量, ローム粒子・鹿沼軽石粒子少量
- 8 黒色 ローム小ブロック・鹿沼軽石粒子・小礫少量, ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・小礫中量, ローム中ブロック・鹿沼軽石粒子少量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・小礫少量, 鹿沼軽石粒子微量
- 11 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・小礫中量, 鹿沼軽石粒子微量
- 12 黒褐色 小礫中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼軽石粒子微量

**遺物** 土師質土器片 4 点, 土師器片 1 点, 長径10cm以内の礫1,866点, 10cm以上の礫28点が出土している。内耳鍋の細片が覆土から出土している。小礫は各層に含まれ, 土層から埋め戻されていた状況が確認できた。

**所見** 時期を判断できる遺物は出土していない。付近に中世の遺構が多数確認されていることから, 墓域と関連する井戸跡と思われる。

### 第3号井戸跡 (第242図)

**位置** 調査区の西部, D 2 f8区。

**重複関係** 第3号不明遺構の中央部を掘り込んでいる。

**規模と形状** 上面は径0.95mほどの円形, 下位は径0.65mほどの円形である。断面形は上面から0.6mほど掘り込んだ位置までは漏斗状を呈し, 以下は円筒形を呈する。確認面から1.8mほど掘り下げたが, 壁が崩落する危険性があるため, 底面まで確認できなかった。

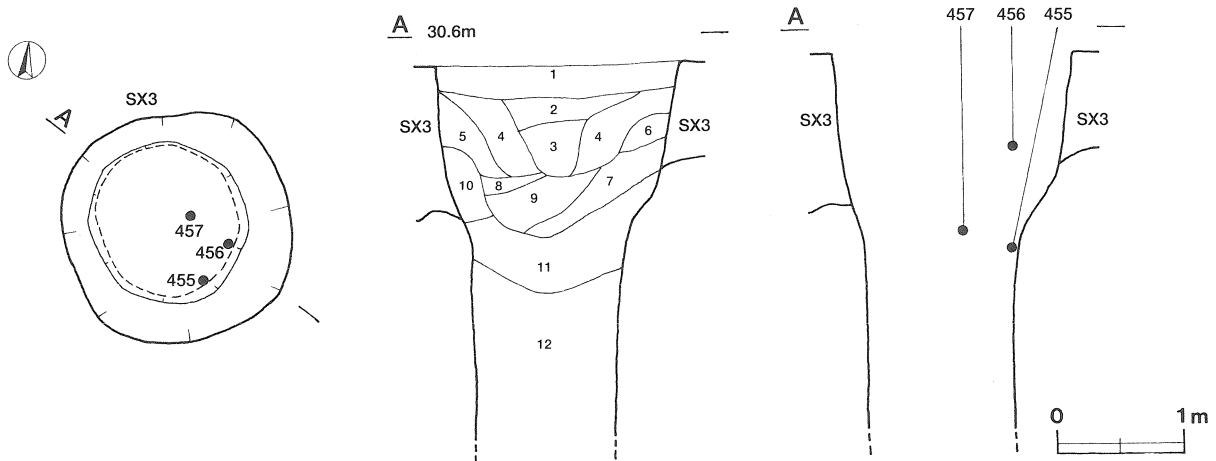
**覆土** 12層からなる。ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

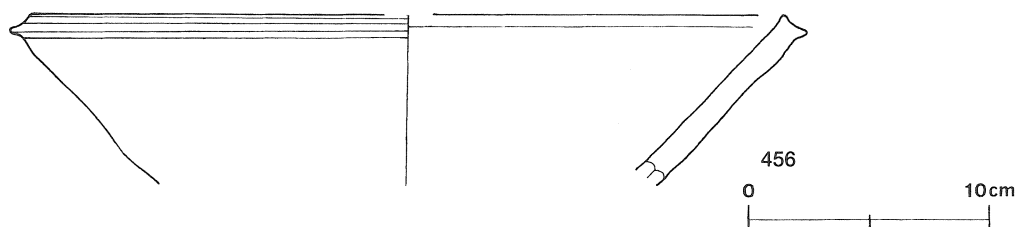
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・小礫微量	7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 小礫微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・小礫少量, ローム粒子微量	8	黒色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・小礫微量
3	黒色	ローム粒子・炭化粒子・小礫微量	9	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・小礫微量
4	黒色	ローム粒子・小礫少量	10	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
5	黒色	ローム粒子中量, 小礫少量	11	黒色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・小礫少量
6	黒色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	12	黒色	ローム粒子微量

**遺物** 陶器片45点, 土師質土器片 2 点, 古銭 1 枚, 混入したとみられる土師器片 8 点が出土している。第243・244図の455~458は陶器の破片である。456の常滑の片口鉢は, 覆土上層から出土している。455の常滑の片口鉢, 457の常滑の甕は, 覆土中層から出土している。458の常滑の甕, M52の古銭は, 覆土から出土している。

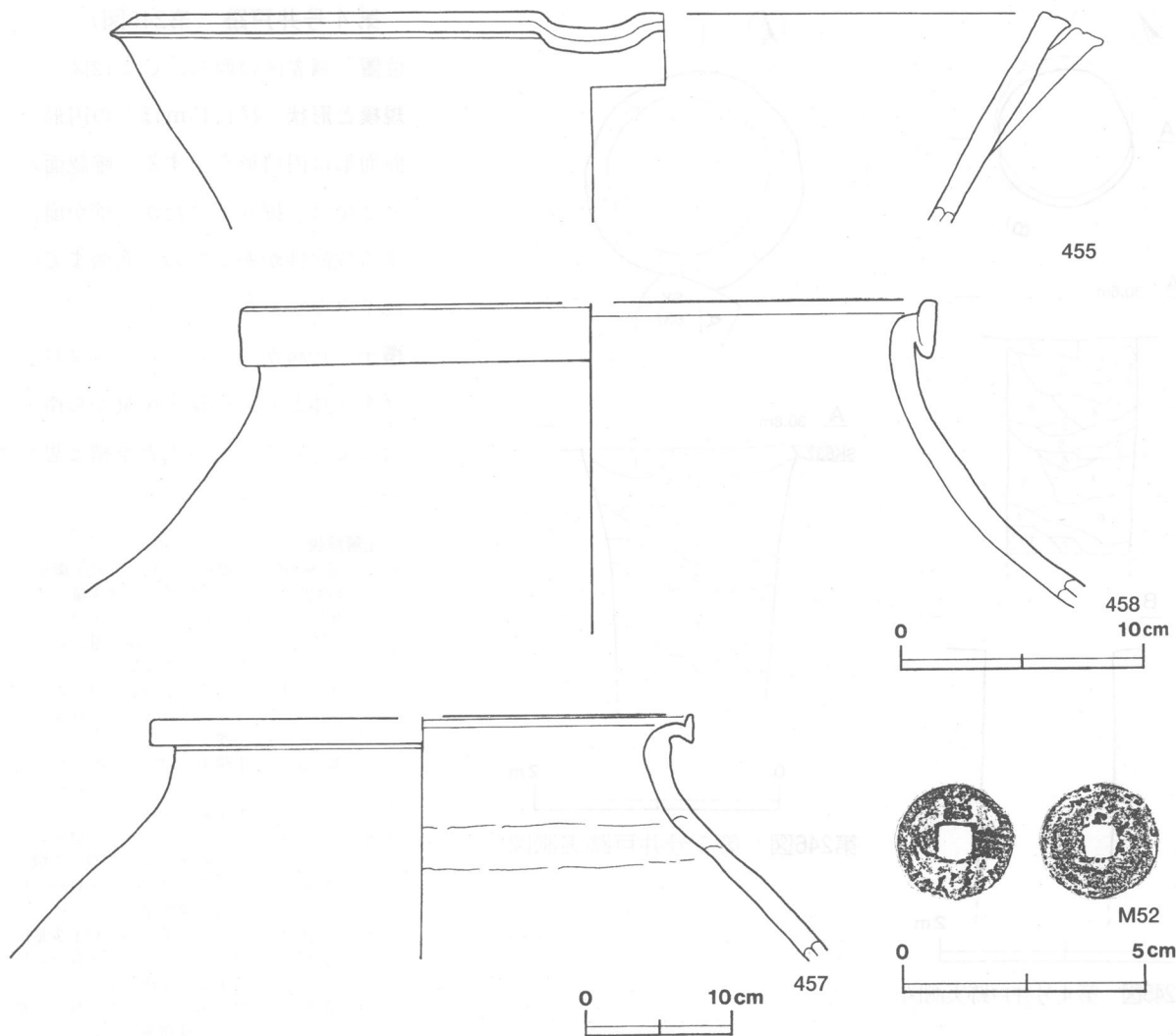
**所見** 付近に中世の遺構が多数確認されていることから, 墓域と関連する井戸跡と思われる。土器は, 13世紀後半と思われる457・458の甕や, 15世紀後半と思われる456の片口鉢が出土している。時期は, 覆土の堆積状況や出土土器から15世紀後半頃と考えられる。



第242図 第3号井戸跡実測図



第243図 第3号井戸跡出土遺物実測図(1)

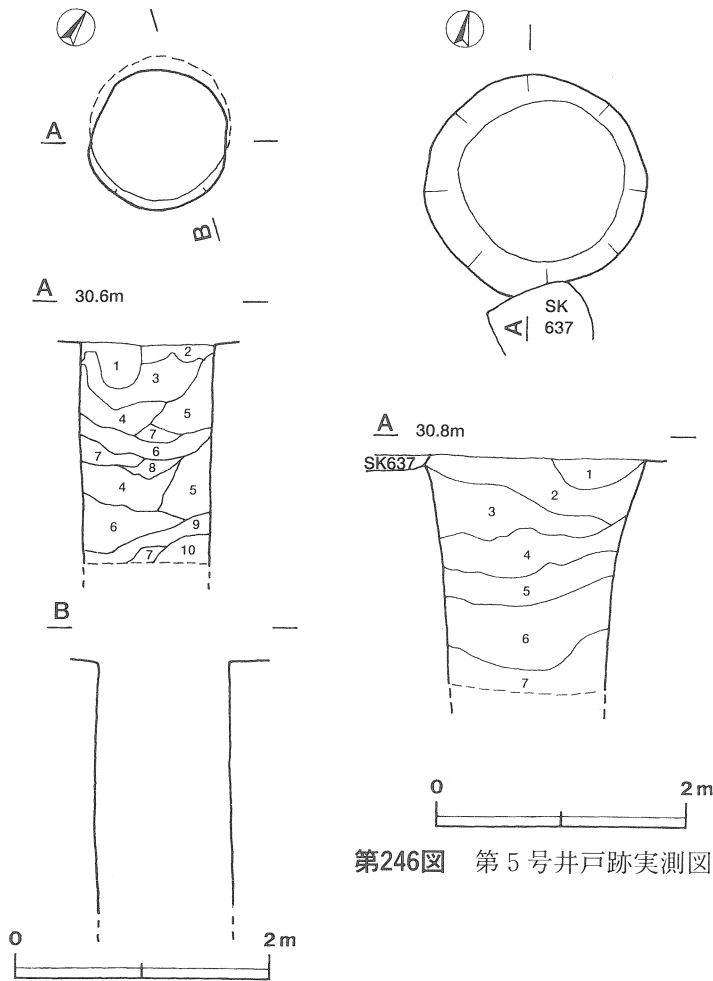


第244図 第3号井戸跡出土遺物実測図(2)

第3号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値				残存率	胎土調色	釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	C	D						
第244図 455	片口鉢	陶器	[37.2]	(8.9)	—	—	5%	暗灰黄色 橙色	無釉	片口部残存。口縁下位に沈線が巡る。	常滑系 14C後半	
第243図 456	片口鉢	陶器	[31.0]	(7.2)	—	—	5%	暗灰黄色 赤褐色	自然釉	口縁下位に沈線が巡る。	常滑系 15C後半	P L 29
第244図 457	甕	陶器	[36.8]	(16.8)	—	—	15%	明黄褐色 灰オリーブ色	無釉	口縁部の断面は、N字状を呈する。	常滑系 13C後半	P L 29
458	甕	陶器	[28.6]	(13.7)	—	—	5%	黄灰色 灰オリーブ色	外面 自然釉	口縁部の断面は、N字状を呈する。	常滑系 13C後半	

図版番号	銭種	計測値				初铸年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時代	西暦	
第244図M52	〇〇〇〇	2.4	0.1	0.6	2.4	判読不明	不明	



第245図 第4号井戸跡実測図

第246図 第5号井戸跡実測図

#### 第4号井戸跡 (第245図)

**位置** 調査区の西部, C 2 i2区。

**規模と形状** 径1.15mほどの円形。断面形は円筒形を呈する。確認面から2mほど掘り下げたが、壁が崩落する危険性があるため、底面まで確認できなかった。

**覆土** 10層からなる。ロームブロックを主体とし、小礫を中量から微量含んでいることから人為堆積と思われる。

##### 土層解説

- |        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色  | 小礫中量, ローム粒子微量                      |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・小礫少量                         |
| 3 褐色   | ローム中ブロック・ローム小ブロック・小礫中量, ローム中ブロック少量 |
| 4 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・小礫少量    |
| 5 暗褐色  | 小礫中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量    |
| 6 褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量       |
| 7 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・小礫少量                |
| 8 黒褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量                       |
| 9 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 小礫微量             |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・小礫微量                |

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 出土遺物がなく、時期は不明である。付近に中世の遺構が多数確認されていることから、墓域と関連する井戸跡と思われる。

#### 第5号井戸跡 (第246図)

**位置** 調査区の南西部, E 3 e3区。

**重複関係** 南壁を、第637号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 上面は径1.8mほどの円形、下位は1.35mほどの円形である。断面形は円筒形を呈する。確認面から2mほど掘り下げたが、壁が崩落する危険性があるため、底面まで確認できなかった。

**覆土** 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

##### 土層解説

- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量          | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 小礫微量       |
| 2 黒色  | ローム粒子少量          | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量    |
| 3 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・小礫少量       |       |                     |

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 出土遺物がなく、時期は不明である。付近に中世の遺構が多数確認されていることから、墓域と関連する井戸跡と思われる。

### 第6号井戸跡 (第247図)

**位置** 調査区の南西部, E 3 b1区。

**重複関係** 南側上部を第679号土坑, 北東側上部を第680号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.8mほどの円形である。断面形は円筒形を呈する。確認面から2.2mほど掘り下げたが, 壁が崩落する危険性があるため, 底面まで確認できなかった。

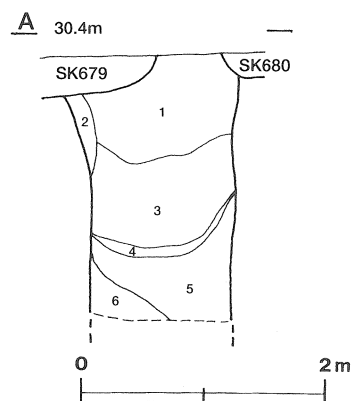
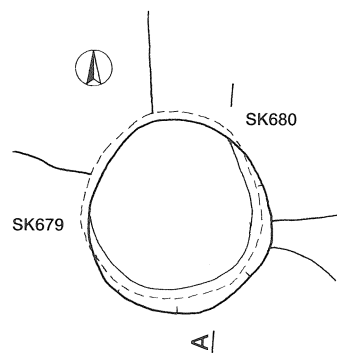
**覆土** 6層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 出土遺物がなく, 時期は不明である。付近に中世の遺構が多数確認されていることから, 墓域と関連する井戸跡と思われる。



第247図 第6号井戸跡実測図

### 第7号井戸跡 (第248図)

**位置** 調査区の西部, D 2 f7区。

**重複関係** 第739号土坑の南側を掘り込み, 上部を第752号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.55m, 短径1.32mほどの楕円形である。断面形はほぼ円筒形を呈する。確認面から1.7mほど掘り下げたが, 壁が崩落する危険性があるため, 底面まで確認できなかった。

**長径方向** N-76°-W

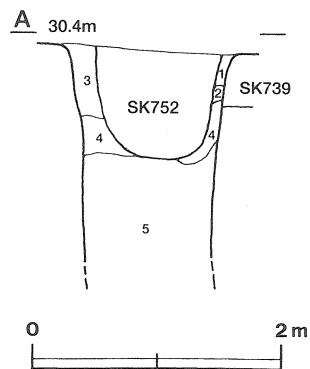
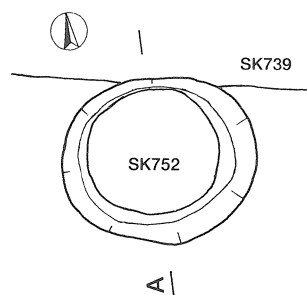
**覆土** 5層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 小礫中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・小礫少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 小礫少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 小礫中量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 小礫少量

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 出土遺物がなく, 時期は不明である。付近に中世の遺構が多数確認されていることから, 墓域と関連する井戸跡と思われる。



第248図 第7号井戸跡実測図

(8) 集石遺構

第1号集石遺構 (第249図)

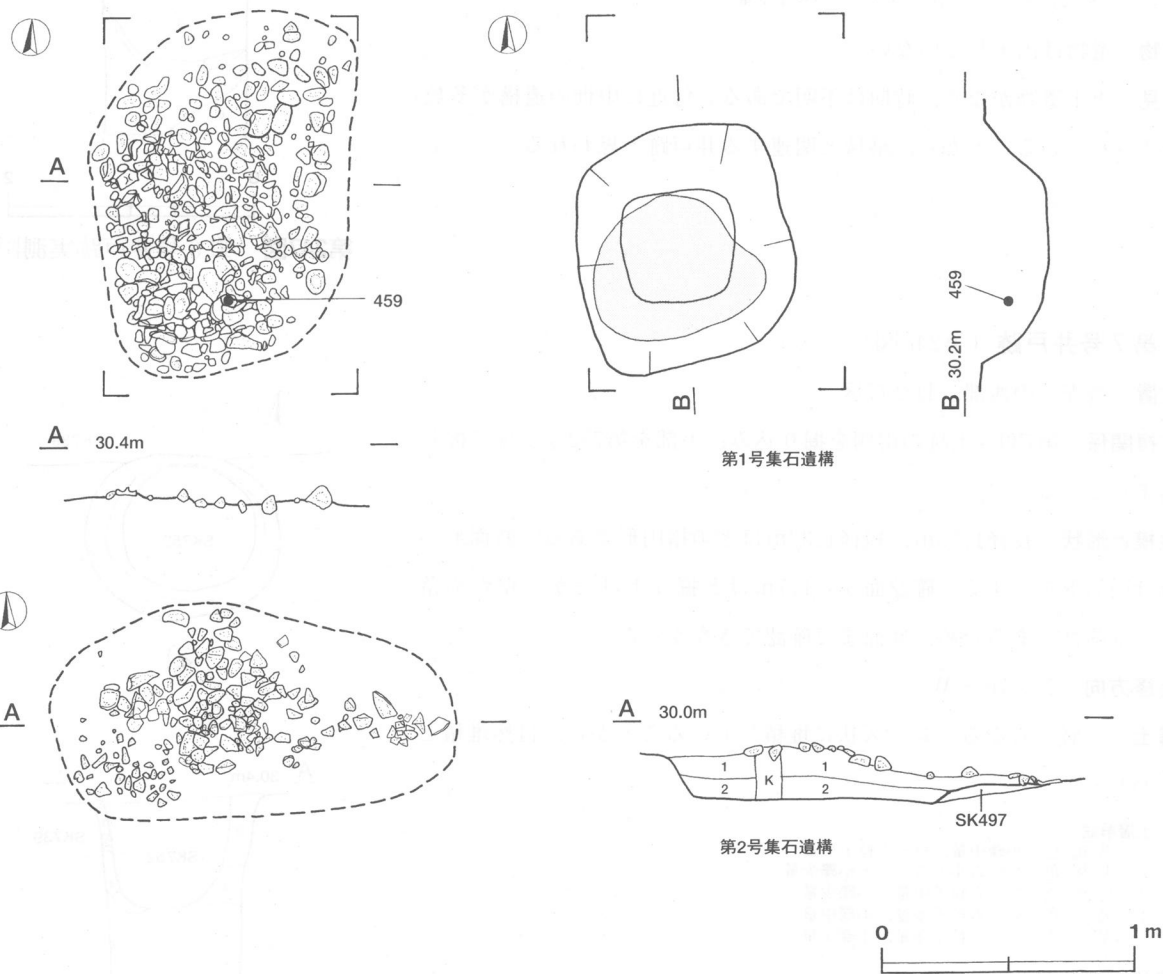
位置 調査区の南部, D3i7区。

確認状況 表土除去後の遺構確認面で確認した。

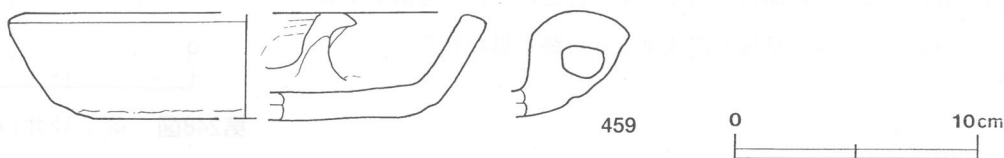
規模と平面形 磔は長径1.4m, 短径0.9mの楕円形に広がっている。磔は底面まで密に重なっていた。底面から, わずかに焼土が検出された。磔を取り除いた後の形状は, 長径9.4m, 短径8.3mの楕円形で, 深さ22cmである。底面は皿状を呈し, 壁は緩やかに立ち上がる。

遺物 磔はこぶし大を中心に1,749点, 土師質土器片42点, 常滑系陶器片3点が出土している。磔の材質は, 砂岩と安山岩である。第250図の459は土師質土器の焙烙で, 覆土中層から出土している。

所見 磔の出土状況から, 人為的に集められた可能性が高い。底面の焼土は, そのときに混入したものと思われる。性格は不明である。時期は, 土師質土器の焙烙が出土していることから, 17世紀後半頃の可能性が考えられる。



第249図 第1・2号集石遺構実測図



第250図 第1号集石遺構出土遺物実測図

## 第1号集石遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 459	焙烙 土師質土器	A [19.6] B 4.4 C [12.4]	底部から口縁部の破片。内耳1か所 残存。耳貼り付け。口縁端部は平坦 である。	口縁部内・外面ナデ。耳貼り付け後 ナデ。	長石・石英・白色 粒子 にふい赤褐色 普通	15% 内・外面煤付着

### 第2号集石遺構（第249図）

**位置** 調査区の南東部，C 4 h5区。

**重複関係** 第497号土坑を掘り込んでいる。

**確認状況** 表土除去後の遺構確認面で確認した。

**規模と形状** 長径1.6m，短径0.8mの楕円形に広がっている。礫を取り除いた後の形状は，長径1.5m，短径0.7mの楕円形で，深さ16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

**覆土** 2層からなる。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

**遺物** 礫はこぶし大を中心に138点，常滑系陶器片3点，土師器片14点が出土している。礫の材質は，砂岩と安山岩である。礫は覆土上層のみに広がっている。常滑系陶器片は，細片のため図示できなかった。

**所見** 礫の出土状況から，人為的に集められた可能性が高い。性格は不明である。時期は断定できないが，第4号集石遺構と同様の状態で検出されていることから，ほぼ同時期の17世紀前半頃と考えられる。

### 第3号集石遺構（第251図）

**位置** 調査区の中央部，C 3 i7区。

**確認状況** 表土の上面で確認されていた。

**規模と形状** 長径2.65m，短径1.25mの楕円形に広がっている。礫を取り除いた後の形状は，長径1.51m，短径1.28mの楕円形で，深さ23cmである。底面は皿状を呈し，壁は緩やかに立ち上がる。

**覆土** 礫混じりの単一層である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物** 礫はこぶし大を中心に出土している。礫の材質は，砂岩，安山岩，チャートである。礫は底面まで密に重なっている。第252図の462は瀬戸・美濃系の菊皿で，覆土上層から出土している。463は常滑系陶器の片口鉢，464は常滑系陶器の甕で，覆土から出土している。

**所見** 礫の出土状況から，人為的に集められた可能性が高い。性格は不明である。時期は，陶器の瀬戸・美濃系の菊皿が出土していることから，17世紀前半以降の可能性が考えられる。

### 第4号集石遺構（第251図）

**位置** 調査区の東部，C 4 b6区。

**確認状況** 表土の上面で確認されていた。

**規模と形状** 長径2.25m，短径0.6mの楕円形に広がっている。礫は底面まで密に重なっていた。礫を取り除いた後の形状は，長径2.12m，短径0.6mの楕円形で，深さ10cmである。底面は凹凸で，壁は緩やかに立ち上

がる。

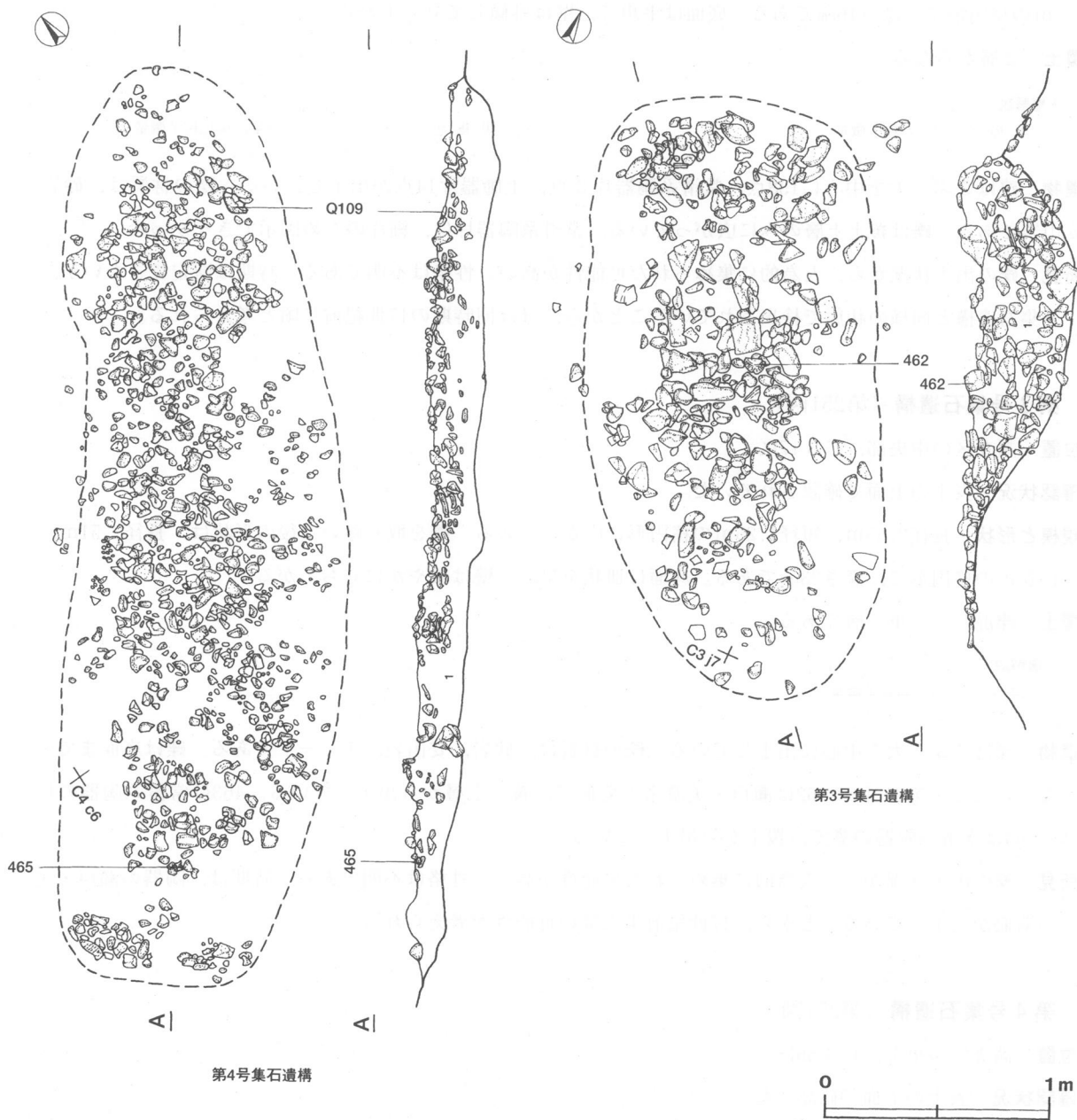
**覆土** 礫混じりの単一層である。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

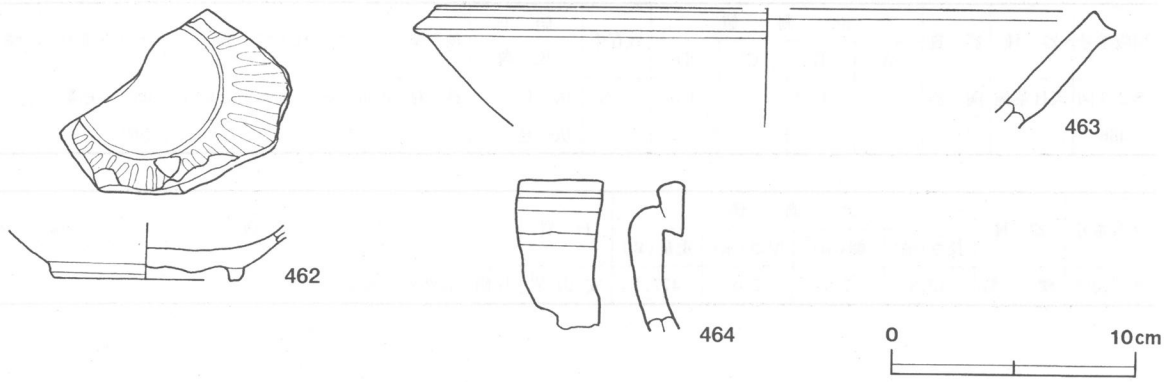
**遺物** こぶし大の礫を中心に出土している。礫の材質は、砂岩と安山岩である。礫は底面まで密に重なっている。第253図の465は土師質土器の内耳鍋、Q109は礫器で覆土上層から出土している。466は瀬戸・美濃系の天目茶碗で、覆土から出土している。

**所見** 礫の出土状況から、人為的に集められた可能性が高い。性格は不明である。時期は、瀬戸・美濃系の天目茶碗が出土していることから17世紀前半頃の可能性が考えられる。



第251図 第3・4号集石遺構実測図

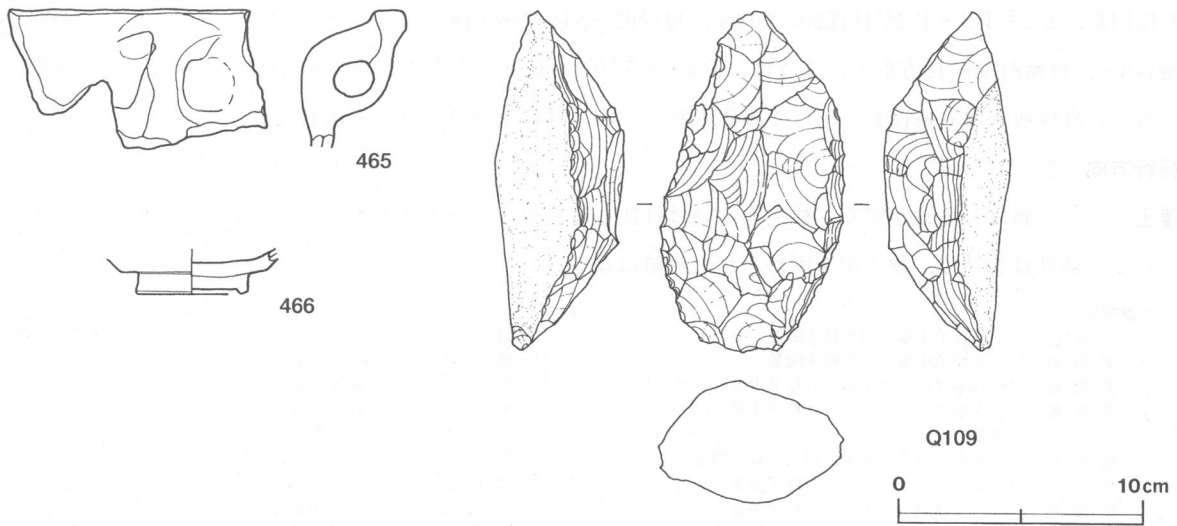




第252図 第3号集石遺構出土遺物実測図

第3号集石遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	器質	計測値				残存率	胎土色調	釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	C	D						
第252図 462	菊皿	陶器	—	(2.3)	—	7.6	5%	灰白色 浅黄色	黄釉	内面内出し菊花文。高台貼り付け。	瀬戸・美濃系 17C前半	PL29
463	片口鉢	陶器	[27.0]	(4.9)	—	—	5%	暗灰黄色 橙色	自然釉	口縁下位に沈線が巡る。	常滑系 15C後半	
464	甕	陶器	—	(6.2)	—	—	5%	灰色 灰オリーブ色	自然釉	口縁部の断面は、N字状を呈する。	常滑系 13C後半	



第253図 第4号集石遺構出土遺物実測図

第4号集石遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 465	内耳鍋 土師質土器	B(5.7)	口縁部の破片。内耳1か所残存。口縁端部は平坦である。	口縁部内・外面ナデ。耳貼り付け後ナデ。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	5%

図版番号	器種	器質	計測値				残存率	胎土調	釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	C	D						
第253図 466	天目茶碗	陶器	—	(1.8)	—	4.5	5%	灰色 灰色	鉄釉	底部の破片。削り出し高台。	瀬戸・美濃系 不明	

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第253図Q109	磔器	13.8	7.5	5.0	477.1	安山岩	片側に自然面が残る。	

## 7 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、旧石器時代から中・近世の遺構のほか、年代が明らかでない遺構として掘立柱建物跡4棟、道路跡1条、溝12条、堀1条、不明遺構9基、ピット群3か所、土坑758基が確認されている。以下、これらの遺構について記述する。

### (1) 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡（第254図）

**位置** 調査区の南部，D3h4区。

**規模** 桁行3間，梁行1間の側柱構造の建物跡である。柱穴は8か所（P1～P8）で，柱間寸法は，桁行1.78～2.24m，梁行4.54～4.56m，面積は28.21㎡である。柱穴は，P1・P5が長径104・113cm，短径72・84cmの不整楕円形，P2・P3・P6が長径80～102cm，短径62～84cmの楕円形，P4・P7が径76・86cmの円形，P8が長軸110cm，短軸81cmの長方形で，深さは，P3・P5が50・42cmと浅く，それ以外は65～71cmと一定である。柱痕あるいは柱抜き取り痕はP4・P7で確認されている。柱の太さは，径15cm前後と推定される。

**桁行方向** N-35°-W

**覆土** 1～3層はしまりが弱く，柱痕あるいは柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の土層は，埋土と考えられる。粘性は普通で，強く突き固められた形跡はない。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，白色粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，赤色粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	12 黒色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	13 黒色	ローム粒子中量，白色粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	14 黒色	ローム粒子微量
6 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	15 黒色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量	16 暗褐色	ローム粒子・白色粒子微量
8 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量	17 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
9 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量	18 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

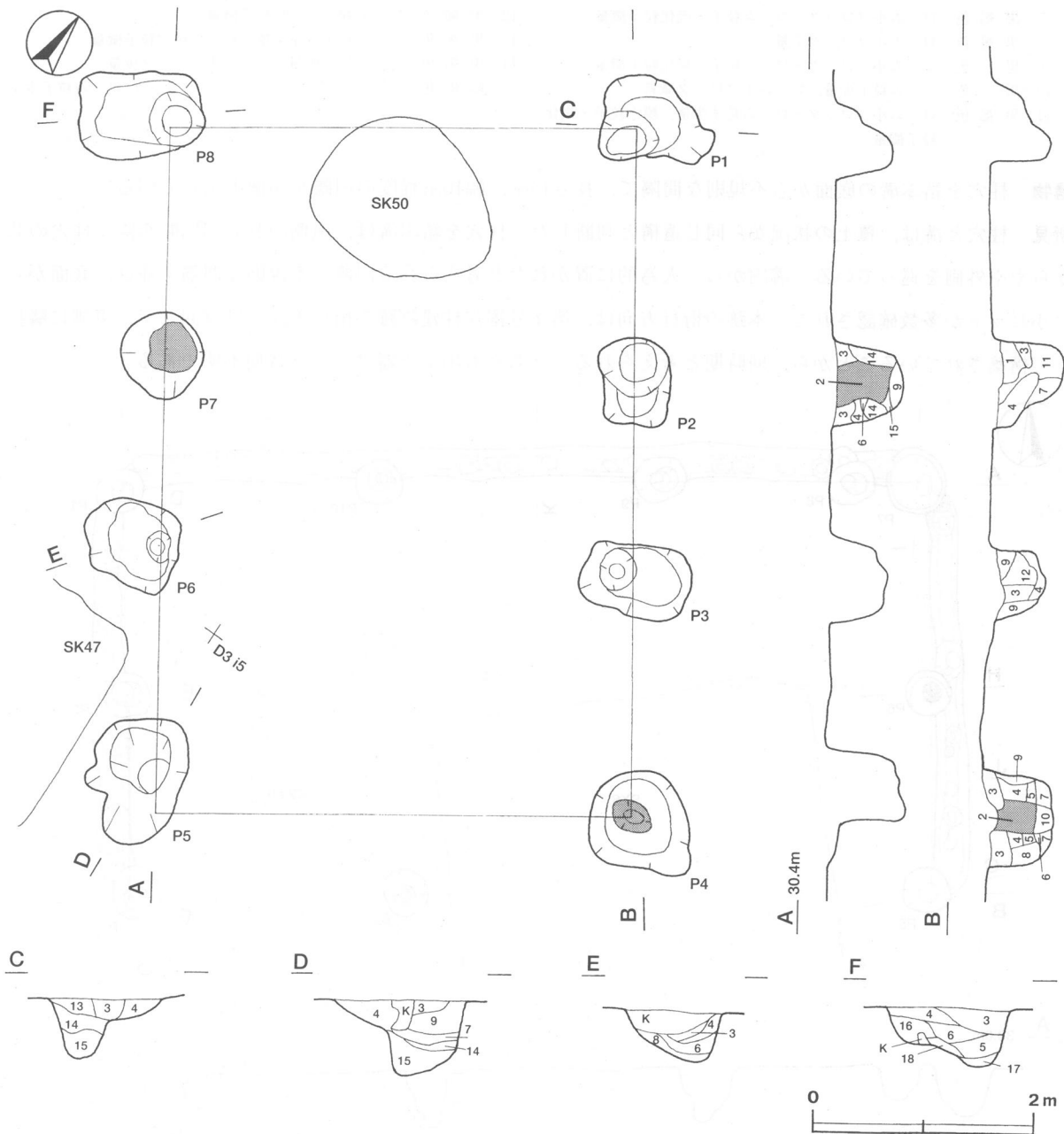
**所見** 本跡は，調査区南部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間の寸法については，P7を除き規則性が認められる。出土土器はなく，時期不明である。

#### 第3号掘立柱建物跡（第255図）

**位置** 調査区の北西部，C2d9区。

**重複関係** 南部を，第6号不明遺構に掘り込まれている。

**規模** 桁行3間，梁行2間の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所（P1～P10）で，柱間寸法は，桁行2.25～



第254図 第1号掘立柱建物跡実測図

2.5m, 梁行1.84~1.92m, 面積は27.43㎡である。柱穴は、いずれも径36~61cmの円形で、深さ40~71cmである。柱痕はP6で確認されている。柱の太さは、径15cm前後と推定される。P3からP5間を除く各柱穴間から、溝が確認された。上幅22~30cm, 下幅12~18cm, 深さ10~20cmで、断面形はU字状である。溝の底面からは、小ピットが多数確認された。

桁行方向 N-86°-W

覆土 1層はしまりが弱く、炭化材を含んでいることから柱痕の土層と思われる。その他の土層は、埋土と考えられる。粘性は普通で、強く突き固められた形跡はない。

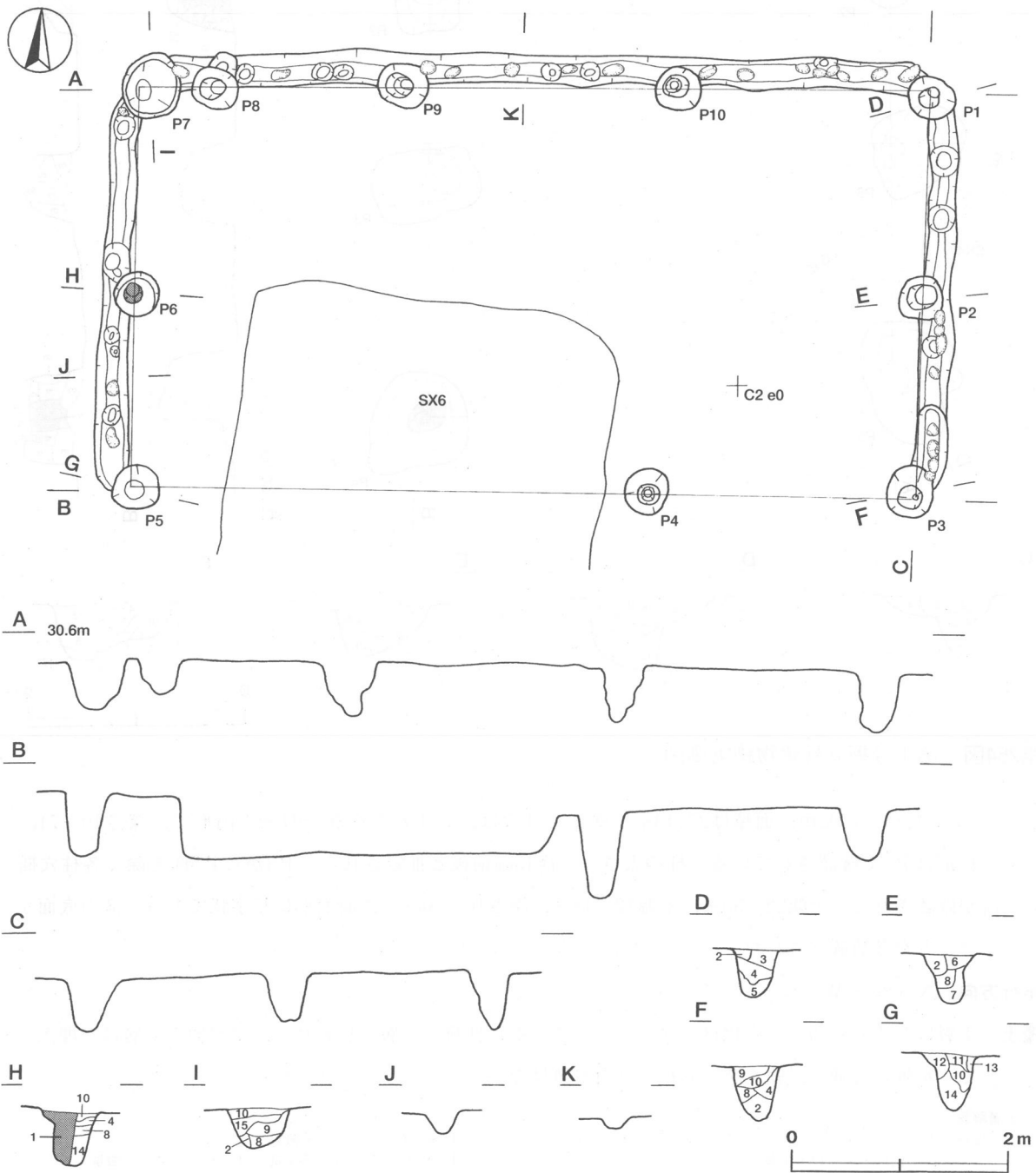
土層解説

- |       |                                   |       |                            |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 褐灰色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量                    |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                  | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量        |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量                   | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

- |        |                               |        |                           |
|--------|-------------------------------|--------|---------------------------|
| 7 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量         | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量              |
| 8 黒褐色  | ローム小ブロック少量                    | 13 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 9 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量         | 14 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量       |
| 10 黒色  | ローム粒子少量, ローム中ブロック微量           | 15 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 11 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |        |                           |

**遺物** 柱穴を結ぶ溝の底面から不規則な間隔で、長さ15cm、幅10cm程度の円礫が26個出土している。

**所見** 柱穴と溝は、覆土の状況から同じ遺構と判断した。柱穴を結ぶ溝は、南側のP3～P5間を除く柱穴の芯からやや外側を巡っている。溝内から、人為的に置かれたと考えられる円礫が不規則な間隔で並び、底面からは小ピットが多数確認された。本跡の桁行方向は、第4号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ同じで、東側に隣接して構築されていることから、同時期と考えられる。どちらも出土土器はなく、時期不明である。



第255図 第3号掘立柱建物跡実測図

### 第4号掘立柱建物跡 (第256図)

位置 調査区の北西部, C 2 e7区。

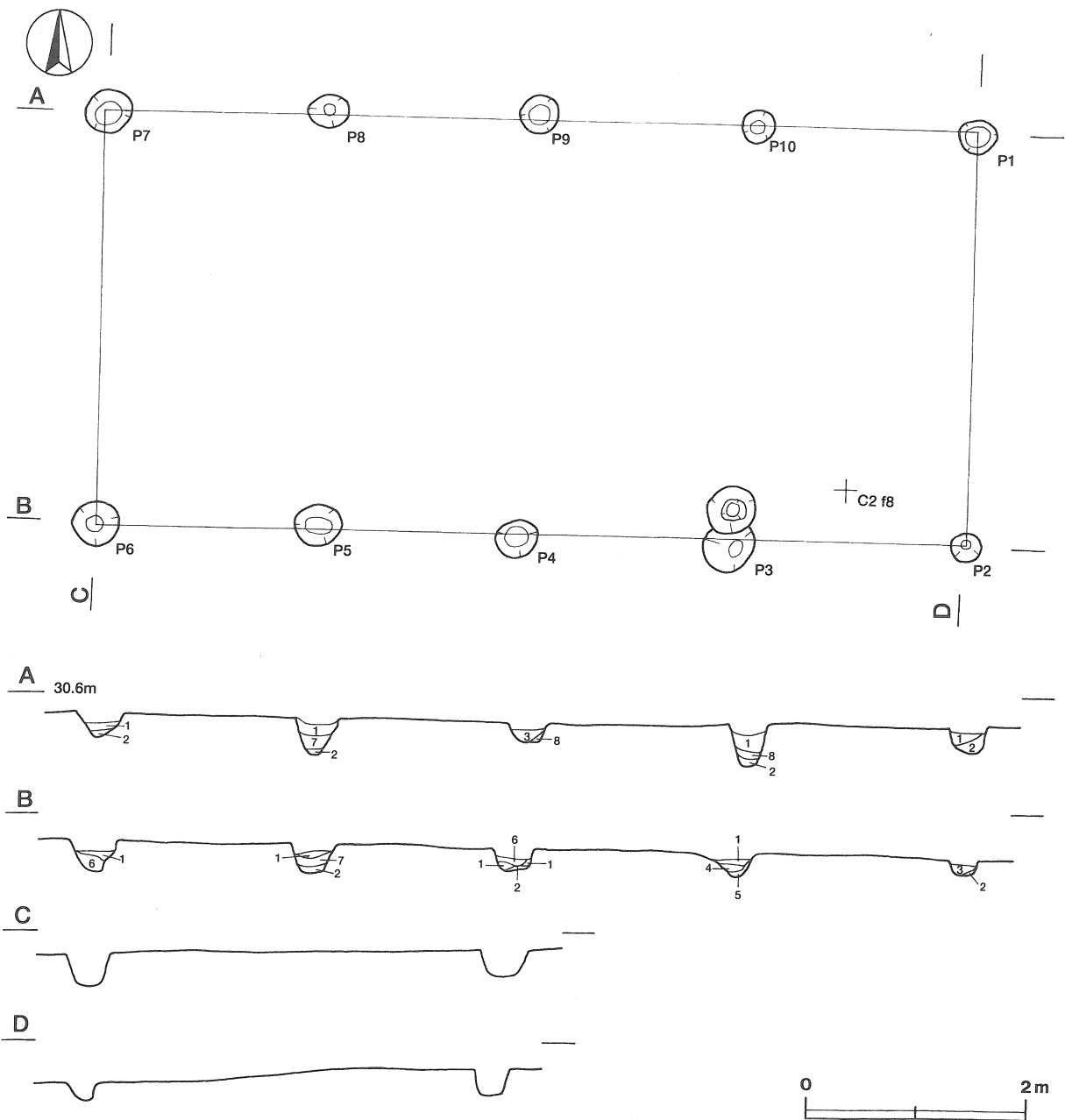
規模 桁行4間, 梁行1間の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所(P1~P10)で, 柱間寸法は, 桁行1.92~2.08m, 梁行3.82~3.9m, 面積は23.35㎡である。柱穴は, いずれも径28~50cmの円形で, 深さは, P2が16cm, P8・P10が36・40cm, それ以外は20~28cmと一定である。いずれの柱穴からも, 柱痕及び柱抜き取り痕は確認されていない。

桁行方向 N-90°-W

覆土 3層は硬く締まっていることから, 埋土と考えられる。

土層解説

- |       |                     |       |                              |
|-------|---------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量                      |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量    | 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量          |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量        |       |                              |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量             |       |                              |



第256図 第4号掘立柱建物跡実測図

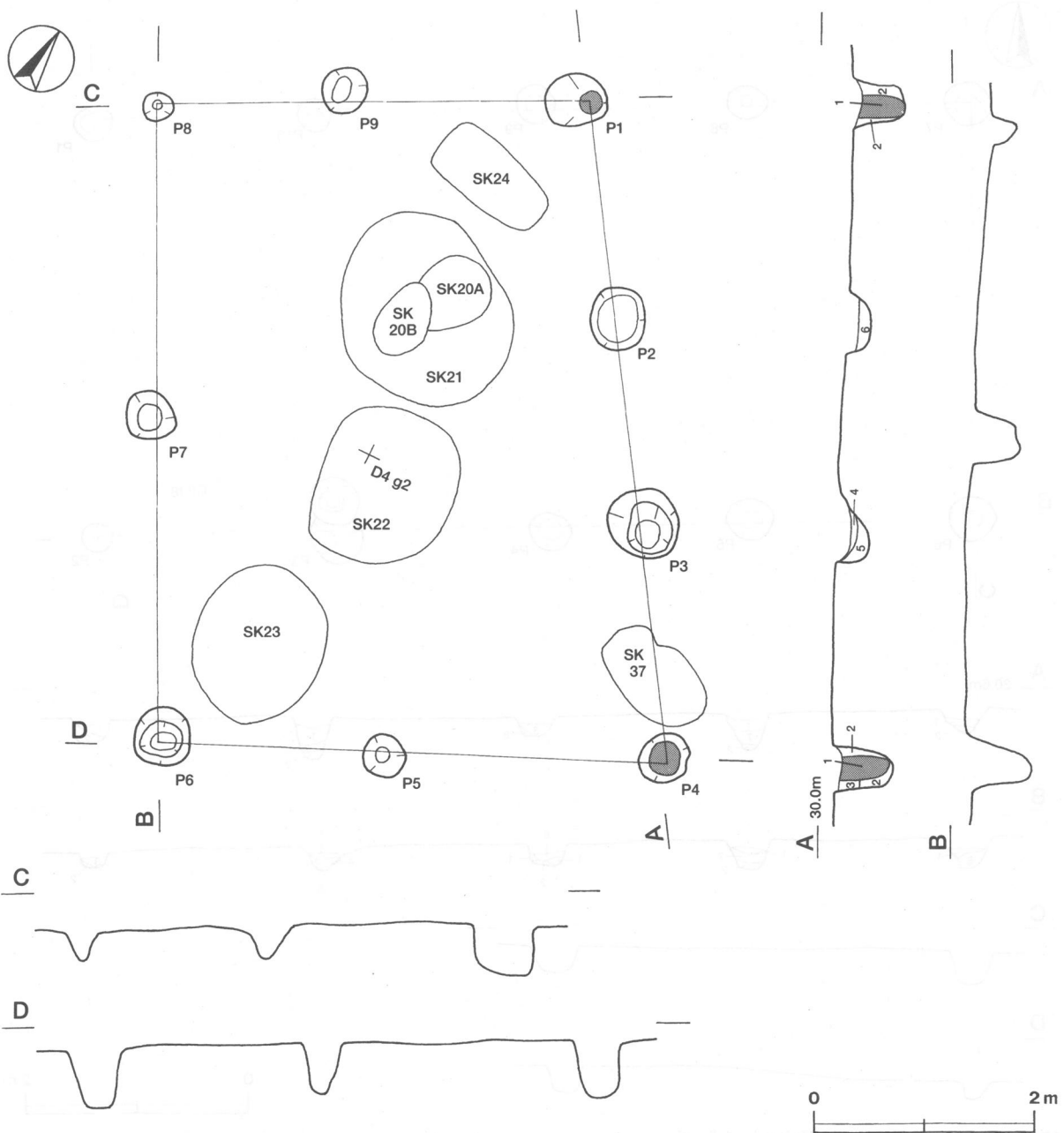
**所見** 本跡は、調査区北西部の平坦地に構築されている。柱穴の規模と柱間の寸法については、規則性が認められる。桁行方向は、第3号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ平行で、西側に隣接して構築されていることから、同時期の可能性が考えられる。どちらも出土土器はなく、時期不明である。

**第5号掘立柱建物跡 (第257図)**

**位置** 調査区の南部, D 4 f1区。

**規模** 東側柱列3間, 西側柱列2間, 南側柱列2間, 北側柱列2間の側柱構造の建物跡である。柱穴は9か所 (P1~P9) で、柱間寸法は、桁行1.92~2.91m, 梁行1.71~2.51m, 面積は24.9㎡である。柱穴は、P1・P3が長径55・66cm, 短軸45・56cmの楕円形, P2・P4~P9が径28~55cmの円形で、深さ31~56cmである。柱痕は、P1・P4で確認されている。柱の太さは、径22cm前後と推定される。

**桁行方向** N-30°-W



第257図 第5号掘立柱建物跡実測図

**覆土** 1層はしまりが弱く、柱痕あるいは柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の土層は、埋土と考えられる。粘性は普通で、強く突き固められた形跡はない。

**土層解説**

- |       |              |       |                     |
|-------|--------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック微量   | 5 褐色  | ローム粒子少量             |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        |

**所見** 本跡は、調査区南部の平坦地に構築されている。柱穴の規模は、P8がやや小規模である以外はほぼ一定である。柱間の寸法については、北側柱列と南側柱列はほぼ同じであるが、東側柱列は3間、西側柱列は2間の等間隔である。出土土器はなく、時期不明である。

(2) 道路跡

**第1号道路跡** (第258図・付図)

**位置** 調査区の南西部, E3g1区~E4c5区。

**重複関係** 第361号土坑を掘り込み, 第16・351・638号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外(E3g1区)から北東に向かって27mほど緩やかな曲線状に延び, そこから(E3c3区)東に向かって調査区域外(E4c5区)まで, 33mほど直線的に延びている。確認できた範囲で, 長さ約60m, 幅1.51~2.28mである。断面形は, 弧状あるいは逆台形である。路面は, 小礫混じりの黒色土で, 道幅全体が硬化している。硬化面をはがす過程で, 路面の東側に波板状の凹凸部分を確認された。凹部の形状は, 長径50~95cm, 短径25~40cmの不整楕円形で, 深さ6~16cmである。凸部は幅15~30cmで, 凹部と交互に並ぶ連続した波板状を呈している。

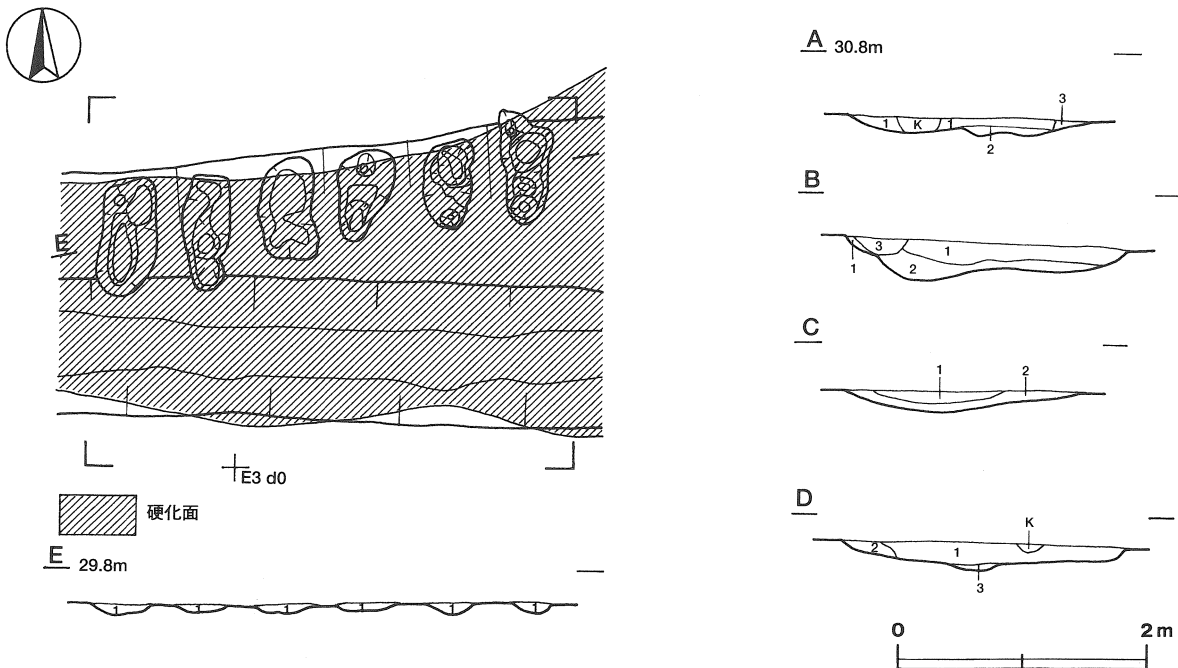
**覆土** 遺構確認の際に路面が確認されたため, 覆土はない。路面は黒色及び黒褐色で, いずれも踏み固めて硬化している。

**路面土層解説**

- |      |                       |       |                        |
|------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・白色粒子・小礫微量, 締まり強 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量, 締まり強 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量, 小礫微量, 締まり強   |       |                        |

**波板状凹凸部土層解説**

- 1 黒褐色 砂礫混じり粘土質の土, 締まり強



第258図 第1号道路跡実測図

**所見** 確認面及び硬化面から、常滑系陶器片 9 点、土師質土器片 5 点が出土している。いずれも細片で図示できなかった。時期は、出土土器から中世には使用されていたと考えられる。

### (3) 溝跡

今回の調査で、12条の溝が確認された。ほとんどの溝は、覆土が薄く出土遺物も少ないことから、性格や時期を判断することができない。そのうち、確認できた長さが20m以上の溝について記述し、それ以外は一覧表で掲載し、配置や全体の形状については遺構全体図に掲載する。

#### 第 2 号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の南西部，D 1 a0～E 3 e7区。

**重複関係** 第34号土坑を掘り込み，第811・848・869・878号土坑・第13号地下式壙・第7号不明遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** C 1 a0区から南東方向(N-59°-E)の調査区域外(E 3 e7区)まで，ほぼ直線的に延びている。調査できた範囲の長さは90.5mである。上幅0.62～0.86m，下幅0.25～0.41m，深さ15～30cmで，断面形は逆台形である。底面はほぼ平坦であり，調査区域外付近は浅くなっている。

**覆土** 5層からなり，自然堆積である。

##### 土層解説 (B, C, D)

- |       |                    |       |                  |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子少量            | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒色  | ローム小ブロック少量         | 5 黒色  | ローム粒子微量          |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |       |                  |

**遺物** 土師器片が少量出土している。

**所見** 中世の第13号地下式壙に掘り込まれていることから，15世紀後半以前と思われる。性格は不明である。

#### 第 5 号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の北西部，C 1 e7～C 3 a3区。

**重複関係** 第15・20号住居跡，第243・317号土坑，第6号溝を掘り込んでいる。

**規模と形状** C 1 e7区からの北東方向(N-70°-E)のC 3 a3区まで，蛇行状に延びている。全長は，68.5mである。上幅0.49～0.61m，下幅0.22～0.26m，深さ12～16cmで，断面形は逆台形である。

**覆土** 3層からなり，自然堆積である。

##### 土層解説 (I, J, K, M)

- |       |                    |       |         |
|-------|--------------------|-------|---------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量            | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック微量 |       |         |

**遺物** 土師器片と陶器片が少量出土している。

**所見** 出土遺物は，流れ込みや住居跡及び土坑を掘り込んだ際に混入したものと思われる。性格は不明である。

#### 第 6 号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の北西部，C 2 a0～C 2 b4区。

**重複関係** 第329号土坑を掘り込み，第5号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** C 2 b4区から北東方向(N-70°-E)のC 2 a0区まで直線的に延び，第5号溝に合流する。確認できた長さは26.3mである。上幅0.38～0.98m，下幅0.16～0.51m，深さ15～20cmで，断面形は弧状を呈する。



**覆土** 4層からなり、自然堆積である。

土層解説 (M, N, O)

- |       |                          |       |                  |
|-------|--------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量    | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

**遺物** 縄文土器片と弥生土器片が少量出土している。

**所見** 出土遺物は、いずれも流れ込みと考えられる。第5号溝に掘り込まれていることから、それ以前と考えられるが、時期及び性格は不明である。

### 第7号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の北部, B 2 j8~B 3 i4区。

**重複関係** 第20号住居跡, 第290号土坑を掘り込み, 第281・291号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外 (B 2 j8区) から東方向 (N-86°-E) のB 3 i4区まで蛇行状に延びる。確認できた長さは, 24.8mである。上幅0.49~0.69m, 下幅0.22~0.42m, 深さ25~31cmで, 断面形はU字状を呈する。

**覆土** 3層からなり、自然堆積である。

土層解説 (L)

- |       |                  |       |         |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量          |       |         |

**遺物** 縄文土器片と弥生土器片が少量出土している。

**所見** 出土遺物は、流れ込みや住居跡及び土坑を掘り込んだ際に混入したものと思われる。時期及び性格は不明である。

### 第8号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の北部, B 3 b6~B 3 i6区。

**重複関係** 第24・33号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** B 3 i6区から北方向 (N-9°-E) の調査区域外 (B 3 b6区) まで直線状に延びている。確認できた長さは, 29.6mである。上幅0.41~0.7m, 下幅0.21~0.28m, 深さ43~61cmで, 断面形は逆台形を呈する。

**覆土** 6層からなり、自然堆積である。

土層解説 (P, Q, R)

- |       |                     |       |                          |
|-------|---------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量    | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量      |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量    | 6 黒褐色 | ローム粒子微量                  |

**遺物** 土師器片と陶器片が少量出土している。

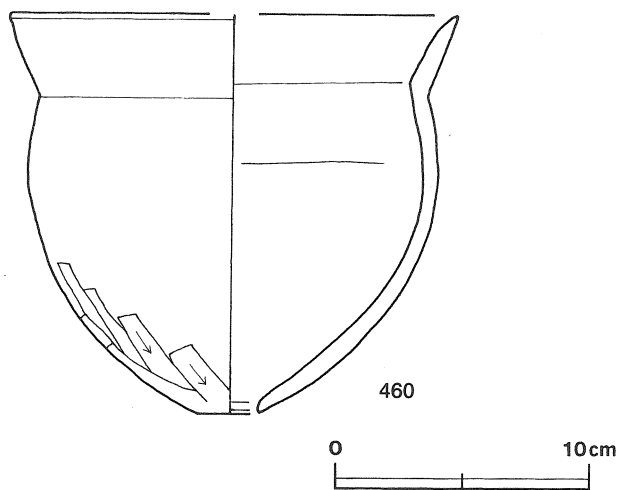
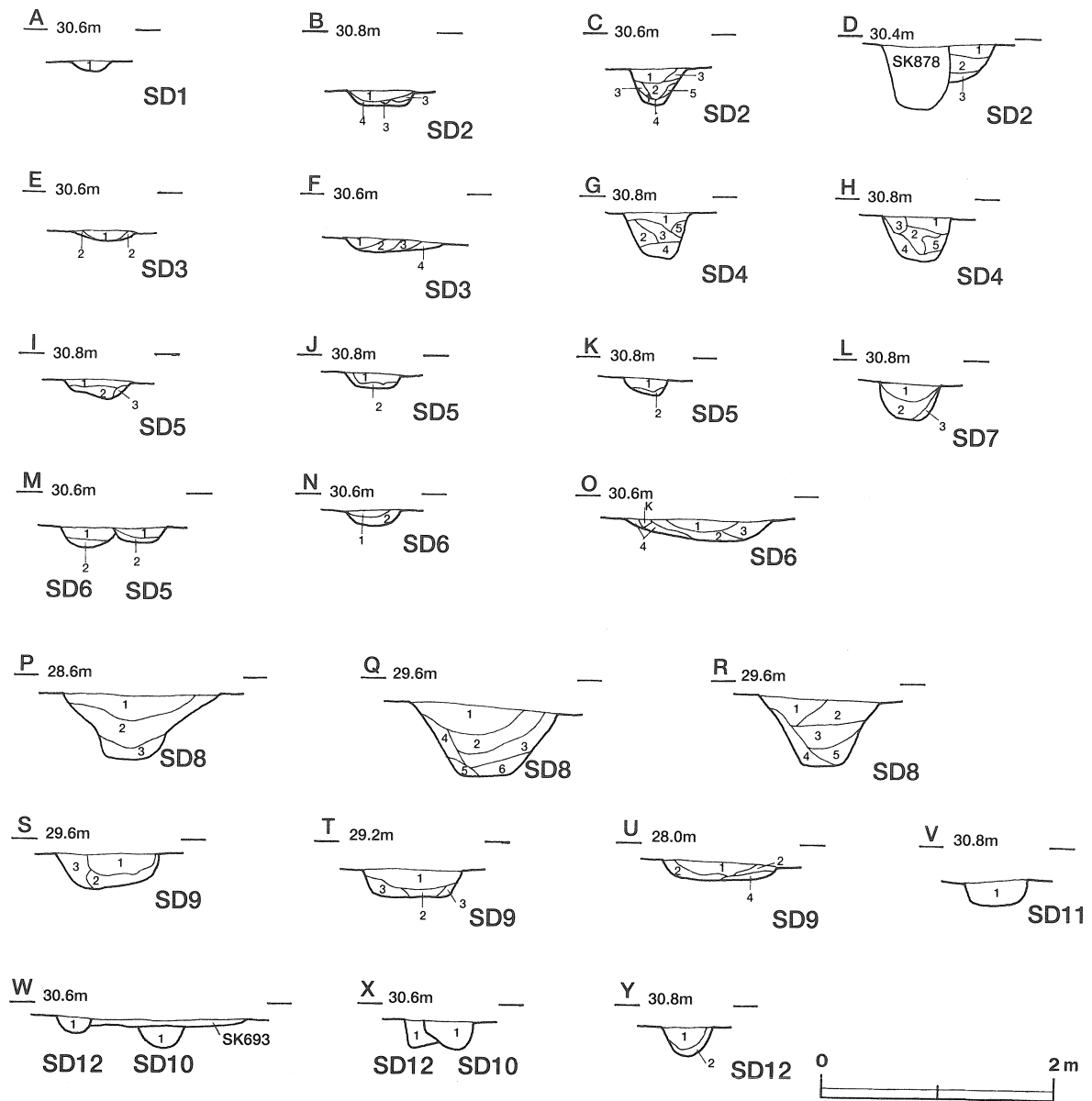
**所見** 出土遺物は、流れ込みや住居跡を掘り込んだ際に混入したものと思われる。時期及び性格は不明である。

### 第9号溝跡 (第259図・付図)

**位置** 調査区の東部, B 5 i1~C 3 a7区。

**重複関係** 第30号住居跡, 第320・321号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** C 3 a7区から北東方向 (N-45°-E) にほぼ直線的に延び, B 4 h1区でくの字状に屈曲し, 調査区域外 (B 5 i1区) まで, 直線的に延びている。調査できた範囲の長さは, 64.1mである。上幅0.72~0.98m, 下幅0.46~0.75m, 深さ12~30cmである。



第259图 第1~12号沟迹·第9号沟出土遗物实测图

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説 (S, T, U)

- |       |                          |       |                  |
|-------|--------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量    | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片261点, 陶器片3点, 鉄滓70gが少量出土している。第259図の460は土師器の甑で、覆土から出土している。

所見 出土遺物は、流れ込みや住居跡及び土坑を掘り込んだ際に混入したものと思われる。地籍図の筆境と溝の位置がほぼ一致する事から、区画溝と思われる。時期は、中世以降と考えられる。

SD-1土層解説 (A)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

SD-3土層解説 (E, F)

- |       |                  |       |                     |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量          | 3 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量    |

SD-4土層解説 (G, H)

- |      |                  |       |                     |
|------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量          | 4 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子微量          | 5 褐色  | ローム小ブロック少量          |
| 3 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |       |                     |

SD-10土層解説 (W, X)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

SD-11土層解説 (V)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

SD-12土層解説 (Y)

- |       |                 |       |                 |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
|-------|-----------------|-------|-----------------|

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 460	甑 土師器	A 17.7 B 15.8 C 2.4	底部から口縁部の破片。単孔式で、 体部は卵形を呈する。体部は内彎し て立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・白色 粒子 橙色 普通	70%

(4) 堀跡

第1号堀跡 (第260図・付図)

位置 調査区の北西部, B 0 g8区~D 1 b6区。

重複関係 第50号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 調査区域外 (D 1 b6区) から北西方向 (N-22°-W) の調査区域外 (B 0 g8区) の谷部に向かって、傾斜しながら直線的に延びている。調査できた範囲の長さは、58.6mである。上幅2.52~4.83m, 下幅0.81~1.03m, 深さ23~167cmで、断面形はU字状を呈する。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

(A-A')

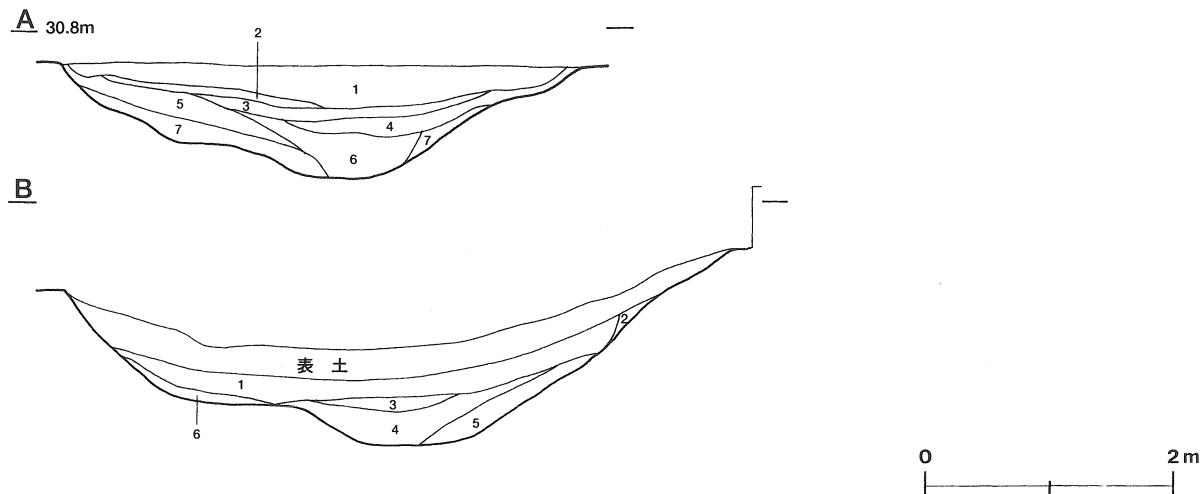
- |       |                              |       |                     |
|-------|------------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量             | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 黒色  | ローム粒子微量                      | 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量                      | 7 暗褐色 | ローム粒子少量             |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |       |                     |

(B-B')

- |       |                     |       |                         |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量             | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量        |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼軽石粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・小礫微量              |

**遺物** 覆土から、縄文土器片7点、土師器片4点、土師質土器片4点、陶器片10点が出土している。

**所見** 調査区域外の谷部に向かって傾斜していることから、自然地形を生かした区画と排水を目的とした堀と考えられる。時期は、第50号住居跡を掘り込んでいることや、覆土からの出土土器から中世の可能性が考えられるが、詳細は不明である。



第260図 第1号堀跡実測図

#### (5) 不明遺構

今回の調査で、不明遺構9基を確認した。その中で、形状の異なる主な遺構について記述し、それ以外は一覧表で記載し、配置や全体の形状については遺構全体図に掲載する。

#### 第1号不明遺構 (第261図)

**位置** 調査区の南部，E 3 a0区。

**重複関係** 第2号土坑を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 長軸6.82m，短軸5.12mの不定形である。

**長軸方向** N-56°-E

**壁** 壁高は15~40cmで緩やかに立ち上がる。

**底面** 皿状を呈する。

**ピット** 23か所(P1~P23)。P1~P3・P5・P6・P8~P13・P15~P18・P20・P22・P23は径21~60cmの円形，P4・P7・P14・P19・P21は長径60~84cm，短径35~52cmの楕円形で，深さは14~90cmである。ピットは北東側から南側にかけての壁際に集中している。配列に規則性が認められず，いずれも性格は不明である。

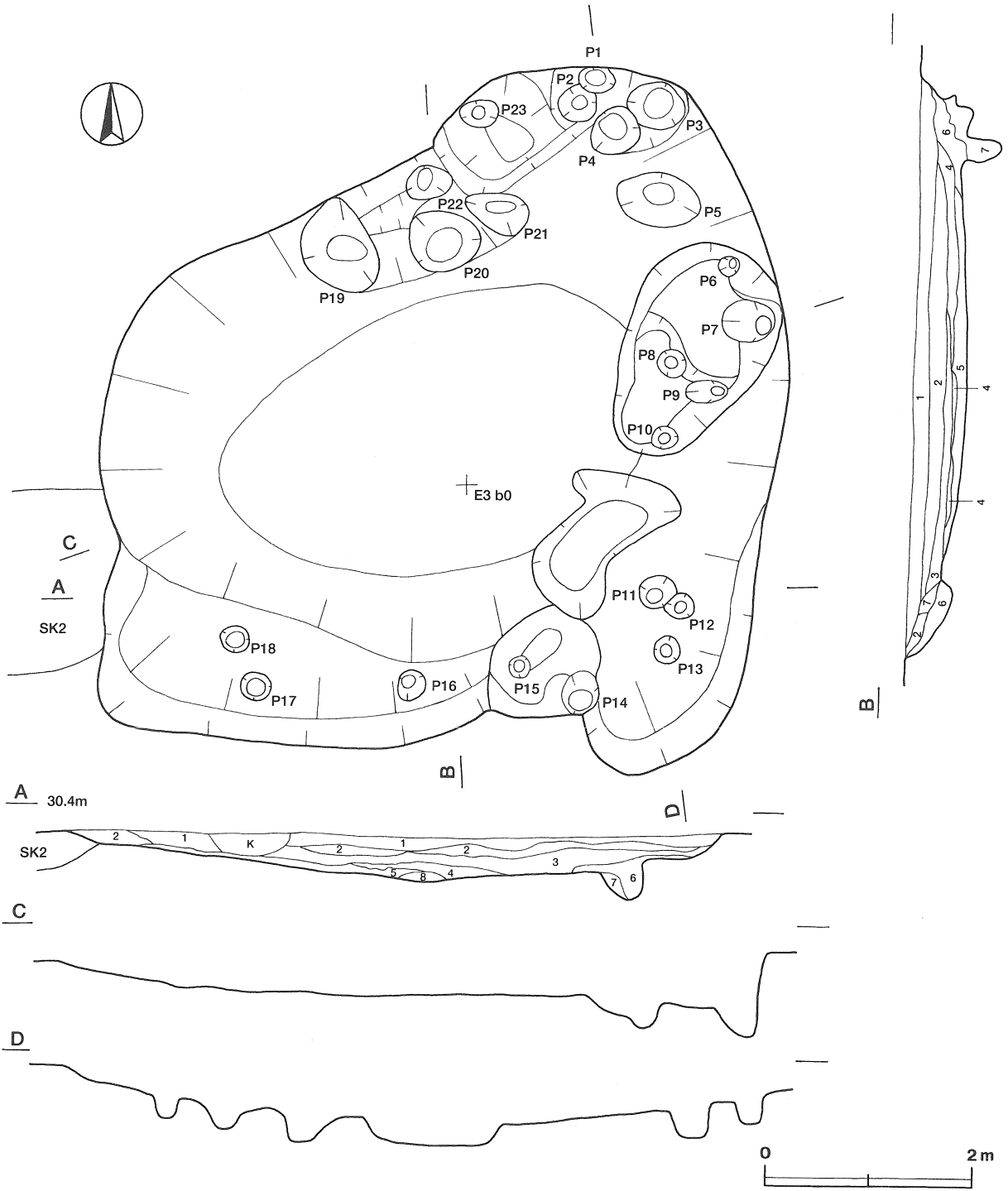
**覆土** 8層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                                |                          |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量                   | 5 黒色 ローム粒子微量             |
| 2 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量   |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量       | 7 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量                  | 8 褐色 ローム粒子多量             |

**遺物** 自然礫46点，土師器片と陶器片が少量出土している。

**所見** 覆土から出土した土器は，いずれも流れ込みとみられる。形状は大形の皿状を呈している。時期及び性格は不明である。



第261図 第1号不明遺構実測図

**第3号不明遺構 (第262図)**

**位置** 調査区の西部, D 2 f8区。

**重複関係** 中央部を第3号井戸跡に掘り込まれている。第739号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 長軸5.45m, 短軸4.18mの不定形である。

**長軸方向** N - 8° - E

**壁** 壁高は41~62cmで, 北側の壁を除きほぼ直立する。北側の壁は, 中央に向かってスロープ状に傾斜している。

**壁溝** 南側から西側にかけて巡っている。上幅20~23cm, 下幅8~12cm, 深さ10cmで, 断面形はU字状である。

**底面** 平坦である。

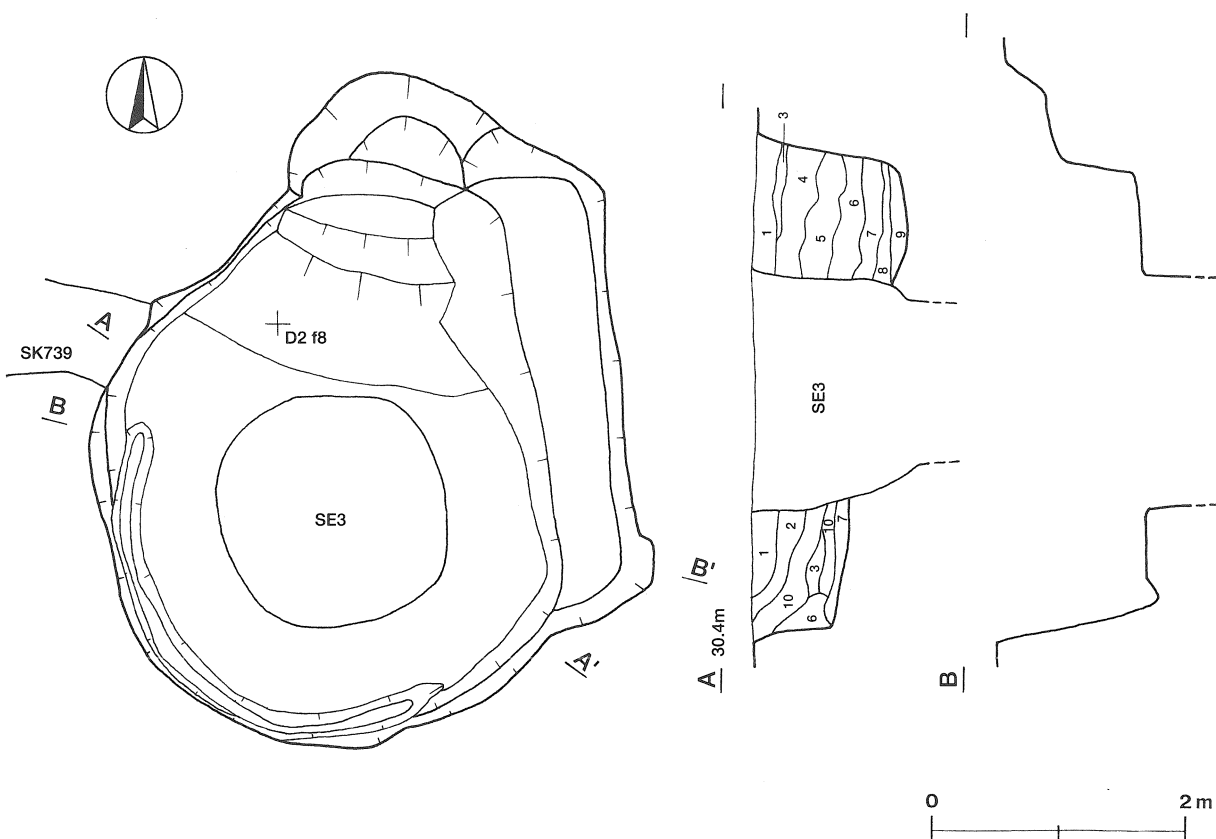
**覆土** 10層からなり, ロームブロックを主体としていることから人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量

**遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 15世紀後半の第3号井戸に掘り込まれていることから, それ以前と考えられる。性格は不明である。



第262図 第3号不明遺構実測図

**第4号不明遺構 (第263図)**

**位置** 調査区の西部, D 2 d9区。

**重複関係** 第132号土坑の上部を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 長径8.29m, 短径5.76mの楕円形である。

**長径方向** N-72°-E

**壁** 壁高は6~32cmで緩やかに立ち上がる。

**底面** 皿状を呈する。

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P3~P5は径39~62cmの円形，P2は長径44cm，短径70cmの楕円形で，深さは25~45cmである。配列に規則性が認められず，いずれも性格は不明である。

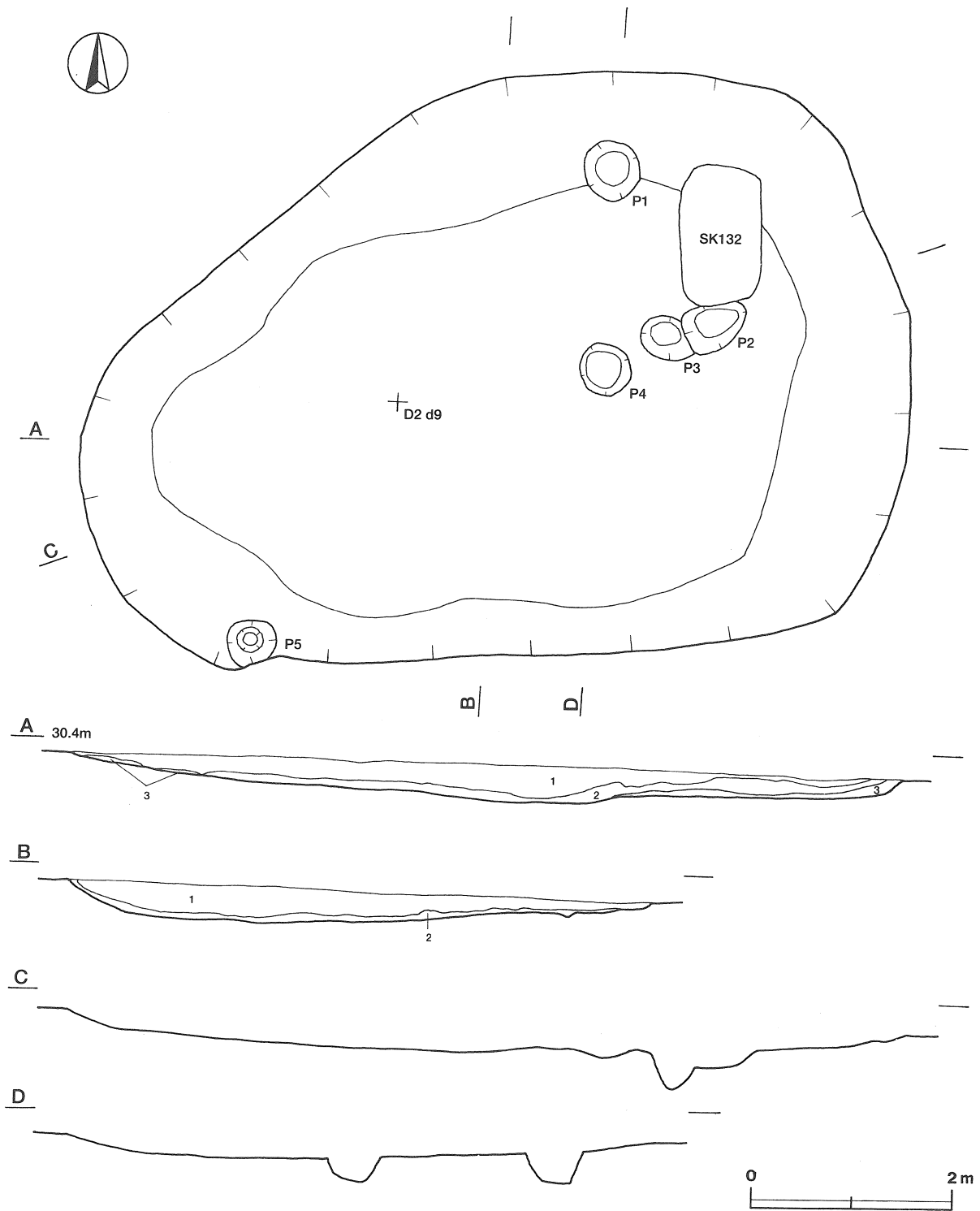
覆土 3層からなり，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

2 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量



第263図 第4号不明遺構実測図

遺物 自然礫18点，土師器片と陶器片が覆土から少量出土している。

所見 覆土から出土した土器は，いずれも流れ込みとみられる。形状は大形の皿状を呈し，第1号不明遺構と類似した形状である。時期及び性格は不明である。

### 第6号不明遺構（第264図）

位置 調査区の北西部，C 2 e9区。

重複関係 第208号土坑と第3号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

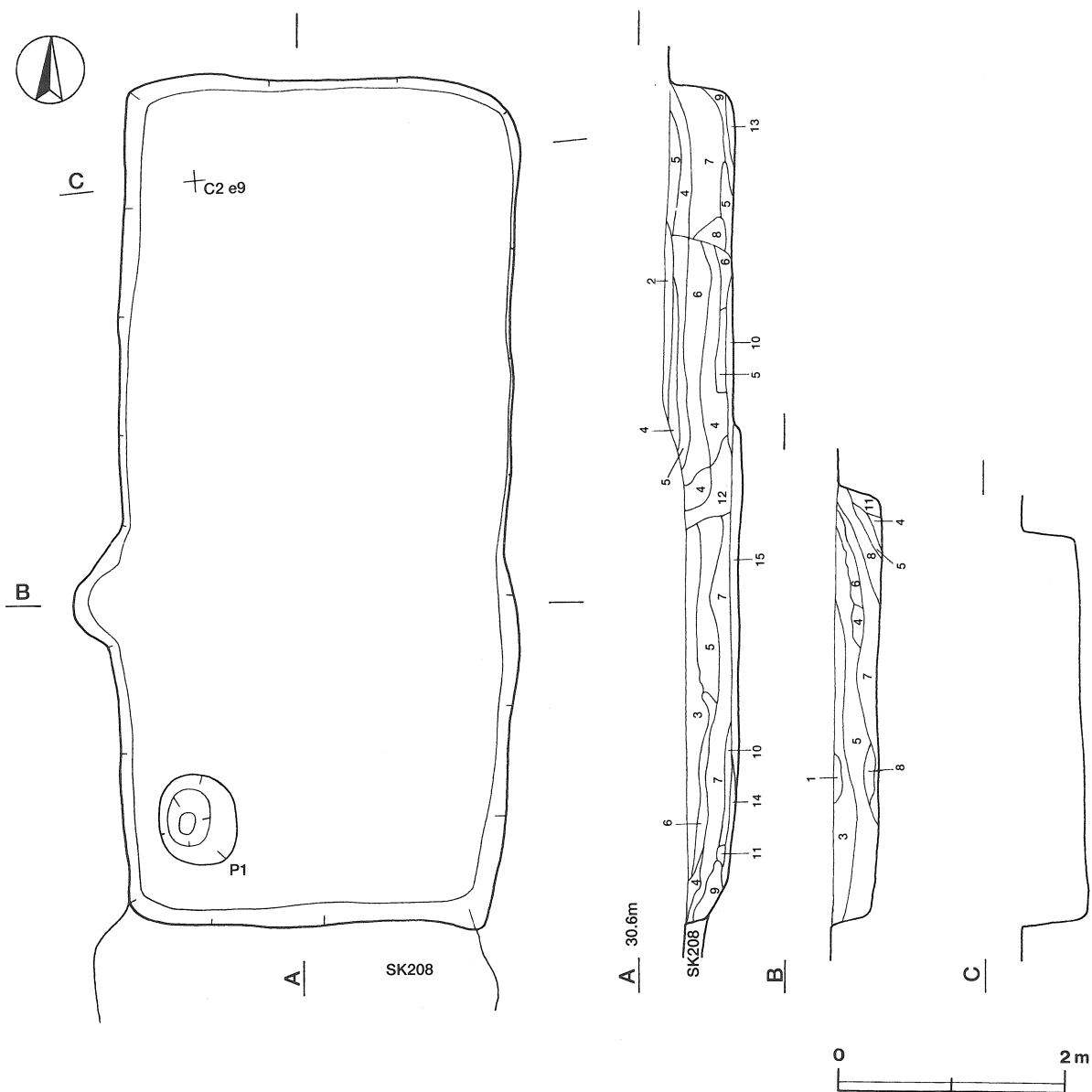
規模と平面形 長軸8.16m，短軸3.46mの長方形である。

長軸方向 N-8°-E

壁 壁高は41~62cmで，ほぼ直立する。

底面 平坦である。

覆土 15層からなり，ロームブロックを主体としていることから人為堆積と考えられる。



第264図 第6号不明遺構実測図



#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
7	暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
11	黒褐色	ローム粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
13	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
14	黒褐色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量
15	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量

**遺物** 混入したとみられる土師器片68点, 陶器片1点が出土している。

**所見** 時期を判断できる遺物は出土していない。時期及び性格は不明である。

#### (6) ピット群

今回の調査で, ピット群を3か所確認した。以下, その特徴について記述する。

##### 第1号ピット群 (第265図)

**位置** 調査区の中央部, C 2 j0区~D 2 a7区。

**規模と形状** 南北約8m, 東西約16mの長方形の範囲から, 112か所のピットを確認した。ピットの平面形は径16~54cmの円形あるいは楕円形で, 深さは10~68cmである。

**遺物** 第266図のM23~M27は古銭である。第31号ピットの覆土からM27の古銭, 第41号ピットの覆土からM23~M26の古銭が出土している。

**所見** 中世の墓壇の可能性をもつ遺構と隣接していることから, 墓域と関連するピットの可能性が考えられる。第31・41号ピットの時期は中世と推定されるが, 他のピットから遺物が出土していないことから, 時期及び性格は不明である。

##### 第2号ピット群 (第267図)

**位置** 調査区の中央部, D 2 j1区~D 3 b2区。第1号ピット群の南西側に位置している。

**規模と形状** 南北約9m, 東西約9mの方形の範囲から, 43か所のピットを確認した。ピットの平面形は径21~74cmの円形あるいは楕円形で, 深さは12~55cmである。

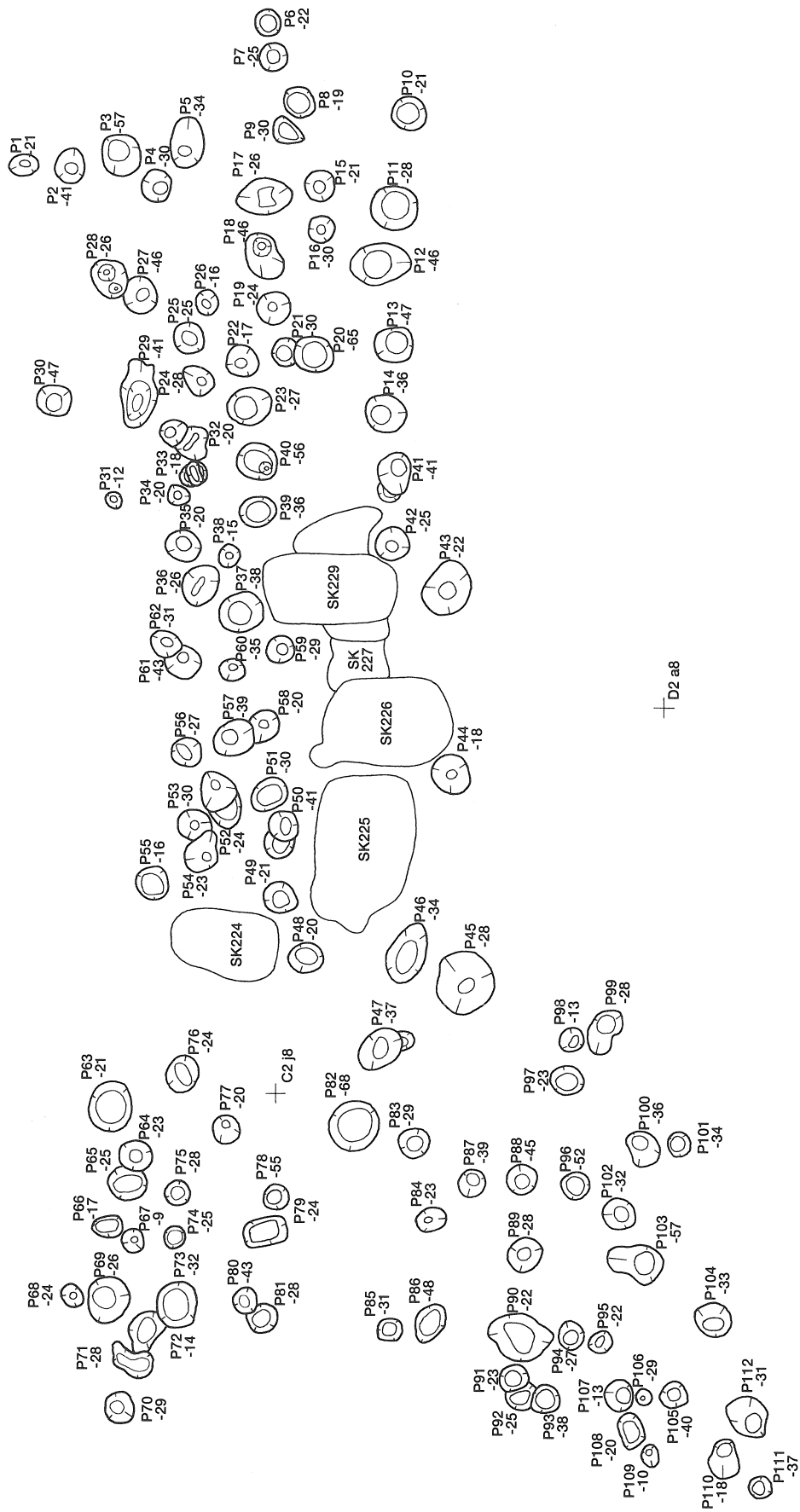
**所見** 中世の墓壇の可能性をもつ遺構と隣接する位置に存在していることから, 墓域と関連するピットの可能性が考えられる。ピットから遺物が出土していないことから, 時期及び性格は不明である。

##### 第3号ピット群 (第278図)

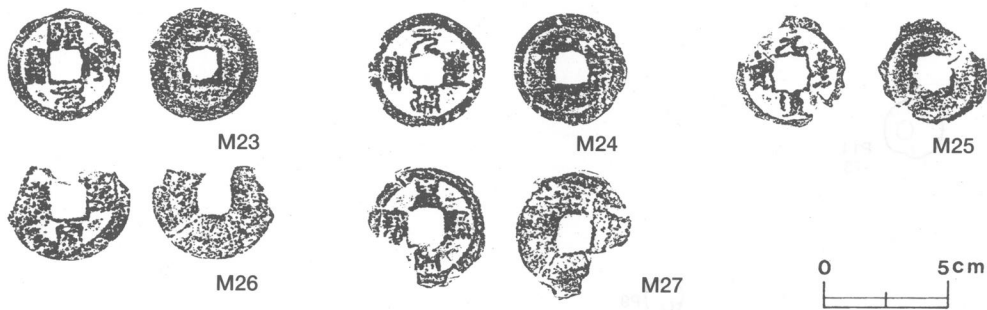
**位置** 調査区の中央部, C 3 e8区~C 3 h0区。

**規模と形状** 南北約11m, 東西約12mの長方形の範囲から, 20か所のピットを確認した。ピットの平面形は径24~55cmの円形あるいは楕円形で, 深さは17~76cmである。

**所見** 古墳時代の住居跡及び時期不明の土坑の周辺に存在している。柱や柵列が立てられた可能性も考えられるが, 対応関係を把握することができなかった。ピットから遺物が出土していないことから, 時期及び性格は不明である。



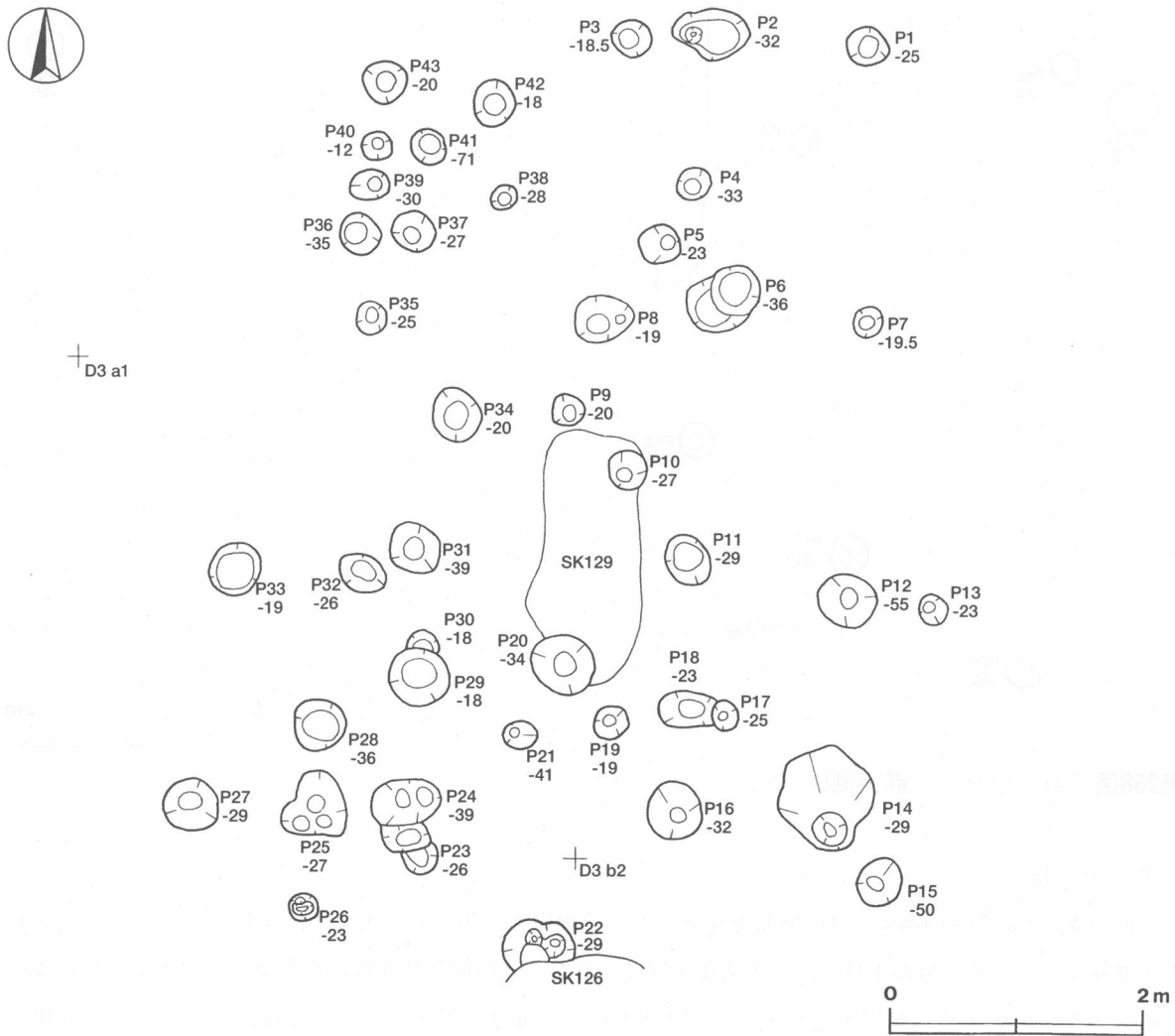
第265図 第1号ピット群実測図



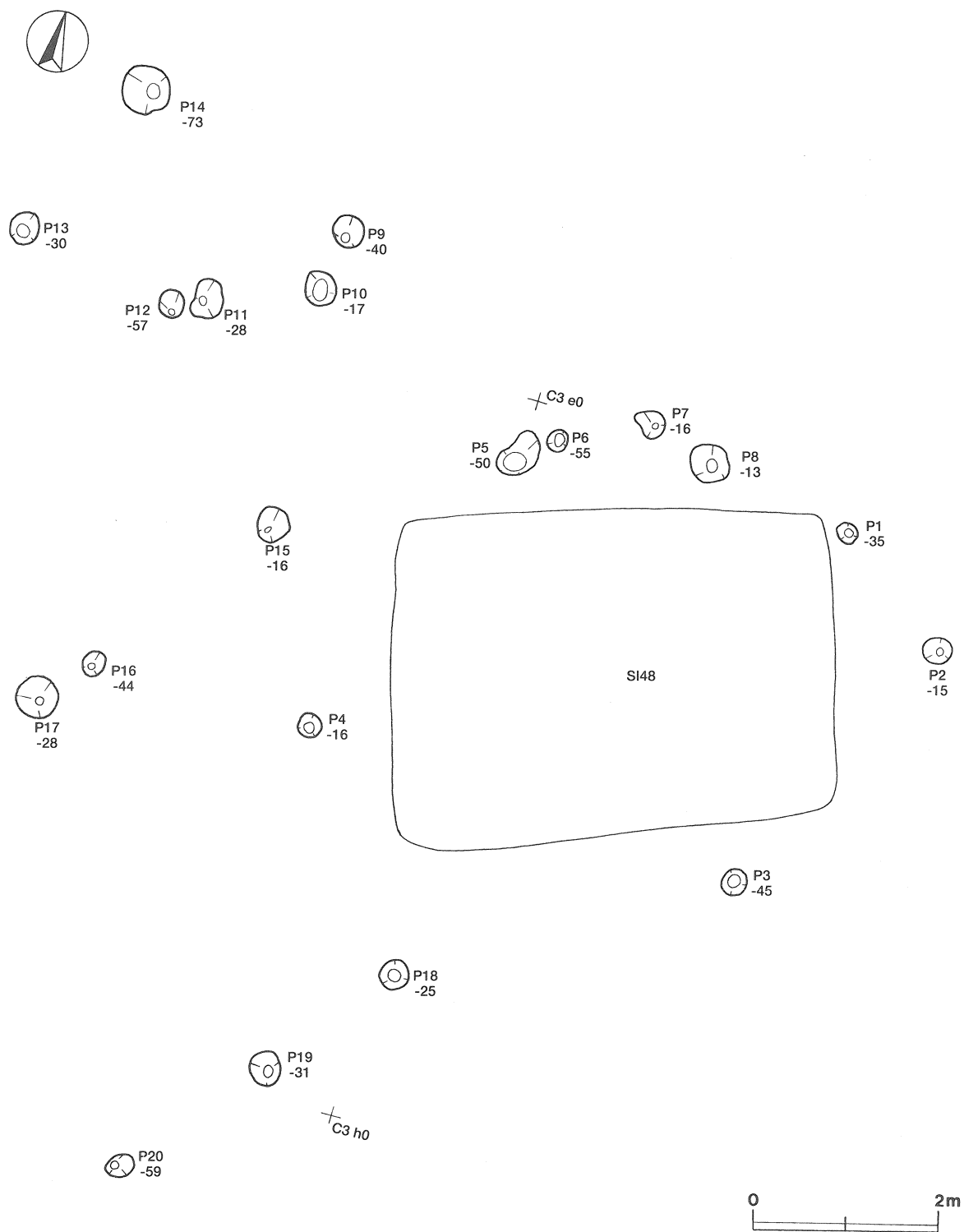
第266図 第1号ピット群出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備 考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時 代	西 暦	
第266図M23	熙寧元寶?	2.4	0.1	0.6	2.6	北宋	1068年か	
M24	元豊通寶	2.4	0.1	0.7	2.5	北宋	1078年	
M25	元豊通寶	2.3	0.1	0.7	1.5	北宋	1078年	
M26	-宋通〇?	( 2.5)	0.1	0.7	( 1.7)	北宋	1038年か	
M27	皇宋通寶	2.4	0.1	0.6	1.2	北宋	1038年	



第267図 第2号ピット群実測図



第268図 第3号ピット群実測図

(7) 土坑

今回の調査で、時期不明の土坑758基を検出した。その中で、馬の骨が出土し、埋葬したと考えられる土坑を4基検出した。その他の土坑は、出土遺物がほとんどなく、時期及び性格が不明な土坑である。形状は、長方形・方形・円形・楕円形・不定形・ピット状のものとさまざまである。ここでは、下記のように分類し、(ア)については本文に記述し、(イ)から(ク)についてはそれぞれ特徴あるものを抽出して実測図に掲載し、位

置や規模については一括して一覧表に記載する。

- ア 馬骨が出土した土坑・・・4基
- イ 長軸が短軸の2倍以上の長さの長方形及び隅丸長方形の土坑・・・123基
- ウ 長軸が短軸の2倍以内の長さの長方形及び隅丸長方形の土坑・・・163基
- エ 方形及び隅丸方形の土坑・・・22基
- オ 円形の土坑・・・62基
- カ 楕円形の土坑・・・251基
- キ 不定形の土坑・・・42基
- ク 長軸（径）が80cm以内のピット状の土坑・・・91基

(ア) 馬骨が出土した土坑

#### 第26号土坑（第269図）

**位置** 調査区の南部，D 4 i3区。

**規模と形状** 長径1.9m，短径1.5mの楕円形で，深さ28cmである。底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がる。

**長径方向** N-76°-W

**覆土** 6層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

##### 土層解説

- |       |                    |       |                    |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量            | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量   |
| 2 黒色  | ローム粒子少量            | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 黒色  | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 6 褐色  | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |

**遺物** 東壁際の覆土下層から馬の歯が出土している。中央部の覆土下層から骨の小片が出土しているが，遺存状態は悪く，取り上げられなかった。

**所見** 馬を埋葬した土坑の可能性が考えられる。時期は不明である。

#### 第236号土坑（第269図）

**位置** 調査区の西部，C 1 e0区。

**規模と形状** 長径1.63m，短径1.3mの楕円形で，深さ17cmである。底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

**長径方向** N-48°-E

**覆土** 6層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

##### 土層解説

- |       |                         |       |                    |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量                 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量        | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量   |

**遺物** 北東壁際の底面から馬の歯が出土している。中央部の覆土下層から骨の小片が出土しているが，遺存状態は悪く，取り上げられなかった。

**所見** 馬を埋葬した土坑の可能性が考えられる。時期は不明である。

#### 第532号土坑（第269図）

**位置** 調査区の中央部，C 3 j6区。

**規模と形状** 長軸1.56m，短軸0.7mの隅丸長方形で，深さ50cmである。底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

長軸方向 N-4°-E

覆土 6層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子微量          | 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量    |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量          | 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量          |

遺物 南壁際の覆土下層から馬の歯が出土している。歯以外の骨は出土していない。

所見 馬を埋葬した土坑の可能性が考えられる。時期は不明である。

第595号土坑 (第269図)

位置 調査区の中央部, C 3 f8区。

規模と形状 長軸1.52m, 短軸1.12mの隅丸長方形で、深さ14cmである。底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

長軸方向 N-7°-W

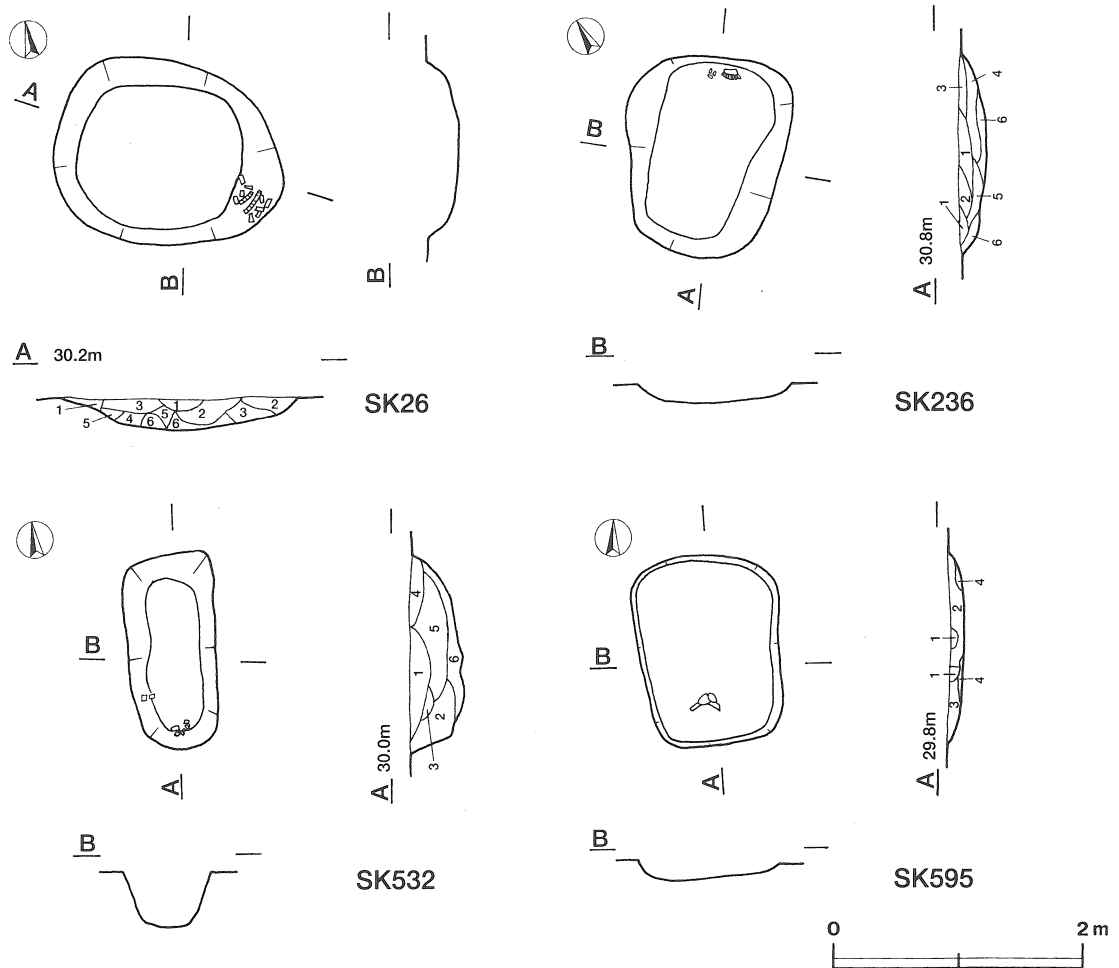
覆土 4層からなる。不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

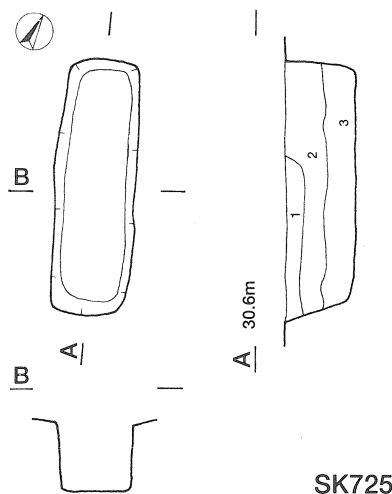
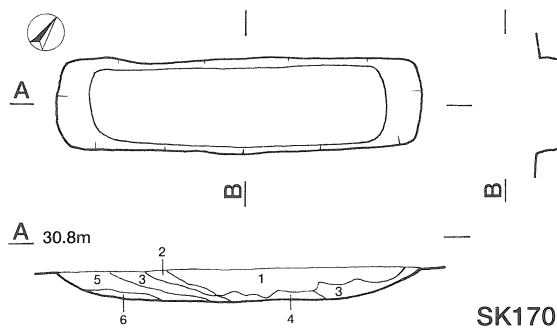
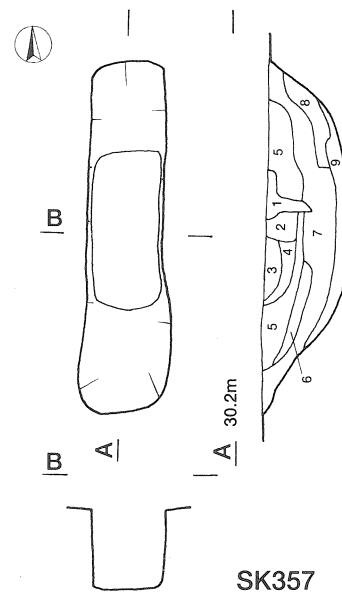
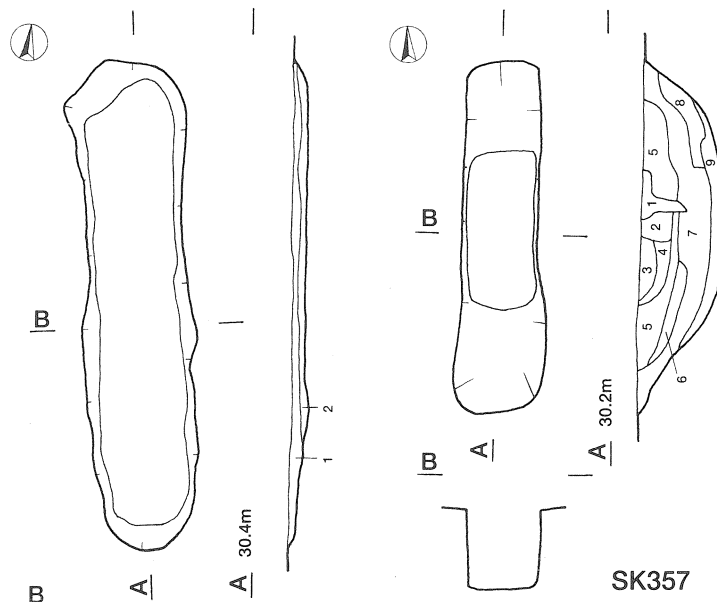
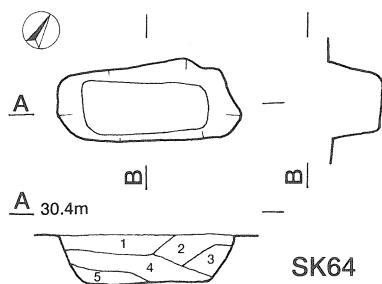
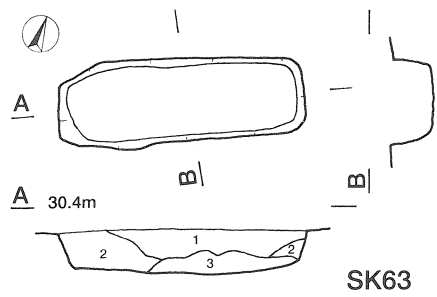
- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量  | 3 黒色 ローム粒子少量           |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 南側壁寄りの底面から、馬の足の部分の骨が出土している。

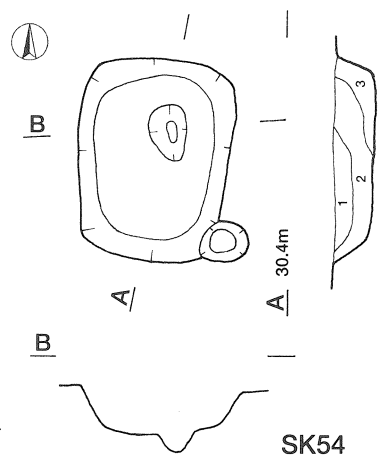
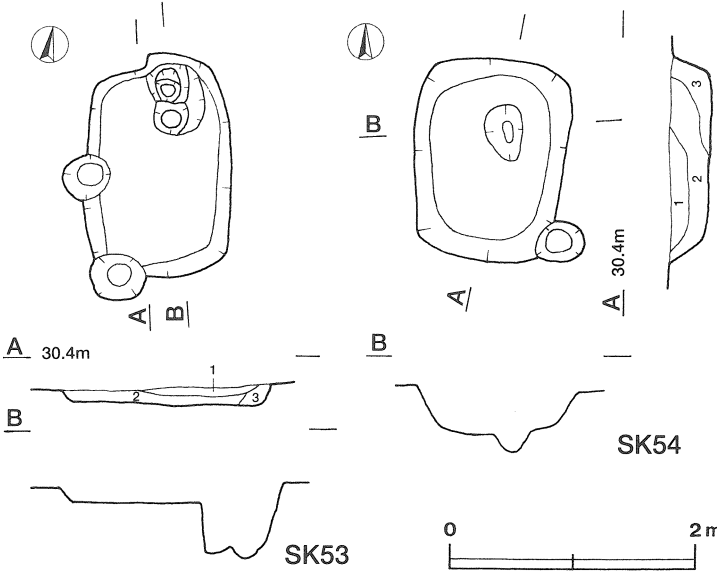
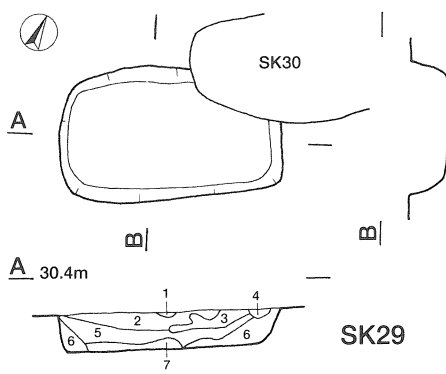
所見 馬を埋葬した土坑の可能性が考えられる。時期は不明である。



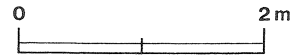
第269図 第26・236・532・595号土坑実測図



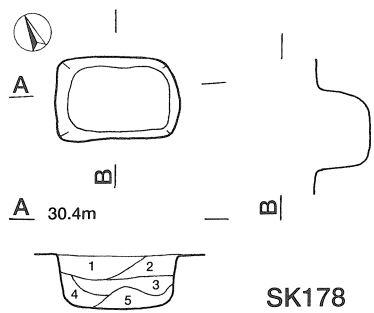
<分類 (イ) 土坑>



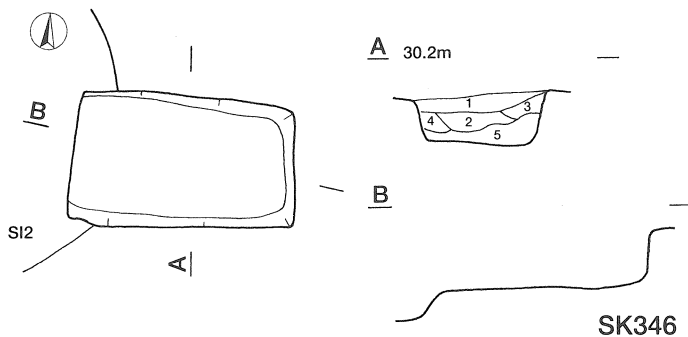
<分類 (ウ) 土坑>



第270図 土坑実測図(1)

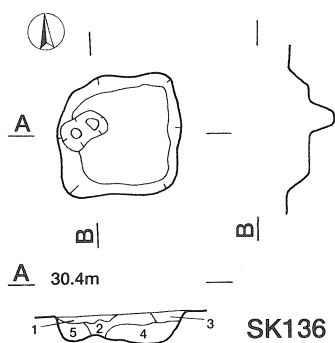


SK178

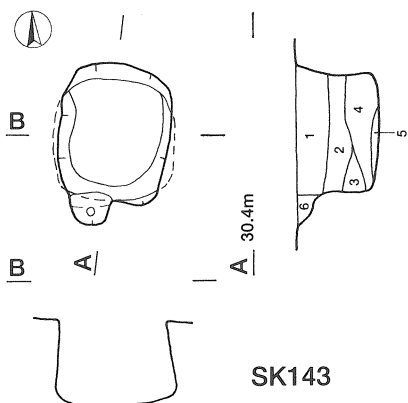


SK346

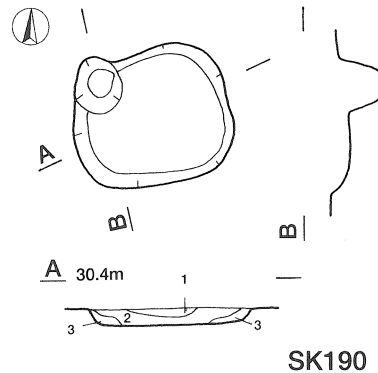
<分類 (ウ) 土坑>



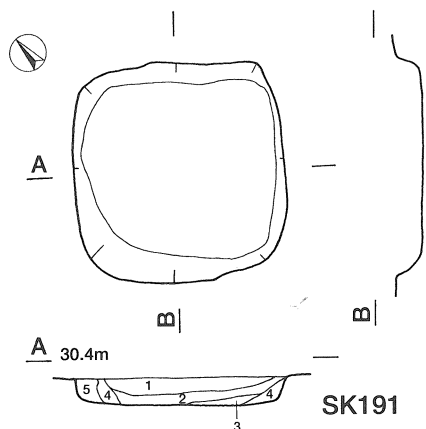
SK136



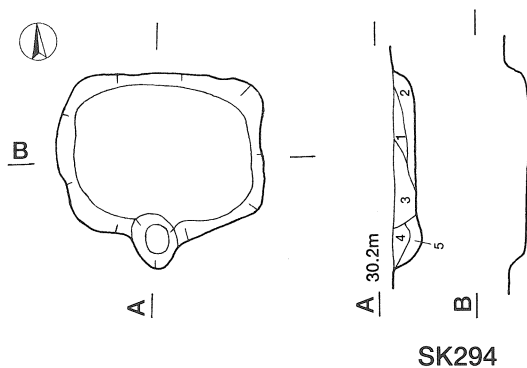
SK143



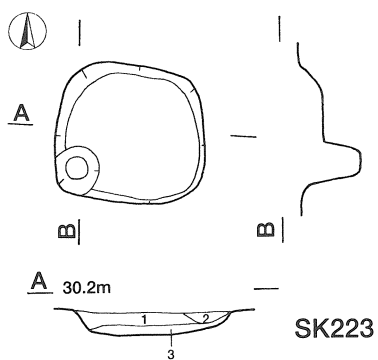
SK190



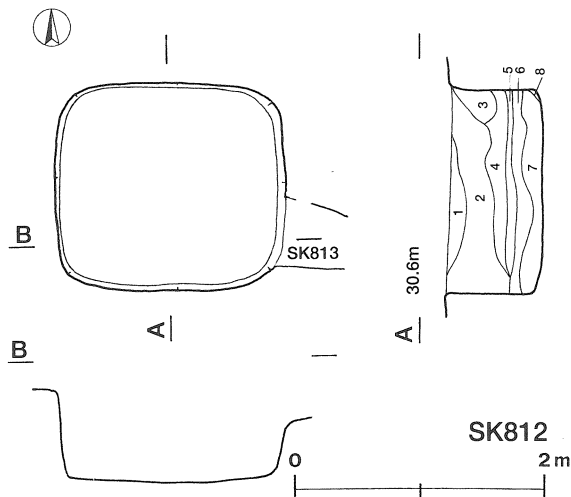
SK191



SK294



SK223

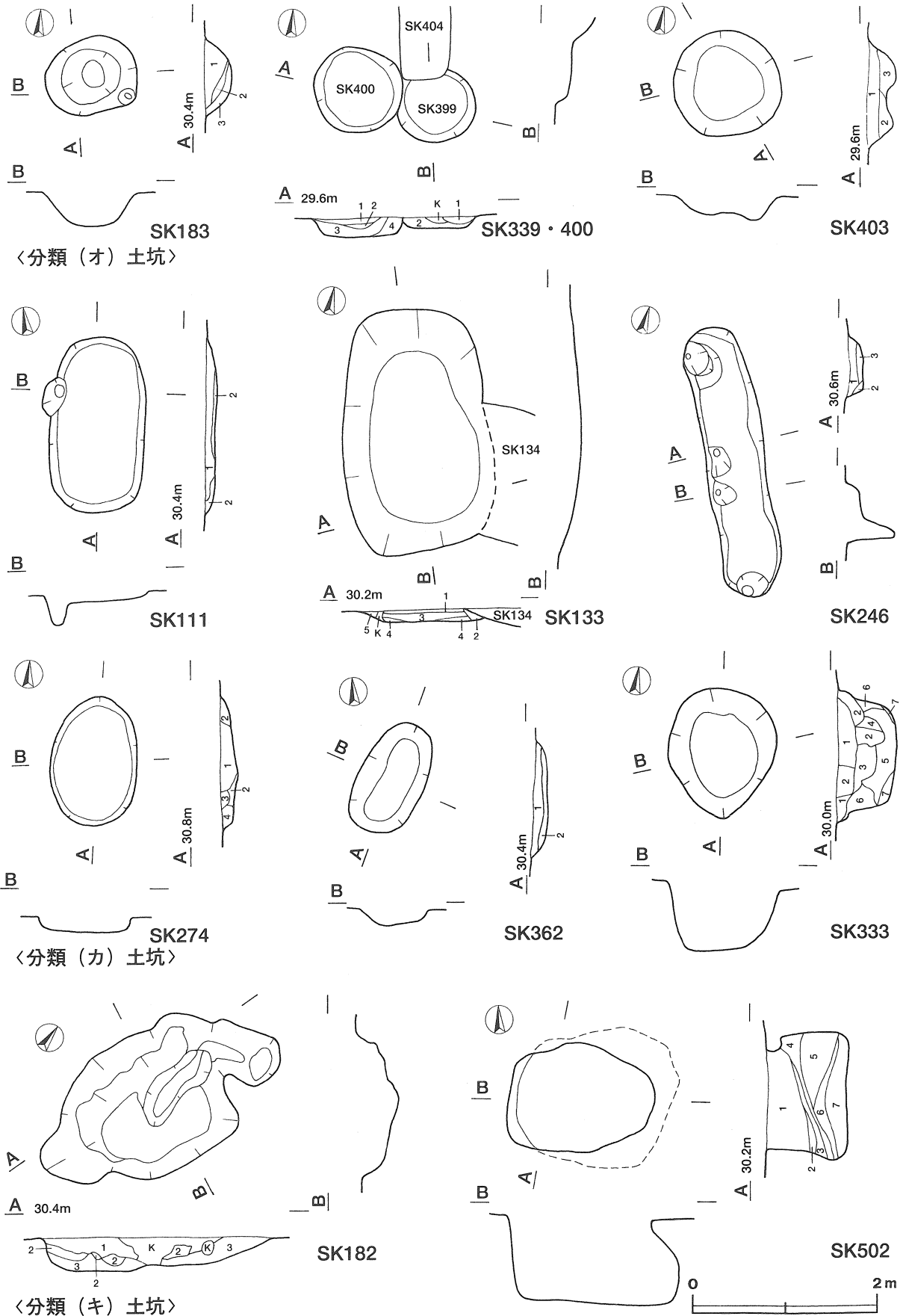


SK812

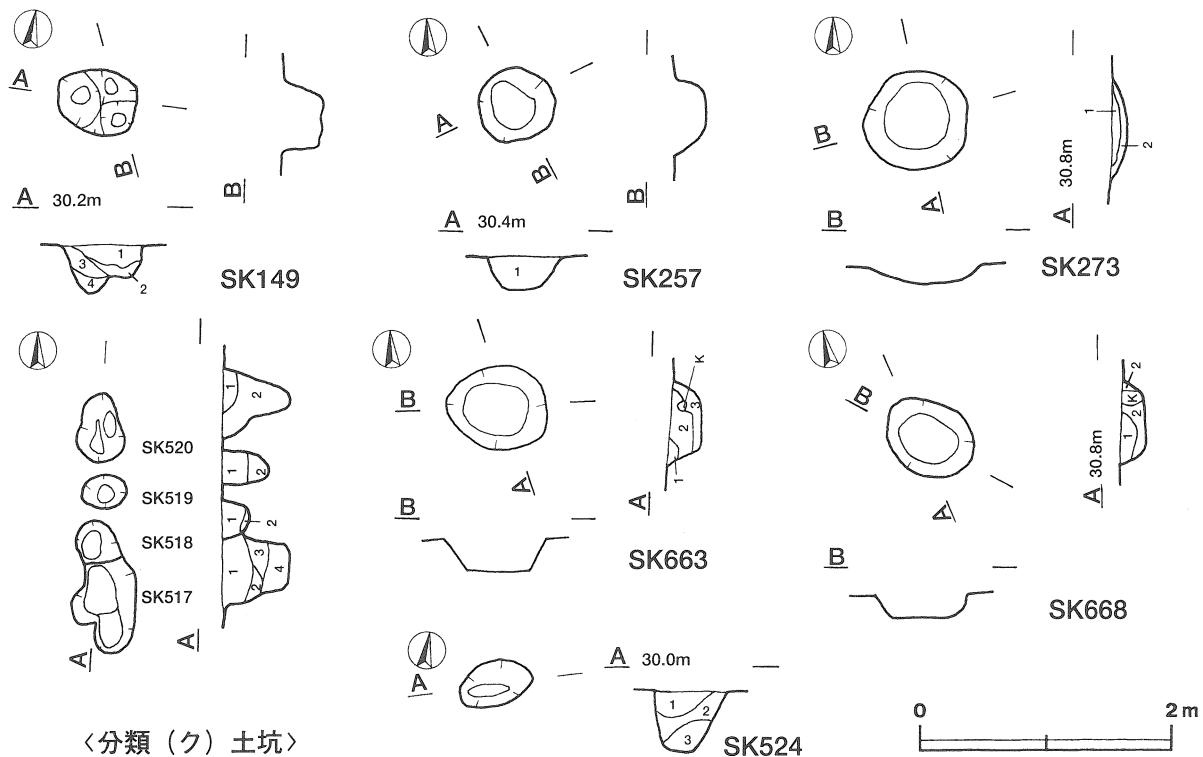
<分類 (工) 土坑>

第271図 土坑実測図(2)





第272図 土坑実測図(3)



〈分類(ク)土坑〉

第273図 土坑実測図(7)

分類(イ)土坑土層解説

第63号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 黒色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 3 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

第170号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 黒色 ローム粒子少量

第343号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 9 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

第725号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

分類(ウ)土坑土層解説

第29号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第53号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子少量

第54号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 黒色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

#### 第178号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

#### 第346号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

#### 分類(エ)土坑土層解説

##### 第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

##### 第143号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

##### 第190号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

##### 第191号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子中量
- 5 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

##### 第223号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

##### 第294号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量

##### 第812号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

#### 分類(オ)土坑土層解説

##### 第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

##### 第399号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

##### 第400号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

##### 第403号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

#### 分類(カ)土坑土層解説

##### 第111号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

##### 第133号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

##### 第246号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

##### 第274号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック微量

##### 第333号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量

第362号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

分類(キ)土坑土層解説

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第502号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

分類(ク)土坑土層解説

第149号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

第257号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第273号土坑 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量

第517号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第518号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第519号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第520号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第524号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第663号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第668号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

表2 土坑一覧表<7 その他の時代の遺構と遺物(7)>

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
1	E 4 a5	(N-81°-W)	[楕円形]	1.04 × (0.81)	13	緩斜	皿状	自然		
2	E 3 b8	N-82°-E	楕円形	4.06 × 1.78	40	緩斜	皿状	人為	土師器片	本跡→SX1, SK3
3	E 3 b8	(N-86°-W)	[楕円形]	(4.34) × 0.67	18	外傾	皿状	人為	土師器片	SK2→本跡
4	E 4 a4	N-75°-W	長方形	1.96 × 1.22	10	直立	平坦	人為	土師器片	SI2→本跡
5	D 4 i4	-	円形	1.10 × 0.97	12	緩斜	凹凸	自然		
6	D 4 e5	N-0°	楕円形	4.82 × 2.16	14	緩斜	皿状	自然		
7	E 3 d8	N-10°-E	楕円形	0.84 × 0.64	22	外傾	皿状	自然		SK8→本跡
8	E 3 d8	-	[円形]	0.67 × (0.61)	20	外傾	皿状	自然		本跡→SK7
9	E 3 d9	N-44°-W	楕円形	1.55 × 0.54	23	外傾	平坦	自然		
10	E 3 d9	-	[円形]	0.82 × (0.44)	24	外傾	皿状	自然		本跡→SK11
11	E 3 d9	N-39°-E	楕円形	1.13 × 0.59	32	外傾	皿状	自然		SK10→本跡
12	E 3 e8	N-70°-E	不整楕円形	5.94 × 1.42	46	直立	平坦	自然		本跡→SK13
13	E 3 e8	-	円形	1.29 × 1.15	12	直立	凹凸	自然		SK12→本跡
14	E 4 d3	-	円形	径 0.88	30	緩斜	平坦	自然		
15	E 4 c4	-	円形	1.06 × 1.00	9	緩斜	平坦	自然	須恵器片	
16	E 4 c4	N-48°-E	隅丸長方形	1.64 × 0.94	36	緩斜	皿状	自然		SF1→本跡

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
17	D 4 i4	N-15°-W	楕円形	0.96 × 0.74	20	緩斜	平坦	自然		
18A	D 4 f6	—	[円形]	1.01 × (0.66)	46	直立	平坦	人為	陶器片	18B→本跡
18B	D 4 f6	N-6°-W	楕円形	1.78 × 0.28	42	直立	平坦	人為		本跡→18A
20A	D 4 f1	N-2°-E	楕円形	0.78 × 0.62	24	外傾	平坦	人為		SK21→本跡→20A
20B	D 4 f1	N-3°-W	楕円形	0.74 × 0.44	44	外傾	平坦	人・自		SK21→20A→本跡
21	D 4 f1	N-47°-W	楕円形	1.76 × 1.54	22	外傾	平坦	自然		本跡→SK20A,B
22	D 4 g2	N-9°-W	楕円形	1.44 × 1.24	12	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
23	D 4 g1	[N-8°-W]	[楕円形]	(1.46) × 1.24	18	外傾	凹凸	人為		
24	D 4 f1	N-77°-W	楕円形	1.14 × 0.54	6	外傾	平坦	自然		
25	D 4 h3	N-52°-E	楕円形	2.18 × 1.70	5	外傾	平坦	自然		
26	D 4 i3	N-76°-W	楕円形	1.90 × 1.50	28	緩斜	凹凸	人為	馬骨(歯)	
28	E 4 a2	N-88°-W	楕円形	1.36 × 0.95	15	外傾	平坦	人為	土師器片	
29	E 4 b2	N-5°-W	隅丸長方形	1.79 × 1.08	32	直立	平坦	人為		本跡→SK30
30	E 4 a2	N-9°-W	隅丸長方形	3.10 × 0.96	31	外傾	平坦	人為		SK29→本跡
31	E 4 a2	N-87°-W	楕円形	1.79 × 1.12	18	外傾	平坦	人為	土師質土器片	
32	D 4 f1	N-3°-E	楕円形	1.63 × 1.20	57	直立	平坦	人為	弥生土器片	本跡→SX2
33	E 3 d7	N-12°-W	長方形	2.05 × 0.58	16	直立	平坦	自然		
34	E 3 d7	N-30°-W	[楕円形]	1.06 × (0.61)	12	外傾	皿状	自然		本跡→SD2
36	D 4 j2	N-40°-W	楕円形	2.10 × 0.99	8	外傾	凹凸	人為		
37	D 4 g2	N-72°-W	不整楕円形	1.98 × 1.34	9	外傾	凹凸	自然		
38	E 4 c4	—	円形	1.08 × 1.04	20	外傾	皿状	自然	土師器片	
40	E 3 b7	N-66°-E	長方形	3.18 × 0.64	62	直立	平坦	人為	土師器片	
41	D 3 h7	N-11°-E	楕円形	1.36 × 0.76	10	外傾	平坦	人為		
43	D 3 i7	N-75°-E	楕円形	1.22 × 0.60	26	外傾	凹凸	人為	土師器片	SK44→本跡
44	D 3 i6	N-6°-E	楕円形	1.62 × 0.92	22	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK43
50	D 3 g4	N-52°-E	楕円形	1.72 × 1.34	42	外傾	凹凸	人為		
53	D 3 g4	N-8°-W	隅丸長方形	1.72 × 1.14	28	外傾	平坦	人為		
54	D 3 g4	N-13°-E	隅丸長方形	1.64 × 1.22	38	外傾	平坦	人為		
55	D 3 f3	—	円形	1.22 × 1.16	26	緩斜	凹凸	人為		
57	D 4 f1	N-16°-E	隅丸長方形	1.24 × 0.94	8	外傾	平坦	自然		
58	D 3 h2	N-75°-E	隅丸長方形	1.72 × 1.42	12	外傾	平坦	人為		
59	D 3 g2	—	円形	1.18 × 1.14	10	外傾	平坦	人為		
60	E 4 c5	—	円形	1.36 × 1.31	12	緩斜	凹凸	自然		
62	D 3 g1	N-21°-E	不整楕円形	1.96 × 0.95	55	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK63
63	D 3 g1	N-73°-E	長方形	1.97 × 0.66	33	直立	平坦	人為		SK62→本跡
64	D 3 f2	N-72°-E	隅丸長方形	1.44 × 0.62	42	外傾	平坦	人為	土師器片	
65	D 3 f1	N-68°-E	長方形	1.82 × 0.62	41	直立	平坦	人為	土師器片	
66	D 3 f1	N-74°-E	長方形	2.29 × 0.59	43	直立	平坦	人為	土師器片, 陶器片	
68	D 4 e1	N-22°-E	不整楕円形	1.12 × 0.98	38	外傾	凹凸	人為		S15→本跡
69	D 2 f0	N-17°-E	隅丸長方形	1.62 × 1.30	25	外傾	平坦	人為		
70	D 2 e0	N-3°-W	隅丸長方形	2.80 × 1.03	43	直立	平坦	人為		
71	D 2 f9	N-68°-E	長方形	1.64 × 0.66	34	外傾	平坦	人為		
72A	D 2 e9	[N-5°-E]	[不整楕円形]	(2.00) × 1.23	15	緩斜	平坦	人為		本跡→SK72B
72B	D 2 e0	N-3°-W	長方形	1.58 × 1.03	20	外傾	平坦	人為	陶器片	SK72A→本跡
73	D 2 e8	—	円形	1.14 × 1.03	15	外傾	平坦	人為		
74	D 3 h1	N-77°-W	隅丸長方形	1.60 × 0.67	18	外傾	皿状	人為		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
75	D 3 e8	N-15°-E	隅丸長方形	2.03 × 0.77	24	外傾	凹凸	自然		SK76→本跡
76	D 3 e8	[N-60°-E]	[楕円形]	[1.50] × 1.20	16	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	本跡→SK75
77	D 3 e9	N-72°-W	楕円形	3.27 × 0.75	8	外傾	平坦	人為		本跡→SK78
78	D 3 e9	N-12°-E	隅丸長方形	2.33 × 1.00	8	外傾	平坦	人為		SK77→本跡
79	D 4 e2	—	円形	1.05 × 0.95	21	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
80	D 3 e3	N-23°-E	楕円形	0.98 × 0.61	15	外傾	皿状	人為		
81	D 4 d2	N-10°-E	隅丸長方形	1.92 × 1.10	76	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	SI5→本跡→SK130
82	D 4 d1	N-4°-E	隅丸長方形	2.42 × 1.17	19	緩斜	平坦	自然	土師器片	SI5→SK83→本跡
83	D 4 d1	N-68°-W	楕円形	3.23 × 1.64	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK82
85	D 4 c1	[N-85°-W]	[長方形]	[2.15] × 1.35	13	直立	平坦	人為		本跡→SK84
86	D 3 d4	—	円形	1.31 × 1.21	20	外傾	平坦	人為		SK87→本跡
87	D 3 d4	N-72°-W	隅丸長方形	1.58 × 1.10	30	直立	平坦	人為	弥生土器片	本跡→SK86, 88
88	D 3 d4	N-24°-E	隅丸長方形	1.48 × 0.90	12	外傾	平坦	人為		SK87→本跡
89	D 3 d5	N-16°-W	長方形	1.95 × 0.60	20	直立	平坦	人為		
90	D 3 d4	N-10°-W	長方形	1.36 × 0.97	14	外傾	平坦	人為		
91	D 3 e5	N-22°-W	楕円形	1.65 × 1.02	14	外傾	凹凸	自然		
92	D 3 e5	N-12°-W	長方形	1.09 × 0.51	24	直立	平坦	自然		
93	D 3 d6	N-87°-W	隅丸長方形	1.37 × 1.00	8	緩斜	平坦	人為		SK103→本跡
94	D 3 e7	N-72°-E	隅丸長方形	1.34 × 0.56	35	直立	凹凸	人為		
95	D 2 f0	N-72°-E	隅丸長方形	2.51 × 0.60	10	緩斜	凹凸	人為		SK96→本跡
96	D 2 f0	[N-3°-W]	[楕円形]	[2.50] × 0.64	7	緩斜	皿状	人為		本跡→SK95
97	D 3 e6	N-8°-W	楕円形	1.17 × 0.91	17	外傾	凹凸	自然	土師器片	
99	D 3 e7	—	円形	0.86 × 0.81	15	外傾	皿状	人為		
101	D 3 f8	N-3°-W	楕円形	1.75 × 0.85	9	外傾	平坦	人為		
102	D 3 f4	N-20°-W	長方形	1.42 × 0.61	10	外傾	平坦	人為	陶器片	SK121A→本跡→SK122
103	D 3 d6	N-44°-W	楕円形	2.56 × 1.83	38	緩斜	皿状	人為		本跡→SK93
104	D 3 f9	N-6°-E	楕円形	2.66 × 0.78	22	緩斜	皿状	自然		
108	D 4 f2	N-20°-W	楕円形	0.92 × 0.64	46	外傾	平坦	人為		
110	D 4 e3	N-12°-W	隅丸長方形	1.12 × 0.93	35	直立	平坦	人為	縄文土器片	
111	D 3 d3	N-9°-E	楕円形	1.88 × 1.03	9	外傾	平坦	自然		
113	D 3 b5	N-13°-E	隅丸長方形	1.82 × 1.65	19	直立	平坦	人為		
114	D 3 f7	N-4°-W	楕円形	5.14 × 0.60	9	緩斜	平坦	人為		
115	D 3 g9	N-3°-W	楕円形	1.88 × 0.59	30	直立	平坦	人為		本跡→SK116
116	D 3 g9	N-2°-E	楕円形	2.89 × 0.65	9	外傾	皿状	人為		SK115→本跡
117	D 3 f8	N-77°-E	不整楕円形	1.20 × 0.69	22	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片	
118	D 3 c6	N-2°-W	隅丸長方形	1.00 × 0.69	33	直立	平坦	人為		SK119→本跡
119	D 3 c6	[N-81°-E]	[隅丸長方形]	1.15 × (0.48)	18	直立	平坦	人為		本跡→SK51, 118
120	D 3 c2	N-67°-E	隅丸長方形	1.91 × 1.15	13	外傾	平坦	自然		
121A	D 3 e4	[N-80°-W]	[長方形]	[1.66] × [0.57]	28	外傾	平坦	人為		SK121B→本跡→SK102
121B	D 3 e4	[N-78°-W]	[方形]	[0.72] × [0.38]	28	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK121A
122	D 3 e4	N-72°-W	楕円形	1.32 × 0.52	40	外傾	平坦	自然		SK102→本跡→SK123
123	D 3 e4	N-25°-W	楕円形	2.73 × 1.14	28	緩斜	平坦	自然		SK122→本跡
124	D 3 c1	N-25°-W	楕円形	1.38 × 1.05	52	外傾	平坦	自然		
125	D 3 c1	N-6°-W	方形	2.21 × 2.18	10	緩斜	平坦	自然		本跡→SE1
127	D 3 b2	N-18°-E	楕円形	1.49 × 0.99	13	外傾	平坦	自然		
128	D 3 b2	N-25°-W	楕円形	0.93 × 0.71	19	外傾	皿状	自然		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
129	D 3 a2	N-0°	不整楕円形	2.20 × 0.75	9	緩斜	平坦	人為		
130	D 4 d2	[N-48°-E]	[長方形]	[1.15]×[0.57]	50	直立	平坦	人為		S15→本跡→SK81
132	D 2 c9	N-3°-W	隅丸長方形	1.40 × 0.79	18	外傾	平坦	人為		本跡→SX4
133	D 2 d0	N-12°-W	楕円形	2.63 × 1.47	26	緩斜	皿状	人為		SK134→本跡
134	D 2 d0	[N-8°-W]	[楕円形]	1.35 × (0.89)	36	緩斜	凹凸	人為	土師器片	本跡→SK133
135	D 2 b5	N-9°-W	長方形	2.28 × 0.94	30	暖斜	平坦	人為	陶器片	
136	D 2 a6	N-5°-E	隅丸方形	1.00 × 0.92	18	外傾	平坦	人為		
137	D 2 b4	N-23°-W	楕円形	1.16 × 1.03	24	外傾	平坦	人為		
138	D 2 a6	—	円形	1.15 × 1.00	22	外傾	皿状	人為	須恵器片	
139	D 2 a7	[N-11°-W]	[楕円形]	[2.44]×0.73	10	外傾	凹凸	人為		本跡→SK147
140	D 2 a7	—	円形	1.02 × 0.97	12	外傾	凹凸	自然	土師器片	
141	D 2 a7	[N-25°-W]	[楕円形]	0.99 × (0.71)	19	外傾	凹凸	人為		本跡→SK150
142	C 2 j8	N-85°-W	隅丸方形	1.27 × 1.15	53	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
143	D 2 a8	N-4°-W	隅丸方形	1.10 × 0.97	72	直立	平坦	人為	土師器片	
144	D 2 b0	N-0°	長方形	1.35 × 1.18	27	直立	平坦	人為		SK145→SK146→本跡
145	D 2 b9	[N-2°-W]	[長方形]	[1.70]×1.50	40	直立	平坦	人為		本跡→SK146→SK144
146	D 2 b0	[N-78°-W]	[長方形]	1.34 × (0.61)	31	直立	平坦	人為	土師器片	SK145→本跡→SK144
147	D 2 a7	N-21°-E	方形	1.45 × 1.10	8	外傾	凹凸	人為	須恵器片	SK139→本跡
148	C 2 j7	N-86°-E	楕円形	2.46 × 0.68	9	緩斜	凹凸	自然		
149	D 4 g3	N-55°-W	楕円形	0.65 × 0.55	33	直立	凹凸	人為		
150	D 2 a7	N-53°-E	楕円形	0.87 × 0.39	33	外傾	凹凸	人為		SK141→本跡
152	C 2 i6	N-79°-E	楕円形	2.70 × 0.40	17	直立	平坦	人為		SK153→本跡
153	C 2 i6	[N-25°-W]	[楕円形]	[1.30]×0.93	13	外傾	皿状	人為		本跡→SK152
154	C 2 j6	N-0°	隅丸長方形	2.32 × 1.30	41	直立	平坦	人為		SK156,176→本跡→SK155
155	C 2 j6	N-5°-W	隅丸方形	1.30 × 1.23	24	外傾	平坦	人為		SK156,176→SK154→本跡
156	C 2 j6	[N-4°-W]	[隅丸長方形]	(2.56)×1.05	15	外傾	平坦	人為		本跡→SK154→SK155
158	D 2 b6	—	円形	1.23 × 1.21	55	直立	皿状	人為	土師器片	SI7→本跡→SK159
159	D 2 c6	N-25°-W	楕円形	1.81 × 1.59	62	外傾	皿状	人為	土師器片	SI7→SK158→本跡
161	D 3 b4	N-0°	隅丸長方形	4.67 × 2.95	37	直立	平坦	人為	土師器片	本跡→SK162,164
162	D 3 a4	[N-4°-E]	[隅丸長方形]	[4.75]×2.33	10	直立	平坦	人為		SK161→本跡→SK163
163	C 3 j4	N-76°-E	長方形	1.60 × 1.12	25	直立	平坦	人為		SK162→本跡
164	D 3 a4	N-16°-E	長方形	0.97 × 0.47	20	外傾	平坦	人為		SK161→本跡
165	B 1 j9	N-13°-W	長方形	1.92 × 0.72	45	外傾	凹凸	人為		SI13→本跡
166	B 1 j8	N-61°-E	隅丸長方形	1.34 × 0.87	35	直立	平坦	人為		SI13→本跡
167	C 1 c7	N-85°-E	不整楕円形	1.70 × 0.99	17	外傾	平坦	人為		
169	C 1 c0	—	円形	0.95 × 0.87	23	外傾	皿状	自然		
170	C 1 d6	N-70°-E	長方形	2.91 × 0.77	25	直立	平坦	人為	弥生土器片	
171	C 1 c7	N-8°-W	楕円形	2.00 × 0.67	15	外傾	平坦	人為		SK172→本跡
172	C 1 c8	N-21°-W	長方形	1.86 × 0.88	12	外傾	平坦	人為		本跡→SK171
174	C 1 b8	N-47°-E	不整楕円形	2.26 × 1.20	38	外傾	凹凸	自然		
175	D 2 c8	N-24°-E	楕円形	0.93 × 0.72	8	外傾	凹凸	自然		
176	C 2 j6	[N-3°-E]	[長方形]	(1.22)×(1.08)	24	直立	平坦	—		本跡→SK154→SK155
177	D 2 c8	N-46°-W	楕円形	1.42 × 1.08	6	外傾	平坦	人為		
178	D 2 b9	N-59°-W	隅丸長方形	0.99 × 0.65	42	直立	皿状	人為		
179	D 2 c7	—	円形	1.20 × 1.18	12	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK180
180	D 2 c7	[N-38°-E]	[楕円形]	[1.13]×0.92	25	外傾	平坦	人為	土師器片	SK179→本跡→SK181

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
181	D 2 c7	N-38°-E	楕円形	0.98 × 0.88	12	外傾	平坦	人為		SK180→本跡
182	D 2 d8	N-52°-E	不定形	2.80 × 1.49	45	外傾	凹凸	人為	土師器片	
183	C 2 d9	N-56°-E	円形	1.00 × 0.84	40	外傾	皿状	人為		
184	D 2 a6	N-12°-E	長方形	3.95 × 0.77	28	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片	
185	C 2 j5	N-73°-E	長方形	2.10 × 0.71	30	直立	平坦	人為	土師器片	
186	D 2 a5	N-55°-E	楕円形	1.13 × 0.99	7	緩斜	平坦	人為		
187	C 2 j5	N-67°-E	長方形	2.10 × 0.69	47	直立	凹凸	人為	須惠器片	
188	D 2 a4	N-8°-E	楕円形	1.90 × 1.20	20	外傾	凹凸	人為		
189	D 2 a4	N-15°-W	不整楕円形	1.65 × 1.12	37	外傾	凹凸	人為		
190	C 2 i4	N-63°-E	隅丸方形	1.29 × 1.07	16	外傾	平坦	自然		
191	C 2 h4	N-55°-W	隅丸方形	1.77 × 1.68	22	外傾	凹凸	人為	土師器片	
192	C 1 b9	N-42°-W	楕円形	1.26 × 0.92	24	外傾	平坦	自然		
193	C 1 b9	N-25°-W	楕円形	0.90 × 0.79	20	外傾	平坦	自然		
194	C 1 b0	N-40°-E	楕円形	1.72 × 1.33	24	外傾	凹凸	人為		
195	C 1 a0	N-17°-W	楕円形	1.25 × 0.94	35	外傾	凹凸	自然		
196	C 1 a0	—	円形	0.90 × 0.85	32	外傾	平坦	自然		
197	C 1 a0	N-18°-W	楕円形	1.13 × 0.92	47	外傾	凹凸	人為		
198	C 1 a0	N-42°-W	楕円形	1.21 × 1.06	30	外傾	平坦	自然		
199	C 2 a1	N-30°-W	楕円形	1.38 × 1.02	28	外傾	凹凸	自然		
201	D 4 h1	N-41°-E	楕円形	1.40 × 0.63	56	外傾	平坦	人為	土師器片	
202	D 3 g0	N-22°-W	楕円形	2.43 × 0.70	87	外傾	平坦	人為	土師器片	
205	C 2 a2	N-9°-E	楕円形	1.62 × 0.96	40	外傾	凹凸	人為	縄文土器片	
206	C 2 a1	N-13°-E	長方形	1.96 × 1.00	35	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
208	C 2 f9	N-8°-E	[長方形]	3.50 × (1.42)	15	外傾	平坦	人為		本跡→SX6
209	C 2 g3	N-13°-E	楕円形	1.50 × 1.30	35	外傾	皿状	人為		
210	C 2 i2	N-52°-E	隅丸方形	1.43 × 1.16	65	外傾	凹凸	人為	土師器片, 陶器片	
211	C 1 a0	N-6°-W	楕円形	1.24 × 1.02	20	外傾	平坦	人為		
212	C 2 b1	N-72°-E	不整楕円形	1.56 × 0.96	44	外傾	平坦	人為		
213	D 4 f2	—	円形	1.16 × 1.10	26	外傾	平坦	人為		本跡→SK214
214	D 4 f2	N-33°-W	楕円形	1.38 × 1.16	40	外傾	平坦	人為		SK213→本跡
215	C 1 d8	N-20°-E	楕円形	1.44 × 0.90	24	外傾	凹凸	自然		
216	C 1 d0	[N-11°-W]	[長方形]	[3.48] × 0.88	8	緩斜	皿状	人為		SK217→本跡
217	C 1 d0	N-41°-E	隅丸長方形	1.98 × 1.56	124	内傾	平坦	人為		本跡→SK216 SK218と重複
218	C 1 d0	[N-48°-E]	[楕円形]	1.38 × (1.08)	54	直立	平坦	不明	弥生土器片, 土師器片	SK217と重複
220	C 1 d0	—	円形	1.44 × 1.33	40	外傾	皿状	自然		本跡→SB2
221	C 2 c1	N-52°-E	長方形	4.05 × 1.66	13	外傾	凹凸	人為	縄文土器片, 土師器片	本跡→SK222
222	C 2 c1	N-75°-E	楕円形	2.07 × 1.16	44	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	SK221→本跡
223	C 2 h0	N-80°-W	方形	1.37 × 1.32	17	外傾	平坦	自然		
225	C 2 j8	N-80°-W	長方形	1.59 × 1.04	27	外傾	凹凸	人為	弥生土器片, 土師器片, 陶器片	
226	C 2 j8	N-0°	楕円形	1.36 × 0.91	10	外傾	凹凸	人為	古銭	SK227→本跡
227	C 2 j9	—	[円形]	0.63 × (0.39)	30	外傾	皿状	人為	土師器片	SK228→本跡→SK226
229	C 2 j9	N-4°-W	長方形	1.39 × 0.74	60	外傾	平坦	人為	陶器片	SK228→本跡
230	C 2 h9	N-30°-E	楕円形	1.34 × 1.17	58	外傾	平坦	人為		
231	C 2 j6	[N-70°-E]	[楕円形]	1.31 × (0.85)	17	緩斜	平坦	人為		本跡→第3号火葬施設
233	B 1 j7	N-22°-E	長方形	2.16 × 0.70	105	直立	平坦	人為	土師器片	SI13→本跡
236	C 1 e0	N-48°-E	楕円形	1.63 × 1.30	17	緩斜	平坦	人為	馬骨(歯)	



土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
237	C 2 d1	N-29°-W	隅丸長方形	3.03 × 1.80	18	外傾	平坦	人為		
239	C 2 c1	—	円 形	1.76 × 1.71	42	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
240	C 2 c1	N-30°-W	隅丸方形	1.24 × 1.13	45	直立	平坦	人為		
241	C 2 b4	N-52°-E	楕円形	0.88 × 0.70	60	外傾	皿状	人為	土師器片	SI15→本跡
244	C 2 d2	N-58°-W	楕円形	1.92 × 1.20	40	外傾	皿状	人為		
245	C 2 b5	N-44°-E	楕円形	1.05 × 0.90	33	外傾	平坦	人為	土師器片	
246	C 2 d4	N-10°-W	楕円形	2.93 × 0.64	53	直立	平坦	人為		
247	C 2 d3	—	円 形	2.17 × 2.07	51	外傾	平坦	自然		
248	C 2 d3	N-19°-W	長方形	1.46 × 0.62	38	直立	平坦	人為	陶器片	
249	C 2 e4	N-68°-E	長方形	1.42 × 0.72	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	
250	C 2 g4	N-5°-W	長方形	2.60 × 0.64	12	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
251	C 2 g4	N-0°	楕円形	0.76 × 0.62	48	外傾	平坦	人為		
252	C 2 g5	N-22°-W	長方形	4.05 × 0.55	7	外傾	平坦	人為		
253	C 2 g6	N-6°-W	隅丸長方形	3.84 × 0.52	10	外傾	平坦	人為		SK254, 255, 256→本跡
254	C 2 g6	[N-6°-W]	[長方形]	1.40 × [0.69]	52	直立	凹凸	人為		本跡→SK253
255	C 2 h6	[N-8°-E]	[楕円形]	1.60 × [1.20]	38	直立	平坦	人為		SK256→本跡→SK253
256	C 2 h6	[N-28°-E]	[楕円形]	1.81 × [1.45]	30	外傾	凹凸	人為		本跡→SK255→SK253
257	C 2 g6	—	円 形	0.63 × 0.60	24	外傾	皿状	自然		
258	C 2 f6	N-3°-W	楕円形	1.71 × 1.00	34	緩斜	平坦	自然	土師器片	
260	C 2 h6	N-86°-W	隅丸長方形	1.12 × 0.92	56	外傾	平坦	人為		
261	C 2 e5	N-3°-W	楕円形	1.28 × 0.62	18	外傾	平坦	人為		本跡→SK262
262	C 2 e5	N-80°-E	楕円形	1.54 × 0.38	6	外傾	凹凸	人為		SK261→本跡
264	D 2 a9	N-85°-E	長方形	2.10 × 1.37	38	直立	平坦	人為	土師器片	SK272→本跡
265	C 2 b7	—	円 形	0.98 × 0.92	33	直立	平坦	人為	土師器片	
266	C 2 f1	N-75°-E	楕円形	1.30 × 0.68	19	外傾	平坦	自然		
267	C 2 f1	N-40°-E	楕円形	0.64 × 0.54	42	外傾	皿状	人為		
268	C 2 f2	—	円 形	1.10 × 1.05	13	外傾	凹凸	人為		
269	C 2 g3	N-25°-W	楕円形	1.65 × 1.46	63	直立	平坦	人為		
270	C 1 e6	N-44°-W	楕円形	1.57 × 0.97	30	外傾	皿状	自然	弥生土器片, 土師器片	SK271→本跡
271	C 1 e6	—	[円形]	0.98 × (0.85)	53	直立	平坦	自然		本跡→SK270
272	D 2 a0	N-83°-E	長方形	0.66 × 0.44	58	直立	平坦	人為		本跡→SK264
273	C 2 e5	—	円 形	0.85 × 0.80	13	緩斜	皿状	自然		
274	C 2 d5	N-5°-E	楕円形	1.39 × 0.95	16	外傾	平坦	人為		
275	C 2 e6	N-25°-W	楕円形	1.10 × 0.85	12	緩斜	平坦	自然		
276	C 2 e5	—	円 形	0.60 × 0.59	7	外傾	凹凸	自然		
277	C 3 e1	N-22°-W	長方形	1.20 × 0.77	16	外傾	平坦	自然		SI18→本跡
279	C 3 d3	—	円 形	1.18 × 1.11	26	外傾	平坦	人為		
281	B 3 j1	N-18°-W	長方形	2.79 × 0.84	50	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	SD 7 → 本跡
282	C 2 h8	N-3°-W	楕円形	1.24 × 1.07	26	外傾	皿状	自然		SI110→本跡
283	C 2 i0	N-86°-W	長方形	1.35 × 0.85	21	外傾	平坦	人為		
284	C 3 a5	N-84°-E	長方形	3.11 × 0.51	33	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SK285
285	C 3 a5	N-86°-E	長方形	5.12 × 0.52	35	直立	平坦	人為	土師器片	SK284, 286→本跡
286	C 3 b6	[N-3°-W]	[長方形]	(3.40) × 0.74	20	直立	平坦	人為		SK287→本跡→SK285
287	C 3 b6	[N-86°-E]	[長方形]	(2.10) × 0.54	31	直立	平坦	不明		本跡→SK286
288	C 3 b6	N-3°-W	長方形	3.25 × 0.66	35	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SK289, 298
289	C 3 b7	[N-3°-W]	[長方形]	(2.45) × 0.60	20	外傾	平坦	人為		SK288→本跡→SK298

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
290	B 3 j4	[N-38°-W]	[長方形]	[5.64]×0.78	29	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	本跡→SD7
291	B 3 i3	N-85°-W	不整楕円形	2.75×1.47	24	外傾	平坦	人為	土師器片	SD7→本跡
293	C 2 g0	N-86°-W	長方形	1.96×0.98	25	外傾	平坦	自然	土師器片	
294	C 3 g1	N-88°-W	方形	1.66×1.29	19	外傾	平坦	自然		
295	C 3 h1	N-3°-E	隅丸長方形	0.96×0.79	20	外傾	平坦	自然		
296	C 3 g1	N-15°-W	隅丸長方形	1.95×0.58	49	直立	平坦	人為	土師器片	
297	C 3 a7	N-45°-E	楕円形	0.75×0.62	24	外傾	皿状	人為		SK298→本跡
298	C 3 a7	N-81°-W	長方形	3.40×0.78	25	外傾	平坦	人為		SK288,289→本跡→SK297
299	B 3 e7	N-32°-W	楕円形	1.53×1.00	30	外傾	平坦	自然		
300	B 3 f7	N-21°-E	楕円形	1.12×0.70	15	外傾	平坦	自然		
301	A 3 i0	N-39°-W	楕円形	1.28×1.02	20	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
302	A 4 i1	N-18°-E	楕円形	1.02×0.84	22	緩斜	皿状	人為		SI31→本跡
303	A 4 i1	N-73°-E	不整楕円形	1.01×0.64	32	緩斜	平坦	自然		
305	A 4 i1	N-86°-E	楕円形	1.16×1.02	20	外傾	平坦	自然		
306	A 4 j2	-	円形	1.15×1.14	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SI21と重複
307	B 4 b2	N-49°-E	楕円形	1.26×0.92	26	外傾	皿状	自然	弥生土器片	
308	B 4 a2	N-12°-W	楕円形	1.10×0.76	20	外傾	平坦	自然	弥生土器片	
309	B 3 f5	N-2°-E	楕円形	1.61×0.53	30	緩斜	皿状	人為	土師器片	SI25→本跡
310	C 2 e0	-	円形	1.04×0.98	30	外傾	皿状	人為		
311	B 3 f7	N-10°-W	楕円形	0.88×0.59	30	外傾	平坦	自然		
312	B 3 f7	[N-0°]	[楕円形]	(1.57)×0.85	27	外傾	皿状	自然		本跡→SK313
313	B 3 f7	N-69°-W	楕円形	1.65×0.57	31	外傾	皿状	自然		SK312→本跡
314	B 3 g5	N-50°-E	楕円形	1.00×0.48	14	外傾	皿状	自然	弥生土器片	SI25→本跡
315	B 4 f2	-	[円形]	[1.05]×[0.92]	65	内傾	平坦	人為	須恵器片	SI29→本跡
316	B 4 c4	N-60°-W	楕円形	1.10×0.82	38	直立	平坦	人為		第1号鍛冶工房跡→本跡
317	C 3 a2	-	円形	0.60×0.54	34	外傾	平坦	自然		本跡→SD5
319	B 4 h4	[N-23°-E]	[楕円形]	1.08×(0.84)	34	外傾	皿状	自然	縄文土器片	本跡→SD9
322	B 4 h9	N-35°-E	楕円形	1.30×1.10	12	外傾	平坦	人為		SK323→本跡
323	B 4 g9	N-33°-E	長方形	3.50×0.82	15	外傾	平坦	人為		本跡→SK322
324	B 4 e7	N-59°-E	長方形	3.09×0.58	34	外傾	皿状	自然		
325	B 4 e8	N-50°-E	不整楕円形	4.02×2.21	40	外傾	皿状	自然		
326	B 4 f7	[N-48°-E]	[不定形]	(4.10)×1.40	50	外傾	凹凸	自然		
327	B 4 d6	[N-60°-E]	[不定形]	(1.41)×0.94	46	外傾	平坦	自然		本跡→SK328
328	B 4 d6	[N-60°-E]	[不定形]	(1.05)×0.87	50	外傾	平坦	自然		SK327→本跡
330	C 2 i6	N-5°-W	長方形	2.91×0.55	28	直立	平坦	人為	土師器片	
331	C 3 j1	N-79°-E	長方形	1.41×0.75	12	緩斜	平坦	人為		SK332→本跡
332	D 3 a1	N-6°-W	不定形	3.12×1.40	15	直立	凹凸	人為		本跡→SK331
333	B 3 d9	N-31°-W	楕円形	1.43×1.18	71	直立	平坦	自然	土師器片	
334	B 2 h0	N-42°-W	長方形	2.08×0.57	37	直立	平坦	人為		SI22→本跡
335	C 2 f8	N-13°-E	楕円形	1.11×0.97	26	外傾	凹凸	自然		
336	B 4 d1	N-80°-W	楕円形	1.95×1.40	15	外傾	平坦	自然		
337	B 3 h1	N-5°-W	長方形	2.05×0.55	28	直立	平坦	人為		SI22→本跡
339	C 3 h3	N-15°-W	長方形	2.12×0.57	18	直立	平坦	人為		
340	B 4 b2	N-13°-W	楕円形	1.05×0.88	20	外傾	平坦	自然		
343	D 3 j7	N-87°-E	楕円形	3.96×0.82	12	直立	平坦	自然		
345	B 4 d4	N-25°-W	楕円形	4.84×2.05	11	外傾	平坦	人為		第1号鍛冶工房跡→本跡

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
346	E 4 a5	N-80°-E	長方形	[1.80]×1.03	44	直立	平坦	人為	土師器片	SI2→本跡
347	D 2 d6	N-6°-E	隅丸長方形	1.81×0.97	14	外傾	皿状	自然	土師器片	SI7→本跡
348	D 3 i8	N-41°-E	楕円形	1.04×0.88	10	緩斜	平坦	人為		
350	D 3 i2	N-27°-E	隅丸長方形	1.40×0.66	24	外傾	平坦	人為		
351	E 4 d5	N-87°-E	楕円形	1.54×1.14	34	外傾	平坦	人為		SF1→本跡
352	A 3 j0	N-61°-E	楕円形	1.32×0.92	12	外傾	平坦	自然		
353	D 2 a5	N-20°-W	楕円形	0.94×0.59	14	外傾	平坦	自然		
354	D 2 a5	N-31°-W	楕円形	1.35×0.58	78	外傾	皿状	自然		
355	D 2 b5	N-54°-E	不定形	1.16×0.99	42	外傾	皿状	自然		
356	E 4 c2	N-85°-E	長方形	4.50×0.75	15	外傾	平坦	人為	土師器片	SF1→本跡
357	E 4 b2	N-2°-E	長方形	2.87×0.68	62	直立	平坦	人為		
358	E 3 c0	N-70°-E	長方形	1.00×0.50	21	外傾	平坦	自然	土師器片	
359	B 3 c9	N-53°-W	楕円形	1.27×1.15	18	直立	平坦	自然		
360	B 3 c9	N-52°-W	楕円形	1.12×0.92	16	外傾	凹凸	人為		
361	E 4 c1	—	円形	1.24×1.15	32	外傾	平坦	人為		本跡→SF1
362	C 2 b8	N-35°-E	楕円形	1.25×0.72	18	外傾	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片	
364	B 3 b6	N-13°-E	楕円形	0.44×0.34	17	外傾	平坦	自然		
365	B 3 d6	—	円形	0.78×0.74	28	外傾	皿状	自然		
367	B 3 d7	N-50°-W	楕円形	0.66×0.53	30	外傾	皿状	人為		
368	C 5 b2	—	円形	1.08×1.00	25	緩斜	皿状	人為		
369	C 5 c1	N-30°-E	長方形	2.68×0.64	34	緩斜	平坦	人為		
370	C 5 c4	N-36°-E	長方形	1.22×0.52	18	緩斜	平坦	人為	土師器片	
371	C 5 d4	N-34°-E	楕円形	2.00×0.62	8	緩斜	平坦	自然		
372	C 5 d4	N-20°-E	楕円形	0.85×0.74	25	緩斜	皿状	人為		
373	C 5 d5	—	円形	1.12×1.08	12	外傾	平坦	人為	土師器片	
374	C 5 d3	—	円形	0.74×0.72	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
375	C 5 d2	N-30°-E	長方形	1.17×0.85	33	緩斜	平坦	人為		SK377→本跡
376	B 5 i2	N-43°-W	長方形	2.50×0.45	10	緩斜	平坦	人為		
377	C 5 e2	[N-61°-W]	[長方形]	0.64×(0.42)	9	緩斜	凹凸	自然	土師器片	SK375→本跡
378	C 5 e1	N-23°-E	楕円形	1.45×1.10	18	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	
379	C 5 f2	N-80°-W	長方形	1.40×1.29	17	緩斜	平坦	人為		本跡→SK380
380	C 5 f1	[N-67°-W]	[長方形]	(0.78)×0.72	30	外傾	平坦	人為		SK379→本跡→SK387
381	C 5 f1	N-75°-W	長方形	1.27×1.10	35	外傾	平坦	人為		SK380→本跡→SK382
382	C 5 f1	N-68°-W	長方形	1.34×0.59	37	緩斜	平坦	人為		SK381, 383→本跡
383	C 5 f1	[N-14°-E]	[長方形]	[2.08]×0.45	31	緩斜	皿状	人為		本跡→SK382
384	C 5 e2	N-26°-E	楕円形	1.33×0.80	12	緩斜	平坦	人為		SK385→本跡
385	C 5 e2	[N-56°-E]	[長方形]	[1.40]×0.72	19	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡→SK384
386	C 5 e2	N-27°-E	長方形	2.20×1.70	20	緩斜	平坦	人為	土師器片	
387	C 5 g1	—	方形	1.42×1.40	34	緩斜	平坦	人為		SK388→本跡
388	C 5 g1	[N-75°-E]	[楕円形]	[1.20]×(0.34)	34	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡→SK387
389	C 5 g2	N-10°-E	楕円形	1.25×1.05	21	緩斜	平坦	人為		本跡→SK390
390	C 5 f2	N-14°-E	長方形	1.93×0.61	20	緩斜	平坦	人為		SK389→本跡
391	C 5 a1	N-22°-E	長方形	0.98×0.83	8	緩斜	平坦	自然		
392	C 5 a1	N-22°-E	長方形	2.13×1.38	21	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI38→本跡→SK399, 404
393	D 3 a7	N-17°-E	楕円形	1.00×0.50	29	緩斜	凹凸	人為		
394	C 5 c1	[N-33°-E]	[長方形]	[1.27]×0.61	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SK395→本跡→SK397

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
395	C 5 c1	[N-22°-W]	[長方形]	1.65×(0.42)	18	外傾	平坦	人為	土師器片	S137→本跡→SK394,398
396	C 5 c1	N-74°-W	長方形	2.19×1.45	17	緩斜	平坦	人為	土師器片	S137→本跡→SK398
397	C 5 b1	N-33°-E	不整楕円形	1.49×0.74	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SK394→本跡
398	C 5 b1	N-29°-E	楕円形	2.06×0.57	14	外傾	平坦	人為		S137→SK395,396→本跡
399	C 5 f0	—	円形	0.84×0.83	14	外傾	平坦	人為		SK400→本跡→SK404
400	C 5 f0	—	円形	0.96×0.92	23	緩斜	平坦	人為	土師器片	本跡→SK399,404
401	C 4 g0	N-23°-E	長方形	2.53×0.46	48	緩斜	平坦	人為		
402	C 4 f0	N-20°-E	長方形	2.33×0.49	47	緩斜	皿状	人為	土師器片	
403	C 4 g0	—	円形	1.20×1.17	27	緩斜	凹凸	人為	弥生土器片, 土師器片	
404	C 5 f0	N-13°-E	長方形	1.54×0.53	34	緩斜	平坦	人為	土師器片	SK400→SK399→本跡
405	C 4 h8	—	円形	0.82×0.81	42	外傾	平坦	自然	土師器片	
406	C 4 i7	N-16°-W	長方形	2.68×0.68	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
407	C 4 d9	N-24°-E	楕円形	2.05×1.44	22	緩斜	凹凸	人為		
408	C 4 b7	N-13°-E	長方形	2.19×1.44	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片	
409	D 4 c6	N-2°-W	楕円形	1.56×1.39	18	緩斜	凹凸	自然		
414	D 4 d6	[N-34°-E]	[円形]	1.16×(0.94)	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK415
415	D 4 d6	—	不定形	(1.54)×1.21	34	緩斜	平坦	人為	土師器片	SK414→本跡
416	D 4 d5	—	不明	(0.98)×(0.88)	26	緩斜	皿状	人為	須惠器片	SK417→本跡
417	D 4 d5	N-87°-W	長方形	1.81×0.73	9	緩斜	平坦	人為		本跡→SK416
418	C 4 j6	N-25°-W	楕円形	1.50×1.30	15	緩斜	平坦	人為	土師器片	S140→本跡
419	D 4 d5	N-78°-W	長方形	1.41×1.02	14	外傾	平坦	人為		
420	D 4 d5	N-65°-W	長方形	1.66×1.03	52	直立	平坦	人為		
426	D 4 e4	N-18°-W	方形	1.28×1.22	74	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
435	D 4 e4	[N-2°-E]	[長方形]	(2.22)×1.24	6	緩斜	平坦	人為		
436	D 4 b2	N-23°-W	長方形	1.68×0.53	46	外傾	平坦	人為		SK437→本跡
438	D 4 d3	N-40°-W	楕円形	0.90×0.62	17	外傾	平坦	人為		SK439→本跡
439	D 4 d3	[N-86°-E]	[隅丸長方形]	(1.24)×1.00	60	外傾	平坦	人為		本跡→SK438,440
440	D 4 d3	N-44°-W	隅丸長方形	1.61×1.17	14	緩斜	平坦	自然	弥生土器片	SK439
446	D 3 c9	N-76°-E	不整楕円形	1.21×0.72	18	緩斜	平坦	人為		
449	D 3 b0	N-71°-E	隅丸長方形	1.91×1.13	49	直立	平坦	人為		
453	D 3 a9	[N-3°-E]	[長方形]	(1.45)×0.64	70	緩斜	平坦	人為		本跡→SK454
471	D 3 c8	N-88°-W	隅丸長方形	1.36×0.78	16	緩斜	皿状	人為	土師器片	
472	D 3 a8	N-3°-W	長方形	1.94×0.62	21	緩斜	皿状	人為		本跡→SK473
473	D 3 a8	—	不明	(1.85)×(1.18)	42	外傾	凹凸	人為	須惠器片	SK472,485→本跡→SK474
474	D 3 b8	[N-8°-W]	[長方形]	(2.39)×1.56	36	外傾	平坦	人為		SK475,485→本跡→SK473
475	D 3 b8	[N-3°-W]	[長方形]	1.35×(0.70)	35	外傾	平坦	人為		本跡→SK474
476	D 3 d8	N-76°-E	長方形	1.28×0.66	44	外傾	平坦	人為		
477	D 3 c8	N-8°-E	隅丸長方形	1.54×1.14	18	緩斜	皿状	自然		
478	D 4 d3	N-44°-W	楕円形	1.06×0.86	59	直立	凹凸	人為		本跡→SK479
479	D 4 d3	—	不定形	0.75×(0.64)	27	直立	平坦	人為		本跡→SK478
480	D 3 a9	[N-1°-W]	[楕円形]	(1.15)×0.40	10	外傾	皿状	不明		本跡→SK468
482	D 3 d8	[N-80°-E]	[長方形]	(1.19)×1.16	36	緩斜	平坦	人為	縄文土器片	SK483→本跡
484	D 3 a9	[N-30°-E]	[長方形]	3.42×(0.40)	16	緩斜	平坦	人為		本跡→SK454,455,469
485	D 3 a7	[N-90°]	[長方形]	(0.78)×(0.73)	40	外傾	平坦	人為		本跡→SK473,474
486	D 3 d0	N-18°-E	長方形	1.88×0.52	39	直立	平坦	人為		
487	D 3 d0	N-79°-E	長方形	1.37×1.09	20	直立	平坦	人為		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
488	D 3 c9	N-77°-E	長方形	1.25 × 1.00	53	直立	平坦	人為	土師器片	
489	C 4 j3	N-43°-W	楕円形	1.01 × 0.72	34	緩斜	凹凸	人為		
491	C 4 j3	N-42°-E	楕円形	0.53 × 0.39	21	緩斜	皿状	人為		本跡→SK492
492	C 4 j3	N-46°-E	楕円形	1.28 × 0.94	28	緩斜	皿状	人為		SK491→本跡
493	C 4 j2	N-23°-W	楕円形	0.84 × 0.66	27	緩斜	皿状	人為	弥生土器片, 土師器片	
494	D 4 a2	N-58°-W	隅丸長方形	1.36 × 0.94	21	緩斜	凹凸	人為		
495	C 4 j3	[N-87°-W]	不定形	[0.89] × 0.59	37	外傾	平坦	人為		本跡→SK496
496	C 4 j2	N-54°-E	隅丸長方形	1.05 × 0.60	10	緩斜	平坦	人為		SK495→本跡
497	C 4 h5	N-66°-W	楕円形	1.59 × 0.98	19	緩斜	平坦	人為		本跡→第2号集石遺構
499	D 4 a2	—	円形	0.41 × 0.38	33	外傾	凹凸	人為		
500	D 4 a2	—	円形	0.27 × 0.24	36	直立	皿状	人為		
501	D 4 a1	N-17°-E	楕円形	0.34 × 0.30	34	外傾	凹凸	人為		
502	D 3 c7	N-66°-E	不定形	1.91 × 1.51	94	直立	平坦	人為	土師器片	
503	D 3 b7	N-82°-E	不定形	1.00 × 0.62	64	外傾	平坦	人為		
504	D 4 b4	N-4°-E	長方形	1.68 × 0.78	9	緩斜	平坦	人為		
505	D 4 a4	N-11°-E	長方形	1.69 × 0.77	16	緩斜	平坦	人為		
506	D 4 b4	N-41°-E	楕円形	1.30 × 1.03	23	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
507	D 4 b5	N-24°-E	楕円形	0.98 × 0.75	40	外傾	平坦	人為		
508	D 4 a3	N-40°-W	楕円形	0.49 × 0.40	8	緩斜	平坦	人為		
509	D 4 a3	—	円形	0.30 × 0.29	25	外傾	皿状	人為		
514	D 3 a0	[N-90°]	[楕円形]	0.70 × (0.35)	15	緩斜	平坦	人為		SK455と重複
517	D 3 c7	[N-9°-W]	[不整楕円形]	(0.72) × 0.31	53	直立	平坦	人為		本跡→SK518
518	D 3 c7	N-55°-W	楕円形	0.40 × 0.31	20	外傾	皿状	人為		SK517→本跡
519	D 3 c7	N-70°-E	楕円形	0.38 × 0.27	36	外傾	皿状	人為		
520	D 3 c7	N-1°-W	楕円形	0.55 × 0.35	53	外傾	皿状	自然		
521	D 3 a7	N-56°-E	楕円形	0.75 × 0.31	38	緩斜	凹凸	自然		
522	D 3 a7	N-7°-W	不定形	2.18 × 0.61	29	緩斜	平坦	人為		
523	C 3 j7	N-17°-E	楕円形	1.60 × 0.76	36	外傾	凹凸	人為		
524	D 3 d7	N-74°-E	楕円形	0.60 × 0.37	48	外傾	皿状	人為		
525	D 3 c7	N-77°-E	楕円形	1.05 × 0.88	35	外傾	凹凸	人為		
526	D 3 b7	N-61°-W	不定形	1.34 × 0.51	30	外傾	平坦	人為		
527	C 3 j6	N-6°-W	楕円形	1.65 × 0.36	12	緩斜	平坦	自然		
528	C 3 j6	N-2°-W	楕円形	1.28 × 1.05	46	緩斜	平坦	人為		
529	C 3 j7	N-33°-E	楕円形	0.80 × 0.50	22	外傾	凹凸	人為		
530	C 3 j7	N-28°-E	楕円形	1.05 × 0.45	53	外傾	凹凸	人為		
531	C 3 j7	—	円形	1.35 × 1.21	24	緩斜	皿状	人為		
532	C 3 j6	N-4°-E	隅丸長方形	1.56 × 0.70	50	外傾	平坦	人為	馬骨(歯)	
533	D 4 b1	[N-76°-W]	[長方形]	1.19 × (0.76)	43	外傾	平坦	人為		SK534→本跡 第8号地下式壙と重複
534	D 4 b2	[N-7°-W]	[長方形]	(1.17) × 0.98	11	緩斜	平坦	人為		本跡→SK533 第8号地下式壙と重複
535	D 3 a6	N-76°-E	長方形	1.79 × 0.68	44	外傾	平坦	人為		
536	C 4 f4	N-83°-W	隅丸長方形	1.94 × 1.37	80	外傾	凹凸	自然	縄文土器片, 土師器片	
537	C 4 f4	N-74°-W	楕円形	0.58 × 0.46	33	緩斜	凹凸	人為		
538	C 4 g2	N-86°-W	隅丸長方形	1.59 × 1.12	14	外傾	皿状	人為		SK545,546→本跡
539	C 4 f3	N-7°-E	長方形	3.56 × 0.60	37	緩斜	平坦	人為		本跡→SK540,577
540	C 4 f3	[N-6°-E]	[楕円形]	(0.50) × (0.38)	9	緩斜	皿状	不明		SK539→本跡
541	C 4 f3	N-19°-E	楕円形	0.48 × 0.39	34	外傾	平坦	不明		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
542	C 4 f3	—	円 形	1.56 × 1.52	97	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 弥生土器片	
543	C 4 g2	N-53°-E	楕 円 形	1.36 × 0.67	32	緩斜	皿状	自然	土師器片	
544	C 4 f2	N-9°-E	長 方 形	1.92 × 0.66	8	緩斜	皿状	人為	土師器片, 内耳鍋片	
545	C 4 g2	[N-29°-W]	[長 方 形]	[1.47] × 1.06	16	緩斜	平坦	人為		SK546→本跡→SK538
546	C 4 g2	—	円 形	径 0.29	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK545→SK538
547	C 4 e3	N-21°-W	不整楕円形	1.13 × 0.78	14	緩斜	平坦	人為		
548	C 4 e2	N-66°-W	不 定 形	1.18 × 0.66	37	緩斜	平坦	人為		
549	C 4 e4	N-8°-W	不整楕円形	1.52 × 1.32	28	緩斜	凹凸	自然		
551	C 4 d4	N-75°-E	楕 円 形	1.14 × 0.98	37	外傾	平坦	人為		SK584→本跡
552	C 4 h2	N-78°-W	楕 円 形	0.86 × 0.65	32	外傾	平坦	自然		
553	C 4 g1	N-4°-W	長 方 形	1.12 × 0.95	14	緩斜	皿状	人為	弥生土器片, 土師器片	
556	C 4 g1	N-4°-W	不整楕円形	1.03 × 0.59	13	緩斜	皿状	人為		
558	C 3 h0	N-82°-W	長 方 形	1.62 × 0.88	92	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
559	C 3 h9	N-85°-E	長 方 形	1.94 × 1.29	22	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
560	C 3 i0	N-2°-E	長 方 形	1.56 × 0.78	19	外傾	皿状	人為	内耳鍋片	第12号地下式壙→本跡
561	C 3 i0	N-7°-E	長 方 形	1.62 × 0.52	9	緩斜	皿状	人為	土師器片	第12号地下式壙→本跡
562	C 3 i0	N-2°-E	長 方 形	1.73 × 0.53	31	外傾	平坦	人為	土師器片, 内耳鍋片	第12号地下式壙→本跡
563	C 3 i0	N-17°-W	長 方 形	1.18 × 1.06	8	外傾	平坦	人為		第12号地下式壙→本跡
564	C 3 i9	N-14°-E	長 方 形	2.19 × 0.61	12	緩斜	皿状	人為		
565	C 3 h9	N-67°-E	楕 円 形	1.21 × 0.98	3	緩斜	皿状	自然		
566	C 3 h8	[N-83°-E]	[楕 円 形]	[1.08] × [0.58]	13	緩斜	凹凸	人為		
567	C 3 i8	N-38°-E	長 方 形	1.19 × 0.77	5	緩斜	皿状	人為		
568	C 3 i8	N-31°-W	不 定 形	1.38 × 0.56	6	緩斜	皿状	自然		
569	C 3 g8	N-87°-E	長 方 形	1.92 × 1.57	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
570	C 3 h8	N-64°-E	不 定 形	1.85 × 1.19	16	緩斜	凹凸	人為		
571	C 3 h7	N-13°-E	楕 円 形	1.67 × 1.31	8	緩斜	平坦	自然		
572	C 3 h8	N-85°-E	長 方 形	1.76 × 1.32	16	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
573	C 3 h8	N-46°-E	楕 円 形	0.85 × 0.74	22	外傾	平坦	人為		
574	C 3 h7	N-81°-E	長 方 形	1.59 × 0.52	4	緩斜	平坦	自然		
575	C 3 h8	N-18°-E	楕 円 形	1.07 × 0.74	37	外傾	平坦	人為		
576	C 3 g8	N-21°-W	方 形	1.32 × 1.25	17	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SK578→本跡
577	C 4 f3	N-4°-W	楕 円 形	0.39 × 0.24	36	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SK539→本跡
578	C 3 g9	N-17°-E	不 定 形	2.93 × 1.73	14	緩斜	平坦	自然	弥生土器片	本跡→SK576
579	C 3 f9	—	円 形	1.12 × 1.03	24	緩斜	凹凸	自然		
580	C 4 c3	N-39°-W	楕 円 形	1.41 × 0.79	13	緩斜	平坦	自然	土師器片	
581	C 4 d4	[N-63°-E]	[楕 円 形]	[0.68] × 0.56	9	緩斜	平坦	人為		本跡→SK582
582	C 4 d4	N-27°-W	長 方 形	1.22 × 0.73	33	緩斜	平坦	人為		SK581→SK583→本跡
583	C 4 d4	[N-68°-E]	[長 方 形]	[2.27] × 0.48	6	緩斜	平坦	自然		本跡→SK584→SK582
584	C 4 d4	[N-75°-E]	[長 方 形]	[1.47] × 0.71	37	外傾	平坦	自然		SK583→本跡→SK551, 582
585	C 3 e9	[N-86°-E]	[楕 円 形]	1.28 × [1.01]	24	緩斜	皿状	自然		SK611→本跡
586	C 3 d9	N-67°-E	楕 円 形	0.91 × 0.73	5	緩斜	皿状	人為		
587	C 3 c8	[N-73°-E]	[隅丸長方形]	1.34 × [1.09]	13	緩斜	皿状	人為		
588	C 3 e7	N-62°-W	楕 円 形	1.43 × 1.26	53	外傾	平坦	人為	土師器片	
589	C 3 e7	—	円 形	1.13 × 1.07	15	外傾	平坦	自然		
590	C 3 e7	N-29°-W	楕 円 形	1.01 × 0.82	11	外傾	皿状	自然		
591	C 3 e8	N-4°-W	長 方 形	1.38 × 1.08	16	外傾	平坦	人為		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
592	C 3 f8	N-14°-E	楕円形	0.93 × 0.78	4	緩斜	平坦	人為		
594	C 3 f7	N-11°-W	不整楕円形	2.29 × 0.84	17	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
595	C 3 f7	N-7°-W	隅丸長方形	1.52 × 1.12	14	緩斜	平坦	人為	馬骨(足)	
596	C 3 e8	N-86°-E	長方形	1.48 × 1.16	38	外傾	凹凸	人為		
597	C 3 e8	N-3°-W	長方形	1.56 × 1.05	9	緩斜	平坦	人為		
598	C 3 e0	N-60°-E	楕円形	1.14 × 0.67	32	緩斜	平坦	人為		
599	C 4 a1	N-59°-E	楕円形	1.72 × 1.38	56	緩斜	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片	
600	C 3 e0	N-59°-E	楕円形	0.99 × 0.77	17	緩斜	皿状	人為	弥生土器片, 土師器片	
601	C 3 b0	N-26°-E	不整楕円形	1.36 × 1.04	54	外傾	平坦	人為	土師器片	
602	C 3 e6	N-21°-E	楕円形	1.16 × 0.90	16	緩斜	皿状	自然		
603	C 4 a1	N-34°-W	不整楕円形	1.62 × 0.74	55	外傾	平坦	自然		
604	C 3 d0	N-26°-W	不定形	2.36 × 1.98	91	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 須恵器片	
605	C 3 h0	N-7°-W	不定形	0.93 × 0.75	34	緩斜	凹凸	自然		
606	C 4 g5	N-78°-E	長方形	1.70 × 1.30	24	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SI39→本跡
607	C 3 e6	N-62°-E	楕円形	0.68 × 0.51	38	外傾	凹凸	自然		
608	C 4 f7	N-17°-E	長方形	2.22 × 0.50	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI39→本跡
609	C 3 e5	N-88°-W	楕円形	1.60 × 1.34	21	緩斜	皿状	自然		
610	C 3 g6	N-87°-E	隅丸長方形	0.94 × 0.71	22	緩斜	凹凸	人為		
611	C 3 c9	[N-21°-E]	[楕円形]	1.24 × (0.96)	34	緩斜	平坦	自然		本跡→SK585
612	C 3 g5	N-56°-W	楕円形	1.35 × 0.91	20	緩斜	皿状	自然		
613	C 3 d4	—	円形	0.55 × 0.49	20	緩斜	皿状	人為		
615	C 3 d4	N-18°-W	楕円形	0.98 × 0.62	43	直立	平坦	人為		
616	C 3 d4	—	円形	0.52 × 0.50	18	緩斜	凹凸	人為		
617	C 3 d4	N-78°-E	楕円形	0.52 × 0.37	16	緩斜	皿状	人為		
618	C 3 c4	N-58°-W	楕円形	1.39 × 0.50	14	緩斜	皿状	人為		
619	C 3 e4	—	円形	0.50 × 0.42	20	緩斜	皿状	人為		
620	C 3 c4	—	円形	0.73 × 0.65	17	緩斜	皿状	人為		
621	C 3 e7	N-12°-W	楕円形	0.61 × 0.48	12	緩斜	皿状	自然		
622	C 4 g5	N-5°-E	長方形	2.19 × 1.27	29	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SI39→本跡
623	C 3 e4	—	円形	0.66 × 0.62	33	外傾	皿状	自然		
624	C 3 g5	N-6°-W	楕円形	0.95 × 0.65	43	直立	平坦	人為		
625	C 3 h5	—	円形	0.86 × 0.83	30	緩斜	皿状	自然		
626	C 3 g4	N-7°-W	隅丸長方形	2.26 × 0.59	20	緩斜	皿状	人為	弥生土器片, 土師器片	
627	C 3 g3	N-16°-W	隅丸長方形	1.20 × 0.60	11	直立	平坦	自然		
628	C 3 f3	N-28°-W	楕円形	1.12 × 0.86	18	外傾	凹凸	自然		
629	C 3 f3	—	円形	0.92 × 0.86	15	緩斜	皿状	自然		
630	C 3 f4	N-25°-E	楕円形	0.72 × 0.65	30	外傾	皿状	自然		
631	C 3 g4	—	円形	0.51 × 0.48	36	外傾	平坦	人為		
632	C 3 f3	N-40°-W	楕円形	0.43 × 0.39	14	緩斜	平坦	自然		
633	C 3 e0	N-80°-W	楕円形	0.53 × 0.33	14	緩斜	皿状	人為		
634	E 3 d5	N-18°-E	楕円形	0.91 × 0.39	30	外傾	平坦	人為		
635	E 3 d5	N-30°-E	楕円形	0.49 × 0.41	52	外傾	皿状	人為		
637	E 3 e3	N-58°-E	長方形	0.78 × 0.66	15	緩斜	凹凸	人為		SE5→本跡
638	E 3 e3	N-15°-W	長方形	3.79 × 0.35	42	直立	平坦	人為		SF1→本跡→SK659
639	E 3 f2	—	円形	0.94 × 0.92	15	緩斜	平坦	人為		
640	E 3 e2	N-18°-E	楕円形	1.25 × 0.98	33	外傾	皿状	人為		SK641と重複

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
641	E 3 c2	N-8°-W	楕円形	1.10 × 0.66	9	緩斜	平坦	人為		SK640と重複
642	E 3 d3	N-30°-W	楕円形	0.90 × 0.76	14	緩斜	皿状	自然		
643	E 3 d3	—	円形	1.15 × 1.12	10	緩斜	皿状	人為		
644	E 3 d2	N-73°-E	隅丸長方形	1.23 × 0.67	42	外傾	平坦	人為		
645	E 3 d2	[N-9°-W]	[隅丸長方形]	(1.14) × 0.91	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK662
646	E 3 d2	N-16°-W	楕円形	1.19 × 0.72	10	外傾	平坦	人為		
647	E 3 c3	N-25°-W	楕円形	1.21 × 1.07	59	外傾	平坦	人為		
648	E 3 c2	N-9°-W	長方形	1.52 × 1.08	24	緩斜	平坦	人為		
649	E 3 c3	N-20°-W	長方形	2.44 × 0.61	34	外傾	平坦	人為		本跡→SK650
650	E 3 b3	—	円形	0.64 × 0.59	20	緩斜	凹凸	人為		SK649→本跡
651	E 3 c2	N-16°-W	長方形	1.03 × 0.56	34	外傾	凹凸	人為		
652	E 3 b3	N-10°-W	長方形	1.25 × 0.61	8	緩斜	皿状	自然		
653	E 3 b3	—	円形	0.78 × 0.75	45	緩斜	皿状	自然		
654	E 3 a3	N-12°-W	長方形	1.33 × 0.81	4	緩斜	平坦	人為		
655	E 3 b2	—	円形	0.81 × 0.78	22	緩斜	平坦	人為		
657	E 3 a2	N-78°-E	長方形	1.70 × 1.35	28	緩斜	平坦	自然		SK686→本跡→SK685
658	E 3 d2	N-80°-E	隅丸長方形	1.37 × 0.91	20	緩斜	平坦	人為		
659	E 3 f3	[N-23°-W]	[長方形]	1.70 × (0.26)	6	緩斜	平坦	人為		SK638→本跡
660	E 3 c4	N-88°-W	不整楕円形	1.10 × 0.76	23	外傾	平坦	人為		
661	E 3 b4	—	円形	0.69 × 0.61	15	緩斜	皿状	自然		
662	E 3 d2	[N-18°-W]	[長方形]	(1.09) × 0.72	22	外傾	平坦	人為		SK645→本跡
663	E 2 e0	N-88°-W	楕円形	0.80 × 0.67	26	外傾	平坦	自然		
664	E 3 e1	N-34°-W	楕円形	0.60 × 0.49	26	緩斜	皿状	自然		
665	E 3 f1	—	円形	0.44 × 0.40	25	緩斜	皿状	自然		
666	E 3 f1	N-40°-W	長方形	0.77 × 0.66	30	緩斜	皿状	自然		
667	E 3 f1	N-40°-E	楕円形	0.96 × 0.74	29	緩斜	皿状	自然		
668	E 2 e0	N-86°-E	楕円形	0.75 × 0.59	19	外傾	皿状	自然		
669	E 2 d0	N-31°-W	楕円形	1.90 × 1.42	22	緩斜	平坦	人為		SK687→本跡
670	E 2 d0	N-78°-E	不定形	0.90 × 0.48	23	外傾	平坦	不明		SD12と重複
671	E 3 a1	N-76°-W	隅丸長方形	1.18 × 0.88	22	外傾	平坦	人為		
672	E 2 b9	N-13°-E	不整楕円形	0.82 × 0.53	40	直立	平坦	人為		
673	D 1 b0	N-5°-W	不定形	1.24 × 1.08	20	外傾	平坦	不明		SK848, 852, SX 8 と重複
674	E 2 d9	N-53°-W	長方形	1.46 × 1.13	14	緩斜	平坦	人為		
675	E 3 b1	N-6°-W	楕円形	1.26 × 0.83	20	緩斜	平坦	人為		本跡→SK757, 679
676	E 3 b1	N-55°-E	楕円形	0.70 × 0.25	14	緩斜	平坦	人為		SK679と重複
677	E 3 b1	—	円形	径 0.54	42	外傾	平坦	人為		SK679と重複
678	E 3 b1	N-55°-E	不整楕円形	0.78 × 0.41	80	外傾	凹凸	人為		SK679→本跡
679	E 3 b1	N-62°-W	楕円形	4.60 × 2.76	50	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SE6→本跡→SK678 SK676, 677と重複
680	E 3 b1	N-83°-E	長方形	1.61 × 1.31	19	緩斜	平坦	自然		SK681, SE 6 →本跡
681	E 3 a1	—	[円形]	1.19 × (1.10)	15	直立	平坦	人為		本跡→SK680
682	E 3 d4	N-37°-E	楕円形	1.36 × 1.23	12	直立	平坦	人為	土師器片	SI49→本跡
684	E 2 e9	N-41°-W	長方形	1.20 × 1.09	34	外傾	平坦	人為		SD12→本跡
685	E 3 a2	N-6°-W	長方形	1.43 × 0.90	110	内傾	平坦	人為		SK686→SK657→本跡
686	E 3 a2	[N-80°-E]	[楕円形]	(1.36) × 1.00	14	緩斜	皿状	自然		本跡→SK657→SK685
687	E 2 d0	[N-10°-W]	[楕円形]	(0.61) × 0.55	25	緩斜	平坦	自然		本跡→SK669
688	E 2 c8	N-75°-W	長方形	2.33 × 1.83	25	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SK689



土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
689	E 2 b7	N-68°-E	不定形	1.42 × 0.95	15	緩斜	平坦	人為		SK688→本跡
690	E 2 b7	[N-59°-E]	[長方形]	(1.21) × 0.82	43	外傾	皿状	人為		
691	D 2 j7	N-47°-E	楕円形	0.97 × 0.84	24	緩斜	皿状	人為		
692	E 2 d0	N-57°-W	不整楕円形	1.13 × 0.42	19	外傾	平坦	人為		SD12と重複
693	E 2 c0	N-14°-W	楕円形	1.35 × 0.55	7	緩斜	平坦	人為		SD10→本跡
694	E 2 d0	N-8°-E	楕円形	1.08 × 0.90	33	外傾	皿状	人為		本跡→SK706
695	E 2 d9	N-12°-W	楕円形	1.17 × 0.80	6	緩斜	平坦	人為		
696	E 3 e1	—	楕円形	1.36 × 1.25	13	外傾	平坦	人為		
697	E 2 c7	[N-40°-W]	[長方形]	(1.41) × 1.08	44	緩斜	平坦	人為		SD11→本跡
698	D 2 j9	N-24°-W	長方形	1.58 × 0.53	9	緩斜	平坦	自然		
699	E 2 a6	[N-2°-E]	[楕円形]	(1.61) × 0.76	6	緩斜	皿状	人為		SK702と重複
702	E 2 a6	[N-14°-W]	[長方形]	(1.68) × 0.78	9	緩斜	皿状	人為	土師器片	SK699と重複
703	E 2 a7	N-11°-W	不定形	1.29 × 0.88	22	外傾	平坦	人為		
704	E 3 d1	N-87°-E	長方形	0.88 × 0.52	8	緩斜	皿状	人為		
705	E 2 c9	N-78°-W	長方形	1.45 × 1.05	163	直立	皿状	人為		
706	E 2 d0	N-27°-W	楕円形	0.83 × 0.58	24	外傾	皿状	人為		本跡→SK694
707	E 3 c1	N-41°-E	不定形	0.71 × 0.40	23	外傾	凹凸	自然		
708	E 3 c1	—	楕円形	0.37 × 0.36	30	外傾	皿状	自然		
709	E 3 d1	N-20°-W	楕円形	0.52 × 0.40	37	外傾	皿状	自然		
710	E 3 d1	N-1°-W	楕円形	0.45 × 0.39	40	外傾	皿状	自然		
711	E 3 f1	N-15°-E	楕円形	0.84 × 0.62	15	緩斜	平坦	自然		
712	E 3 e1	N-58°-E	長方形	1.12 × 0.90	26	緩斜	平坦	自然		
713	E 3 e1	N-59°-E	楕円形	1.07 × 0.69	22	緩斜	平坦	自然		
715	D 2 i8	N-23°-W	長方形	1.42 × 0.58	22	緩斜	凹凸	人為		
716	D 2 i8	N-74°-E	長方形	1.26 × 1.02	21	外傾	平坦	人為		
717	D 2 h7	[N-3°-E]	[長方形]	3.69 × (0.62)	8	緩斜	皿状	人為		SK723,737→本跡
719	E 3 d1	N-77°-E	楕円形	0.34 × 0.29	19	外傾	皿状	不明		
721	D 2 i5	—	円形	0.64 × 0.61	26	緩斜	平坦	人為		
722	D 2 j5	N-60°-W	楕円形	0.51 × 0.42	12	緩斜	皿状	人為		
723	D 2 h7	N-82°-E	長方形	0.98 × 0.31	10	緩斜	平坦	人為		本跡→SK717
724	D 2 h7	[N-26°-W]	[長方形]	(0.78) × 0.64	38	外傾	平坦	人為		本跡→SK736
725	D 2 g6	N-21°-W	長方形	2.06 × 0.64	55	直立	平坦	人為		
726	D 2 g6	N-19°-W	長方形	2.83 × 0.91	12	緩斜	平坦	人為		
727	D 2 i6	N-19°-W	楕円形	1.47 × 0.66	5	緩斜	平坦	人為		
728	D 2 i6	[N-10°-W]	[長方形]	(1.64) × 0.71	7	緩斜	平坦	人為		SK734と重複
729	D 2 h4	N-18°-W	長方形	1.94 × 0.72	28	緩斜	平坦	人為		
730	D 2 h5	N-22°-W	長方形	2.86 × 0.54	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	
731	D 2 j4	—	円形	0.92 × 0.89	34	外傾	凹凸	人為		
732	D 2 i5	N-5°-E	楕円形	0.48 × 0.39	9	緩斜	皿状	人為		
733	D 2 j5	N-12°-E	不整楕円形	0.52 × 0.33	13	緩斜	凹凸	人為		
734	D 2 i6	N-56°-E	[方形]	(0.76) × 0.74	8	緩斜	平坦	人為		SK728と重複
735	D 2 h5	—	円形	0.64 × 0.62	16	外傾	皿状	人為		
736	D 2 h7	[N-18°-W]	[隅丸長方形]	(1.44) × 0.92	12	外傾	平坦	人為		SK724→本跡
737	D 2 h7	[N-12°-W]	[長方形]	(2.67) × 0.92	18	緩斜	皿状	人為		本跡→SK717
738	D 2 j6	—	円形	1.30 × 1.20	42	外傾	凹凸	人為		
739	D 2 e7	[N-79°-W]	[長方形]	(3.81) × 0.70	42	直立	平坦	人為		本跡→SE7 SK845, SX3と重複

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(a)	深さ (cm)					
740	D 2 d7	—	不整円形	1.14 × 1.10	48	緩斜	皿状	人為		
741A	D 2 e8	N-86°-W	長方形	1.62 × 0.94	24	外傾	平坦	人為		
741B	D 2 e8	[N-90°]	[長方形]	[1.37]×[0.78]	7	緩斜	平坦	人為		
742	D 2 e7	—	円形	1.29 × 1.21	18	緩斜	平坦	人為		
743	D 2 d5	N-85°-W	隅丸長方形	2.16 × 0.96	34	外傾	平坦	人為		SK745,746→本跡
744	D 2 e6	N-17°-W	長方形	2.74 × 0.96	28	外傾	平坦	人為		
745	D 2 e5	N-10°-W	長方形	2.79 × 0.62	4	外傾	皿状	人為		本跡→SK743,746
746	D 2 e5	N-14°-W	隅丸長方形	5.53 × 0.26	54	直立	凹凸	人為		SK745→本跡→SK743
747	D 3 j1	[N-78°-E]	[方形]	1.32 × [1.20]	36	緩斜	平坦	人為		本跡→第14号地下式壙
749	D 3 j1	[N-57°-W]	不定形	(1.35) × 0.82	14	緩斜	凹凸	人為		第14号地下式壙→本跡
751	D 2 j8	N-24°-W	長方形	1.85 × 0.60	55	直立	平坦	人為		SK873→本跡
752	D 2 f7	—	円形	1.08 × 1.01	86	直立	皿状	人為		SE7→本跡
753	D 2 c4	N-52°-E	楕円形	2.40 × 1.88	17	緩斜	平坦	人為		
754	D 1 e0	[N-44°-W]	[楕円形]	(0.60)×(0.50)	15	緩斜	平坦	人為		本跡→SK755
755	D 2 e1	N-8°-W	長方形	2.89 × 1.17	14	緩斜	平坦	人為		SK754→本跡→SK838
756	C 2 j4	N-83°-W	長方形	1.16 × 0.78	45	外傾	平坦	人為		
757	E 3 a1	N-40°-W	楕円形	1.34 × 1.05	15	外傾	平坦	人為		SK675→本跡
758	E 3 d4	N-17°-E	楕円形	0.65 × 0.56	7	緩斜	平坦	人為		SI49→本跡
759	E 3 b1	N-25°-E	楕円形	0.75 × 0.66	135	直立	平坦	人為		
760	D 2 g3	—	円形	1.03 × 0.92	14	緩斜	皿状	自然		
761	D 2 f4	N-14°-E	隅丸長方形	1.65 × 0.76	23	外傾	平坦	人為		
762	D 2 f2	N-17°-W	隅丸長方形	2.88 × 0.76	17	外傾	平坦	人為		
763	D 2 e3	N-83°-E	楕円形	1.71 × 0.48	55	外傾	凹凸	人為		
764	D 2 e7	N-12°-W	隅丸長方形	3.13 × 0.48	22	外傾	平坦	人為		
765	E 3 d1	N-51°-W	楕円形	0.40 × 0.33	32	外傾	平坦	人為		
766	D 2 i5	N-0°	楕円形	0.49 × 0.37	10	緩斜	皿状	人為		
768	C 1 j0	N-8°-W	隅丸長方形	1.25 × 1.07	9	緩斜	皿状	自然		
769	C 1 j0	N-21°-W	不定形	2.15 × 1.54	15	外傾	凹凸	人為		
770	D 1 j0	N-49°-E	隅丸長方形	1.41 × 1.04	11	外傾	平坦	人為		
771	D 2 a1	[N-3°-W]	[隅丸長方形]	[1.26]×[0.62]	7	緩斜	平坦	不明		SK772,第12号火葬施設と重複
772	D 2 a1	N-42°-W	[楕円形]	[0.87]×[0.75]	8	緩斜	平坦	不明		SK771,第12号火葬施設と重複
773	D 2 a2	N-79°-E	隅丸長方形	1.52 × 1.40	15	外傾	平坦	人為		
774	D 2 a1	N-64°-E	長方形	1.70 × 0.71	33	外傾	皿状	人為		
775	D 2 j5	N-13°-E	隅丸長方形	2.13 × 0.53	12	緩斜	平坦	人為		本跡→第11号火葬施設
776	D 2 a3	—	円形	0.78 × 0.77	20	外傾	平坦	人為		
777	D 2 b3	N-88°-E	楕円形	1.02 × 0.75	54	直立	平坦	人為		
778	C 2 j2	N-10°-W	隅丸長方形	1.37 × 1.32	35	外傾	平坦	人為		
779	C 2 j3	N-12°-E	不整楕円形	1.55 × 1.20	14	緩斜	平坦	自然		
780	C 2 j3	—	円形	0.52 × 0.52	18	緩斜	平坦	自然		
781	C 2 j3	N-10°-W	隅丸長方形	1.37 × 1.32	35	外傾	平坦	人為		
782	D 2 a2	N-19°-W	不定形	1.08 × 0.52	3	外傾	平坦	自然		
783	D 2 a2	N-50°-W	楕円形	0.95 × 0.85	15	緩斜	平坦	自然		
784	D 2 a3	N-17°-E	隅丸長方形	1.04 × 1.00	20	外傾	平坦	人為		
785	C 2 j3	—	円形	1.08 × 0.91	17	外傾	平坦	不明		
786	C 2 j4	N-78°-E	隅丸長方形	2.39 × 1.20	28	外傾	平坦	自然		SK787→本跡SK861 862と重複
787	C 2 j4	[N-82°-E]	[長方形]	(1.58) × 1.18	28	緩斜	平坦	自然		本跡→SK786 SK862と重複

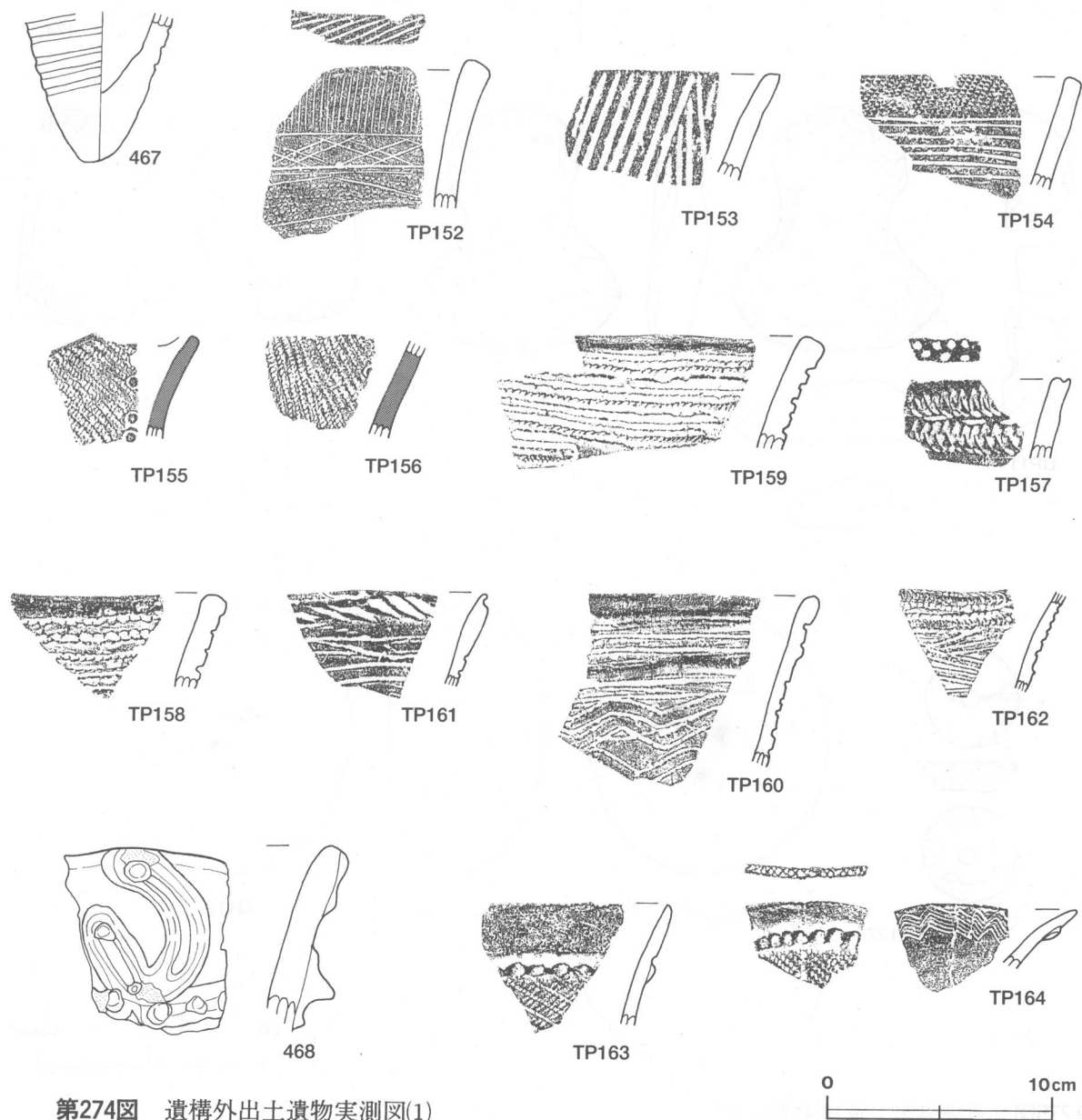
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 [長軸]×[短軸][m]	深さ (cm)					
788	D 2 a3	N-6°-E	不定形	0.67 × 0.43	40	外傾	皿状	人為		
789	D 2 a3	N-56°-E	不定形	0.63 × 0.46	90	外傾	皿状	人為		
790	D 2 a4	N-31°-W	楕円形	0.90 × 0.70	21	緩斜	皿状	人為		SK859と重複
791	D 2 b2	—	円形	0.80 × 0.75	32	外傾	平坦	自然		本跡→SK792
793	D 2 b2	N-4°-W	長方形	1.47 × 1.15	28	外傾	平坦	人為		
794	D 2 b2	N-13°-W	不定形	1.50 × 1.10	44	緩斜	凹凸	自然		
795	D 2 b2	N-86°-E	不定形	1.28 × 0.95	11	緩斜	平坦	人為		
796	D 2 b2	N-25°-E	不定形	1.00 × 0.80	50	外傾	凹凸	自然		SK817→本跡
797	D 2 c3	N-20°-E	楕円形	0.72 × 0.60	34	緩斜	平坦	人為		
798	D 2 b3	N-79°-E	不整楕円形	0.75 × 0.45	30	緩斜	平坦	人為		
799	D 2 c3	N-70°-E	長方形	2.37 × 0.66	15	外傾	平坦	自然		
800	C 1 d7	N-15°-W	楕円形	1.08 × 0.56	11	緩斜	皿状	人為		
801	C 1 e5	[N-22°-W]	[長方形]	2.50 × [0.75]	28	直立	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SK802→本跡
802	C 1 e5	[N-31°-W]	[長方形]	[2.41] × [0.65]	28	直立	平坦	人為		本跡→SK801
803	C 1 g3	[N-64°-E]	[長方形]	(1.38) × 1.10	53	外傾	平坦	人為	土師器片	SX10→本跡
804	C 1 f2	[N-29°-W]	不定形	3.22 × (1.25)	145	内傾	平坦	人為		SX10→本跡
805	C 1 e5	—	円形	1.27 × 1.17	46	緩斜	平坦	自然		
806	C 1 h6	N-23°-W	長方形	4.70 × 0.85	30	外傾	平坦	人為	土師器片	SI46→本跡
807	C 1 g9	N-12°-W	隅丸長方形	2.58 × 0.71	12	緩斜	平坦	人為		
808	C 1 g9	N-14°-W	隅丸長方形	2.19 × 0.74	18	緩斜	平坦	人為		
809	C 2 j1	—	円形	1.30 × 1.26	24	緩斜	皿状	人為		
810	C 1 e7	—	円形	0.94 × 0.91	8	緩斜	皿状	自然		
811	D 2 d3	N-20°-W	長方形	2.76 × 0.67	43	直立	平坦	人為		SD 2 → 本跡 SX 7 と重複
812	D 2 e1	N-89°-W	方形	1.86 × 1.68	75	直立	平坦	人為	土師器片	SK813→本跡
813	D 2 e1	[N-83°-W]	[楕円形]	(0.60) × 0.53	26	緩斜	皿状	人為		本跡→SK812
814	D 2 d1	N-86°-E	長方形	2.37 × 2.09	75	直立	平坦	人為		SK834→本跡→SK815
815	D 2 d1	N-16°-W	楕円形	4.37 × 0.58	17	緩斜	皿状	人為		SK814→本跡
816	D 2 d3	N-10°-W	長方形	1.70 × 1.15	10	緩斜	平坦	不明	土師器片, 須恵器片	SX 7 と重複
817	D 2 b3	N-61°-W	不定形	0.98 × 0.86	13	緩斜	皿状	人為		本跡→SK796
818	D 2 d3	N-65°-E	長方形	2.37 × 0.70	39	外傾	平坦	不明		SX 7 → 本跡
819	D 2 e2	N-50°-E	長方形	2.53 × 2.28	12	緩斜	平坦	人為		
820	D 2 b1	N-11°-W	長方形	1.54 × 0.95	10	外傾	平坦	人為		
821	D 2 a2	N-68°-W	楕円形	0.88 × 0.45	57	外傾	皿状	人為	土師器片	
822	D 2 d1	N-5°-W	楕円形	1.19 × 0.98	27	外傾	平坦	人為		
823	D 2 b2	N-11°-E	不定形	0.51 × 0.34	32	外傾	凹凸	人為		
824	D 1 d0	N-72°-W	楕円形	0.93 × 0.74	23	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	
825	E 3 c2	—	円形	0.37 × 0.34	35	直立	皿状	人為		
826	E 2 b0	N-6°-E	楕円形	0.73 × 0.52	38	外傾	凹凸	人為		
827	E 2 c8	N-0°	楕円形	0.44 × 0.29	48	外傾	皿状	人為		
828	D 1 d8	N-12°-W	隅丸長方形	1.41 × 0.60	12	緩斜	皿状	人為	土師器片	
829	D 2 e4	[N-6°-W]	[長方形]	[2.02] × 0.87	18	緩斜	平坦	不明		SD2, SX7と重複
830	D 2 g2	N-64°-E	隅丸長方形	1.15 × 0.86	146	直立	平坦	人為		
831	D 1 d0	[N-76°-E]	[楕円形]	(1.08) × 0.79	25	緩斜	平坦	人為		SX8→本跡→SK832
832	D 1 d0	N-18°-W	楕円形	1.39 × 1.16	45	外傾	平坦	人為		SK831, 834, SX8→本跡
833	D 2 c1	N-31°-W	楕円形	0.89 × 0.57	39	外傾	平坦	人為		SK870, SX8→本跡
834	D 2 c1	N-18°-E	長方形	1.89 × 1.70	44	緩斜	平坦	人為		SX8→本跡→SK814, 832

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)[m]	深さ (cm)					
835	D 2 b1	N-11°-W	楕円形	1.78 × 1.28	65	外傾	平坦	人為		SK868→本跡
837	D 1 a0	N-10°-W	長方形	4.02 × 0.81	18	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	SK836→本跡
838	D 2 e1	N-61°-E	長方形	1.39 × 0.84	54	直立	平坦	自然		SK755→本跡
839	D 2 e1	[N-10°-W]	[長方形]	(2.35) × 0.85	12	緩斜	平坦	不明		SK840, 880と重複
840	D 2 e1	N-7°-E	楕円形	2.30 × 0.93	8	緩斜	平坦	不明		SK839と重複
841	C 3 i7	[N-70°-E]	[楕円形]	0.91 × (0.53)	19	外傾	平坦	不明		
842	D 1 b9	N-74°-W	楕円形	0.36 × 0.31	40	直立	皿状	人為		本跡→SX8
843	C 3 i7	N-44°-W	楕円形	0.76 × 0.50	10	緩斜	平坦	人為		
844	C 2 j1	N-14°-W	隅丸長方形	3.26 × 1.18	17	緩斜	平坦	自然	土師器片	本跡→SK846→S111
845	D 3 e6	[N-79°-W]	[長方形]	(1.53) × 1.20	55	外傾	平坦	不明		SK739と重複
846	C 2 i1	[N-29°-W]	[隅丸長方形]	(1.04) × 0.56	8	緩斜	皿状	自然		SK844→本跡→S111
847	D 1 d9	[N-18°-W]	[長方形]	(2.35) × (1.19)	30	外傾	平坦	自然	土師器片, 木質片	S152→本跡→SX8
848	D 1 b0	N-38°-E	不整楕円形	2.56 × 2.04	118	内傾	平坦	人為		SK854, SD2, SX8→本跡→SK849 SK673と重複
849	D 1 b0	N-74°-W	楕円形	0.90 × 0.58	46	外傾	皿状	不明	土師器片	SK848, SX8→本跡
850	D 1 b9	N-73°-E	不整楕円形	2.75 × 1.06	90	直立	平坦	人為		SX8→本跡
851	D 1 b9	N-88°-E	不整楕円形	2.60 × 1.65	149	直立	平坦	不明	陶器片	SX8→本跡
852	D 1 b0	N-77°-W	楕円形	0.89 × 0.75	41	外傾	皿状	不明		本跡→SX8
853	D 1 b0	N-82°-W	楕円形	2.63 × 1.44	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK854
854	D 1 a0	N-6°-W	長方形	2.20 × 1.08	35	外傾	平坦	人為		SK853→本跡 SK772, 第12号火 葬施設と重複
858	D 2 a4	-	円形	0.40 × 0.37	40	外傾	皿状	人為		SK853→本跡
859	D 2 a4	N-28°-W	[楕円形]	0.58 × (0.40)	71	外傾	凹凸	人為		SK790と重複
860	E 2 a6	-	円形	0.88 × 0.84	6	緩斜	凹凸	自然		
861	C 2 j3	N-77°-E	楕円形	0.96 × 0.63	64	直立	平坦	不明		SK786, 862と重複
862	C 2 j4	[N-82°-E]	[隅丸長方形]	(1.42) × 0.70	57	外傾	平坦	不明		SK786, 861と重複
863	D 2 f1	[N-0°]	[楕円形]	0.75 × (0.41)	10	緩斜	皿状	人為		S151→本跡→SK864
864	D 2 f1	N-82°-E	長方形	2.32 × 0.80	15	緩斜	皿状	人為		S151→SK863→本跡
865	D 2 c2	N-2°-W	不定形	1.17 × 1.12	14	外傾	凹凸	人為		
866	D 1 d9	[N-70°-E]	[長方形]	(1.85) × 1.00	30	外傾	平坦	人為		S152→本跡→SX8
867	D 1 c9	N-74°-E	楕円形	1.50 × 0.25	15	緩斜	平坦	人為		SX8, S152→本跡
868	D 2 b1	[N-9°-W]	[楕円形]	1.28 × (0.52)	24	外傾	平坦	人為		
869	D 2 b1	N-17°-W	不整楕円形	0.74 × 0.46	35	外傾	凹凸	人為		SD2→本跡
870	D 2 c1	[N-3°-E]	[隅丸長方形]	(1.18) × (0.76)	23	外傾	平坦	不明		SX8→SK833
873	D 2 j8	N-66°-W	長方形	1.06 × 0.50	9	緩斜	皿状	自然		本跡→SK751
874	D 1 c0	N-9°-E	長方形	0.95 × 0.50	53	外傾	平坦	人為		SX8, S152→本跡
875	D 2 b1	N-28°-E	楕円形	0.36 × 0.29	30	外傾	皿状	人為		
876	D 1 a0	N-1°-W	隅丸長方形	1.55 × 1.06	29	緩斜	平坦	人為		SK877→本跡
877	D 1 a0	N-0°	長方形	1.16 × 0.69	10	外傾	平坦	不明		本跡→SK876
878	D 2 g6	N-24°-W	長方形	1.67 × 0.42	60	外傾	平坦	人為		SD2→本跡
879	D 1 f0	N-27°-W	楕円形	1.23 × 0.98	32	外傾	平坦	自然		
880	D 2 f1	N-12°-W	楕円形	3.49 × 0.63	15	緩斜	平坦	不明		SK881と重複
881	D 2 f1	N-69°-E	長方形	0.98 × 0.63	39	直立	平坦	不明		SK880と重複
882	C 1 i4	[N-29°-W]	[長方形]	(3.01) × 0.70	44	緩斜	平坦	人為		本跡→SK883
883	C 1 i4	N-14°-E	楕円形	1.55 × 0.95	25	緩斜	平坦	人為		SK882→本跡
884	D 1 f0	-	円形	0.39 × 0.36	61	外傾	皿状	人為		
885	D 1 f0	N-33°-W	楕円形	0.43 × 0.34	50	外傾	皿状	人為		
886	D 1 a8	N-33°-W	方形	0.72 × 0.71	51	外傾	凹凸	人為		

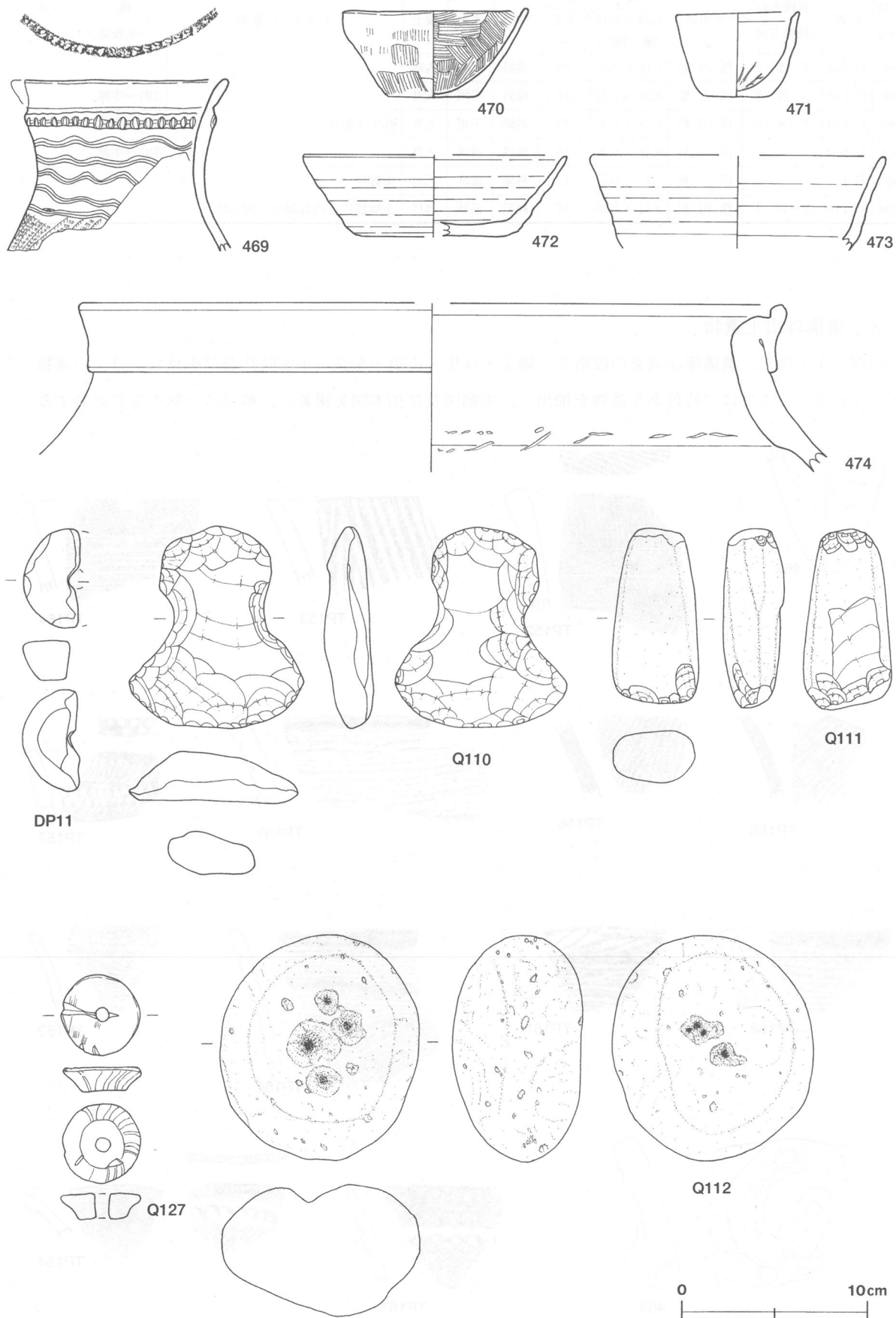
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸)×(短軸)(m)	深さ (cm)					
887	D 2 d1	N-20°-E	楕円形	1.18 × 0.85	28	緩斜	平坦	人為		
890	C 1 d4	N-57°-E	長方形	3.04 × 0.42	18	緩斜	平坦	人為		TM1→本跡
891	C 1 d4	N-8°-W	楕円形	0.51 × 0.40	30	外傾	平坦	人為	弥生土器片	TM1→本跡
892	C 1 d4	—	円形	0.44 × 0.40	16	緩斜	皿状	人為		TM1→本跡
893	B 4 j7	—	円形	径 0.51	12	外傾	皿状	人為	陶器片	
894	C 4 b6	N-40°-E	楕円形	0.42 × 0.36	11	緩斜	皿状	自然	土師器片, 内耳鍋片, 陶器片	

(8) 遺構外出土遺物

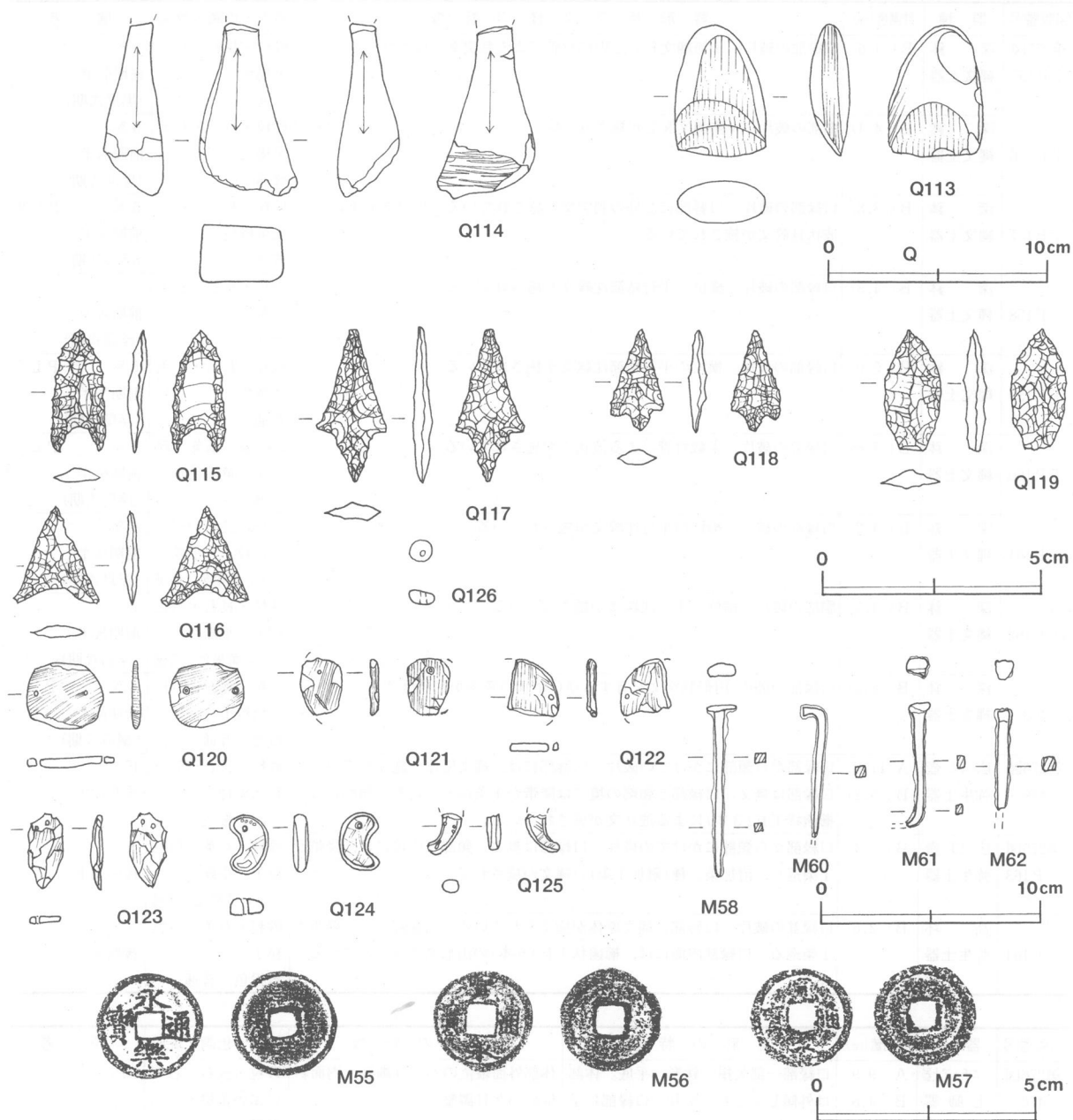
試掘, 表土除去, 遺構確認調査の段階で, 縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代及び中世にかけての遺物が出土している。ここでは, 特色ある遺物を抽出し, 実測図及び拓本図を掲載し, 解説は一覧表等に記載する。



第274図 遺構外出土遺物実測図(1)



第275図 遺構外出土遺物実測図(2)



第276図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第275図 467	尖底土器 縄文土器	B(6.8)	尖底部の破片。砲弾状を呈する。横位の太沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母・ 小礫 にぶい橙色 普通	5% 早期中葉 (田戸下層式期)
T P 152	深鉢 縄文土器	B(6.8)	口縁部の破片。口唇部断面は角頭状で、外削ぎ状を呈する。口唇部に平行細沈線文、口唇直下から縦位の細沈線文、その下に格子目文が施されている。	砂粒・長石・石英・小礫 にぶい黄橙色 普通	5% 早期中葉 (田戸下層式期)
T P 153	深鉢 縄文土器	B(4.8)	口縁部の破片。口唇部直下から、斜位の平行沈線文が施されている。	砂粒・長石・小礫 にぶい黄橙色 普通	5% 早期中葉 (田戸下層式期)
T P 154	深鉢 縄文土器	B(5.0)	口縁部の破片。口唇部に貝殻腹線文と横位の平行細沈線文が施されている。	砂粒・長石・小礫 灰黄褐色 普通	5% 早期中葉 (田戸下層式期)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第275図 T P 155	深鉢 縄文土器	B ( 4.6)	口縁部の破片。単節縄文RLと円形竹管による刺突文が施されている。	砂粒・長石・石英 黒褐色 普通	5% 前期前半 (黒浜式期)
T P 156	深鉢 縄文土器	B ( 4.4)	胴部の破片。単節縄文RLが施されている。	砂粒・長石・石英 黒褐色 普通	5% 前期前半 (黒浜式期)
T P 157	深鉢 縄文土器	B ( 3.8)	口縁部の破片。口唇部に2列の刺突文が施されている。口唇部直下には、波状貝殻文が施されている。	砂粒・長石・石英 浅黄橙色 普通	5% P L 30 前期後半 (浮島式期)
T P 158	深鉢 縄文土器	B ( 4.3)	口縁部の破片。横位の平行結節沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英 灰黄色 普通	5% 前期後半 (浮島式期)
T P 159	深鉢 縄文土器	B ( 5.0)	口縁部の破片。横位の平行結節沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英 灰黄色 普通	5% P L 30 前期後半 (浮島式期)
T P 160	深鉢 縄文土器	B ( 7.6)	口縁部の破片。半截竹管による波状文が施されている。	砂粒・長石・石英・小礫 にぶい黄褐色 普通	5% P L 30 前期後半 (浮島式期)
T P 161	深鉢 縄文土器	B ( 4.2)	口縁部の破片。横位の平行沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英・ 白色粒子・小礫 にぶい黄褐色 普通	5% 前期後半 (浮島式期)
T P 162	深鉢 縄文土器	B ( 4.5)	胴部の破片。横位の平行沈線文が施されている。	砂粒・長石・白色 粒子・小礫 にぶい黄褐色 普通	5% 前期後半 (浮島式期)
468	深鉢 縄文土器	B ( 8.2)	口縁部の破片。円形刺突文を有する逆C字状の隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母・ 白色粒子 橙色 普通	5% P L 30 後期前葉 (網取式期)
第276図 469	広口壺 弥生土器	A 11.6 B ( 9.2)	口縁部から頸部にかけての破片。口唇部には、縄文原体が施されている。口縁部は無文。口縁部と頸部の境には隆帯が1条巡っている。頸部には、櫛歯状工具(3本)による波状文が施されている。	砂粒・長石・雲母・ 針状鉱物 にぶい褐色 普通	15% 後期後半
第275図 T P 163	広口壺 弥生土器	B ( 5.4)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は無文。頸部との境には、隆帯が1条巡り、附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。	砂粒・石英・白色 粒子・小礫 にぶい黄褐色 普通	5% 後期後半
T P 164	高坏 弥生土器	B ( 2.6)	口縁部の破片。口唇部に縄文原体が施文されている。口縁部には、隆帯が1条巡る。口縁部内面には、櫛歯状工具(6本)の山形文が施されている。	砂粒・石英・白色 粒子 黄褐色 普通	5% 後期後半

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第276図 470	ミニチュア土器 土師器	A 9.9 B 4.8 C 4.8	口縁部一部欠損。鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部外面縦位のハケ目調整、内面斜位のハケ目調整。	砂粒・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	90%
471	ミニチュア土器 土師器	A 6.5 B 4.8 C 3.6	完形。鉢形。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	100%
472	坏 須恵器	A [14.2] B 4.4 C [ 8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・長石・石英・ 小礫 褐灰色 普通	30%
473	坏 須恵器	A [15.8] B ( 5.1)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英・ 白色粒子 灰色 普通	5%

図版番号	器種	器質	計測値				残存率	胎土色調	釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	C	D						
第276図 474	甕	陶器	[37.6]	( 9.0)	—	—	5%	灰色 灰赤褐色	自然釉	口縁部の折り返し部に、隙間が残る。	常滑系 15C前半	



図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第276図DP11	紡錘車	(5.3)	2.1	(0.5)	(32.6)	土製	断面は長方形。無文。	

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第276図Q110	打製石斧	10.8	9.3	2.8	253.8	砂岩	分銅形。	P L 30
Q111	磨製石斧	9.6	4.6	3.0	277.0	蛇紋岩	乳房状を呈する。	P L 30
Q112	凹石	12.1	10.8	7.0	716.2	安山岩	表裏に凹をもつ。	P L 30
第277図Q113	片刃石斧	6.1	4.2	1.9	59.3	頁岩	刃縁は直刃で、片刃状を呈する。	P L 30
Q114	砥石	(7.8)	4.5	2.7	(81.1)	凝灰岩	研ぎ面は4面。	
Q115	石鏃	2.8	1.3	0.3	1.2	チャート	無茎鏃。	
Q116	石鏃	2.3	2.0	0.3	0.9	頁岩	無茎鏃。	P L 30
Q117	石鏃	3.5	1.6	0.4	1.4	チャート	有茎鏃。	
Q118	石鏃	2.4	1.2	0.4	0.8	瑪瑙	有茎鏃。	P L 30
Q119	石鏃	2.8	1.3	0.5	1.6	チャート	無茎鏃。	

図版番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第277図Q120	双孔円板	3.0	3.4	0.3	0.2	6.0	滑石	2孔が空けられている。	
Q121	双孔円板	(2.5)	(1.9)	0.3	0.2	(2.6)	滑石	1孔が空けられ、1/2欠損。	
Q122	双孔円板	(2.6)	(2.3)	0.4	0.2	(3.8)	滑石	1孔が空けられ、1/4欠損。	
Q123	剣形品	3.4	1.6	0.5	0.1	3.7	滑石	基部に小孔が2つ空けられている。	P L 30
Q124	勾玉	2.6	1.7	0.7	0.2	4.7	滑石	基部に小孔が空けられている。	P L 30
Q125	勾玉	(1.7)	(1.6)	0.6	—	(1.8)	滑石	基部欠損。	

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第277図Q126	白玉	0.5	0.3	0.1	0.1	滑石	断面は長方形。中央に孔が空けられている。	
第276図Q127	紡錘車	4.3	1.3	0.8	31.3	安山岩	断面は台形。中央に孔が空けられている。	P L 30

図版番号	銭種	計測値				初 鑄 年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	時代	西暦	
第277図M55	永楽通寶	2.5	0.1	0.6	3.1	明	1408年	
M56	寛永通寶	2.4	0.1	0.6	2.8	江戸	1708年	
M57	寛永通寶	2.5	0.1	0.7	3.3	江戸	1708年	

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第277図M58	釘	(7.8)	0.5	0.5	(6.5)	鉄	角釘。脚下部欠損。	
M60	釘	(6.0)	0.5	0.5	(5.0)	鉄	角釘。脚下部欠損。	
M61	釘	(5.7)	0.5	0.4	(6.0)	鉄	角釘。脚下部欠損。	
M62	釘	(4.8)	0.6	0.6	(6.6)	鉄	角釘。脚下部欠損。	

## 8 十万原遺跡遺構一覽表

表3 縄文時代 竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向 (長径方向)	平面形	規模 (m) (長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炬・竈			
19	C 3 f3	N-28°-W	楕円形	4.61 × 3.91	15~19	平坦	—	5	—	8	—	—	自然	縄文土器片	
21	B 4 a2	[N-47°-E]	[楕円形]	[9.23]×[6.62]	—	平坦	—	18	—	8	—	—	—	尖底土器片	SK306と重複
31	A 4 j1	N-44°-E	隅丸長方形	5.70 × 4.41	10~21	平坦	—	11	—	2	—	—	自・人	尖底土器片, 敲石	本跡→SK302
34	B 4 c1	[N-49°-E]	[楕円形]	[10.05]×[6.50]	—	平坦	—	13	—	6	—	—	—	尖底土器片	
35	B 3 c8	[N-30°-E]	[楕円形]	[6.72]×[5.55]	—	平坦	—	14	—	2	—	—	—		
42	D 4 c4	N-14°-E	楕円形	5.70 × 5.02	30~35	平坦	全周	5	—	—	—	石罫	自然	縄文土器(深鉢), 石鏃, 磨石	本跡→第4号地下式竈

表4 縄文時代 土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
35	D 4 h4	—	円形	径 1.50	83	直立	平坦	自然	縄文土器片	
56	D 4 f5	—	円形	径 1.40	38	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
168	C 1 b6	N-42°-E	楕円形	1.70 × 1.54	46	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
242	C 2 b3	N-82°-W	楕円形	1.56 × 1.20	94	直立	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SI15
243	C 2 a3	—	円形	径 0.90	102	直立	平坦	人為	縄文土器片	本跡→SI15, SD 5
280	B 2 j8	N-54°-W	楕円形	1.52 × 1.15	28	外傾	凹凸	自然	縄文土器片	
329	C 2 a9	—	円形	径 0.60	14	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	本跡→SD6
341	B 4 b3	N-89°-E	楕円形	1.9 × 1.20	20	緩斜	平坦	自然	尖底土器片	
342	B 4 b2	N-30°-W	楕円形	0.78 × 0.61	23	外傾	平坦	自然	尖底土器片	
550A	C 4 f2	N-68°-E	楕円形	[1.95]×1.22	43	外傾	平坦	自然	深鉢, 広口壺, 土器片円盤, 石鏃	SK550B→本跡
550B	C 4 f2	—	円形	径 1.15	85	内傾	平坦	人為	深鉢, 石製垂飾り	本跡→SK550A
555	C 3 g0	—	円形	径 1.13	33	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
888	C 1 d4	—	円形	径 1.48	54	外傾	平坦	不明	縄文土器片	本跡→TM1
889	C 1 d6	—	円形	径 1.00	52	外傾	平坦	自然	縄文土器片	本跡→TM1

表5 陥し穴一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (土坑番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	A 4 i1	N-62°-W	楕円形	1.60×1.10	82	直立	平坦	人為	尖底土器片	(SK304)
2	B 3 d7	N-59°-W	楕円形	1.23×0.68	110	直立	平坦	人為		(SK363)

表6 弥生時代 竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向 (長径方向)	平面形	規模 (m) (長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炬・竈			
1	D 4 h5	N-24°-E	隅丸長方形	3.95 × 3.78	10~18	平坦	—	3	—	2	1	—	自然	弥生土器(広口壺), 土製紡錘車	
16	C 3 c1	N-63°-W	隅丸長方形	4.85 × 3.88	24~31	平坦	—	4	—	—	—	炬1	自然	弥生土器(広口壺)	
17	C 2 c7	—	円形	6.80 × 6.75	15~29	平坦	—	4	—	2	1	炬1	自然	弥生土器(広口壺), 土師器(高坏, 器台), 敲石	
20	B 2 j9	N-84°-E	隅丸長方形	4.79 × 4.65	15~26	平坦	—	4	—	3	1	炬1	自然	弥生土器(広口壺, 片口皿), 土師器(高坏)	本跡→SD5.7
23	C 3 b4	N-53°-E	隅丸長方形	4.77 × 4.30	8~10	平坦	—	4	—	—	—	炬1	自然	弥生土器(広口壺)	
25	B 3 g5	[N-48°-E]	[隅丸長方形]	[4.85]×[4.70]	3~12	平坦	—	4	—	3	1	—	自然	弥生土器(広口壺)	本跡→SK309.314
26	C 3 b9	N-51°-W	[隅丸長方形]	[4.29]×[3.45]	5~8	平坦	—	1	—	2	—	炬1	自然	弥生土器(広口壺), 炬石	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
44	C 4 j5	N-10°-W	隅丸方形	5.08 × 5.04	5 ~ 8	平坦	—	4	—	—	—	炉1	自然	弥生土器(広口壺), 土製紡錘車 如石	
45	C 4 d3	N-31°-E	隅丸長方形	4.68 × 4.18	4 ~ 7	平坦	—	4	—	—	—	炉1	自然	弥生土器(広口壺), 炉石	
47	C 3 g7	N-0°	長方形	5.18 × 4.52	2 ~ 4	平坦	—	4	—	1	—	—	人為	弥生土器(広口壺)	

表7 古墳時代 堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向 (長径方向)	平面形	規模 (m) (長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (旧→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
2	E 4 a4	N-24°-W	方形	6.18 × 6.08	20~35	平坦	—	3	1	1	—	炉1	自然	土師器(坏, 腕, 高坏, 甕), 双孔円板	本跡→SK4.346
3	E 4 b5	不明	[隅丸長方形]	3.25 × (3.10)	5 ~ 9	平坦	—	—	—	—	—	—	自然	土師器片	
5	D 4 d2	N-29°-E	長方形	5.38 × 4.40	3 ~ 6	平坦	—	2	1	4	—	炉1	自然	土師器(坏, 高坏, 甕)	本跡→SK68.81. 82.130
7	D 2 c6	N-33°-W	隅丸方形	5.05 × 4.87	46~66	平坦	—	3	1	7	1	炉1	自然	土師器(高坏, 埴, 壺, 甕, 台付甕)	本跡→SK158. 159.347
8	C 3 i1	N-16°-W	方形	7.12 × 6.94	15~27	平坦	全周	4	1	2	1	炉1	自然	土師器(高坏, 器台, 甕), 砥石	本跡→第3号地下 式墳
9	C 3 i4	N-47°-W	方形	5.65 × 5.57	23~35	平坦	—	4	1	5	1	—	自然	土師器(碗, 甕), 石製紡錘車	
10	C 2 g7	N-33°-W	方形	5.46 × 5.16	43~54	平坦	—	4	1	—	1	炉1	人・自	土師器(坏, 高坏, 器台, 壺, 甕), 砥石	本跡→SK282
11	C 1 h0	N-45°-W	方形	6.28 × 6.22	55~63	凹凸	—	3	1	2	—	炉1	自然	土師器(坏, 高坏, 埴, 甕, ミ ニチュア土器)	本跡→SK84.846
12	C 1 f8	N-50°-E	隅丸長方形	5.06 × 3.86	10~18	平坦	—	4	—	2	—	—	自然	土師器(壺, 台付甕, ミニチュア土器)	
13	B 1 j8	N-62°-E	隅丸長方形	5.90 × 4.93	5 ~ 10	平坦	—	—	1	—	—	—	自然	土師器(ミニチュア土器)	SK165.166→本跡
15	C 2 a4	N-53°-E	隅丸方形	6.54 × 6.34	18~30	平坦	全周	4	1	—	—	炉2	自然	土師器(坏, 甕, ミニチュア土器)	SK242.243→本 跡→SD5. SK241
18	C 3 e2	N-60°-E	隅丸方形	5.15 × 4.72	20~25	平坦	—	2	1	3	—	炉1	自然	土師器(坏, 高坏, 埴, 甕), 須恵器 (把手付碗), 双孔円板	本跡→SK277
22	B 2 h0	N-80°-E	長方形	4.20 × 3.10	21~32	平坦	—	3	1	—	—	炉1	人為	土師器(坏, 腕, 高坏, 埴, 甕), 双 孔円板, 銅形品	本跡→SK337
24	B 3 i5	N-58°-E	方形	一辺 7.60	18~60	平坦	—	4	1	4	—	炉1	自然	土師器(坏, 甕, 高坏, 甕), 双 孔円板, 勾玉, 刀子	本跡→SD 8
27	B 4 d1	N-35°-E	方形	一辺 6.40	27~38	平坦	一部	4	1	2	—	炉1	自然	土師器(坏, 高坏, 甕), 双孔円板, 鉄滓	本跡→SD129
30	B 5 i1	N-22°-W	[方形]	6.80 × (5.04)	11~20	平坦	—	2	1	4	—	炉1	自然	土師器(坏, 甕)	本跡→SD 9
32	B 3 a9	N-26°-E	隅丸方形	4.05 × 3.73	48~67	平坦	—	3	1	3	1	炉1	自然	土師器(壺, 甕, 台付甕), 軽石	
33	B 3 c6	不明	不明	不明	—	—	—	—	1	—	—	炉1	—	土師器(甕)	本跡→SD 8
36	C 5 e3	N-40°-W	方形	4.96 × 4.82	8 ~ 30	平坦	—	4	1	—	—	炉1	自然	土師器(坏, 腕, 埴, 壺, 甕), 須恵 器(鉢), 双孔円板	
37	C 5 b1	[N-8°-E]	[隅丸方形]	4.11 × [4.08]	12	平坦	—	3	—	1	—	—	自然	土師器(坏, 高坏, 甕)	本跡→SK395. 396.398
38	C 4 a0	[N-6°-E]	[長方形]	[5.18] × [4.52]	—	—	—	4	1	—	—	—	—	土師器(坏, 甕), 双孔円板	本跡→SK392 S143と重複
39	C 4 f6	N-8°-E	方形	8.80 × 8.24	31~40	平坦	一部	4	3	7	—	炉1	自然	土師器(坏, 甕, 甕), 須恵器(坏), 壺, 双孔円板, 勾玉,	本跡→SK606. 608.622
40	C 4 j7	不明	[方形]	8.32 × (3.82)	39~44	凹凸	—	2	—	2	—	—	自然	土師器(坏, 無須壺, 甕, 甕), 双 孔円板, 羽口	本跡→SK418
41	C 4 a8	不明	[方形]	5.02 × [4.65]	3 ~ 5	平坦	—	4	—	—	—	—	自然	土師器(坏, 埴, 甕, 鎌)	
43	C 4 a0	[N-28°-E]	[長方形]	[5.34] × [4.12]	—	—	—	4	1	—	—	—	—	土師器(坏, 高坏, 甕, 小形甕)	S138と重複
46	C 1 g7	N-21°-W	隅丸長方形	4.14 × 3.76	30~35	平坦	—	—	1	2	—	炉1	自然	土師器(埴, 壺, 台付甕, ミニチュ ア土器)	本跡→SK806
48	C 3 f0	N-16°-W	長方形	4.82 × 3.46	18~20	平坦	—	2	1	3	1	炉1	自然	土師器(坏, 腕, 埴, 壺, 手捏土器), 勾玉	
49	E 3 e4	N-15°-W	方形	5.13 × 5.04	20~25	平坦	一部	4	1	—	—	—	人為	土師器(坏)	本跡→SK682.738. 第8号火葬施設
50	C 1 j5	N-31°-W	方形	5.81 × 5.42	25~30	平坦	—	4	1	—	—	炉1	自然	土師器(高坏, 器台, 甕, 小形甕)	本跡→第1号堀
51	D 2 g1	N-38°-W	隅丸長方形	3.18 × 2.42	18~30	平坦	—	—	—	1	—	—	自然	土師器(高坏)	本跡→SK863.864
52	D 1 c0	N-52°-E	隅丸方形	一辺 4.12	30~55	平坦	—	—	1	1	—	炉1	自然	土師器(高坏, 壺, 台付甕)	本跡→SK8. SK847. 866.867.874

表8 古墳時代 土坑一覧表

土坑 番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径(m)	深さ (cm)					
278	C 2 b9	—	円形	径 1.15	13	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
318	B 4 h6	—	円形	径 0.48	37	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
320	B 4 i0	—	[円形]	径 [1.30]	44	外傾	凹凸	自然	土師器(甕)	本跡→SD 9

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
321	B 4 h7	N-25°-E	[楕円形]	[1.90]×1.60	25	外傾	平坦	-	土師器(坏,甕)	本跡→SD 9
700	C 4 c2	-	円形	径 0.68	38	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕,小形甕)	

表9 平安時代 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高(cm)	床面	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係 (旧→新)	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ビッド	出入口				炉竈
4	D 4 h1	N-12°-E	[方 形]	[4.17]×[4.14]	-	平坦	-	3	-	-	竈1	自然	土師器(坏,甕)	本跡→SK201,202	
29	B 4 e2	N-11°-E	方 形	4.79 × 4.65	35~55	平坦	一部	4	-	-	1	竈1	自然	土師器(甕),須恵器(坏,甕,盤)	S127→本跡→SK315

表10 土坑一覧表<6 中・近世の遺構と遺物(1)~(4)>

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
45	D 3 j4	N-85°-E	長 方 形	2.11 × 1.41	35	直立	平坦	人為		
47	D 3 i4	N-0°	長 方 形	2.20 × 1.72	48	直立	平坦	人為	土師質土器(香炉,皿)	
51	D 3 c6	N-87°-W	長 方 形	3.93 × 2.76	56	直立	平坦	人為	短刀,古銭,陶器片	SK119→本跡
67	D 3 j4	N-81°-E	長 方 形	2.17 × 1.50	46	外傾	平坦	人為		
84	D 4 c1	N-68°-W	長 方 形	2.12 × 1.37	44	直立	平坦	人為		SK85,第5号火葬施設→本跡
98	D 3 e7	N-40°-W	不整楕円形	1.21 × 1.09	73	外傾	凹凸	人為	土師質土器(内耳鍋片)	
100	D 3 e7	N-27°-W	楕 円 形	1.16 × 1.02	24	緩斜	皿状	人為	土師質土器(内耳鍋片)	
105	D 3 d7	N-8°-E	隅丸長方形	2.02 × 1.36	50	外傾	平坦	人為		SK207と重複
126	D 3 b2	N-5°-W	長 方 形	2.54 × 1.42	32	外傾	平坦	人為		
131	D 3 f9	N-63°-E	[隅丸長方形]	[1.61]×1.39	10	外傾	平坦	不明	古銭	本跡→SX2
151	C 2 i6	N-81°-W	長 方 形	2.55 × 1.61	45	直立	平坦	人為		
161	D 3 b4	N-0°	隅丸長方形	4.67 × 2.95	37	直立	平坦	人為		本跡→SK162,164
163	C 3 j4	N-76°-E	長 方 形	1.60 × 1.12	25	直立	平坦	人為		SK162→本跡
200	D 4 g4	N-25°-E	不整楕円形	1.74 × 1.42	45	外傾	平坦	人為	古銭	
207	D 3 d7	[N-45°-E]	[楕円形]	1.12×(0.97)	19	外傾	平坦	人為	土師質土器(内耳鍋片)	SK105と重複
224	C 2 i8	N-18°-E	楕 円 形	1.13 × 0.70	25	緩斜	凹凸	人為	古銭	
228	C 2 j9	N-60°-E	長 方 形	1.33 × 0.65	60	外傾	平坦	人為	古銭	本跡→SK227,229
349	D 3 i2	N-82°-E	長 方 形	2.26 × 1.78	34	直立	平坦	人為		
410	D 4 c6	N-87°-W	長 方 形	1.69 × 1.02	24	外傾	平坦	人為		
411	D 4 c5	N-83°-W	長 方 形	2.32 × 1.51	42	外傾	平坦	人為		SK413→SK412→本跡
412	D 4 c5	[N-77°-W]	[長 方 形]	2.22 × [1.58]	29	外傾	平坦	人為		SK413→本跡→SK411
413	D 4 c5	[N-72°-W]	[長 方 形]	1.24 × (0.86)	26	緩斜	平坦	人為		本跡→SK412→SK411
421	D 4 e3	N-57°-W	楕 円 形	1.11 × 0.97	18	緩斜	平坦	人為		
422	D 4 e3	N-12°-W	楕 円 形	0.76 × 0.69	26	緩斜	皿状	人為		SK423→本跡
423	D 4 e3	-	不 明	[0.87]×[0.82]	54	内傾	平坦	人為		SK424→本跡→SK422
424	D 4 e3	N-14°-E	長 方 形	1.47 × 1.02	43	外傾	平坦	人為		SK425→本跡→SK422,423
425	D 4 e3	-	[円 形]	1.32 × [1.23]	48	緩斜	平坦	人為		本跡→SK424
430	D 4 e4	-	円 形	1.14 × 1.08	15	緩斜	平坦	人為	土師器片	
431	D 4 e4	-	円 形	[1.12]×1.08	34	緩斜	平坦	人為		本跡→SK432
432	D 4 e4	[N-49°-W]	[楕円形]	[1.38]×1.08	32	緩斜	平坦	人為		SK431→本跡→SK433
433	D 4 e4	-	円 形	0.98 × 0.91	12	緩斜	平坦	人為		SK432,434→本跡
434	D 4 e4	[N-16°-E]	[隅丸長方形]	[2.04]×1.06	13	緩斜	皿状	人為		本跡→SK433

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
437	D 4 b2	N-81°-E	長方形	(1.61)×0.91	17	緩斜	平坦	人為	土師質土器(皿)	本跡→SK436
442	D 4 a3	[N-3°-E]	[長方形]	(1.57)×0.86	34	外傾	平坦	人為		本跡→SK443
443	D 4 a3	[N-8°-E]	長方形	2.18×1.53	41	外傾	平坦	人為		SK442,444→本跡
444	D 4 a2	[N-86°-E]	[長方形]	(2.40)×1.24	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK443,445
445	D 4 b3	N-84°-E	長方形	2.04×0.95	28	緩斜	平坦	人為		SK444→本跡
447	D 4 a2	N-19°-E	楕円形	1.21×0.54	26	外傾	皿状	人為		
448	D 3 b8	N-87°-E	隅丸長方形	2.05×0.93	15	直立	平坦	人為		
450	D 3 b9	N-5°-E	隅丸長方形	1.52×1.04	45	直立	平坦	人為	古銭	
451	D 3 b9	N-83°-W	長方形	3.07×1.37	62	外傾	平坦	人為		SK457→本跡
452	C 3 j9	N-2°-W	長方形	2.48×1.36	35	直立	平坦	人為		
454	D 3 a9	—	不明	(2.00)×(0.65)	60	緩斜	平坦	人為		SK484,453→本跡→SK455,468,515
455	D 3 a9	N-85°-W	長方形	3.95×1.30	67	外傾	平坦	人為		SK454,456,468,480,484,514,515→ 本跡→SK469
456	D 3 a9	[N-86°-W]	[楕円形]	2.12×(1.36)	34	緩斜	平坦	人為		本跡→SK455,457,515
457	D 3 b9	[N-86°-W]	[楕円形]	1.60×(0.66)	35	外傾	平坦	人為		SK456→本跡→SK451
458	D 3 b8	N-84°-E	楕円形	1.64×1.16	21	緩斜	皿状	人為	土師器片	SK459→本跡
459	D 3 b8	—	不明	(0.76)×(0.47)	15	外傾	平坦	人為		本跡→SK458,460
460	D 3 b8	[N-7°-W]	[長方形]	(1.68)×0.94	36	外傾	平坦	人為		SK459→本跡→SK461,463
461	D 3 c8	—	不明	(0.88)×(0.75)	39	外傾	平坦	人為		SK460→本跡→SK463
462	D 3 c8	—	方形	1.24×1.24	10	緩斜	皿状	人為		SK463→本跡
463	D 3 c8	N-81°-W	長方形	3.87×1.72	76	緩斜	平坦	人為		SK460,461→本跡→SK462
464	C 3 j9	N-11°-E	長方形	1.70×1.30	44	緩斜	平坦	人為		SK466→本跡
465	D 3 a9	[N-4°-E]	[長方形]	(3.45)×1.29	35	外傾	平坦	人為		SK466,467,701→本跡→SK468
466	C 3 j8	[N-82°-E]	[長方形]	(1.90)×0.95	14	緩斜	平坦	人為		本跡→SK464,465
467	D 3 a8	—	不明	(1.00)×(0.45)	12	緩斜	平坦	人為		SK701→本跡→SK465,468
468	D 3 a9	[N-88°-W]	[楕円形]	(2.45)×1.47	45	緩斜	平坦	人為		SK454,465,467,701→本跡→SK455,469,470
469	D 3 a8	[N-86°-W]	[長方形]	(1.47)×1.03	88	直立	平坦	人為		SK455,470,484→本跡
470	D 3 a8	—	不明	(1.67)×(1.00)	55	外傾	平坦	人為		SK468,701→本跡→SK469
483	D 3 d8	N-5°-E	[隅丸長方形]	1.43×[0.90]	53	外傾	凹凸	人為	土師質土器(小皿)古銭,人骨	本跡→SK482
510	D 3 c0	N-2°-W	楕円形	1.90×1.11	20	緩斜	平坦	人為		SK511→本跡
511	D 3 c0	[N-2°-W]	[長方形]	(1.52)×1.06	20	緩斜	平坦	人為		SK512→本跡→SK510
512	D 3 c0	[N-9°-W]	[長方形]	1.95×(0.85)	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK511,513
513	D 4 c1	N-22°-W	長方形	2.20×0.70	25	外傾	平坦	人為		SK512→本跡
515	D 3 a9	N-3°-E	隅丸長方形	2.14×1.15	30	不明	不明	人為		SK456→本跡→SK455
554	C 3 g0	N-8°-E	長方形	3.01×0.82	9	緩斜	凹凸	人為	古銭	
701	D 3 a8	[N-1°-W]	[長方形]	(1.56)×(0.85)	6	緩斜	平坦	人為		本跡→SK465,467,468,470
792	D 2 b3	N-0°	長方形	1.80×1.10	45	外傾	平坦	自然	陶器(天目茶碗),釘	SK791→本跡
836	D 1 a9	[N-0°]	[長方形]	0.82×(0.40)	19	外傾	平坦	人為	古銭	本跡→SK837

表11 地下式墳一覽表

番号	位置	主軸方向	規 模(m)						底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
			堅 坑			主 室						
			長軸×短軸	深さ	平面形	長軸×短軸	深さ	平面形				
1	D 3 i3	N-144°-W	径 1.80	1.96	円形	3.51×1.26	2.32	長方形	平坦	人為	土師質土器片(内耳鍋)	
2	C 2 j4	N-0°	2.22×1.30	1.98	楕円形	2.35×1.61	1.98	隅丸長方形	平坦	人為	陶器片,土師器片,人骨(頭骨の一部,歯)	
3	C 3 h2	N-5°-W	1.22×0.89	1.75	長方形	3.29×1.71	1.80	隅丸長方形	平坦	自・人	土師質土器片(内耳鍋),陶器片	SI8→本跡
4	D 4 c4	N-72°-E	0.89×0.81	1.83	楕円形	3.48×1.35	2.10	長方形	平坦	自・人	土師器片	SI42→本跡

番号	位置	主軸方向	規 模 (m)						底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
			坑		主 室							
			長軸×短軸	深さ	平面形	長軸×短軸	深さ	平面形				
5	C 4 c 8	N-150°-W	1.12×0.82	1.86	長方形	3.95×1.34	2.14	長方形	平坦	人為	土師質土器片(内耳鍋)	
6	D 4 b 1	N-87°-E	0.83×0.72	1.65	長方形	3.55×1.63	2.12	隅丸長方形	平坦	自・人	土師質土器片(皿, 内耳鍋)	
7	D 4 b 3	N-20°-W	1.43×1.09	1.65	楕円形	4.76×1.24	2.14	長方形	平坦	人為	鉄製品(刀子)	
8	D 4 b 2	N-22°-W	1.51×1.25	1.56	楕円形	5.96×1.24	2.05	長方形	平坦	自・人	土師質土器片(内耳鍋), 古銭	SK533, 534と重複
9	C 4 i 5	N-62°-E	1.39×1.12	1.65	長方形	5.32×1.15	2.25	長方形	平坦	人為	土師質土器片(内耳鍋)	
10	D 3 b 0	N-10°-W	径 1.80	1.92	円形	3.13×1.07	2.27	長方形	平坦	人為		
11	C 4 i 1	N-110°-E	0.58×0.25	2.03	長方形	3.45×1.05	2.08	長方形	平坦	不明		
12	C 3 i 0	N-162°-E	0.75×0.55	1.15	長方形	4.40×1.82	1.95	長方形	平坦	人為		本跡→SK560~563
13	D 3 j 2	N-20°-W	径 1.40	2.29	円形	3.65×1.48	2.60	長方形	平坦	人為	土師質土器(内耳鍋)	SD 2 → 本跡
14	D 3 j 1	N-16°-W	0.55×0.45	1.83	長方形	3.52×1.69	1.91	長方形	平坦	人為		SK747→本跡→SK749

表12 火葬施設一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模 (cm)										底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)	
				燃 焼 部			通 気 溝				開 口 部							
				長軸×短軸	深さ	壁面	長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	長軸×短軸	深さ					壁面
1	D 4 f 2	N-61°-E	T字状	117×40	13~18	外傾 [84]	35	26	31	U字状	93×59	5	外傾	凹凸	自然	骨片, 炭化材	第2号火葬施設→本跡→P1	
2	D 4 f 3	N-63°-W	T字状	109×48	13	外傾 [118]	41	22	28	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨粉, 骨片, 炭化材	本跡→第1号火葬施設, P2	
3	D 1 j 6	N-90°-E	T字状	173×50	5	緩斜	110	40	28	11~23	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨粉, 骨片, 炭化物	SK231→本跡→P1
4	C 1 b 7	N-35°-W	T字状	174×58	33	外傾	126	31	13	21~45	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨粉, 骨片, 炭化材, 礫	
5	D 4 e 2	N-88°-W	T字状	125×49	4	緩斜 [87]	40	22	4~14	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨粉, 炭化物	本跡→SK84	
6	D 4 b 6	N-64°-W	T字状	134×43	10	緩斜	76	34	21	11~18	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨粉, 骨片, 炭化材	
7	E 3 e 3	N-23°-W	T字状	154×72	12~15	緩斜	78	25	14	19~28	U字状	-	-	-	平坦	自然	骨粉, 炭化物, 礫	
8	E 3 d 4	N-64°-W	T字状	179×63	10	外傾	94	24	8	18	U字状	-	-	-	凹凸	-	骨粉, 炭化粒子	SI49→本跡
9	D 2 j 6	N-40°-E	T字状	156×54	10~15	外傾	109	35	25	8~25	U字状	-	-	-	平坦	自然	骨片, 骨粉, 炭化物, 炭化材	
10	E 3 a 2	N-89°-W	T字状	148×70	15	緩斜	140	27	15	25	U字状	-	-	-	凹凸	自然	骨片, 炭化材	
11	D 2 j 5	N-86°-W	T字状	138×46	10~15	外傾 [75]	33	20	6~22	U字状	-	-	-	平坦	自然	骨片, 炭化粒子, 炭化物	本跡→SK775	
12	D 1 a 0	N-88°-E	T字状	[235]×[61]	4	緩斜 [98]	41	15	6~13	U字状	-	-	-	平坦	自然	骨片, 炭化材	SK771, 772, 854と重複	

表13 井戸跡一覽表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		断面形	主な出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(m)			
1	D 3 c 1	-	円形	径 1.30	(1.8)	円筒形	陶器片, 土師器片	SK125→本跡
2	D 3 i 7	-	円形	径 0.80	(2.0)	台形状	土師質土器片, 土師器片	
3	D 2 f 8	-	円形	径 0.95	(1.8)	漏斗状・円筒形	陶器片(片口鉢, 甕), 土師質土器片, 古銭	SX 3 → 本跡
4	C 2 i 2	-	円形	径 1.15	(2.0)	円筒形		
5	E 3 e 3	-	円形	径 1.80	(2.0)	円筒形		本跡→SK637
6	E 3 b 1	-	円形	径 1.80	(2.2)	円筒形		本跡→SK679, 680
7	D 2 f 7	N-76°-W	楕円形	1.55×1.32	(1.7)	円筒形		SK739→本跡→SK752

表14 掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	桁行方向	桁行×梁行 (間)	規 模 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				出土遺物	備 考 (重複関係 旧→新)		
								構造	穴数	平面形	長径(軸)			短径(軸)	深さ
1	D 3 b 4	N-35°-W	3×1	6.20×4.55	28.21	1.78~2.24	4.54~4.56	側柱	8	円形・楕円形・ 不整楕円形	76~113	62~86	42~71		
2	C 1 d 0	N-43°-W	2×1	4.30×4.20	18.06	2.05~2.32	4.22~4.31	側柱	6	方形・長方形	70~85	60~66	43~64	土師器(甕)	SK220→本跡
3	C 2 d 9	N-86°-W	3×2	7.20×3.81	27.43	2.25~2.50	1.84~1.92	側柱	10	円形	径	36~61	40~71		本跡→SX 6
4	C 2 e 7	N-90°-W	4×1	6.05×3.86	23.35	1.92~2.08	3.82~3.90	側柱	10	円形	径	28~50	16~40		
5	D 4 f 1	N-30°-W	2×3×2	5.88×4.23	24.90	1.92~2.91	1.71~2.51	側柱	9	円形・楕円形	55~66	28~56	31~56		

表15 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	E 3 c7~E 4 c2	N-90°-W	直線状	17.5	0.31~0.42	0.15~0.12	3~5	緩斜	弧状	自然		
2	D 1 a0~E 3 e7	N-59°-E	直線状	(90.5)	0.62~0.86	0.25~0.41	15~30	外傾	逆台形	自然	土師器片	SK34→本跡→SK811.848.869.878.SK7.第13号地下式壙
3	E 4 d3~E 4 d5	N-90°-W	直線状	(7.2)	0.71~0.92	0.42~0.61	5~10	緩斜	弧状	自然		
4	B 2 j2~C 2 a1	N-40°-E	直線状	(4.7)	0.56~0.60	0.32~0.41	35~40	外傾	逆台形	人為	土師器片	
5	C 1 e7~C 3 a3	N-70°-E	蛇行状	68.5	0.49~0.61	0.22~0.26	12~16	外傾	逆台形	自然	土師器片, 陶器片	S115.20, SK243.317.SD6→本跡
6	C 2 a0~C 2 b4	N-70°-E	直線状	(26.3)	0.38~0.98	0.16~0.51	15~20	外傾	弧状	自然	縄文土器片, 土師器片	SK329→本跡→SD 5
7	B 2 j8~B 3 i4	N-86°-E	蛇行状	(24.8)	0.49~0.69	0.22~0.42	25~31	外傾	U字状	自然	縄文土器片, 土師器片	S120, SK290→本跡→SK281.291
8	B 3 b6~B 3 i6	N-9°-E	直線状	(29.6)	0.41~0.70	0.21~0.28	43~61	外傾	逆台形	自然	土師器片, 陶器片	S124.33→本跡
9	B 5 i1~C 3 a7	N-45°-E N-90°-E	くの字状	(64.1)	0.72~0.98	0.46~0.75	12~30	外傾	U字状	自然	土師器片(甑), 陶器片	S130, SK320.321→本跡
10	E 2 c0~E 2 d8	N-68°-E	蛇行状	8.6	0.15~0.42	0.10~0.35	8~22	外傾	U字状	自然		SD12→本跡→SK693
11	E 2 b7~E 2 c7	N-29°-W	直線状	4.1	0.46~0.55	0.30~0.41	16~25	外傾	逆台形	自然		本跡→SK697
12	E 2 d0~E 2 d8	N-50°-E	蛇行状	7.4	0.35~0.90	0.21~0.75	15~25	外傾	U字状	自然		SK693→本跡→SK684.SD10 SK670.692と重複

表16 不明遺構一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)
				長径×短径 (長軸×短軸)(m)	深さ (cm)					
1	E 3 a0	N-56°-E	不定形	6.86 × 5.12	15~40	緩斜	皿状	自然	土師器片, 陶器片	SK2→本跡
2	D 3 e0	N-85°-E	不定形	7.20 × 3.95	5~10	緩斜	平坦	自然		SK32.131→本跡
3	D 2 f8	N-8°-E	不定形	5.45 × 4.18	41~62	直立	平坦	人為		本跡→SE 3 SK739と重複
4	D 2 d9	N-72°-E	楕円形	8.29 × 5.79	6~32	緩斜	皿状	自然		SK132→本跡
5	D 2 c4	N-45°-E	楕円形	3.78 × 2.49	5~12	緩斜	平坦	人為		
6	C 2 e9	N-8°-E	長方形	8.61 × 3.46	41~62	直立	平坦	人為	土師器片, 陶器片	SB 3, SK208→本跡
7	D 2 e3	N-6°-E	楕円形	5.79 × 4.77	2~30	緩斜	皿状	自然	土師器片	SD 2 →本跡→SK818 SK811.816.829と重複
8	D 1 e0	N-35°-E	不定形	8.32 × 7.42	3~28	緩斜	皿状	自然		S152, SK842.852.847.866→本跡→SK833.834.847.848.849.850.851.867.870.874 SK673と重複
10	C 1 f3	(N-25°-E)	[楕円形]	(4.31)×(1.47)	10~12	外傾	平坦	人為		本跡→SK803.804

## 第4節 まとめ

今回の調査で、旧石器時代から近世までの遺構と遺物が検出された。ここでは、検出された遺構と遺物について時代ごとに概略を述べ、まとめとしたい。

### 1 旧石器時代

旧石器時代の遺構は、石器集中地点1か所と集石土坑2基を検出した。

石器集中地点から出土した石器の総数は20点である。出土層位は、基本層序の第7層最下部から第8層上部に位置している。器種は、スクレイパー2点、石核5点、剥片12点、台石1点であり、石核と剥片が85%を占める。剥片の形状は分厚く、二次加工のある石器の出土数は少ない。石材は、瑪瑙12点、チャート7点、片岩1点である。瑪瑙とチャートの石核と剥片から、接合資料を得ることができた。自然面を打面として剥離を数回行い、打面を転移させて剥離を行っている。剥離面が縦割れをしているものが多く、直接打法で剥離してい

たと思われる。石器の分布状況は、台石を中心とする半径2mの範囲内から出土し、この場で石器製作が行われていたと考えられる。

石器の打面を転移させ直接打法で製作する技法は、茨城町に所在する大畑遺跡<sup>1)</sup>でも確認されている。大畑遺跡から出土した石器は、ナイフ形石器や台形様石器等が約50%を占めており、器種に違いが認められる。当遺跡の旧石器時代の文化層の層準は、鍵層となる鹿沼軽石層の降灰以降、第2黒色帯が形成されるまでの時期に位置づけられる。

旧石器とはほぼ同じ層位で、2基の集石土坑が検出された。第1号集石土坑からは合計7,876個、第2号集石土坑からは合計1,482個の自然礫が、それぞれ投棄された状態で出土している。第1号集石土坑の礫の中には、熱によってひび割れし油脂分と思われるものが付着したものも含まれている。県内の旧石器時代の土坑としては、常北町の上入野遺跡<sup>2)</sup>、日立市の六ツヶ塚遺跡<sup>3)</sup>、同市橋の作遺跡<sup>4)</sup>があるが、集石が伴う事例はなく、今後の類例が待たれる。

## 2 縄文時代

この時代の遺構は、住居跡6軒、土坑14基、陥し穴2基を検出した。内訳は、下記のとおりである。

早期前葉（田戸下層式期）住居跡4軒（第21・31・34・35号）、土坑2基（第341・342号）、陥し穴2基  
前期前葉（黒浜式期）土坑2基（第280・329号）

中期後葉（加曾利E式期）住居跡2軒（第19・42号）、土坑7基（第35・56・168・242・550A・550B・555号）

後期前葉（称名寺式期～堀之内式期）土坑3基（第243・888・889号）

遺構に伴わない遺物として確認できた時期は、前期後葉（浮島式期）、後期後葉（綱取式期）である。

集落が形成された時期は、早期前葉と中期後葉の頃と考えられる。早期前葉に該当する遺構は、いずれも調査区北側の斜面部から一段下がった、標高28m前後の段丘面から検出された。住居間は2m以内の隣接した状態で検出されていることから、時期差があると思われる。住居の平面形が明確に確認できた第31号住居跡は、長軸5.7m、短軸4.41mの隅丸長方形である。田戸下層式期の住居跡の検出例は少なく、貴重な資料と言える。同時期の住居跡が報告されている遺跡は、鹿嶋市伏見遺跡<sup>5)</sup>、ひたちなか市差洪遺跡<sup>6)</sup>、取手市甚五郎崎遺跡<sup>7)</sup>等が挙げられる。

中期後葉に該当する遺構は、いずれも標高30m前後の台地上から検出された。中央部から第19号住居跡、南東部から第42号住居跡が検出された。2軒間の距離は、約47mである。平面形はどちらも楕円形で、第42号住居跡からは、長期間使用されたと思われる石囲い炉が検出された。住居と土坑の距離は16～35mで、土坑は住居からやや離れて位置している。第550B号土坑からは、双頭状の口縁部をもつ深鉢など8個体分が出土し、良好な一括資料を得ることができた。

## 3 弥生時代

住居跡10軒を検出した。調査区北部から南東部にかけて、帯状に分布している。住居間の距離は5～15mで、北部側に5軒（第16・17・20・23・25号住居跡）、南東部に4軒（第26・44・45・47号住居跡）の2グループと、やや離れて南部から1軒（第1号住居跡）が検出された。南東部の4軒は、中央に広場をもつように配置されている。住居の平面形は、隅丸方形及び隅丸長方形が主である。炉は7軒から検出され、中央部のやや北寄りに位置する地床炉である。第17・26・44・45住居跡からは炉石が出土し、ほとんどが炉の長径方向と直交するように据えられてた。石質は、石英斑岩・安山岩・砂岩である。茨城県北部から涸沼川周辺において、同



時期の炉跡から炉石が検出される割合が高いことが指摘されており<sup>8)</sup>、当遺跡でも同様と言える。

出土した土器のほとんどは広口壺で、特徴は次の7つが挙げられる。

- (1)口唇部は、縄文による施文、棒状工具による押圧、ヘラ状工具による刻みがある。
- (2)口縁部は幅が狭く、無文が多い。櫛歯状工具による波状文が施されているものもあるが、密ではない。
- (3)口縁部と頸部を区画する隆帯は1条ないし2条で、隆帯はしっかりしている。
- (4)頸部文様帯は2本組の縦区画スリットが施され、櫛歯状工具の歯の数は3～4本である。
- (5)頸部と胴部の境は、胴部最大径よりも上位に位置している。
- (6)胴部には、附加条二種（附加1条）の縄文が施され羽状構成をとる。
- (7)底部が確認できたのは21個で、内訳は砂目痕が9個、布目痕が8個、木葉痕が4個である。

このことから、住居跡は後期後半の十王台式土器期に比定され、その中でも(2)～(5)の特徴から古い様相をもつと考えられる。このほかに、第20号住居跡から出土した広口壺は、輪積痕を残す三段の複合口縁を呈し、2個1組の縦長の瘤を3単位有し、胴部との境に無文帯を巡らすものである。当遺跡から出土した他の土器と文様構成が異なることから、他地域との交流が考えられる。

## 4 古墳時代

当遺跡の中心となる時期で、3期に分けることができる。第1期は前期（4世紀中葉）で、住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝墓1基が、第2期は中期（5世紀中葉）で、住居跡19軒、鍛冶工房跡1基、土坑4基が、第3期は中期（5世紀後葉）で、住居跡1軒、土坑1基が検出された。

### 第1期 古墳時代前期（4世紀中葉）

第7・8・10～13・32・46・50～52号住居跡、第2号掘立柱建物跡、第1号方形周溝墓が該当する。第32号住居跡は調査区の北側に離れて位置し、それ以外の遺構は、中央部から北西部に集中している。住居間の距離は5～10mで、ほぼ一定の間隔である。第2号掘立柱建物跡は集落内のやや北寄りに、第1号方形周溝墓は第2号掘立柱建物跡から北西方向15mほどの所に位置している。住居跡の平面形は、方形・長方形・隅丸長方形である。主軸方向は、N-16°～45°-Wに振れるものが64%を占めている。規模は、床面積が30㎡を超える大形の住居跡は3軒、20～30㎡の中形の住居跡は4軒、20㎡未満の小形の住居跡は4軒である。床面積の平均は24.9㎡で、第7号住居跡がこの時期の平均的規模と考えられる。炉をもつ住居跡は8軒で、中央部のやや北東側か北西側に位置する地床炉である。貯蔵穴をもつ住居跡は9軒で、出入り口部から入って手前の右コーナー部に位置するものが67%を占めている。

方形周溝墓は、北側に谷津が入り込む台地の縁辺部から1基検出された。規模は、周溝を含めた一辺が7.5mほどの隅丸方形である。方台部の盛土や、埋葬施設と思われる土坑等は確認できなかった。周溝内からは多数の土器が出土しており、出土状況から方台部の南東コーナー部付近から南西コーナー部付近にかけて、集落側に面するように意図的に並べられていたと考えられる。土器の出土位置を分類してみると、南東コーナー溝付近からは、高坏3点、器台1点、壺5点、甕2点、台付甕3点、ミニチュア土器1点が出土している。南東溝の中央部からは、埴1点、壺3点、甕1点が出土している。南西コーナー溝付近からは、高坏4点、器台3点、甕5点、台付甕2点、小形鉢2点、小形甕2点が出土している。壺のほとんどは、南東コーナー部に、高坏・器台・甕・台付甕は両コーナー部に配置されていたと思われる。また、壺・甕・台付甕の43%は、体部外面に煤の付着が認められることから、煮炊きに使用していたものを二次利用していると考えられる。

住居及び方形周溝墓の出土遺物は、土師器（高坏・埴・甕・台付甕・壺・ミニチュア土器・手捏土器）であ

る。高坏は、坏部が大きく開き、脚部に孔を有し、ラッパ状に開く特徴をもつ元屋敷系のものが出土している。器台は、脚部が高い小形のものであり、器受部は皿状のものが多く、端部を積み上げたものなどがある。台付甕は、口縁部がくの字状で体部は球状をしている。調整方法は、斜位のハケ目調整を主体としている。平成10年度に調査されたニガサワ遺跡<sup>9)</sup>では、東海系のS字状口縁の台付甕が出土し、当遺跡の台付甕とは異なる様相を示している。

#### 第2期 古墳時代中期（5世紀中葉）

第2・3・5・9・15・18・22・24・27・30・33・37～41・43・48・49号住居跡，第1号鍛冶工房跡，第278・318・320・321号土坑が該当する。前期の遺構が集中していた北西部を除き，調査区全域に広がっている。住居間の距離は5～15mで，東側に大形の住居が点在している。住居の平面形は，方形及び隅丸方形が75%を占める。主軸方向は，N-15°～55°-Wに振れるものが7軒，N-8°～80°-Eに振れるものが9軒，主軸が特定できないものが4軒と不規則である。規模は，床面積が30㎡を超える大形の住居跡は9軒，20～30㎡未満の中形の住居跡は6軒，20㎡未満の小形の住居跡は4軒，不明が1軒である。床面積の平均は31.0㎡で，前期の住居より規模が大きくなる傾向にある。第24住居跡は，南西壁を除く壁際に棚状施設が付設され，当遺跡の中では特異な形状である。炉をもつ住居跡は12軒で，すべて地床炉である。炉の位置は，前期とほぼ変わらないが，第5・22・24・48号住居跡の炉は壁際に位置している。貯蔵穴をもつ住居跡は15軒で，出入口部から入って手前の右コーナー部に位置するものが50%を占め，炉を壁際にもつ住居は炉の右側コーナー部に位置している。

第1号鍛冶工房跡は，調査区北部の一段下がった段丘面から検出された。平面形は方形で，床面積は49.4㎡と大形である。柱穴は4か所，貯蔵穴は3か所で，掘り込みは浅いが鍛冶炉と思われる炉が3か所検出された。第27・39号住居跡と規模や構造が変わらないことから，住居を工房に転用した可能性が考えられる。

遺物は，土師器（坏・椀・高坏・埴・壺・甕・甑），須恵器（坏・高坏・把手付椀が1点ずつ），土製品（羽口・紡錘車），石製品（双孔円板・剣形品・勾玉・砥石），鉄製品（鎌・刀子・鏃），鉄滓が出土している。土師器の坏は，口縁部内面に稜をもち，調整は内面に放射状のヘラ磨きが施されているものが主体である。第39号住居跡からは，土師器の坏・甕・甑や鉄鏃・石製模造品の他に，貯蔵穴から大阪府陶邑窯跡群のTK216に比定される須恵器坏が出土している。

#### 第3期 古墳時代中期（5世紀後葉）

第36号住居跡，第700号土坑が該当する。調査区東部の調査区域外に隣接している。住居の平面形は，方形で，床面積は23.9㎡の中形である。炉はやや北西壁寄りに，貯蔵穴は南コーナー部に位置している。住居及び土坑からの出土遺物は，土師器（坏・椀・埴・壺・甕・小形甕），須恵器（甗），石製品（双孔円板），鉄製品（鎌）が出土している。坏は，体部外面に稜をもち，口縁部は内傾する特徴をもつものが認められる。

このように，古墳時代では4世紀中葉に集落が営まれるが，4世紀後葉から5世紀前葉頃は一時とぎれ，5世紀中葉から後葉にかけて再び集落が営まれたと考えられる。

## 5 平安時代

第4・29号住居跡が該当する。どちらも北壁に竈をもち，主軸方向はほぼ同じである。第4号住居跡は，竈の補強材として土師器の甕が使用され，床面から内面黒色処理された坏の破片が出土している。時期は，9世紀末葉から10世紀初頭頃と思われる。第29号住居跡は須恵器の坏・鉢・盤・甕が出土している。胎土に針状鉱物を含むことから，水戸市木葉下窯から供給されたものと思われる。時期は，9世紀前葉と思われる。第4号

住居跡は南部から、第29号住居跡は北部から検出され、住居間は80mほど離れている。離れ国分的な様相をもつが、それぞれ調査区域外に近いことから、当該期に属する集落跡が広がる可能性も考えられる。

## 6 中・近世

土壙墓1基、土坑・土坑群68基、地下式壙14基、火葬施設12基、井戸跡7基、集石遺構4か所が該当する。また、ここでは時期が明確に捉えられなかった土坑も含めて述べることにする。これらの遺構は、調査区の南東部から北西部にかけての広い範囲で検出された。南東部付近には、9基の地下式壙が隣接し、その周囲には火葬施設や方形状及び長方形の土坑が密集している。人骨とともに副葬品と考えられる土師質土器の小皿<sup>10)</sup>、古銭（永楽通寶）が出土した第438号墓壙や、古銭のみが出土した土坑が検出された。南西部付近には、3基の地下式壙が隣接し、その周囲には火葬施設、井戸跡、長方形の土坑が検出された。土坑の重複は少なく、長軸1.7～2.5m、短軸0.8～1.7mほどの長方形の土坑が多い傾向にある。その中で、第47号土坑は、長軸2.2m、短軸1.72mの長方形で、土師質土器の皿3点、香炉2点が出土している。中央部から北西部にかけては、地下式壙、火葬施設、井戸跡、長方形の土坑が点在している。第51号土坑は、長軸3.39m、短軸2.76mの長方形で、短刀と古銭8枚（祥符通寶・聖宋元寶・皇宋通寶・治平元寶・宣和通寶）が出土している。覆土の状況や出土遺物、類例から考えて、互いに関連をもち墓域を形成していたと思われる。

墓地に伴う地下式壙について、斎藤弘氏は「中世墓は古墳や経塚など何らかの聖なるものを中核に形成される場合が多い」と述べ、地下式壙の役割として「単位集団の墓域を象徴するような施設ではないか」と推察している<sup>11)</sup>。中世後半における造墓階層の拡大は、全国的に認められる現象であり、宗教に深く根ざした中世社会では、村落などの単位集団で墓域を形成していったと考えられている。当墓域においても、地下式壙の周囲に墓壙や墓坑の可能性をもつ土坑が数多く存在していることから、同様の単位集団の墓域が形成されていたと考えられる。検出された地下式壙の中で、第7号地下式壙の主室の底面からは、焼土とともにわら状の炭化物と炭化材が、第6号地下式壙からは、土師質土器の皿が34点出土し特筆される。また、第13号地下式壙は、土師質土器の内耳鍋が逆位の状態で出土している。ひたちなか市の武田埜遺跡<sup>12)</sup>の第397A号土坑の類例から、墓壙である可能性が高いと思われる。

出土遺物として、地下式壙からは土師質土器の内耳鍋・皿、古銭、刀子が、墓壙及び土坑からは、土師質土器の内耳鍋・小皿・皿、古銭が、井戸跡からは、常滑系の甕や片口鉢の破片、古銭が出土している。県内出土の常陸型の内耳鍋の特徴について、浅野晴樹氏は、「雲母混じりの胎土で、われ口は赤褐色の土師質のもので、15世紀中頃を主体とする。」と述べている<sup>13)</sup>。当遺跡から出土した土師質土器の内耳鍋も、共通した特徴をもっている。また、土師質土器の皿は、ロクロ成形で底部に回転糸切り痕を残す平底である。水戸市白石遺跡<sup>14)</sup>から出土した土師質土器皿のD類と類似している。以上のことから、当墓域は15世紀後半頃を中心とした時期に形成されたと考えられる。

近世では、集石遺構4基が検出された。集石遺構の礫は、いずれも握りこぶし大が中心である。1号集石遺構からは、土師質土器の焙烙(17C後半)の破片が、第3号集石遺構からは、瀬戸・美濃系の菊皿(17C前半)の破片が、第4号集石遺構からは、瀬戸・美濃系の天目茶碗(17C前半)の破片がそれぞれ出土している。

以上をまとめると、今回の調査で、旧石器時代から近世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。旧石器時代は、狩猟や生活の場として利用され、縄文時代早期からは、断続的であるが集落が営まれたようである。古墳時代前期から中期にかけて、最も大きな集落が形成され、当遺跡の中心となる時期と言える。それ

以降は一次途絶え、平安時代に一時住居が構築されている。中世には、大規模な墓域として利用されていた。これらのことから、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。

#### 註

- 1) 茨城県教育財団「北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡 大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第136集 1998年3月
- 2) 茨城県教育財団「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 上入野遺跡 青木遺跡 後側遺跡 前側遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第108集 1996年3月
- 3) 日立市教育委員会「日立市六ツヶ塚遺跡発掘調査報告書」『日立市文化財調査報告書』第4集 1978年3月
- 4) 日立市教育委員会「橋の作遺跡北の台横穴墓」『日立市文化財調査報告書』第9集 1982年3月
- 5) 小野真一他 『常陸伏見』伏見遺跡調査会1979年
- 6) 茨城県教育財団「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 差込遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第103集 1995年9月
- 7) 茨城県教育財団「取手都市計画事業下高井特定土地区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡 下高井向原Ⅰ遺跡 下高井向原Ⅱ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第107集 1995年9月
- 8) 鶴見貞雄「炉石住居覚書—茨城県の弥生・古墳時代の住居例から」(『研究ノート』5号) 茨城県教育財団1996年6月
- 9) 茨城県教育財団「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第169集 2000年3月
- 10) 土師質土器の皿と小皿の分類基準は、口径10cm以下、器高3cm以下のものを小皿とした。
- 11) 斎藤弘「地下式壙と埋葬儀礼—栃木県下の事例を中心に—」(『研究紀要』第4号) 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1966年3月
- 12) 財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社『武田Ⅸ—1995年度武田遺跡群発掘調査の成果—』1996年3月
- 13) 浅野晴樹「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心として—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集) 1990年3月
- 14) 茨城県教育財団「(仮称)水戸市浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書 白石遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第82集 1993年3月

#### 参考文献

- ・縄文時代研究班「茨城県における縄文時代早期の住居形態について」(『研究ノート』創刊号) 茨城県教育財団1992年3月
- ・茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月
- ・桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景—中世墓の諸相と通史的叙述への試論—」(『茨城県考古学協会誌』第7号) 茨城県考古学協会 1995年8月

写 真 图 版



第 6 号地下式壙出土遺物 (皿)



遺構確認状況

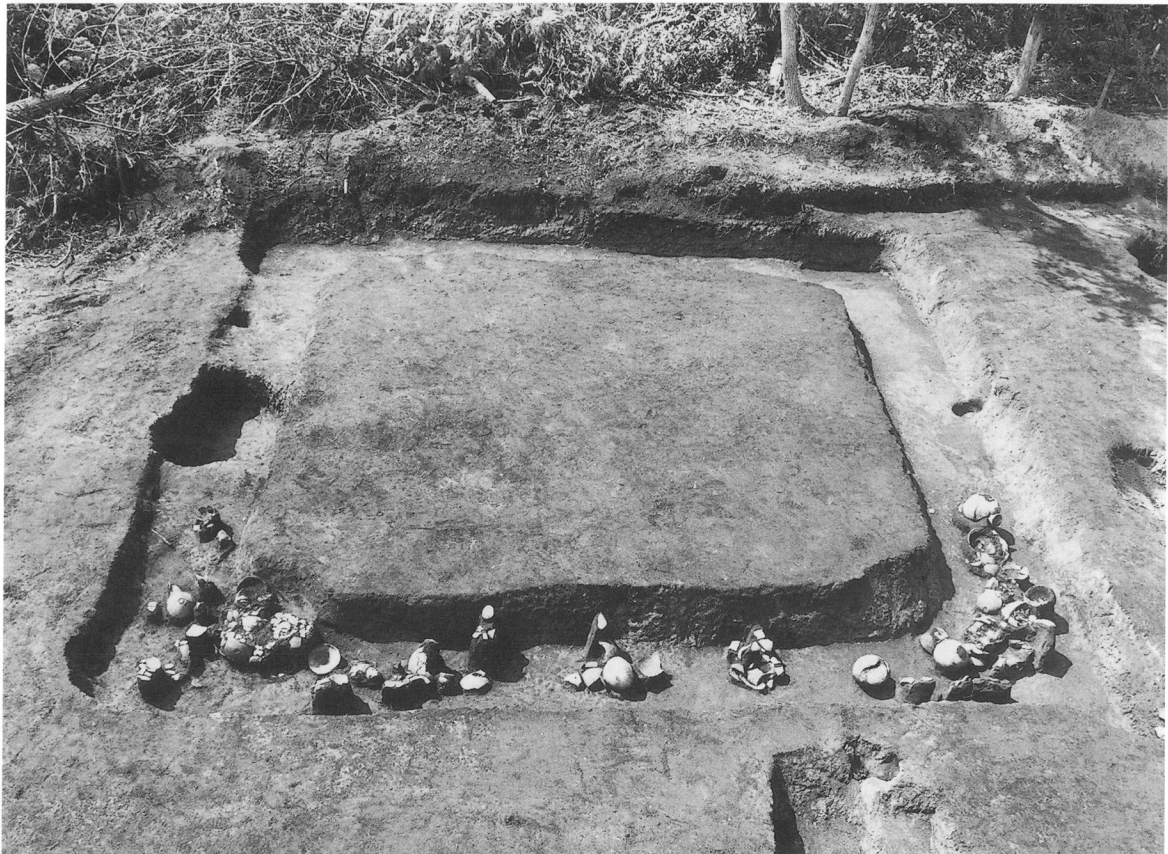


遺跡全景





第550B号土坑遺物出土狀況



第1号方形周溝墓遺物出土狀況



第1号方形周溝墓遺物出土狀況



第47号土坑遺物出土狀況





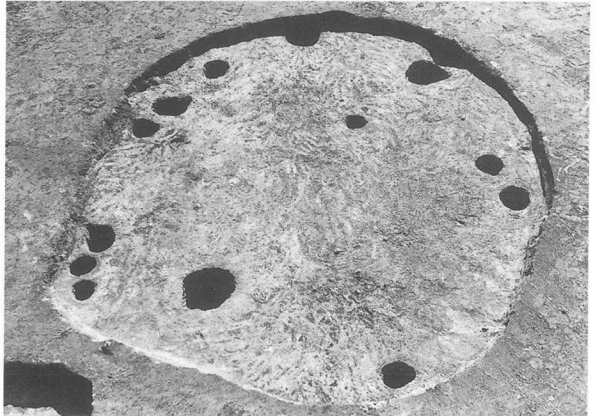
第1号集石土坑確認状況



第1号集石土坑・石器出土状況



第1号集石土坑土層断面



第19号住居跡完掘状況



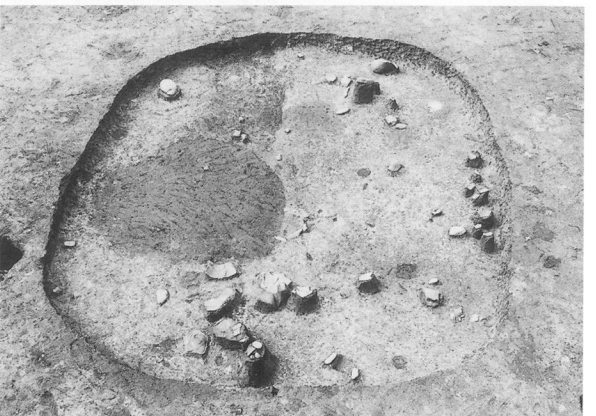
第31号住居跡完掘状況



第31号住居跡遺物出土状況



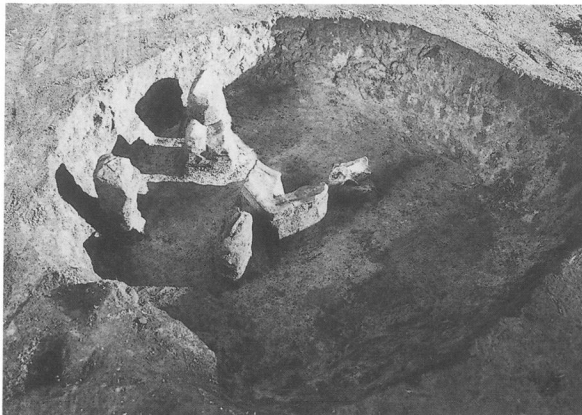
第42号住居跡完掘状況



第42号住居跡遺物出土状況



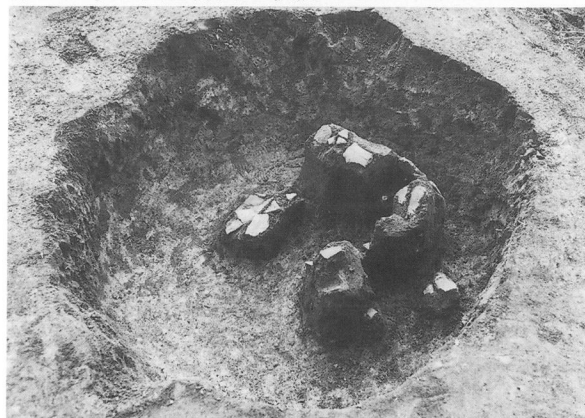
第 2 号陥し穴完掘状況



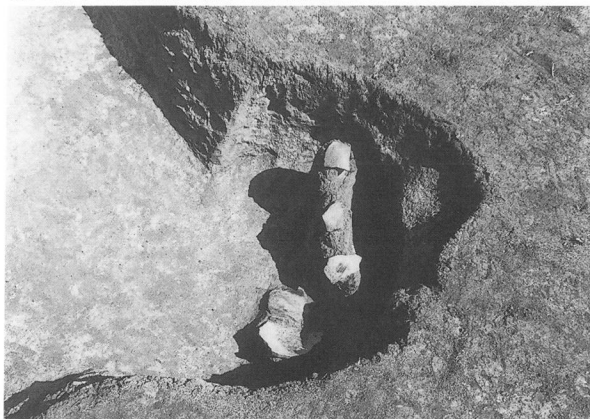
第 56 号土坑遺物出土状況



第 550B 号土坑遺物出土状況



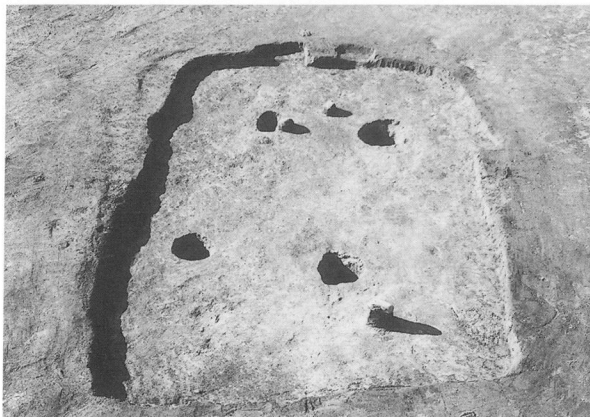
第 555 号土坑遺物出土状況



第 889 号土坑遺物出土状況



第 1 号住居跡遺物出土状況



第 16 号住居跡遺物出土状況



第 17 号住居跡完掘状況





第 20 号住居跡完掘状況



第 20 号住居跡遺物出土状況



第 23 号住居跡遺物出土状況



第 44 号住居跡完掘状況



第 45 号住居跡完掘状況



第 45 号住居跡遺物出土状況



第 2 号住居跡完掘状況



第 2 号住居跡遺物出土状況



第 5 号住居跡完掘状況



第 7 号住居跡完掘状況



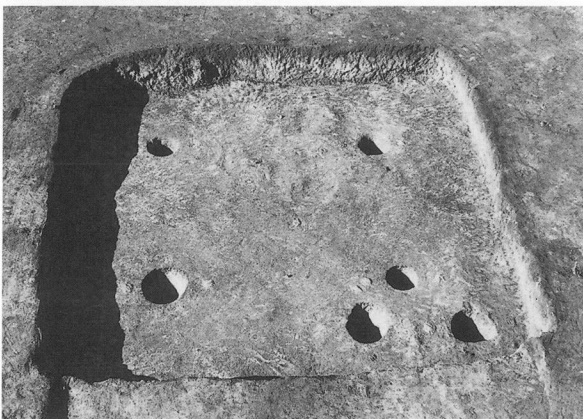
第 8 号住居跡完掘状況



第 8 住居跡遺物出土状況



第 9 号住居跡完掘状況



第 10 号住居跡完掘状況



第 10 号住居跡遺物出土状況

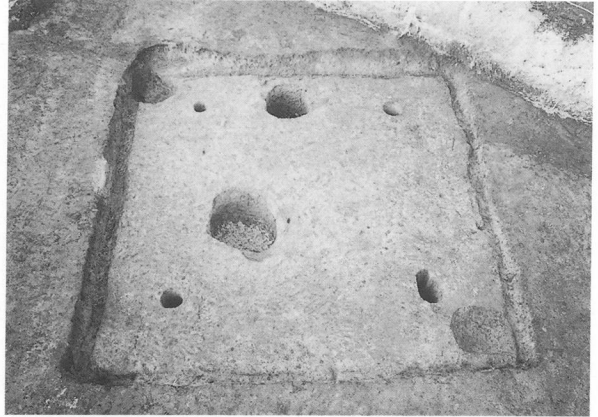


第 12 号住居跡遺物出土状況

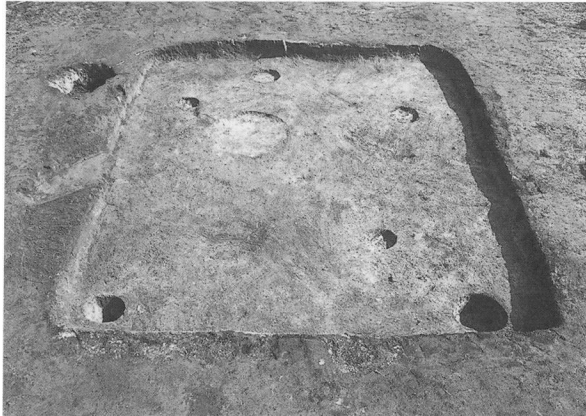




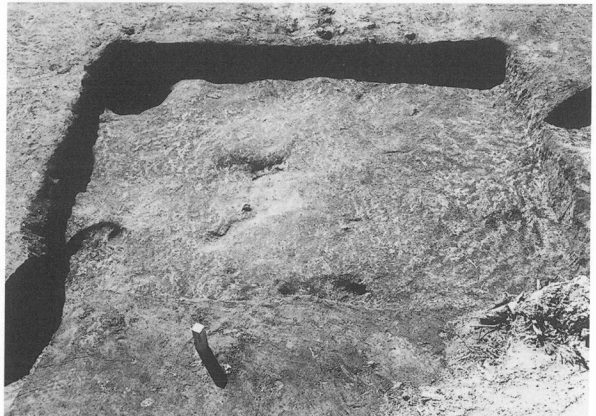
第 13 号住居跡遺物出土状況



第 15 号住居跡完掘状況



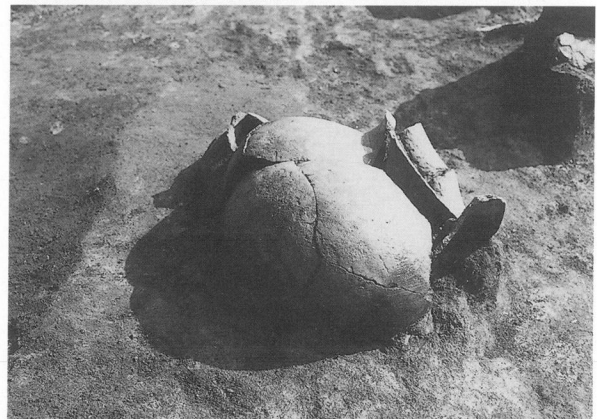
第 18 号住居跡完掘状況



第 22 号住居跡完掘状況



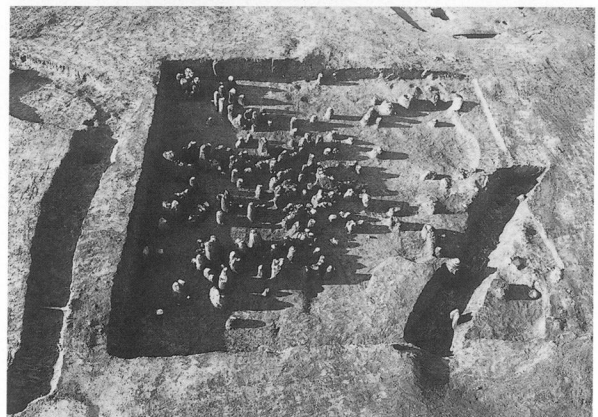
第 22 号住居跡遺物出土状況



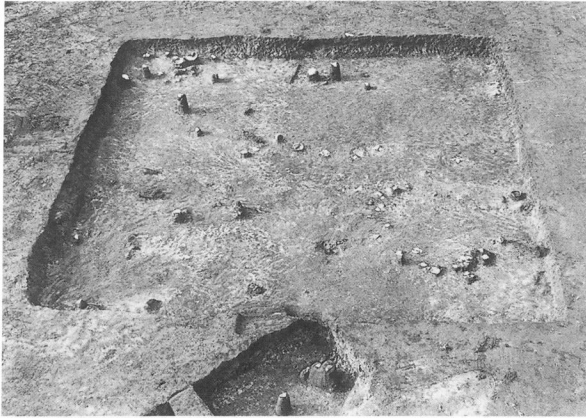
第 22 号住居跡遺物出土状況



第 24 号住居跡完掘状況



第 24 号住居跡遺物出土状況



第 27 号住居跡遺物出土状況



第 30 号住居跡完掘状況



第 32 号住居跡遺物出土状況



第 36 号住居跡完掘状況



第 36 号住居跡遺物出土状況



第 36 号住居跡貯蔵穴内遺物出土状況

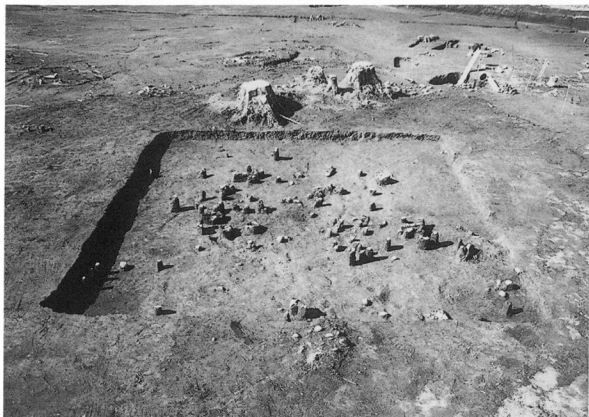


第 37 号住居跡完掘状況



第 39 号住居跡完掘状況





第 39 号住居跡遺物出土状況



第 40 号住居跡遺物出土状況



第 46 号住居跡完掘状況



第 48 号住居跡遺物出土状況



第 49 号住居跡遺物出土状況



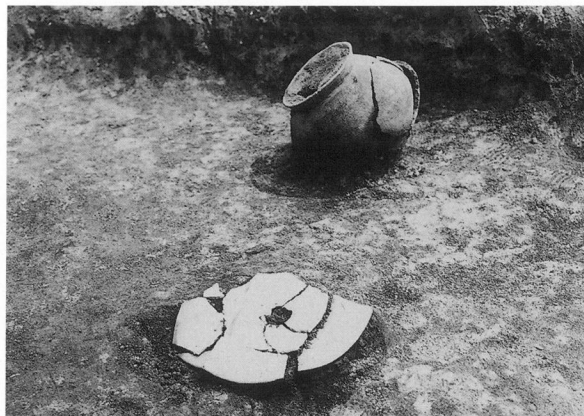
第 50 号住居跡遺物出土状況



第 51 号住居跡遺物出土状況



第 52 号住居跡遺物出土状況



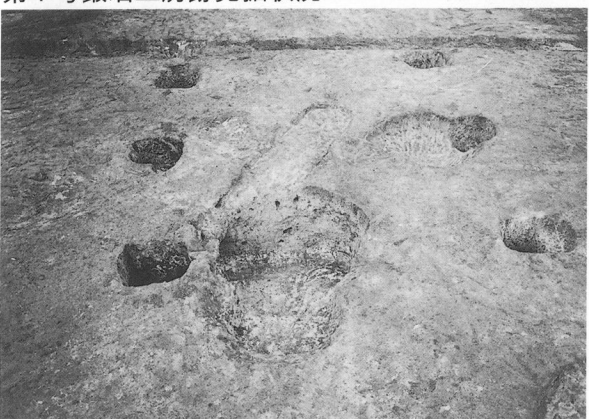
第 52 号住居跡遺物出土状況



第 1 号鍛冶工房跡完掘状況



第 1 号鍛冶工房跡遺物出土状況



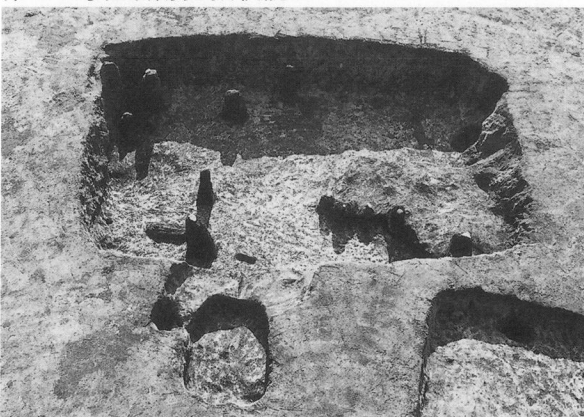
第 2 号掘立柱建物跡完掘状況



第 29 号住居跡完掘状況

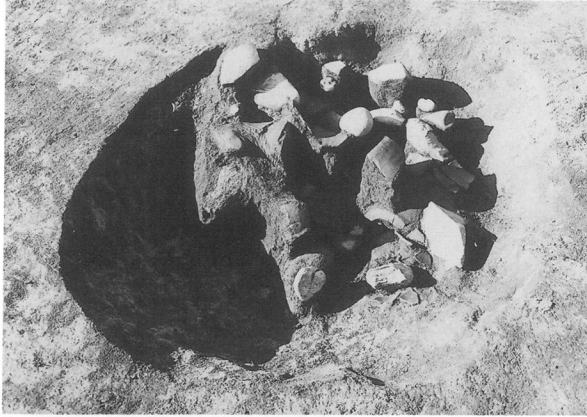


第 29 号住居跡竈内遺物出土状況



第 51 号土坑遺物出土状況





第100号土坑遺物出土狀況



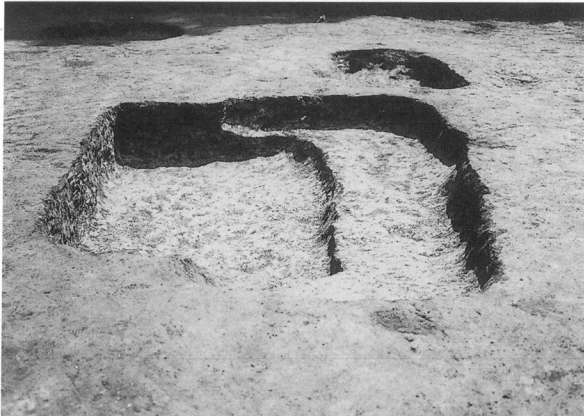
第437号土坑遺物出土狀況



第446・450号土坑遺物出土狀況



第483号土坑遺物出土狀況



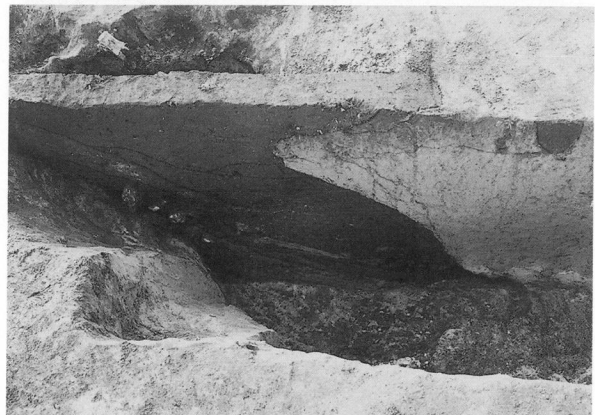
第410～413土坑完掘狀況



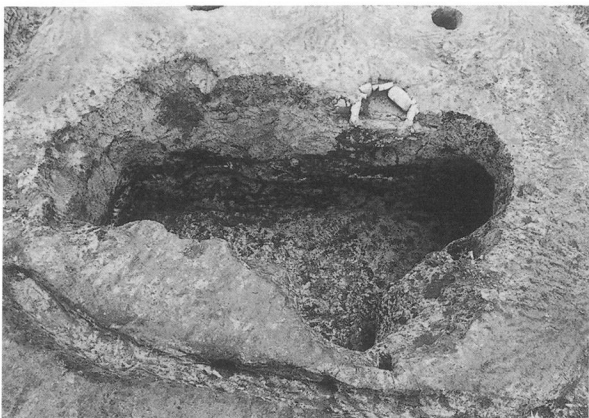
土坑群D完掘狀況



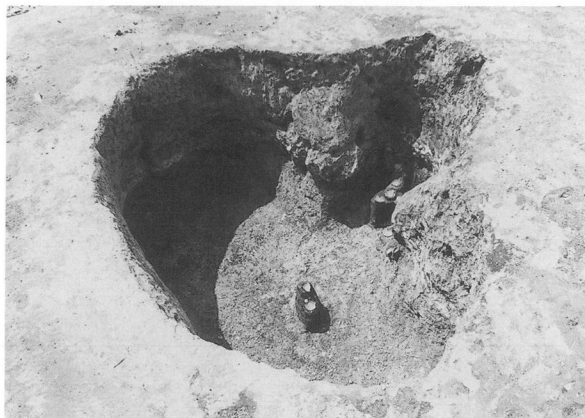
第1号地下式壙遺物出土狀況



第2号地下式壙土層断面



第 4 号地下式壙完掘状況



第 6 号地下式壙遺物出土状況



第 6 号地下式壙遺物出土状況



第 1・2 号火葬施設完掘状況



第 4 号火葬施設完掘状況



第 6 号火葬施設遺物出土状況



第 7 号火葬施設完掘状況



第 10 号火葬施設遺物出土状況





第3号井戸跡・第3号不明遺構完掘状況



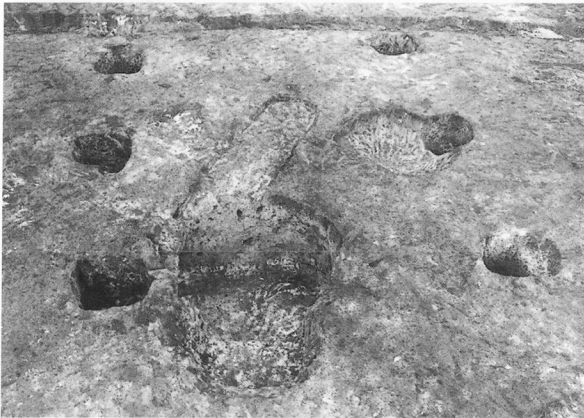
第7号井戸跡完掘状況



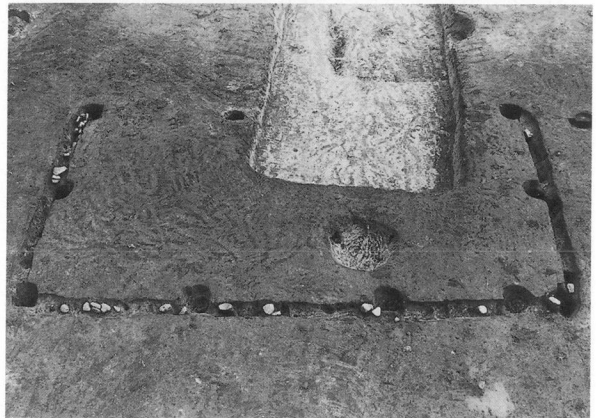
第1号集石遺構遺物出土状況



第3号集石遺構遺物出土状況



第2号掘立柱建物跡完掘状況



第3号掘立柱建物跡完掘状況



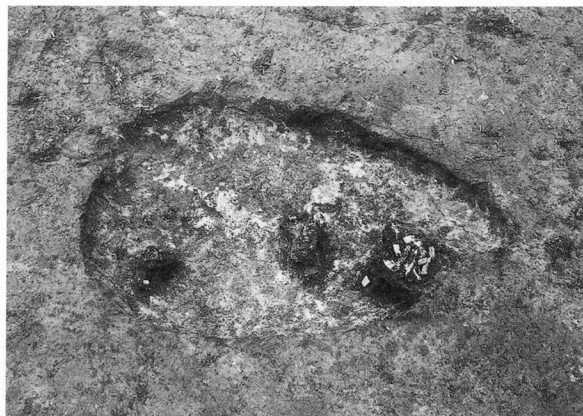
第5号掘立柱建物跡完掘状況



第6号不明遺構完掘状況



第1号ピット群完掘状況



第26号土坑遺物出土状況



第236号土坑遺物出土状況



第1号堀完掘状況

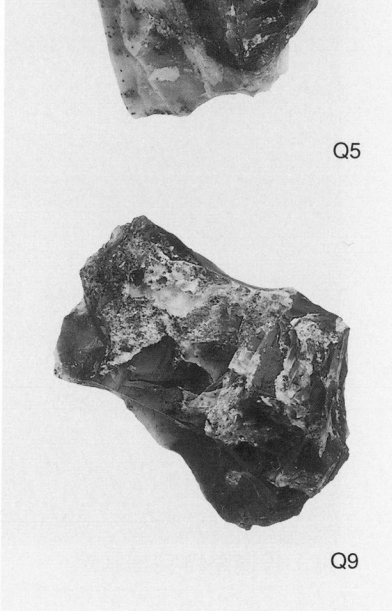
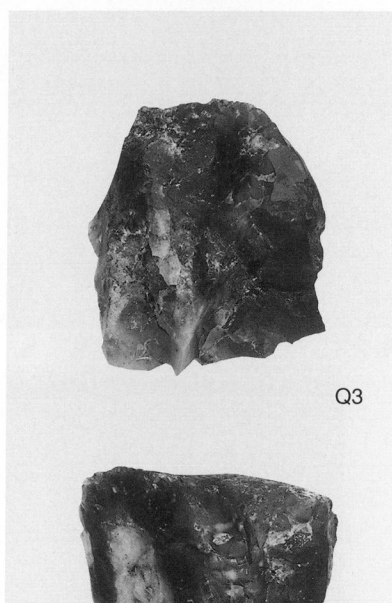
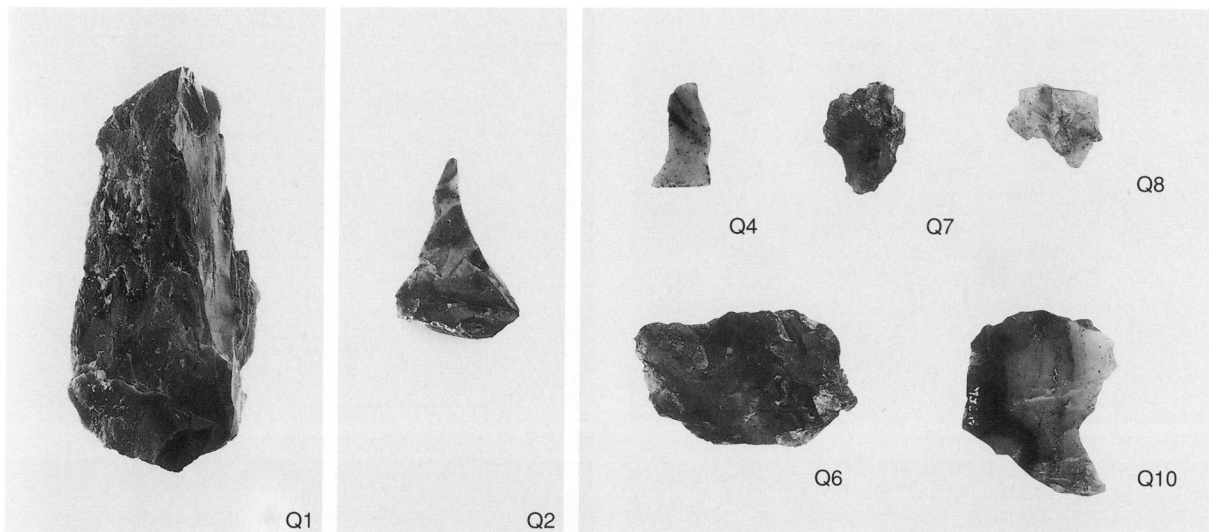


第1号道路跡完掘状況



第5・6号溝完掘状況

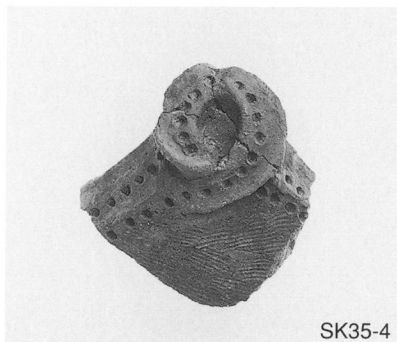




石器集中地点出土遺物



SI42-388



SK35-4



SK56-6



SK329-11



SK550B-401



SK550B-397



SK550B-394



SK550B-393



SK550B-395

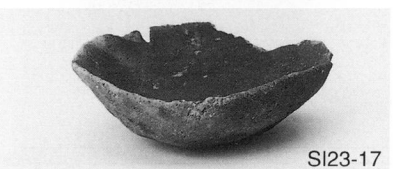
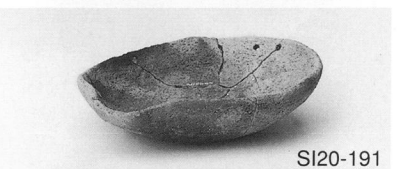
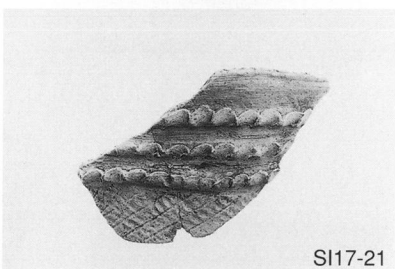
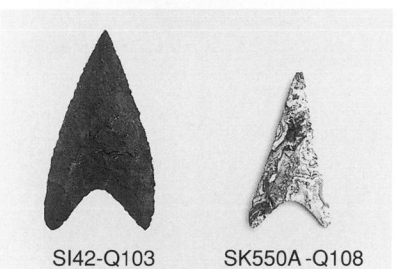
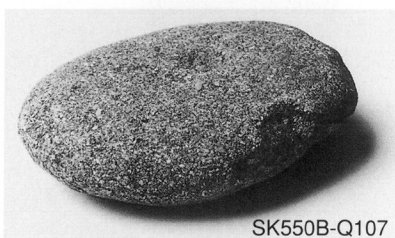
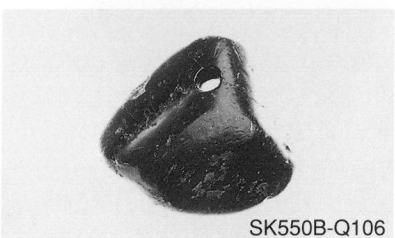
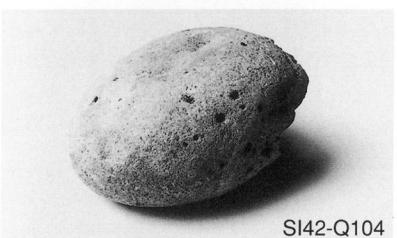
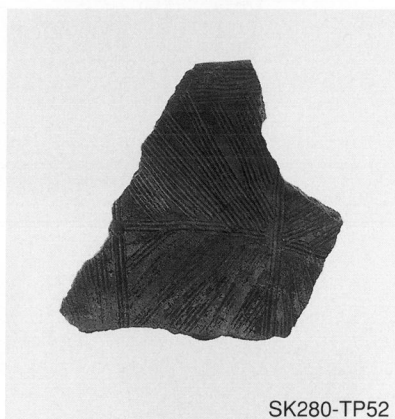
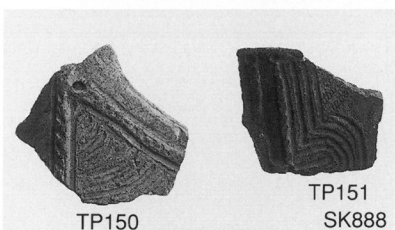
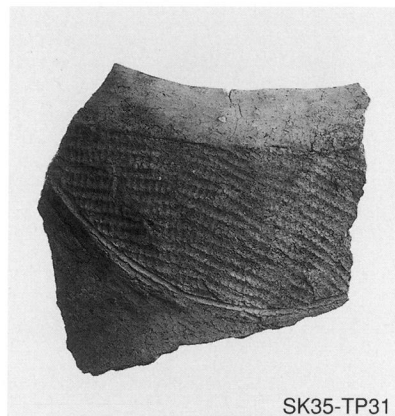
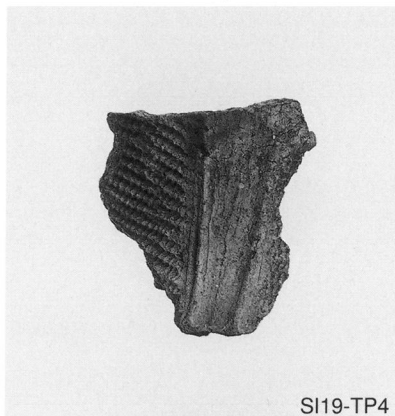


SK550B-398



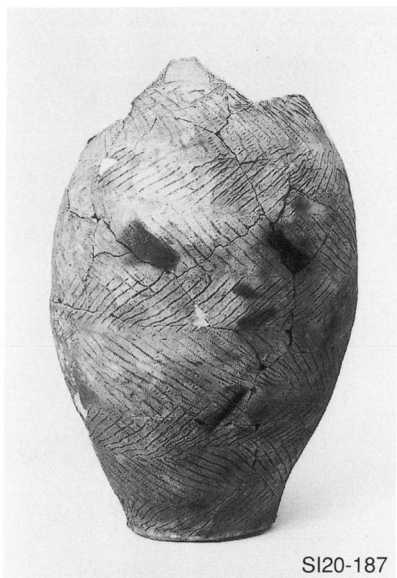
SK550B-396

第42号住居跡，第35・56・329・550B号土坑出土遺物



第 1・17・19・20・23・42号住居跡, 第 35・243・280・550A・550B・888B号土坑出土遺物





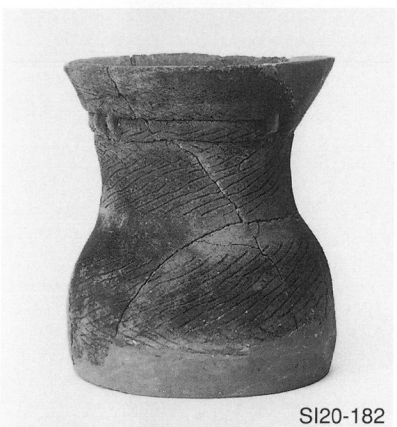
SI20-187



SI45-383



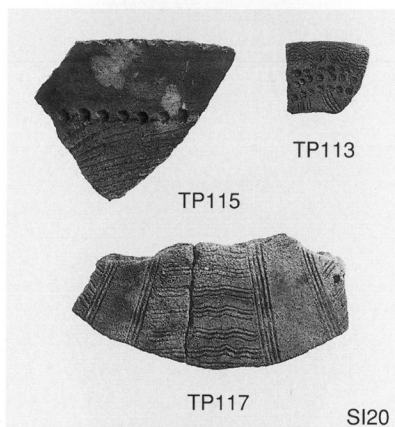
SI45-384



SI20-182



SI20-183



TP113

TP115

TP117

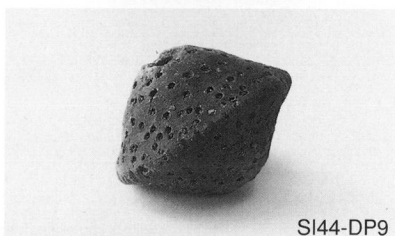
SI20



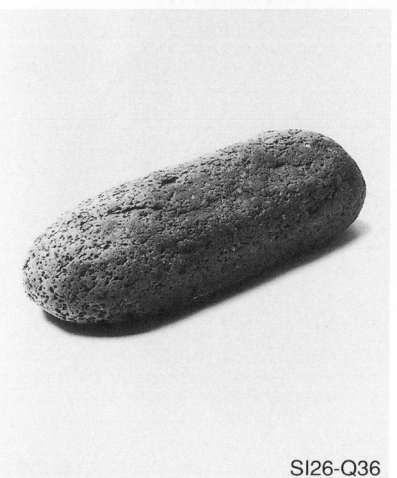
SI 1-DP1



SI20-DP2



SI44-DP9



SI26-Q36

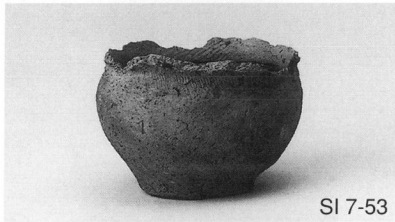


SI 2-75

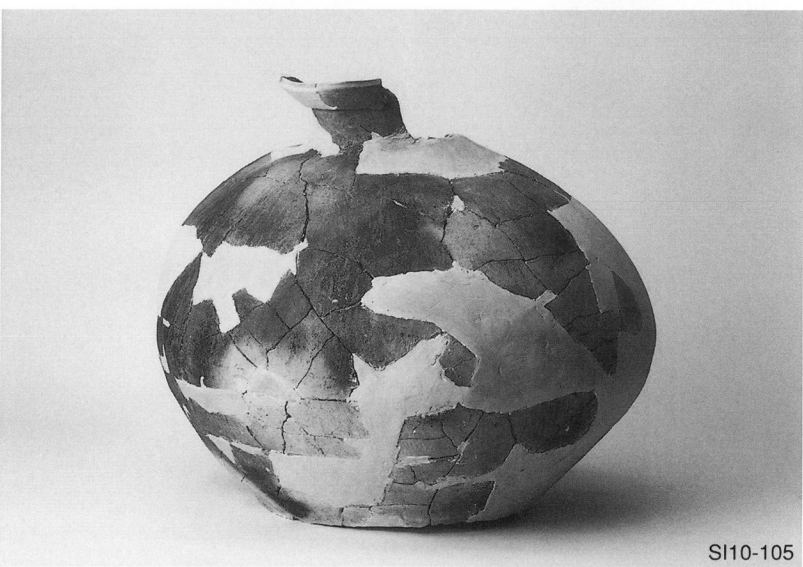
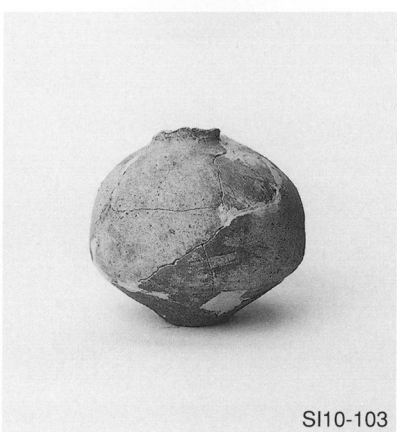
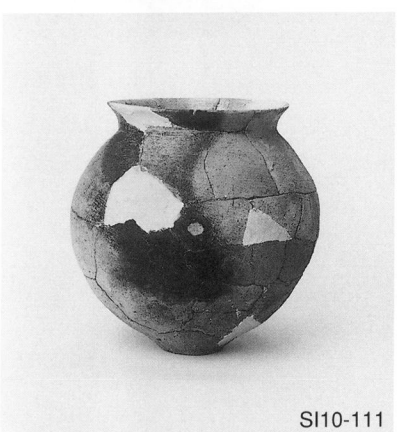
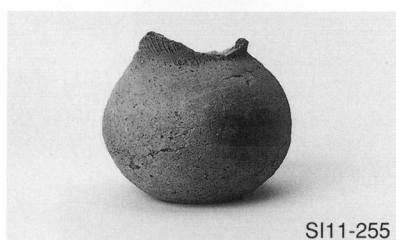
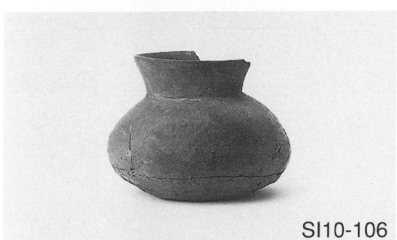
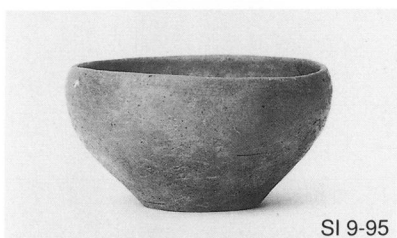
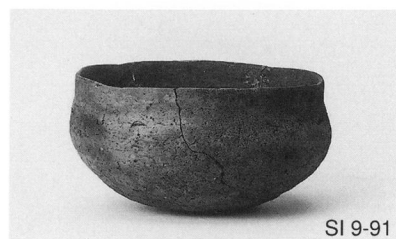
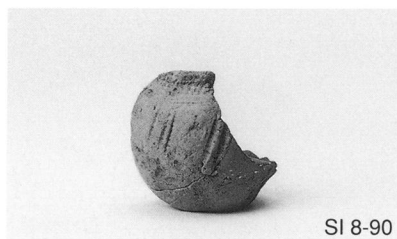


SI 2-76

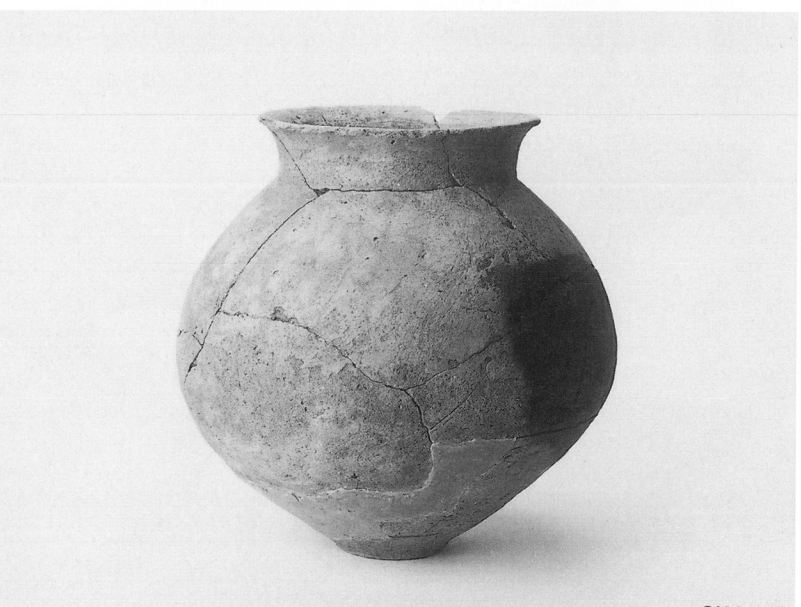
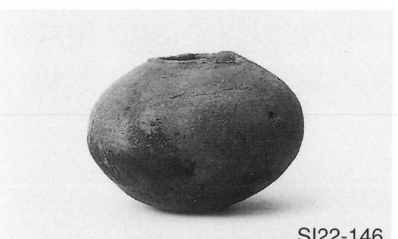
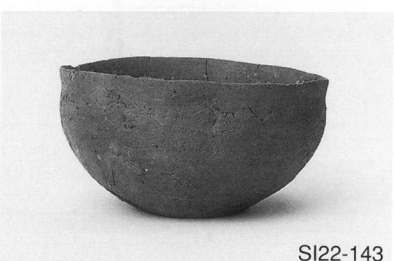
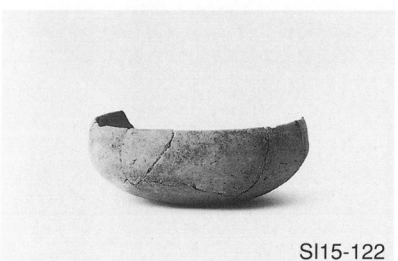
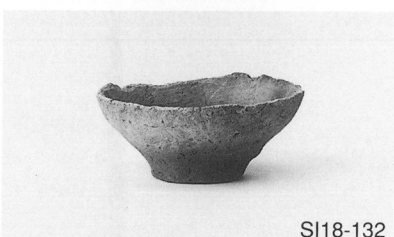
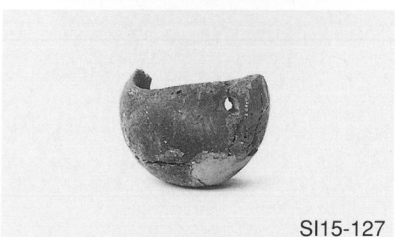
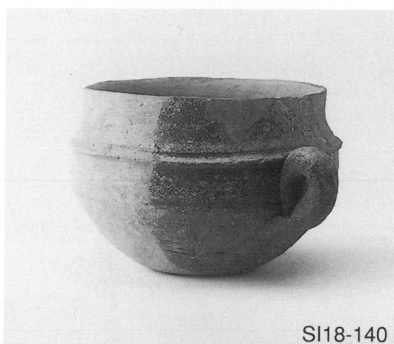
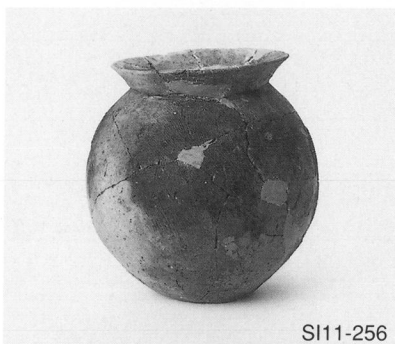
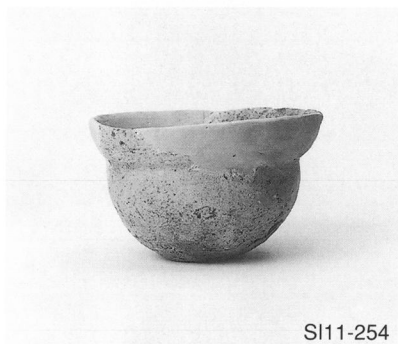
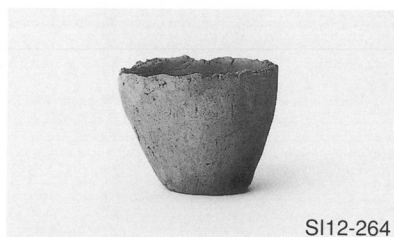
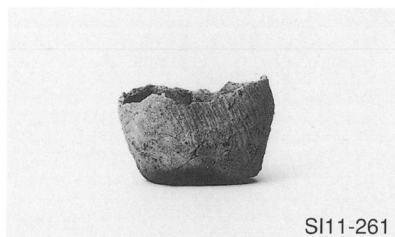
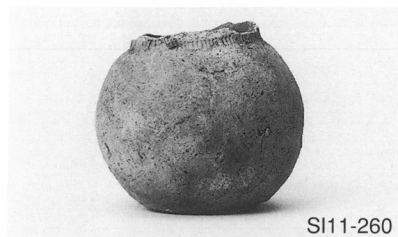




第5・7～9号住居跡出土遺物



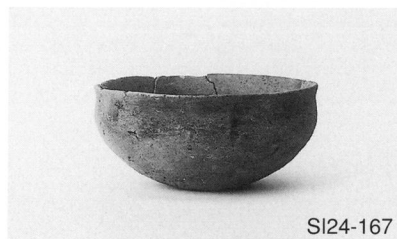
第 8 ~ 11 号住居跡出土遺物







SI24-166



SI24-167



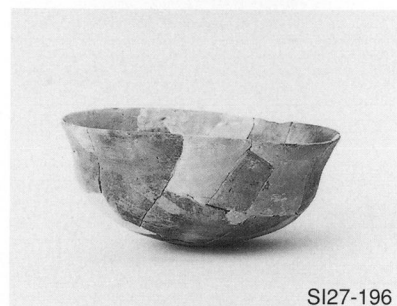
SI24-177



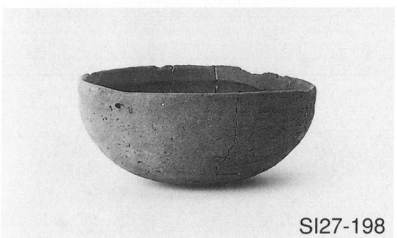
SI24-181



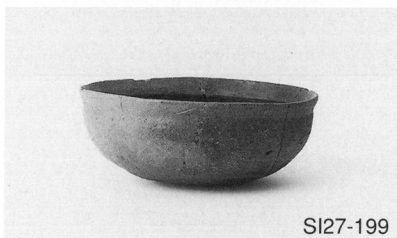
SI24-174



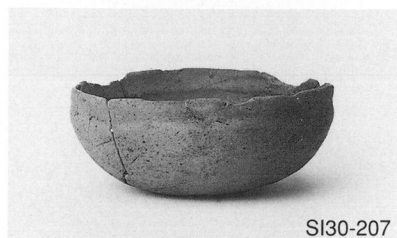
SI27-196



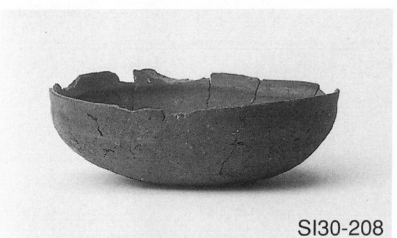
SI27-198



SI27-199



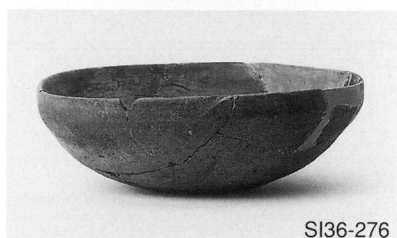
SI30-207



SI30-208



SI30-209



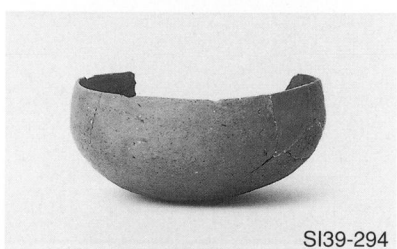
SI36-276



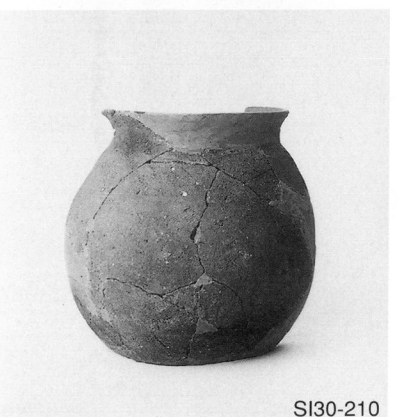
SI36-277



SI36-279



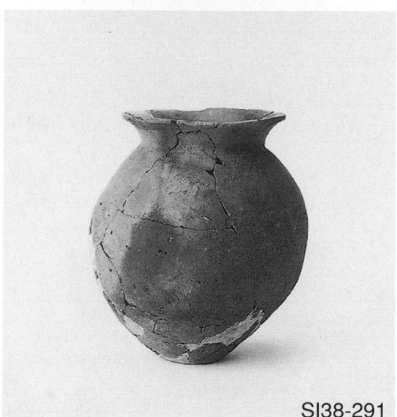
SI39-294



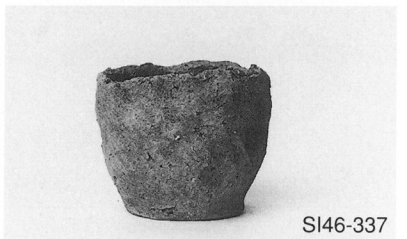
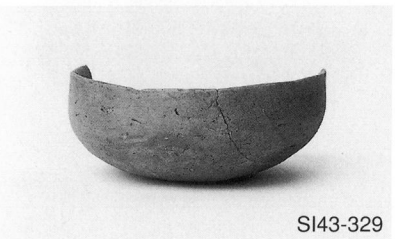
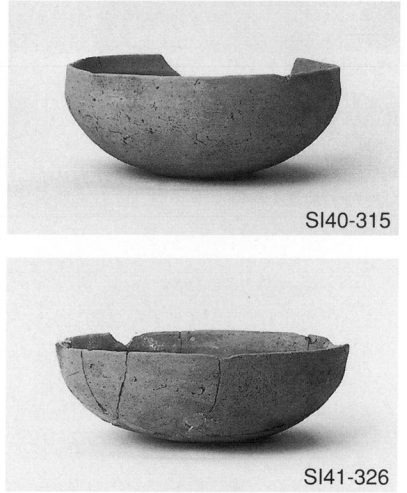
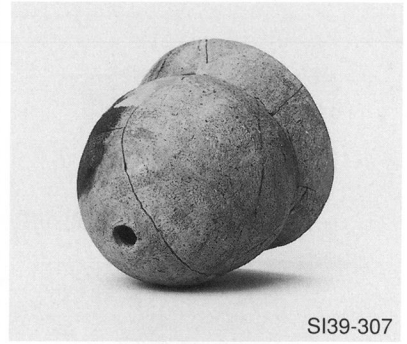
SI30-210



SI32-115



SI38-291





SI50-268



SI51-269



TMI-345



SI52-270



SI52-272



SI52-273



第1号鍛冶工房跡 - 38



第1号鍛冶工房跡 - 39



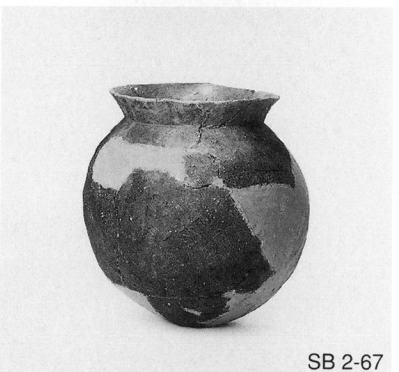
第1号鍛冶工房跡 - 40



第1号鍛冶工房跡 - 41



第1号鍛冶工房跡 - 43



SB 2-67



第1号鍛冶工房跡 - 42



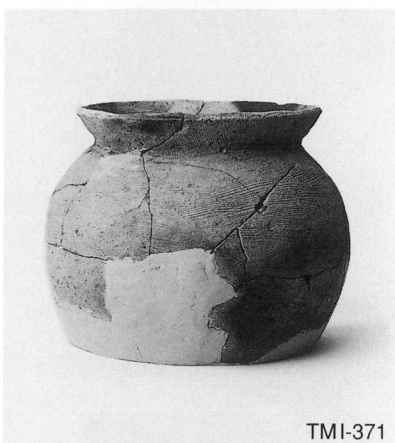
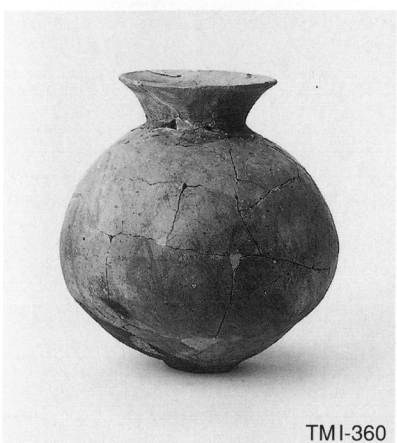
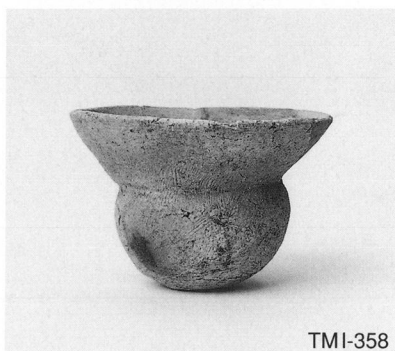
TMI-348



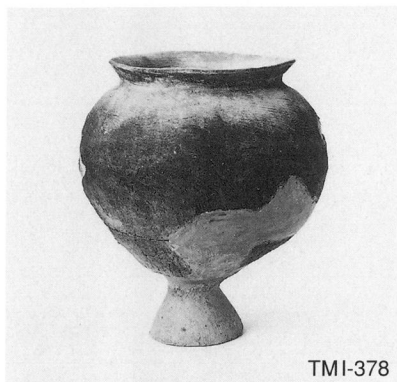
TMI-349

第50～52号住居跡，第1号鍛冶工房跡，第2号掘立柱建物跡，第1号方形周溝墓出土遺物

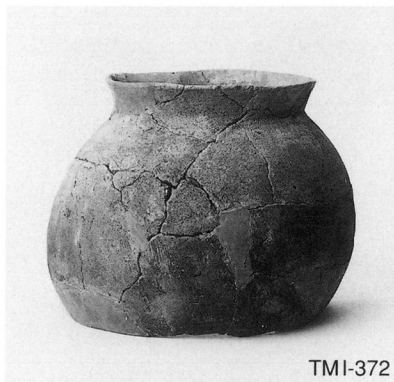




第1号方形周溝墓出土遺物



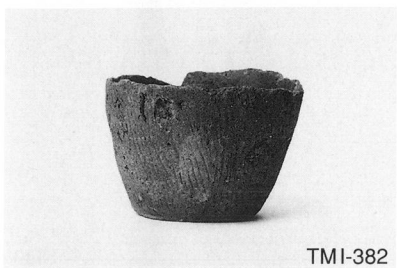
TMI-378



TMI-372



TMI-375



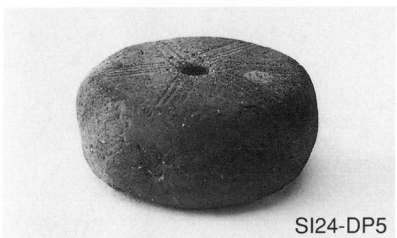
TMI-382



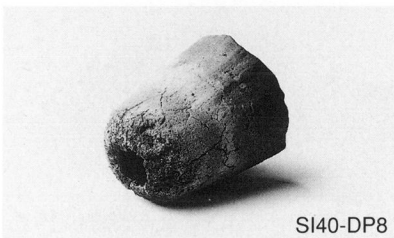
SK320-227



SK320-228



SI24-DP5



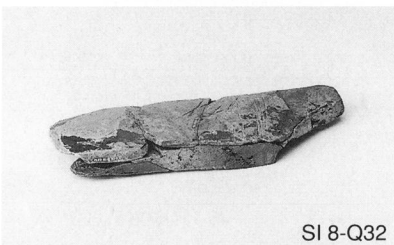
SI40-DP8



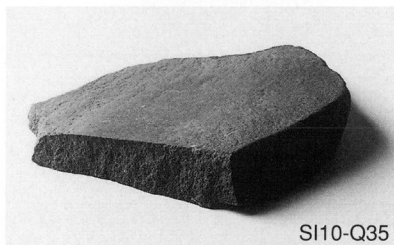
第1号鍛冶工房跡-DP6



SI 9-Q34



SI 8-Q32



SI10-Q35



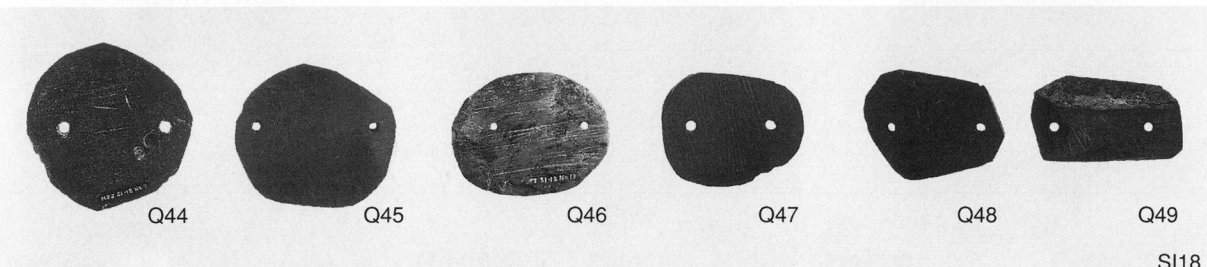
SI 9-Q34



SI24-Q66



SI39-Q91



Q44

Q45

Q46

Q47

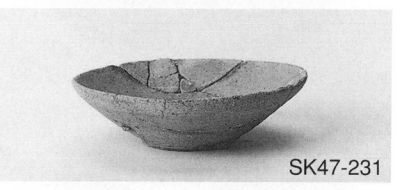
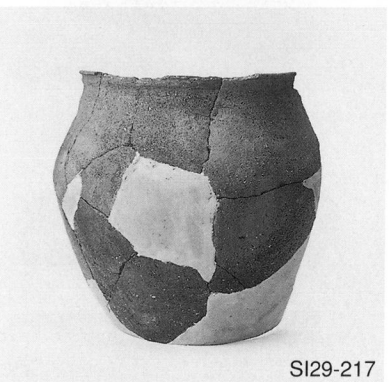
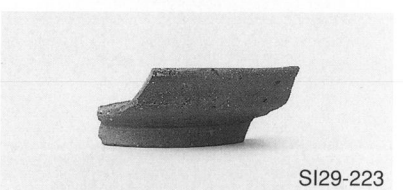
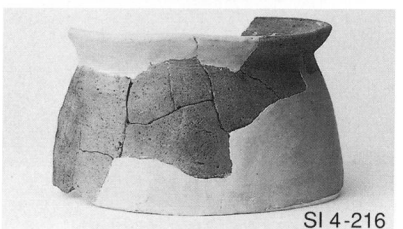
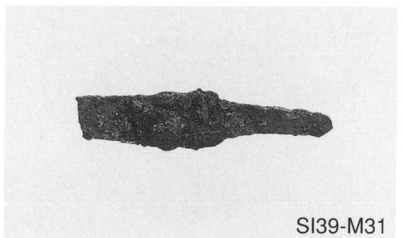
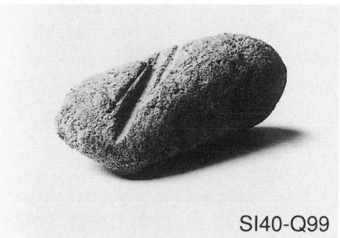
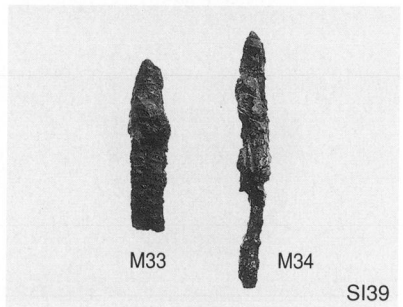
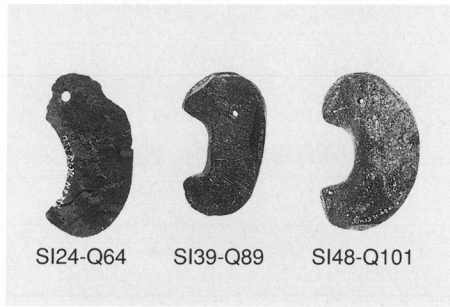
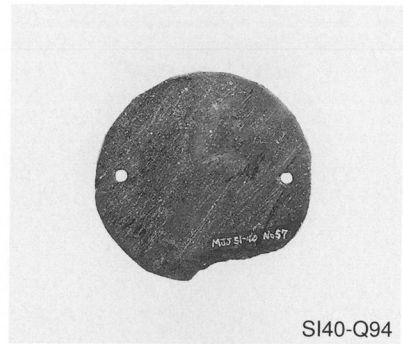
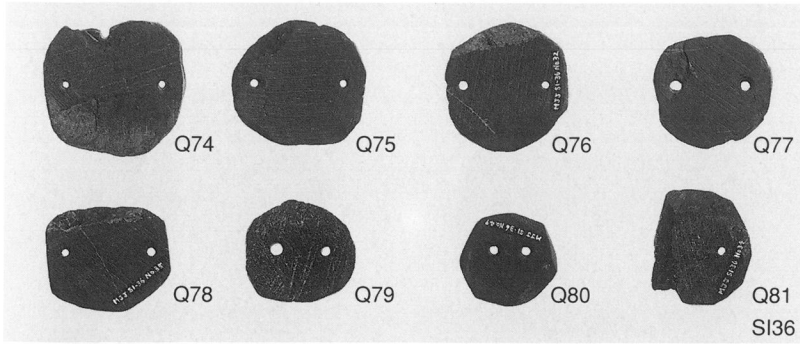
Q48

Q49

SI18

第8~10・18・24・39・40号住居跡, 第1号鍛冶工房跡, 第1号方形周溝墓, 第320号土坑出土遺物





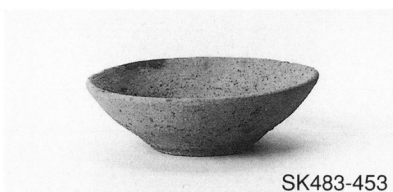
第4・22・24・29・36・40・48号住居跡，第1号鍛冶工房跡，第47・100号土坑出土遺物



SK47-234



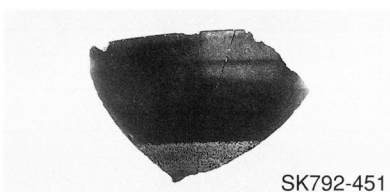
SK47-235



SK483-453



SK483-454



SK792-451



第 6 号地下式壙 - 410



第 6 号地下式壙 - 411



第 6 号地下式壙 - 412



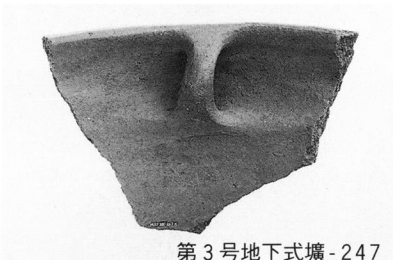
第 6 号地下式壙 - 414



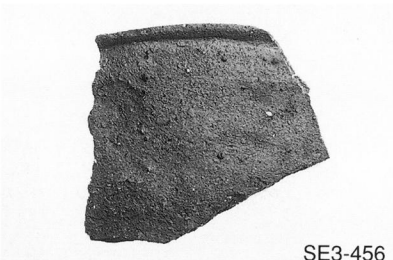
第 6 号地下式壙 - 415



集石遺構 3 - 462



第 3 号地下式壙 - 247



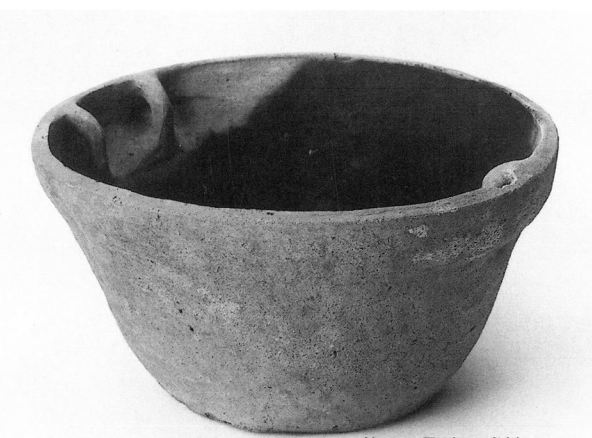
SE3-456



SE3-457



第 8 号地下式壙 - 445



第 13 号地下式壙 - 449

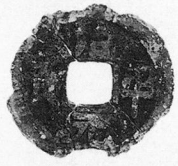
第 47・483・792 号土坑，第 3・6・8・13 号地下式壙，第 3 号集石遺構，第 3 号井戸跡出土遺物



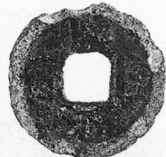
SK51-M6



SK51-M12



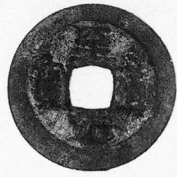
SK51-M13



SK228-M29



SK483-M50



SK836-M53



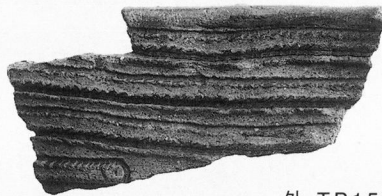
第8号地下式壙M38



外-468



外-TP157



外-TP159



外-TP160



外-Q112



外-Q110



外-Q111



外-Q113



外-Q127



外-Q116



外-Q118



外-Q123



外-Q124

第51・228・483・836号土坑，第8号地下式壙，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第179集

十万原地区市街地開発事業  
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

十万原遺跡 1

平成13（2001）年3月15日 印刷

平成13（2001）年3月21日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

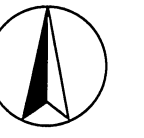
印刷 株式会社 高野高速印刷  
本社 〒310-0035 水戸市東原2-8-1  
TEL 029-231-0989  
平須工場 〒310-0853 水戸市平須町1822-122  
TEL 029-305-5588



付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第179集

十万原遺跡遺構



凡例  
地—地下式墳  
火—火葬施設

付図 十万原遺跡遺構全体図

0 20m